

ANNUAL REPORT

平成29年度 独立行政法人国立美術館

東京国立近代美術館活動報告

Independent Administrative Institution National Museum of Art

The National Museum of Modern Art, Tokyo 2017

2017

目次

Contents

美術・工芸部門

I 作品収集・修理等

1 作品収集	6-1-1 美術作品[日本画 油彩 その他 版画 水彩・素描 彫刻(立体造形) 映像 書 写真 美術資料]
	6-1-2 工芸作品[陶磁 ガラス 漆工 木工 竹工 染織 人形 金工 その他の工芸 工芸・デザイン資料 工業デザイン グラフィック・デザイン]
2 新収蔵作品	7-2-1 美術作品[日本画 油彩 その他 水彩・素描 彫刻(立体造形) 写真 美術資料]
	14-2-2 工芸作品[陶磁 ガラス 漆工 竹工 染織 人形 金工]
3 作品修理	22-3-1 美術作品
	24-3-2 工芸作品

II 公衆への観覧

1 展覧会	25-1-1 入館者数
	26-1-2 これまでの展覧会一覧
	55-1-3 平成29年度企画展覧会記録
	58-1-4 平成29年度所蔵作品展覧記録 1-4-1 本館 1-4-2 工芸館 1-4-3 MOMATパスポート
	67-1-5 東京国立近代美術館工芸館所蔵作品巡回展等
2 作品貸与・特別観覧・プリントスタディ	70-2-1 本館 2-2 工芸館

III 調査研究

1 本館	71
2 工芸館	76

IV 教育普及

1 普及活動	80-1-1 資料の収集及び図書室の公開
	81-1-2 児童生徒を対象とした事業 1-2-1 本館 1-2-2 工芸館
	85-1-3 講演会・シンポジウム・ギャラリートーク等 1-3-1 本館 1-3-2 工芸館
	92-1-4 大学等との連携 1-4-1 本館 1-4-2 工芸館
	95-1-5 ボランティア 1-5-1 本館 1-5-2 工芸館
	98-1-6 美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修
2 刊行物	99-2-1 企画展覧会カタログ 2-1-1 本館 2-1-2 工芸館
	100-2-2 目録・ガイド等 2-2-1 本館 2-2-2 工芸館
	102-2-3 研究紀要・年報等
	102-2-4 その他の刊行物 2-4-1 本館
	103-2-5 美術館ニュース『現代の眼』
3 広報	104-3-1 広報
	104-3-2 美術館情報システムによる普及・広報

映画部門

I 作品収集・復元等

1 作品収集	108-1-1 映画フィルム
	111-1-2 映画関連資料
2 保存/復元	113
3 カタロギング/ドキュメンテーション	114

II 公衆への観覧

1 上映会等	115-1-1 入館者数 1-1-1 上映会 1-1-2 展覧会
	117-1-2 上映会 1-2-1 上映会一覧 1-2-2 平成29年度上映会記録
	179-1-3 展覧会 1-3-1 展覧会一覧 1-3-2 平成29年度展覧会記録
	186-1-4 共催事業 1-4-1 共催による館外上映会
2 優秀映画鑑賞推進事業	201
3 所蔵品へのアクセス	212
III 調査研究	218

IV 教育普及

1 普及活動	222-1-1 資料の収集及び図書室の公開
	222-1-2 学校や社会教育施設への幅広い学習機会の提供
	223-1-3 児童生徒を対象とした事業
	225-1-4 講演会・シンポジウム・ギャラリートーク等 1-4-1 講演会・シンポジウム 1-4-2 ゲストトーク
	1-4-3 ギャラリートーク
	235-1-5 大学等との連携
2 刊行物	237-2-1 カタログ
	237-2-2 目録・ガイド等
	238-2-3 NFCカレンダー等 2-3-1 NFCカレンダー 2-3-2 展覧会チラシ 2-3-3 上映会チラシ
	2-3-4 こども映画館
	242-2-4 NFCニューズレター
	243-2-5 その他
3 広報	244-3-1 美術館情報システムによる普及・広報

記録

1 国際交流	246-1-1 平成29年度招聘者
	247-1-2 平成29年度来館者
2 日誌	249
3 予算	250-3-1 平成29年度歳出予算一覧
4 名簿	251-4-1 東京国立近代美術館評議員(美術・工芸部会)
	251-4-2 東京国立近代美術館評議員(映画部会)
	252-4-3 東京国立近代美術館職員

1 作品収集 List of Acquisitions

1-1 美術作品

種別	平成29年度収集点数	所蔵総点数
日本画	4	843
油彩 その他	9	1,263
版画	0	3,051
水彩・素描	14	4,103
彫刻(立体造形)	4	462
映像	0	56
書	0	21
写真	14	2,734
美術資料	14	680
計	59	13,213

1-2 工芸作品

種別	平成29年度収集点数	所蔵総点数
陶磁	12	1,012
ガラス	44	190
漆工	3	360
木工	0	86
竹工	1	48
染織	4	495
人形	2	97
金工	4	436
その他の工芸	0	13
工芸・デザイン資料	0	101
工業デザイン	0	188
グラフィック・デザイン	0	776
計	70	3,802

平成29年度における美術作品の購入、受贈による新収蔵作品は次のとおり。

日本画4点(購入1点 受贈3点)、油彩 その他9点(購入3点、受贈6点)、水彩・素描14点(購入2点、受贈12点)、彫刻(立体造形) 4点(購入2点、受贈2点)、写真14点(購入8点、受贈6点)、美術資料14点(購入1点、受贈13点)である。

New additions to the museum collection as a result of the purchase or receipt of donation of works of art during fiscal 2017 were as follows: 4 works of Japanese-style painting (1 purchased, 3 donated); 9 works of oil painting, etc. (3 purchased, 6 donated); 14 works of watercolor and drawing (2 purchased, 12 donated); 4 works of sculpture (2 purchased, 2 donated); 14 photographic works (8 purchased, 6 donated), and 14 supplementary materials (1 purchased, 13 donated).

日本画

Japanese-Style Painting

速水御舟(1894-1935)

白葡萄と茶碗

大正9年
紙本彩色・軸
38.3×50.0cm
左下に落款、印章
遺作展(東京府美術館、1935年)
購入
J-819

HAYAMI, Gyoshu (1894-1935)

Green Grapes and Tea Bowl

1920
color on paper, hanging scroll
38.3×50.0cm

船田玉樹(1912-1991)

花の夕

昭和13年
紙本彩色・屏風四曲一隻
180.0×359.3cm
中央下に印章
1回歴程美術協会展(東京(神田)、東京堂ギャラリー、1938年)
船田奇岑氏寄贈
J-822

FUNADA, Gyokuju (1912-1991)

Flowers (Image of Evening)

1938
color on paper, four-fold screen
180.0×359.3cm

横山操(1920-1973)

ふるさと

昭和40年
紙本彩色・額
45.0×64.0cm
左下に落款、印章
太陽展(東京、日動画廊、1965年)
横山基子氏、彩子氏遺贈
J-820

YOKOYAMA, Misao (1920-1973)

Homeland

1965
color on paper, framed
45.0×64.0cm

横山操(1920-1973)

絶筆

昭和48年
紙本墨画彩色・額
39.2×59.8cm
個展(山種美術館、1973年)
横山基子氏、彩子氏遺贈
J-821

YOKOYAMA, Misao (1920-1973)

Last Work

1973
sumi and color on paper, framed
39.2×59.8cm

油絵 その他
Oil Painting, etc.

赤瀬川原平(1937-2014)

架空の事実

昭和38年
油性塗料、新聞紙、写真・パネル
135.0×91.5cm
7回シエル美術賞展(東京、日本橋白木屋、1963年)
購入
O-1271

AKASEGAWA, Gempei (1937-2014)

Fictional Fact

1963
oil, newspaper and photographs on panel
135.0×91.5cm

赤瀬川原平(1937-2014)

架空の事実

昭和38年
油性塗料、新聞紙、写真・パネル
135.0×91.5cm
7回シエル美術賞展(東京、日本橋白木屋、1963年)
購入
O-1272

AKASEGAWA, Gempei (1937-2014)

Fictional Fact

1963
oil, newspaper and photographs on panel
135.0×91.5cm

加藤泉(1969-)

無題

平成28年
油彩・キャンバス
162.0×112.0cm
「この世界に生きている一加藤泉×陳飛」(富山、入善町下山芸術の森発電所美術館、2016年)
購入
O-1270

KATO, Izumi (1969-)

Untitled

2016
oil on canvas
162.0×112.0cm

中野淳(1925-2017)

食卓

昭和31年
油彩・キャンバス
100.0×80.5cm
20回自由美術展(東京都美術館、1956年)
中野蓉子氏寄贈
O-1269

NAKANO, Jun (1925-2017)

Dining Table

1956
oil on canvas
100.0×80.5cm

福沢一郎(1898-1992)

二重像

昭和12年
油彩・キャンバス
100.8×73.5cm
左下に署名、年記
7回独立展(東京府美術館、1937年)
国立国会図書館譲与
O-1268

FUKUZAWA, Ichiro (1898-1992)

Double Image

1937
oil on canvas
100.8×73.5cm

山田正亮(1929-2010)

Work B.149

昭和32-33年
油彩・キャンバス
73.0×61.0cm
右下に署名、年記
一般社団法人 山田正亮の会寄贈
O-1273

YAMADA, Masaaki (1929-2010)

Work B.149

1957-58
oil on canvas
73.0×61.0cm

山田正亮(1929-2010)

Work D.259

昭和52年
油彩・キャンバス
130.3×89.5cm
個展(東京、佐谷画廊、1991年)
一般社団法人 山田正亮の会寄贈
O-1274

YAMADA, Masaaki (1929-2010)

Work D.259

1977
oil on canvas
130.3×89.5cm

山田正亮(1929-2010)

Work F.220

平成6年
油彩・キャンバス
227.0×364.0cm
一般社団法人 山田正亮の会寄贈
O-1275

YAMADA, Masaaki (1929-2010)

Work F.220

1994
oil on canvas
227.0×364.0cm

横山操(1920-1973)

カラガンダの印象

昭和25年
油彩・キャンバス
44.0×52.2cm
個展(東京、山種美術館、1973年)
横山基子氏、彩子氏遺贈
O-1267

YOKOYAMA, Misao (1920-1973)

Impression of Karaganda

1950
oil on canvas
44.0×52.2cm

水彩・素描

Watercolor & Drawing

赤瀬川原平(1937-2014)

コラージュ・スケッチブック

昭和35-36年
水彩、インク、コラージュ・紙(12葉24頁、うち
12頁にコラージュ)

39.8×28.3cm

購入

D-730

AKASEGAWA, Gempei (1937-2014)

Collage in Sketchbook

1960-61

watercolor, ink and collage on paper

39.8×28.3cm

野田英夫(1908-1939)

スケッチブック

昭和5-14年

鉛筆、色鉛筆、インク・紙(34葉70頁、うち47頁
にスケッチ、書込)

10.0×15.0cm

見返しに署名

南天子画廊寄贈

D-723

NODA, Hideo (1908-1939)

Sketchbook

1930s

pencil, colored pencil and ink on paper

10.0×15.0cm

二木直巳(1953-)

見晴らし台のためのスケッチ01-1

平成13年

鉛筆、ボールペン・紙

11.9×8.5cm

左下に年記

二木直巳 眺望を求めて—小杉放菴とともに—
(小杉放菴記念日光美術館、2014年)

作者寄贈

D-724

二木直巳(1953-)

見晴らし台のためのスケッチ01-9

平成13年

鉛筆、ボールペン・紙

12.5×8.3cm

右下に年記

二木直巳 眺望を求めて—小杉放菴とともに—
(小杉放菴記念日光美術館、2014年)

作者寄贈

D-725

二木直巳(1953-)

見晴らし台のためのスケッチ01-19

平成13年

鉛筆・紙

21.3×13.7cm

右下に署名、年記

二木直巳 眺望を求めて—小杉放菴とともに—
(小杉放菴記念日光美術館、2014年)

作者寄贈

D-726

FUTAKI, Naomi (1953-)

Sketch for "Belvedere" 01-1

2001

pencil and ballpoint pen on paper

11.9×8.5cm

FUTAKI, Naomi (1953-)

Sketch for "Belvedere" 01-9

2001

pencil and ballpoint pen on paper

12.5×8.3cm

FUTAKI, Naomi (1953-)

Sketch for "Belvedere" 01-19

2001

pencil on paper

21.3×13.7cm

二木直巳(1953-)

見晴らし台のためのプラン

平成14年

鉛筆・紙(方眼紙)

25.7×36.4cm

右下に年記

二木直巳 眺望を求めて—小杉放菴とともに—
(小杉放菴記念日光美術館、2014年)

作者寄贈

D-727

二木直巳(1953-)

見晴らし台のためのスケッチ03-3

平成15年

鉛筆・紙

21.3×13.7cm

右下に署名、年記

二木直巳 眺望を求めて—小杉放菴とともに—
(小杉放菴記念日光美術館、2014年)

作者寄贈

D-728

二木直巳(1953-)

見晴らし台のためのスケッチ03-6

平成15年

鉛筆、色鉛筆、ボールペン・紙

21.3×13.7cm

右下に年記、署名

二木直巳 眺望を求めて—小杉放菴とともに—
(小杉放菴記念日光美術館、2014年)

作者寄贈

D-729

FUTAKI, Naomi (1953-)

Plan for "Belvedere"

2002

pencil on paper (section paper)

25.7×36.4cm

FUTAKI, Naomi (1953-)

Sketch for "Belvedere" 03-3

2003

pencil on paper

21.3×13.7cm

FUTAKI, Naomi (1953-)

Sketch for "Belvedere" 03-6

2003

pencil, colored pencil and ballpoint pen on paper

21.3×13.7cm

横山操(1920-1973)

国連ビル

昭和36年

木炭、墨・紙

51.4×36.0cm

左下に書込み

横山基子氏、彩子氏遺贈

D-718

横山操(1920-1973)

イースト・リヴァー

昭和36年

木炭、墨・紙

45.5×64.0cm

右下に署名、印章、書込み

個展(上野松坂屋他、1993年)

横山基子氏、彩子氏遺贈

D-719

横山操(1920-1973)

ロサンゼルス通り

昭和36年

鉛筆・紙

32.0×40.6cm

右下に書込み

横山基子氏、彩子氏遺贈

D-720

YOKOYAMA, Misao (1920-1973)

United Nations Headquarters

1961

charcoal and sumi on paper

51.4×36.0cm

YOKOYAMA, Misao (1920-1973)

East River

1961

charcoal and sumi on paper

45.5×64.0cm

YOKOYAMA, Misao (1920-1973)

Los Angeles Street

1961

pencil on paper

32.0×40.6cm

横山操(1920-1973)
ロサンゼルス、アリソ通り

昭和36年
鉛筆、水彩・紙
31.8×40.7cm
右下に印章、書込み
横山基子氏、彩子氏遺贈
D-721

YOKOYAMA, Misao (1920-1973)
Aliso Street, Los Angeles
1961
pencil and watercolor on paper
31.8×40.7cm

横山操(1920-1973)
ハイウエイ

昭和36年
オイルパステル・紙
31.8×40.5cm
個展(上野松坂屋他、1993年)
横山基子氏、彩子氏遺贈
D-722

YOKOYAMA, Misao (1920-1973)
Expressway
1961
oil pastel on paper
31.8×40.5cm

横山裕一(1967-)
アウトドアー

平成20-21年
インク・紙(114点)
21.6×15.1cm(最小)~39.0×49.5cm(最大)
個展(川崎市市民ミュージアム、2010年)
購入
D-731

YOKOYAMA, Yuichi (1967-)
Outdoor
2008-09
ink on paper, 114 pieces
21.6×15.1cm (minimum) -39.0×49.5cm (maximum)

彫刻(立体造形)
Sculpture

高柳恵里(1962-)
ポケットガーゼ

平成10年
布(ガーゼハンカチ)
6.6×6.6×5.7cm
「MOTアニュアル1999 ひそやかなラディカリズム」(東京都現代美術館、1999年)
一杉徹氏寄贈
S-472

TAKAYANAGI, Eri (1962-)
Pocket-gauze
1998
gauze handkerchief
6.6×6.6×5.7cm

高柳恵里(1962-)
Tシャツのたたみ方

平成12年
布(Tシャツ)
1.0×27.0×26.0cm
個展(大阪、ON GALLERY、2000年)
一杉徹氏寄贈
S-473

TAKAYANAGI, Eri (1962-)
How to Fold a T-shirt
2000
T-shirt
1.0×27.0×26.0cm

高柳恵里(1962-)
ブックホルダー(単行本サイズ)

平成12年
アルミニウム
3.8×8.8×17.0cm
個展(大阪、ON GALLERY、2000年)
購入
S-474

TAKAYANAGI, Eri (1962-)
Book Holder (Hardcover Size)
2000
aluminum
3.8×8.8×17.0cm

デイヴィッド・スミス(1906-1965)
サークルIV

昭和37年
鉄、彩色
215.9×152.5×107.0cm
台座に署名、年記
個展(ワシントンD.C.、ナショナル・ギャラリー、1982-83年)
購入
S-471

David Smith (1906-1965)
Circle IV
1962
painted iron
215.9×152.5×107.0cm

写真

Photographic Work

新井卓(1978-)

「Here and There —明日の島」より2012年
1月10日、ファミリーマート、相馬市松川浦
平成24年
ダゲレオタイプ
19.3×25.2cm
購入
Ph-2692

ARAI, Takashi (1978-)
January 10, 2012. FamilyMart, Matsukawaura,
Fukushima from "Here and There - Tomorrow's Islands"
2012
daguerreotype
19.3×25.2cm

新井卓(1978-)

「Here and There —明日の島」より2012年1
月10日、遠藤定昭、斗蔵満、相馬市松川浦
平成24年
ダゲレオタイプ
19.3×25.2cm
購入
Ph-2693

ARAI, Takashi (1978-)
January 10, 2012. Fishermen at work, Sadaaki Endo and Mitsuru Tokura,
Matsukawaura, Fukushima from "Here and There - Tomorrow's Islands"
2012
daguerreotype
19.3×25.2cm

新井卓(1978-)

「Here and There ——明日の島」より
2012年1月12日、検問所、川内村

平成24年
ダゲレオタイプ
19.3×25.2cm
購入
Ph-2694

新井卓(1978-)

「EXPOSED IN A HUNDRED SUNS/百の太陽に灼かれて」より
2012年2月16日、第五福竜丸の船室に遺されたカレンダー

平成24年
ダゲレオタイプ
25.2×19.3cm
購入
Ph-2695

高柳恵里(1962-)

側面あるいは正面(蓼科山)

平成23年
発色現像方式印画(2点組)
各 52.9×41.4cm
「9th Art Program Ome 2011 山川の間で」
購入
Ph-2690

ARAI, Takashi (1978-)

January 12, 2012. Check Point, Kawauchi Village,
Fukushima from "Here and There - Tomorrow's Islands"
2012

daguerreotype
19.3×25.2cm

ARAI, Takashi (1978-)

February 16th, 2012. The calendar of Lucky Dragon (Japanese wooden fishing boat exposed to the
radiation of US H-bomb test at Bikini atoll, 1954) from "EXPOSED IN A HUNDRED SUNS"
2012

daguerreotype
25.2×19.3cm

TAKAYANAGI, Eri (1962-)

Side or Front (Mt. Tateshina)

2011
chromogenic print, 2 prints
each 52.9×41.4cm

田原桂一(1951-2017)

窓 52

昭和48-53年
ゼラチン・シルバー・プリント
38.2×26.0(40.3×30.3)cm
裏面に題名、署名
個展(東京、ウナック・トーキョー、1978年)
藤島久子氏寄贈
Ph-2696

田原桂一(1951-2017)

窓 56

昭和48-53年
ゼラチン・シルバー・プリント
38.6×26.4(40.3×30.3)cm
裏面に題名、署名
個展(東京、ウナック・トーキョー、1978年)
藤島久子氏寄贈
Ph-2697

中平卓馬(1938-2015)

夜

昭和44年頃
グラヴィア印刷
57.7×84.8(64.0×94.6)cm
裏面にスタンプ
購入
Ph-2688

TAHARA, Keiichi (1951-2017)

Fenêtre 52
1973-78
gelatine silver print
38.2×26.0(40.3×30.3)cm

TAHARA, Keiichi (1951-2017)

Fenêtre 56
1973-78
gelatine silver print
38.6×26.4(40.3×30.3)cm

NAKAHIRA, Takuma (1938-2015)

From the series "La nuit"

c. 1969
gravure print on paper
57.7×84.8(64.0×94.6)cm

中平卓馬(1938-2015)

夜

昭和44年頃
グラヴィア印刷
58.0×84.7(62.8×88.2)cm
裏面にスタンプ
購入
Ph-2689

野島康三(1889-1964)

女

昭和6年
ブロムオイル・プリント
40.3×24.8cm
プリント裏面に年記、台紙裏面に題名、署名、年
記
購入
Ph-2691

春木麻衣子(1974-)

outer portrait (1)

平成21年
発色現像方式印画
124.0×158.0cm
額裏面に題名、署名、年記、エディション番号(ed.
1/3)
個展(東京、タロウナス、2010年)
黒田賢三氏寄贈
Ph-2698

NAKAHIRA, Takuma (1938-2015)

From the series "La nuit"
c. 1969
gravure print on paper
58.0×84.7(62.8×88.2)cm

NOJIMA, Yasuzo (1889-1964)

Woman
1931
bromoil print
40.3×24.8cm

HARUKI, Maiko (1974-)

outer portrait (1)

2009
chromogenic print
124.0×158.0cm

春木麻衣子(1974-)

outer portrait (2)

平成21年
発色現像方式印画
124.0×158.0cm
額裏面に題名、署名、年記、エディション番号(ed.
1/3)
黒田賢三氏寄贈
Ph-2699

春木麻衣子(1974-)

outer portrait (3)

平成21年
発色現像方式印画
124.0×158.0cm
額裏面に題名、署名、年記、エディション番号(ed.
2/3)
個展(東京、タロウナス、2010年)
黒田賢三氏寄贈
Ph-2700

春木麻衣子(1974-)

outer portrait (4)

平成21年
発色現像方式印画
124.0×158.0cm
額裏面に題名、署名、年記、エディション番号(ed.
1/3)
黒田賢三氏寄贈
Ph-2701

HARUKI, Maiko(1974-)

outer portrait (2)

2009
chromogenic print
124.0×158.0cm

HARUKI, Maiko (1974-)

outer portrait (3)

2009
chromogenic print
124.0×158.0cm

HARUKI, Maiko (1974-)

outer portrait (4)

2009
chromogenic print
124.0×158.0cm

美術資料

Supplementary Material

和泉達(1940-)
和泉達個展案内状

昭和38年
活版印刷・紙(新聞紙)
26.2×19.7cm
赤瀬川尚子氏寄贈
M-684

IZUMI, Tatsu (1940-)

Invitation for the Solo Exhibition by Izumi Tatsu
1963
letterpress printing on paper (newspaper)
26.2×19.7cm

和泉達(1940-)

ハイレッド・センター資料収集プランの草案

昭和46年
インク(一部スタンプ)・紙
25.2×35.5cm
赤瀬川尚子氏寄贈
M-687

IZUMI, Tatsu (1940-)

Draft for Plans for Collecting Material by Hi-Red Center
1971
ink and stamped ink on paper
25.2×35.5cm

岸田劉生(1891-1929)

博文館当用日記 大正10年

大正10年
インク・紙
22.8×16.0×3.0cm
澤田大多郎氏寄贈
M-675

KISHIDA, Ryusei (1891-1929)

Diary
1921
ink on paper
22.8×16.0×3.0cm

岸田劉生(1891-1929)

入澤達吉宛書簡

大正10年
墨・紙、巻紙
22.7×115.0cm
澤田大多郎氏寄贈
M-676

KISHIDA, Ryusei (1891-1929)

Letter to Irisawa Tatsukichi
1921
sumi on paper
22.7×115.0cm

純粋伝達研究グループ

「ここでは誰にも見られていません!」ステッカー

昭和37年
活版印刷
14.2×9.1cm
赤瀬川尚子氏寄贈
M-679

Junsui-Dentatsu Research Group

"No one can see you here!" Sticker
1962
letterpress printing
14.2×9.1cm

高松次郎、中西夏之ほか

「山手線事件」案内状

昭和37年
焦げ穴・紙(活版印刷)
15.5×21.3cm
赤瀬川尚子氏寄贈
M-678

TAKAMATSU, Jiro NAKANISHI,

Natsuyuki et al.

Invitation Card for "Yamanote-line Incident"
1962
burn hole on paper (letterpress printing)
15.5×21.3cm

ハイレッド・センター

「第5次ミキサー計画」レセプション案内状/招待状

昭和38年
インク(スタンプ)・紙(活版印刷)
18.3×25.4cm
赤瀬川尚子氏寄贈
M-680

Hi-Red Center

Invitation Card for "5th Mixer Plan"
1963
stamped ink on paper (letterpress printing)
18.3×25.4cm

ハイレッド・センター

「第5次ミキサー計画」ポスター

昭和38年
オフセット
39.9×54.5cm
赤瀬川尚子氏寄贈
M-681

Hi-Red Center

"5th Mixer Plan" (Poster)
1963
offset printing
39.9×54.5cm

ハイレッド・センター

ハイレッド・センター名刺

昭和38年
活版印刷
5.4×9.0cm
赤瀬川尚子氏寄贈
M-682

Hi-Red Center

Hi-Red Center's Name Card
1963
letterpress printing
5.4×9.0cm

ハイレッド・センター

ハイ・レッド通信 No.3

昭和38年
インク(スタンプ)・紙(活版印刷)
17.2×12.6cm
赤瀬川尚子氏寄贈
M-683

Hi-Red Center

Hi Red Report No.3
1963
stamped ink on paper (letterpress printing)
17.2×12.6cm

ハイレッド・センター

ハイレッド・シール

昭和39年
印刷・紙(10枚)
各3.4×2.5cm
赤瀬川尚子氏寄贈
M-685

Hi-Red Center

Hi-Red Sticker
1964
printing on paper, 10 pieces
each 3.4×2.5cm

ハイレッド・センター

特報！通信衛星は何者に使われているか！

昭和39年
インク(スタンプ)・紙(活版印刷)
17.4×25.4cm
赤瀬川尚子氏寄贈
M-686

Hi-Red Center

Flash Report! Who Takes Advantage of
Communication Satellites?

1964
stamped ink on paper (letterpress printing)
17.4×25.4cm

ハイレッド・センター

「シェルター計画」より 「シェルター計画」招待状

昭和39年
インク・紙(活版印刷)
29.8×20.8cm
個展(東京、帝国ホテル、1964年)
購入
M-688-1

Hi-Red Center

Invitation Card for "Shelter Plan" from "Shelter Plan"

1964
ink on paper (letterpress printing)
29.8×20.8cm

ハイレッド・センター

「シェルター計画」より 「シェルター計画」来館者の心得

昭和39年
活版印刷
7.6×11.5cm
個展(東京、帝国ホテル、1964年)
購入
M-688-2

Hi-Red Center

Notice to the Visitors from "Shelter Plan"

1964
letterpress printing
7.6×11.5cm

ハイレッド・センター

「シェルター計画」より 「シェルター計画」インストラクション

昭和39年
活版印刷
9.0×14.1cm
個展(東京、帝国ホテル、1964年)
購入
M-688-3

Hi-Red Center

Instructions from "Shelter Plan"

1964
letterpress printing
9.0×14.1cm

ハイレッド・センター

「シェルター計画」より 「シェルター計画」担当 ハイレッド・センター」名刺

昭和39年
活版印刷
9.0×5.4cm
個展(東京、帝国ホテル、1964年)
購入
M-688-4

Hi-Red Center

"Shelter Plan" Members' Name Card from "Shelter Plan"

1964
letterpress printing
9.0×5.4cm

ハイレッド・センター

「シェルター計画」より 「シェルター計画」模型(川仁宏)」

昭和39年
写真、木
20.6×5.6×3.5cm
個展(東京、帝国ホテル、1964年)
購入
M-688-5

Hi-Red Center

Shelter Model (Kawani Hiroshi) from "Shelter Plan"

1964
photograph and wood
20.6×5.6×3.5cm

ハイレッド・センター

「シェルター計画」より 「人体展開図写真(横尾忠則)」

昭和39年
ゼラチン・シルバー・プリント
26.0×32.0cm
個展(東京、帝国ホテル、1964年)
購入
M-688-6

Hi-Red Center

Photographic Plans for Shelter Model (Yokoo Tadanori) from "Shelter Plan"

1964
gelatin silver print
26.0×32.0cm

ハイレッド・センター

「シェルター計画」より 「人体展開図写真(風倉匠)」

昭和39年
湿式印刷
26.7×28.5cm
個展(東京、帝国ホテル、1964年)
購入
M-688-7

Hi-Red Center

Photographic Plans for Shelter Model (Kazakura Sho) from "Shelter Plan"

1964
wet printing
26.7×28.5cm

ハイレッド・センター

「シェルター計画」より 「シェルター計画」カルテ

昭和39年
インク・紙(活版印刷)(25枚)
各19.5×27.3cm
個展(東京、帝国ホテル、1964年)
購入
M-688-8

Hi-Red Center

Carte for "Shelter Plan" from "Shelter Plan"

1964
ink on paper (letterpress printing), 25 pieces
each 19.5×27.3cm

ハイレッド・センター

「シェルター計画」より 「帝国ホテル領収書」

昭和39年
インク(タイプ)・紙(活版印刷)
17.5×15.5cm
個展(東京、帝国ホテル、1964年)
購入
M-688-9

Hi-Red Center

Receipt from the Imperial Hotel

1964
typed ink on paper (letterpress printing)
17.5×15.5cm

晚餐整理券

昭和37年
活版印刷
5.4×9.1cm
敗戦記念晚餐会(国立市公民館、1962年)
赤瀬川尚子氏寄贈
M-677

Numbered Ticket for Dinner Party

1962
letterpress printing
5.4×9.1cm

平成29年度における工芸作品の購入、受贈による新収蔵作品は次のとおり。

陶磁12点(購入6点、受贈6点)、ガラス44点(受贈44点)、漆工3点(購入2点、受贈1点)、竹工1点(受贈1点)、染織4点(受贈4点)、人形2点(受贈2点)、金工4点(購入1点、受贈3点)である。

New additions to the museum collection as a result of the purchase or receipt of donation of crafts during fiscal 2017 were as follows: 12 ceramic works (6 purchased, 6 donated); 44 items of glass works (44 donated); 3 lacquerware (2 purchased, 1 donated); 1 item of bamboo works (1 donated); 4 textile (4 donated); 2 item of doll (2 donated); 4 metal works (1 purchased, 3 donated).

陶磁

Ceramic Works

板谷波山(1872-1963)
葆光彩磁牡丹文様花瓶

大正11年
磁器
h66.5 D43.0cm
平和記念東京博覧会
購入
Cr1059

ITAYA, Hazan (1872-1963)
Vase, underglaze design of peonies, *hoko*
mat glaze
1922
porcelain
h66.5 D43.0cm

十四代今泉今右衛門(雅登)(1962-)
色絵雪花墨色墨はじき菊文花瓶

平成26年
磁器
h36.4 D30.9cm
「革新の工芸：『伝統と前衛』、そして現代」(東京
国立近代美術館工芸館)
購入
Cr1060

IMAIZUMI, Imaemon XIV (Masato) (1962-)
Vase, chrysanthemum design, overglaze enamel,
sprayed underglaze black ink, *sumihajiki* and *sekka*
2014
porcelain
h36.4 D30.9cm

中村卓夫(1945-)
〈箱をやめたハコ〉宝珠図

平成27年
陶器
h41.0 w45.0 d38.0cm
個展(京都、艸居)
購入
Cr1061

NAKAMURA, Takuo (1945-)
Box, not a Box, design of *hoju* (Buddhist
jewel)
2015
stoneware
h41.0 w45.0 d38.0cm

森野泰明(1934-)
祭祀 WORK 69-11

昭和44年
陶器
h40.5 w29.0 d29.0cm
第1回改組日展(東京都美術館)
購入
Cr1062

MORINO, Hiroaki (1934-)
Religious Service, work 69-11
1969
stoneware
h40.5 w29.0 d29.0cm

森野泰明(1934-)
滄碧弧状文扁壺

平成26年
陶器
h38.3 w35.4 d22.5cm
第1回改組新日展(東京、国立新美術館)
購入
Cr1063

MORINO, Hiroaki (1934-)
Vase, arc design
2014
stoneware
h38.3 w35.4 d22.5cm

森野泰明(1934-)

滄碧鉤文緑彩扁壺

平成27年
陶器
h36.0 w30.2 d16.3cm
個展(日本橋高島屋)
購入
Cr1064

加藤清之(1931-)

灰陶 81-5

昭和56年
陶器
h51.0 w81.5 d20.0cm
第6回日本陶芸展(大丸東京店)
辻野一恵氏寄贈
Cr1065

久保田厚子(1953-)

青白磁花文大壺

平成8年
磁器
h52.6 D39.5cm
「磁器の表現」(東京国立近代美術館工芸館)
柴田貞男氏寄贈
Cr1066

MORINO, Hiroaki (1934-)

Vase, hook design
2015
stoneware
h36.0 w30.2 d16.3cm

KATO, Kiyoyuki (1931-)

Ash-glazed stoneware 81-5
1981
stoneware
h51.0 w81.5 d20.0cm

KUBOTA, Atsuko (1953-)

Large jar, flower design, bluish white
porcelain
1996
porcelain
h52.6 D39.5cm

辻清明(1927-2008)

信楽練上陶管 室生寺

昭和45年
陶器、練上
h18.0 w16.5 d16.0cm
藤元伸郎氏寄贈
Cr1067

吉田美統(1932-)

釉裏金彩牡丹文飾皿

平成29年
磁器
h9.3 w49.3 d49.0cm
第73回現代美術展(石川県立美術館)
個人寄贈
Cr1068

山本陶秀(1906-1994)

備前水指

平成元年頃
陶器
h17.7 D17.0cm
石井本子氏寄贈
Cr1069

TSUJI, Seimei (1927-2008)

Covered box, "Murouji", *neriage*, shigaraki
type
1970
stoneware, *neriage*
h18.0 w16.5 d16.0cm

YOSHITA, Minori (1932-)

Ornamental dish, peony design, underglaze
gold leaves
2017
porcelain
h9.3 w49.3 d49.0cm

YAMAMOTO, Toshu (1906-1994)

Water container, Bizen ware
c.1989
stoneware
h17.7 D17.0cm

ダックワース、ルース(1919-2009)

Untitled

昭和43年
磁器
h15.4 w15.1 d15.6cm
森野泰明氏寄贈
Cr1070

DUCKWORTH, Ruth (1919-2009)

Untitled
1968
porcelain
h15.4 w15.1 d15.6cm

ガラス

Glass Works

藤田喬平(1921-2004)

硬質金彩茶盃

平成12年頃
ガラス、宙吹き
h6.5 D13.0cm
石井本子氏寄贈
Gl0149

FUJITA, Kyohei (1921-2004)

Tea bowl, gilded finish
c.2000
glass, blowing
h6.5 D13.0cm

ガレ、エミール(1846-1904)

ガーランド文脚付杯

慶応3年頃
ガラス、宙吹き、エナメル彩、手彫り、脚部の熔着
h13.4 D8.4cm
阿部信博氏寄贈
Gl0150

GALLÉ, Emile (1846-1904)

Footed cup, garland pattern
c.1867
glass, blowing, enameling, engraving, applied foot
h13.4 D8.4cm

ガレ、エミール(1846-1904)

草花文月光色ガラスデカンタ

慶応3-明治9年頃
ガラス、宙吹き、把手の熔着、多色レリーフ、エナメル彩、金彩
h31.5 w13.3 d13.3cm
阿部信博氏寄贈
GI0151

GALLÉ, Emile (1846-1904)

"Clare de Lune" decanter, floral design
c.1867-76
glass, blowing, polychrome relief, enameling, gilding, applied handle
h31.5 w13.3 d13.3cm

ガレ、エミール(1846-1904)

獅子頭「日本の怪獣の頭」

明治9-17年頃
ガラス、型吹き、手彫り、エナメル彩、金彩
h12.0 w12.5 d12.5cm
阿部信博氏寄贈
GI0152

GALLÉ, Emile (1846-1904)

Lion mask "The head of a Japanese Monster"
c.1876-84
glass, mold-blowing, engraving, enameling, gilding
h12.0 w12.5 d12.5cm

ガレ、エミール(1846-1904)

イスラム文手付花瓶

明治12-17年頃
ガラス、型吹き、多色レリーフ、エナメル彩、金彩
h22.5 w16.5 d12.0cm
阿部信博氏寄贈
GI0153

GALLÉ, Emile (1846-1904)

Handled vase, Islam pattern
c.1879-84
glass, mold-blowing, polychrome relief, enameling, gilding
h22.5 w16.5 d12.0cm

ガレ、エミール(1846-1904)

繖形花序文蓋物

明治13-22年
ガラス、エナメル彩
h9.8 D27.0cm
阿部信博氏寄贈
GI0154

GALLÉ, Emile (1846-1904)

Lidded container, umbel flower design
1880s
glass, enameling
h9.8 D27.0cm

ガレ、エミール(1846-1904)

鳥に王冠文杯

明治13-22年
ガラス、宙吹き、多色レリーフ、エナメル彩、金彩
h14.0 w6.9 d5.3cm
阿部信博氏寄贈
GI0155

GALLÉ, Emile (1846-1904)

Cup, bird and crown design
1880s
glass, blowing, polychrome relief, enameling, gilding
h14.0 w6.9 d5.3cm

ガレ、エミール(1846-1904)

獅子に王冠文杯

明治13-22年
ガラス、宙吹き、多色レリーフ、エナメル彩、金彩
h14.0 w7.0 d5.2cm
阿部信博氏寄贈
GI0156

GALLÉ, Emile (1846-1904)

Cup, lion and crown design
1880s
glass, blowing, polychrome relief, enameling, gilding
h14.0 w7.0 d5.2cm

ガレ、エミール(1846-1904)

闘う騎士文台付鉢

明治13-22年
ガラス、宙吹き、エナメル彩、金彩、金箔挿入、金属台
h10.8 D17.5cm
台無し：h7.5 D17.5cm
阿部信博氏寄贈
GI0157

GALLÉ, Emile (1846-1904)

Bowl with base, battling knight design
1880s
glass, blowing, enameling, gilding, gold leaf inclusion, metal base
h10.8 D17.5cm (without base: h7.5)

ガレ、エミール(1846-1904)

トンボ文杯

明治13-22年
ガラス、宙吹き、多色レリーフ、エナメル彩、金彩
h22.9 D11.0cm
阿部信博氏寄贈
GI0158

GALLÉ, Emile (1846-1904)

Cup, dragonfly design
1880s
glass, blowing, polychrome relief, enameling, gilding
h22.9 D11.0cm

ガレ、エミール(1846-1904)

ウリ文筒形花瓶

明治17-22年頃
ガラス、多色レリーフ、エナメル彩、金彩
h34.0 w14.0 d14.0cm
阿部信博氏寄贈
GI0159

GALLÉ, Emile (1846-1904)

Cylinder vase, melon design
c.1884-89
glass, polychrome relief, enameling, gilding
h34.0 w14.0 d14.0cm

ガレ、エミール(1846-1904)

花蝶文エナメル彩花器

明治26-27年頃
ガラス、宙吹き、多色レリーフ、エナメル彩、金彩
h21.0 w33.0 d29.0cm
阿部信博氏寄贈
GI0160

GALLÉ, Emile (1846-1904)

Enameled flower vase, flower and butterfly design
c.1893-94
glass, blowing, polychrome relief, enameling, gilding
h21.0 w33.0 d29.0cm

ガレ、エミール(1846-1904)

蘭文花瓶

明治27-28年頃
ガラス、多色レリーフ、エナメル彩、金彩
h19.2 w9.5 d9.7cm
阿部信博氏寄贈
GI0161

GALLÉ, Emile (1846-1904)

Vase, orchid design
c.1894-95
glass, polychrome relief, enameling, gilding
h19.2 w9.5 d9.7cm

ガレ、エミール(1846-1904)

ダリア文皿

明治28年頃
ガラス、エッチング、アプリケーション、多色レリーフ、エナメル彩、パチネ
h4.5 D24.0cm
阿部信博氏寄贈
GI0162

GALLÉ, Emile (1846-1904)

Plate, dahlia design
c.1895
glass, etching, application, polychrome relief, enameling, patine
h4.5 D24.0cm

ガレ、エミール(1846-1904)

西洋カエデ文脚付杯

明治30-37年頃
被せガラス、エッチング
h11.5 D20.0cm
阿部信博氏寄贈
G10163

GALLÉ, Emile (1846-1904)

Footed bowl, western maple design

c.1897-1904
glass, casing, etching
h11.5 D20.0cm

ガレ、エミール(1846-1904)

オダマキ文花瓶

明治31-37年頃
被せガラス、エッチング
h39.0 w13.2 d9.0cm
阿部信博氏寄贈
G10164

GALLÉ, Emile (1846-1904)

Flower vase, aquilegia design

c.1898-1904
glass, casing, etching
h39.0 w13.2 d9.0cm

ガレ、エミール(1846-1904)

イヌサフラン文鶴頸花瓶

明治33年
ガラス、宙吹き、金属酸化物挿入、手彫り、熔着
h26.0 w10.3 d8.2cm
阿部信博氏寄贈
G10165

GALLÉ, Emile (1846-1904)

Long-necked vase, colchicum design

1900
glass, blowing, metallic-compound inclusion,
marquetry, engraving
h26.0 w10.3 d8.2cm

ガレ、エミール(1846-1904)

イチジク文聖杯

明治31年
被せガラス、宙吹き、脚部の熔着、金属酸化物挿入、マルケットリー、手彫り、熔着、金箔挿入
h57.8 D19.7cm
阿部信博氏寄贈
G10166

GALLÉ, Emile (1846-1904)

Holy grail, fig design

1898
glass, casing, blowing, metallic-compound inclusion,
marquetry, engraving, gold leaf inclusion, applied foot
h57.8 D19.7cm

ガレ、エミール(1846-1904)

トネリコバノカエデ文鉢

明治36年
被せガラス、エッチング
h9.3 w34.5 d21.2cm
阿部信博氏寄贈
G10167

GALLÉ, Emile (1846-1904)

Bowl, ash-leaved maple design

1903
glass, casing, etching
h9.3 w34.5 d21.2cm

ガレ、エミール(1846-1904)

藤文花瓶

明治33-37年頃
被せガラス、エッチング
h25.5 D12.5cm
阿部信博氏寄贈
G10168

GALLÉ, Emile (1846-1904)

Vase, wisteria design

c.1900-04
glass, casing, etching
h25.5 D12.5cm

ドーム兄弟

藻魚文花瓶

明治31年
多層被せガラス、アンテルカレール(装飾挟み込み)、型吹き、エッチング、エナメル彩、金彩、色ガラス挿入
h40.4 D15.8cm
阿部信博氏寄贈
G10169

Daum Frères

Vase, fish and seaweed design

1898
glass, mold-blowing, casing, intercalaire, etching,
enameling, gilding, color glass insertion
h40.4 D15.8cm

ドーム兄弟

チューリップ文花瓶

明治31年
オバルセント・ガラス、エッチング、エナメル彩、金彩
h30.3 D12.5cm
阿部信博氏寄贈
G10170

Daum Frères

Vase, tulip design

1898
opalescent glass, etching, enameling, gilding
h30.3 D12.5cm

ドーム兄弟

風雨樹林文円筒形花瓶

明治36年頃
ガラス、型吹き、金属酸化物挿入、エッチング、エナメル彩
h29.7 D12.5cm
阿部信博氏寄贈
G10171

Daum Frères

Cylindrical vase, trees in the rain design

c.1903
glass, mold-blowing, metallic compound inclusion,
etching, enameling
h29.7 D12.5cm

ドーム兄弟

風雨樹林文鶴頸花瓶

明治36年頃
ガラス、型吹き、金属酸化物挿入、エッチング、エナメル彩
h30.8 D11.5cm
阿部信博氏寄贈
G10172

Daum Frères

Long-necked vase, trees in the rain design

c.1903
glass, mold-blowing, metallic compound inclusion,
etching, enameling
h30.8 D11.5cm

ドーム兄弟

風雨樹林文角型花瓶

明治36年頃
ガラス、型吹き、金属酸化物挿入、エッチング、エナメル彩
h11.5 w5.0 d5.0cm
阿部信博氏寄贈
G10173

Daum Frères

Rectangular vase, trees in the rain design

c.1903
glass, mold-blowing, metallic compound inclusion,
etching, enameling
h11.5 w5.0 d5.0cm

ドーム兄弟

風雨樹林文コップ

明治36年頃
ガラス、型吹き、エッチング、エナメル彩
h12.0 D6.7cm
阿部信博氏寄贈
G10174

Daum Frères

Cup, trees in the rain design

c.1903
glass, mold-blowing, etching, enameling
h12.0 D6.7cm

ドーム兄弟

風雨樹林文鉢

明治36年頃
ガラス、型吹き、エッチング、エナメル彩
h12.0 w14.5 d12.5cm
阿部信博氏寄贈
GI0175

Daum Frères

Bowl, trees in the rain design
c.1903
glass, mold-blowing, etching, enameling
h12.0 w14.5 d12.5cm

ドーム兄弟

風雨樹林文花瓶

明治36年頃
ガラス、型吹き、エッチング、エナメル彩
h34.6 w13.2 d8.5cm
阿部信博氏寄贈
GI0176

Daum Frères

Vase, trees in the rain design
c.1903
glass, mold-blowing, etching, enameling
h34.6 w13.2 d8.5cm

ドーム兄弟

風雨樹林文脚付杯

明治36年頃
ガラス、型吹き、エッチング、エナメル彩
h22.7 w16.2 d8.4cm
阿部信博氏寄贈
GI0177

Daum Frères

Footed cup, trees in the rain design
c.1903
glass, mold-blowing, etching, enameling
h22.7 w16.2 d8.4cm

ドーム兄弟

麦文花器

明治38年
縞目入ガラス、エッチング、エナメル彩、金彩
h36.5 D11.5cm
阿部信博氏寄贈
GI0178

Daum Frères

Vase, wheat design
1905
striped pattern glass, etching, enameling, gilding
h36.5 D11.5cm

ドーム兄弟

アザミ文鶴頸花瓶

明治38-大正3年頃
ガラス、ヴィトリフィカッション、エッチング、
エナメル彩
h31.0 D14.5cm
阿部信博氏寄贈
GI0179

Daum Frères

Long-necked vase, thistle design
c.1905-14
glass, vitrification, etching, enameling
h31.0 D14.5cm

ドーム兄弟

西洋柳文スフレ花瓶

明治39年
被せガラス、型吹き(スフレ)、ヴィトリフィカッ
ション、エッチング
h29.0 D9.5cm
阿部信博氏寄贈
GI0180

Daum Frères

Vase, western willow design
1906
glass, casing, mold-blowing (souffle), vitrification,
etching
h29.0 D9.5cm

ドーム兄弟

カシワ文花瓶

明治39年頃
被せガラス、型吹き(スフレ)、ヴィトリフィカッ
ション、エッチング
h41.0 D15.7cm
阿部信博氏寄贈
GI0181

Daum Frères

Vase, oak design
c.1906
glass, casing, mold-blowing (souffle), vitrification,
etching
h41.0 D15.7cm

ドーム兄弟

大麦文花器

明治43年頃
被せガラス、金属酸化物挿入、アプリカッショ
ン
h32.5 D9.2cm
阿部信博氏寄贈
GI0182

Daum Frères

Vase, barley design
c.1910
glass, casing, metallic compound inclusion,
application
h32.5 D9.2cm

ドーム兄弟

春景文扁壺

明治43年頃
透明ガラス、金属酸化物挿入、エッチング、エナ
メル彩
h20.0 w15.0 d5.5cm
阿部信博氏寄贈
GI0183

Daum Frères

Vase, spring landscape design
c.1910
glass, mold-blowing, metallic compound inclusion,
etching, enameling
h20.0 w15.0 d5.5cm

ドーム兄弟

オダマキ文水注

明治44年
マーブル・ガラス、エッチング、エナメル彩
h30.3 D7.5cm
阿部信博氏寄贈
GI0184

Daum Frères

Pitcher, aquilegia design
1911
marbled glass, etching, enameling
h30.3 D7.5cm

ドーム兄弟

青池文扁壺

明治44年
透明ガラス、金属酸化物挿入、エッチング、エナ
メル彩
h16.8 w11.6 d6.3cm
阿部信博氏寄贈
GI0185

Daum Frères

Vase, blue pond design
1911
glass, mold-blowing, metallic compound inclusion,
etching, enameling
h16.8 w11.6 d6.3cm

ドーム兄弟

湖景文水差

明治45年
被せガラス、エッチング、脚台と把手の熔着
h26.0 w12.0 d10.3cm
阿部信博氏寄贈
GI0186

Daum Frères

Pitcher, lakeview design
1912
glass, casing, etching, applied foot and handle
h26.0 w12.0 d10.3cm

ドーム兄弟

カキ文円花瓶

明治45年
被せガラス、エッチング
h49.0 D14.5cm
阿部信博氏寄贈
G10187

Daum Frères

Vase, persimmons design
1912
glass, casing, etching
h49.0 D14.5cm

ドーム兄弟

たばこの花文花瓶

明治45年
被せガラス、エッチング、ラメル熔着、手彫り
h34.5 D12.3cm
阿部信博氏寄贈
G10188

Daum Frères

Vase, tobacco blossom design
1912
glass, casing, etching, applied ramel, engraving
h34.5 D12.3cm

ドーム兄弟

野バラ文花瓶

大正3-9年頃
ガラス、ヴィトリフィカッション、エッチング、
エナメル彩
h58.4 D13.5cm
阿部信博氏寄贈
G10189

Daum Frères

Vase, wild rose design
c.1914-20
glass, vitrification, etching, enameling
h58.4 D13.5cm

ドーム兄弟

マーブル地脚付杯(黄)

明治43-大正8年
ガラス、宙吹き、金属箔挿入、脚台の熔着
h21.5 D26.0cm
阿部信博氏寄贈
G10190

Daum Frères

Footed vase, marble pattern (yellow)
1910s
glass, blowing, metallic compound inclusion, applied
foot
h21.5 D26.0cm

ドーム兄弟

マーブル地脚付杯(赤)

明治43-大正8年
ガラス、宙吹き、金属箔挿入、脚台の熔着
h28.0 w28.0 d30.0cm
阿部信博氏寄贈
G10191

Daum Frères

Footed vase, marble pattern (red)
1910s
glass, blowing, metallic compound inclusion, applied
foot
h28.0 w28.0 d30.0cm

ドーム兄弟

秋の葉文花瓶

大正9年
被せガラス、ヴィトリフィカッション、エッチ
ング
h20.8 D12.5cm
阿部信博氏寄贈
G10192

Daum Frères

Vase, autumn leaf design
1920
glass, casing, vitrification, etching
h20.8 D12.5cm

漆工

Lacquerwares

赤塚自得(1871-1936)

常緑蒔絵料紙箱

昭和初期
漆、蒔絵
h15.5 w34.0 d42.0cm
購入
Lc0362

AKATSUKA, Jitoku (1871-1936)

Paper case, "Evergreen", *maki-e*
lacquer, *maki-e*
h15.5 w34.0 d42.0cm

山岸一男(1954-)

沈黒象嵌合子 能登残照

平成28年
漆、沈黒、象嵌
h9.0 D24.5cm
第63回日本伝統工芸展(日本橋三越本店)
購入
Lc0363

YAMAGISHI, Kazuo (1954-)

Covered container, "Noto at Sunset",
chinkoku, inlay
2016
lacquer, *chinkoku*, inlay
h9.0 D24.5cm

並木恒延(1949-)

雪のしるべ

平成21年
漆、卵殻
145.0×145.0cm
第41回日展(東京、国立新美術館)
作者寄贈
Lc0364

NAMIKI, Tsunenobu (1949-)

Trails in the snow
2009
lacquer, *runkaku*
145.0×145.0cm

竹工
Bamboo Works

勝城蒼鳳(1934-)

Waterfall

平成23年
竹
h220.0 w70.0cm
個人寄贈
Bm0048

KATSUSHIRO, Soho (1934-)

Waterfall

2011
bamboo
h220.0 w70.0cm

染織

Textiles

森口華弘(1909-2008)

友禪孔雀亀甲訪問着

平成3年
絹、友禪
h155.3 w126.4cm
個展(日本橋三越本店)
千葉忠男氏寄贈
Tx0492

森口華弘(1909-2008)

友禪梅文様訪問着

平成5年
絹、友禪
h154.3 w124.6cm
個展(日本橋三越本店)
千葉忠男氏寄贈
Tx0493

MORIGUCHI, Kako (1909-2008)

Kimono, peacock feather in the hexagonal pattern, *yuzen* dyeing

1991
silk, *yuzen* dyeing
h155.3 w126.4cm

MORIGUCHI, Kako (1909-2008)

Kimono, plum blossom design, *yuzen* dyeing

1993
silk, *yuzen* dyeing
h154.3 w124.6cm

森口華弘(1909-2008)

友禪芝垣文様訪問着

平成7年
絹、友禪
h153.2 w125.6cm
個展(日本橋三越本店)
千葉忠男氏寄贈
Tx0494

森口華弘(1909-2008)

友禪細華文訪問着

平成10年
絹、友禪
h156.6 w124.8cm
個展(日本橋三越本店)
千葉忠男氏寄贈
Tx0495

MORIGUCHI, Kako(1909-2008)

Kimono, grass wall pattern, *yuzen* dyeing

1995
silk, *yuzen* dyeing
h153.2 w125.6cm

MORIGUCHI, Kako(1909-2008)

Kimono, flower design, *yuzen* dyeing

1998
silk, *yuzen* dyeing
h156.6 w124.8cm

人形

Dolls

前田金彌(1929-2017)

桐塑木目込「夢」

平成20年
桐、桐塑、木目込
h17.0cm
21世紀の伝統工芸：世界の眼(第50回東日本伝統工芸展)(静岡、MOA美術館)
リチャード L. ゲージ氏寄贈
Dl0096

MAEDA, Kinya (1929-2017)

Doll, "Dream"

2008
paulownia, *toso* (paulownia sawdust paste), *kimekomi*
h17.0cm

前田金彌(1929-2017)

木芯桐塑木目込「伊達男」

不詳
桐、桐塑、木目込
h26.0cm
リチャード L. ゲージ氏寄贈
Dl0097

MAEDA, Kinya (1929-2017)

Doll, "Dandy"

unknown
paulownia, *toso* (paulownia sawdust paste), *kimekomi*
h26.0cm

金工
Metal Works

加納夏雄(1828-1898)

手板三種

明治26-28年頃
銅、赤銅、桐
h23.5 w29.5cm
個人寄贈
Mt0446

KANO, Natsuo(1828-1898)

Three types of small metal plates

c. 1893-1895
copper, *shakudo* (copper alloy with gold), paulownia
h23.5 w29.5cm

村上浩堂(1961-)

象嵌花器 芽吹き

平成25年
鑄造、象嵌
h27.5 w16.0 d13.0cm
第60回日本伝統工芸展(日本橋三越本店)
購入
Mt0447

MURAKAMI, Kodo(1961-)

Vase, "Budding", inlay

2013
casting, inlay
h27.5 w16.0 d13.0cm

三代畠春齋(1976-)

六角釜

平成25年
鉄、鑄造
h21.0 w19.0 d18.0cm
第42回伝統工芸日本金工展(日本橋三越本店)
個人寄贈
Mt0448

HATA, Shunsai III(1976-)

Hexagonal tea kettle

2013
iron, casting
h21.0 w19.0 d18.0cm

三代畠春齋(1976-)

流水文四方釜

平成25年
鉄、鑄造
h16.0 D26.0cm
第60回日本伝統工芸展(日本橋三越本店)
個人寄贈
Mt0449

HATA, Shunsai III(1976-)

Square tea kettle, stream design

2013
iron, casting
h16.0 D26.0cm

平成29年度に修理した美術作品は次のとおり。
日本画12点、油彩 その他 9点、戦争記録画1点、彫刻1点

◆日本画

- J-166 池田遙邨《近江神宮》
解体修理、シミの除去
- J-208 勝田哲《雨》
解体修理、シミの除去
- J-228 児玉希望《花下吟詠》
解体修理、シミの除去
- J-290 堂本印象《朝顔》
解体修理、シミの除去
- J-309 中村大三郎《春雨》
解体修理、シミの除去
- J-321 福田平八郎《白梅》
解体修理、シミの除去
- J-341 案本一洋《必中》
解体修理、シミの除去
- J-347 三谷十糸子《惜春》
解体修理、シミの除去
- J-370 山口華楊《鴨》
解体修理、シミの除去
- J-382 結城素明《浅春》
解体修理、シミの除去
- J-799 速水御舟《墨竹図》
解体修理、シミの除去、折れ改善、改装
- J-820 横山操《ふるさと》
右上部剥落片接着、浮き接着

◆油彩、その他

- O-35 太田喜二郎《桑つみ》
亀裂、剥落箇所接着、木枠交換、ルースライニング、充填整形、補彩
- O-45 小糸源太郎《嬋娟》
亀裂、剥落箇所接着、キャンバスの張り調整、額の再固定
- O-529 青山義雄《アダムとイヴ》
亀裂、剥落箇所接着、充填整形、補彩、裏：釘をT字交換
- O-530 青山義雄《カーニユ風景》
亀裂、剥落箇所接着、浮きの接着、裏：釘をT字交換
- O-1223 萬鉄五郎《立木風景》
裏に張られた紙を除去、ポリカーボネート製裏板を取り付け、つり金具を交換、アクリルをはずす
- O-1268 福沢一郎《二重像》
画面洗浄、キャンバス張り直し、泥足をたす
- O-1269 中野淳《食卓》
カビ除去、殺菌洗浄、キャンバス張り直し、ルースライニング、亀裂、剥落箇所の接着、充填整形
- O-1271 赤瀬川原平《架空の事実》
亀裂、浮き上がり箇所の接着、画面洗浄
- O-1272 赤瀬川原平《架空の事実》

亀裂、浮き上がり箇所の接着、画面洗浄

◆戦争記録画

X-34 猪熊弦一郎《〇〇方面鉄道建設》

画面洗浄、亀裂、剥落箇所の接着、充填整形、キャンバス張り直し、一部新規木枠に固定、新規額装

◆彫刻

S-378 鷺見和紀郎《ダンス-4》

亀裂、剥落箇所の接着、補彩

平成29年度に修理した美術作品は次のとおり。

染織 3点、金工 3点

◆染織

Tx0090 森口華弘《古代縮緬地友禪訪問着 薫》

丸洗い、カビ取り、シミ落とし、金箔の補正、肩山焼け直し、刷き合わせ、八掛補修、仕立て直し

Tx0093 森口華弘《訪問着 四季の香》

丸洗い、カビ取り、シミ落とし、金箔の補正、肩山焼け直し、刷き合わせ、八掛補修、仕立て直し

Tx0135 森口華弘《訪問着 薫風》

丸洗い、カビ取り、シミ落とし、金箔の補正、肩山焼け直し、刷き合わせ、八掛補修、仕立て直し

◆金工

Mt0157 鈴木長吉《鷹8（十二の鷹のうち）》

足裏ホゾの補修

Mt0441 介川芳秀《彫金鹿衝立》

クリーニング、付着物の除去、剥離塗膜の押さえ（※H29・30年度の2年計画の修復の1年目）

Mt0446 加納夏雄《手板三種》

クリーニング、外枠組立

1 展覧会 Exhibitions

1-1 入館者数

平成29年度入館者数(人)

	所蔵作品展	企画展	合計
本館	224,900	261,278	486,178
工芸館	82,534	42,029	124,563
入館者総数	307,434	303,307	610,741

回数	展覧会名	入館者数(人)
521 (工.111)	マルセル・ブロイヤールの家具：Improvement for good	29,834人(1日平均 877人) (平成28年度中 12,626人 合計42,460人)
522	茶碗の中の宇宙 樂家一子相伝の芸術	66,198人(1日平均 1,439人) (平成28年度中 14,450人 合計80,648人)
523	日本の家 1945年以降の建築と暮らし	81,175人(1日平均 912人)
524 (工.112)	工芸館開館40周年記念特別展 陶匠 辻清明の世界 一明る寂びの美	12,195人(1日平均 203人)
525	没後40年 熊谷守一 生きるよろこび	113,905人(1日平均 1,252人)

回数 展覧会名

昭和27年度 [1952]

- 1 日本近代美術展：近代絵画の回顧と展望
Modern Japanese Art: Retrospective and Perspective of Modern Painting
- 2 近代美術展：近代洋画の歩み(西洋と日本)
Development of Modern Western-style (Oil) Painting: Europe and Japan

昭和28年度 [1953]

- 3 世界のポスター展
World Posters
- 4 近代日本絵画展：日本画の流れ(系譜と展開)
Mainstream of Japanese-style Painting: Its Schools and Development
- 5 近代彫塑展：日本と西洋
Modern Sculpture: Europe and Japan
- 6 現代写真展：日本とアメリカ
The Exhibition of Contemporary Photography: Japan and America
- 7 四人の画家：中村彝 小茂田青樹 萬鉄五郎 土田麦僊
Exhibition of Four Painters: Tsune Nakamura, Seiju Omoda, Tetsugoro Yorozu, Bakusen Tsuchida
- 8 抽象と幻想：非写実絵画をどう理解するか
Abstraction and Fantasy: How to Understand Non-figurative (Non-realistic) Painting
- 9 近代の肖像画
Exhibition of Modern Japanese Portraiture
- 10 第27回ヴェニス・ビエンナーレ国際美術展：出品作品国内展示
Preview Exhibition of the 27th Venice Biennial Exhibits from Japan
- 11 国吉康雄遺作展
The Memorial Art Exhibition of the Works of Yasuo Kuniyoshi

昭和29年度 [1954]

- 12 大正期の画家
The Exhibition of the Painting of the Taisho Era
- 13 グロピウスとバウハウス
Gropius and Bauhaus
- 14 黒田清輝展
Exhibition of Seiki Kuroda
- 15 水彩と素描
Exhibition of Water Colors and Drawings
- 16 世界の児童画
Exhibition of World Children's Art
- 17 4人の画家：佐伯祐三 前田寛治 村上華岳 広島晃甫
Exhibition of Four Painters: Yuzo Saeki, Kanji Maeta, Kagaku Murakami, Koho Hiroshima
- 18 現代の眼：日本美術史から
Today's Focus: On the History of Japanese Art

- 19 19人の作家：戦後の絵画・彫刻
同時開催 第3回サンパウロ・ビエンナーレ国際美術展：出品作品国内展示
Living Nineteen Japanese Artists: Painting and Sculpture in the Past Ten Years
Preview Exhibition of the 3rd São Paulo Biennial Exhibits from Japan
- 20 松方コレクション：国立美術館建設協賛展
Exhibition in Liaison with the Establishment of The National Museum of Western Art
- 21 明治初期洋画：近代リアリズムの展開
Western-style Painting of the Early Meiji Era

昭和**30**年度[1955]

- 22 日米抽象美術展
Abstract Art Exhibition: Japan and U.S.A.
- 23 巨匠の二十代
Great Masters in Their Twenties
- 24 日米水彩画展
Joint Exhibition of American and Japanese Water Colours
- 25 現代日本の書・墨の芸術：ヨーロッパ巡回展覧作品 国内展示会
Contemporary Japanese Calligraphy: Art in Sumi
- 26 晩期の鉄斎
Tessai in His Last Period
- 27 四人の作家：下村観山 鬚光 荻原守衛 橋本平八
Exhibition of Four Artists: Kanzan Simomura, Aimitsu, Morie Ogiwara, Heihachi Hashimoto
- 28 現代の眼：アジアの美術史から
Today's Focus: Eastern Art Seen through Eyes of the Present
- 29 明治以後の風俗画
Genre-printing in the Meiji, Taisho and Showa Eras
- 30 第28回ベニス・ビエンナーレ展：出品作国内展示
Preview Exhibition of the 28th Venice Biennial Exhibits from Japan

昭和**31**年度[1956]

- 31 安井曾太郎遺作展
Posthumous Exhibition of Sotaro Yasui
- 32 現代の版画：日本とエコール・ド・パリ
Contemporary Prints: Japanese Artists and l'École de Paris
- 33 今日の写真：日本とフランス
Contemporary Photography: Japan and France
- 34 日本の風景
Japanese Scenery
- 35 日本の彫刻：上代(埴輪・金銅仏・伎楽面)と現代
Exhibition of Japanese Sculpture: Contemporary versus Haniwa, Bronze Buddhist Statues, and Mask of the Asuka and the Nara Period
- 36 菊池契月遺作展
Posthumous Exhibition of Keigetsu Kikuchi
- 37 日本の風刺絵画
Japanese Satirical Painting (Cartoons)

- 38 近代日本の名作
Masterpieces of Modern Japanese Painting
- 39 第4回サンパウロ・ビエンナーレ展：日本側出品
Preview Exhibition of the 4th São Paulo Biennial Exhibits from Japan
- 40 20世紀のデザイン展：ヨーロッパとアメリカ
Exhibition of 20th Century Design in Europe and America

昭和32年度[1957]

- 41 墨の芸術：中国と日本の絵画
Suiboku Paintings of China and Japan
- 42 前衛美術の15人
特別陳列 アメリカ現代美術
15 Vanguard Artists
The Special Showing of 8 Contemporary American Artists
- 43 第1回東京国際版画ビエンナーレ展
特別陳列 歌麿と北斎
1^{ère} Exposition Biennale Internationale de Gravure à Tokio
Exhibition of Utamaro and Hokusai
- 44 四人の作家：平福百穂 小林徳三郎 三岸好太郎 武井直也
Exhibition of Four Artists: Hyakusui Hirafuku, Tokusaburo Kobayashi, Kotaro Migishi, Naoya, Takei
- 45 最近のドイツ版画
Deutsche Druckgraphik der Letzten Jahre
- 46 17人の作家：現代の絵画・彫刻シリーズ
Living Seventeen Japanese Artists: Series of Today's Painting and Sculpture
- 47 第1回安井賞候補新人展
The 1st Yasui Award Exhibition
- 48 近代日本絵画の歩み
Development of Modern Japanese Painting

昭和33年度[1958]

- 49 近代日本における名作の展望：絵画と彫刻
Masterpieces of Modern Japanese Art: Painting and Sculpture
- 50 抽象絵画の展開
Development of Japanese Abstract Painting
- 51 四人の作家：小川芋銭 梶田半古 佐分真 北脇昇
Exhibition of Four Artists: Ogawa Usen, Kajita Hanko, Saburi Makoto, Kitawaki Noboru
- 52 オーストラリア、ニュージーランド巡回日本現代美術展：国内展示
Preview Exhibition of Contemporary Japanese Art Exhibition to Be Circulated in Australia and New Zealand
- 53 川合玉堂遺作展
Posthumous Exhibition of Gyokudo Kawai
- 54 白隠の芸術：水墨画と書
Hakuin's Art: Suiboku Painting and Calligraphy
- 55 第2回安井賞候補新人展
The 2nd Yasui Award Exhibition

- 56 近代日本美術の常時陳列
A Survey of Modern Japanese Art: Permanent Exhibition
- 57 戦後の秀作
Postwar Outstanding Works of Art
- 58 近代日本の静物画
同時開催 ブラジル近代建築：新首都建設
Still-life in Modern Japanese Painting
Brasilia, the New Capital: Brazilian Modern Architecture

昭和**34**年度[1959]

- 59 第5回サンパウロ・ビエンナーレ展：日本側出品
Preview Exhibition of the 5th São Paulo Biennial Exhibits from Japan
- 60 近代木彫の流れ
Development of Modern Sculpture in Wood
- 61 現代日本の陶芸
Contemporary Japanese Ceramic Art
- 62 横山大観遺作展
Posthumous Exhibition of Taikan Yokoyama
- 63 棟方志功展：ヨーロッパ巡回 国内展示
Preview Exhibition of Shiko Munakata Exhibition to Be Circulated in Europe
- 64 第3回安井賞候補新人展
The 3rd Yasui Award Exhibition
- 65 近代日本美術の常時陳列
A Survey of Modern Japanese Art: Permanent Exhibition
- 66 現代写真展1959年
特別陳列 抽象光画：ハインツ・ハイエケ＝ハルケ作品
Contemporary Japanese Photographies 1959
Deutsche Lichtgrafik Werke von Heinz Hajek-Halke
- 67 近代日本の素描：アメリカ巡回
特別陳列 マリノ・マリーニのリトグラフ
Japanese Drawings in XXth Century: Preview of the Travelling Exhibition in U.S.A.
Lithographs by Marino Marini
- 68 日本画の新世代
Recent Development in Japanese Style Painting
- 69 第30回ベニス・ビエンナーレ国際美術展：国内展示
Preview Exhibition of the 30th Venice Biennial Exhibits from Japan

昭和**35**年度[1960]

- 70 超現実絵画の展開
同時開催 ブラジルのポエマ・コンクレート
Development of Japanese Surrealistic Painting
Brazilian Poema Concrete
- 71 四人の作家：菱田春草 瑛九 上阪雅人 高村光太郎
Exhibition of Four Artists: Shunso Hishida, Ei-kyu, Gajin Kosaka, Kotaro Takamura
- 72 現代の眼：原始美術から
Today's Focus: Primitive Art Seen through Eyes of the Present

- 73 近代日本美術の常時陳列
A Survey of Modern Japanese Art: Permanent Exhibition
- 74 日本人の手：現代の伝統工芸
同時開催 芸術としての写真：メトロポリタン美術館選定
Contemporary Japanese Handicrafts: Contemporary Traditional Craft
Photography in the Fine Arts
- 75 小林古徑遺作展
Posthumous Exhibition of Kokei Kobayashi
- 76 第2回東京国際版画ビエンナーレ展
The 2nd International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo
- 77 第4回安井賞候補新人展
The 4th Yasui Award Exhibition
- 78 現代写真展1960年
同時開催 アニメーションの芸術
Contemporary Japanese Photographies 1960
Animation Art
- 79 現代スペイン絵画展
Exposicion: Contrastes en la Pintura Española de Hoy
- 80 第6回サンパウロ・ビエンナーレ展：日本側出品
同時開催 現代日本の版画
Preview Exhibition of the 6th São Paulo Biennial Exhibits from Japan
Contemporary Japanese Prints

昭和**36**年度[1961]

- 81 文部省新収品を中心とする常時陳列
Permanent Exhibit: Mainly New Acquisitions of The Ministry of Education
- 82 現代美術の実験
Adventure in Today's Art of Japan
- 83 近代日本の名作展：日本画・洋画
Masterpieces of Modern Japanese Art
- 84 近代日本油絵の流れ
Development of Oil Painting in Modern Japan
- 85 近代日本の名作展
Masterpieces of Modern Japanese Art
- 86 近代日本彫刻の流れ
Development of Sculpture in Modern Japan
- 87 近代日本画の流れ
Development of Japanese-style Painting in Modern Japan
- 88 近代日本の洋画：国立近代美術館所蔵
Development of Oil Painting in Modern Japan
- 89 第5回安井賞候補新人展
The 5th Yasui Award Exhibition
- 90 現代日本の版画
Contemporary Japanese Prints
- 91 現代絵画の展望
Prominent Works of Contemporary Japanese Painting

昭和**37**年度[1962]

- 92 近代日本の造形：油絵と彫刻
Oil Painting and Sculpture in Modern Japan
- 93 近代日本の造形：絵画と彫刻
Painting and Sculpture in Modern Japan
- 94 近代の屏風絵
Painting on Folding Screen in Modern Japan
- 95 第3回東京国際版画ビエンナーレ展
特別陳列 写楽
The 3rd International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo
Sharaku
- 96 四人の作家：近藤浩一路 坂田一男 野田英夫 藤川勇造
同時開催 フランス映画史展
Posthumous Exhibition of Four Artists: Kondo Koichiro, Sakata Kazuo, Noda Hideo, Fujikawa Yuzo
History of French Films
- 97 第6回安井賞候補新人展
The 6th Yasui Award Exhibition
- 98 現代写真展1961-62年
Contemporary Japanese Photographies 1961-1962
- 99 近代日本の絵画と彫刻
Painting and Sculpture in Modern Japan
- 100 須田国太郎遺作展
Posthumous Exhibition of Kunitaro Suda
- 101 現代の油絵と版画
Contemporary Oil Painting and Prints

昭和**38**年度[1963]

- 102 ビュッフェ展：その芸術の全貌
同時開催 現代の日本画
Bernard Buffet: Exposition au Japon 1963
Contemporary Japanese-style Paintings
- 103 彫刻の新世代
New Generation of Japanese Sculptors
- 104 現代の眼：暮らしの中の日本の美
同時開催 近代の日本画
Today's Focus: Traditional Daily Implements of Japan Seen through Eyes of the Present
Modern Japanese-style Paintings
- 105 近代日本の絵画と彫刻
Painting and Sculpture in Modern Japan
- 106 近代日本美術における1914年
同時開催 近代日本の素描
1914: The Beginning of an Era in Modern Japanese Art
Modern Japanese Drawings
- 107 北大路魯山人の芸術
同時開催 日本の抽象絵画
The Art of Rosanjin Kitaoji: Ceramics, Lacquer, Calligraphy, Painting, etc.
Japanese Abstract Painting

- 108 第7回安井賞候補新人展
同時開催 マヤ芸術の拓本展
The 7th Yasui Award Exhibition
Takuhon: Rubbed Prints of Mayan Art
- 109 滞欧作とその後
同時開催 織田一磨の版画
Japanese Artists: A Contrast Seen before and after Sojourning in Europe or America
Kazuma Oda's Prints
- 110 近代作家の回顧：富田溪仙 太田聴雨 佐藤玄々 石井柏亭 中西利雄
同時開催 第32回ベニス・ビエンナーレ国際美術展：国内展示
Posthumous Exhibition of Five Artists: Keisen Tomita, Chou Ota, Gengen Sato, Hakutei Ishii, Toshio Nakanishi
Preview Exhibition of the 32nd Venice Biennial Exhibits from Japan

昭和**39**年度[1964]

- 111 児島善三郎遺作展
Posthumous Exhibition of Zenzaburo Kojima
- 112 ピカソ展
Pablo Picasso Exhibition: Japan, 1964
- 113 京都の日本画：円山応挙から現代まで
Japanese Painting in Kyoto: From Okyo Maruyama to Present Generation
- 114 現代国際陶芸展
同時開催 本館所蔵の日本画
International Exhibition of Contemporary Ceramic Art
Japanese-style Paintings from The Museum Collection
- 115 近代日本の名作：オリンピック東京大会芸術展示
Masterpieces of Modern Japanese Art: Art Exhibition during Tokyo Olympics
- 116 第4回東京国際版画ビエンナーレ展
特別陳列 広重
The 4th International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo
Hiroshige
- 117 第8回安井賞候補新人展
同時開催 新収集の日本画：東京国立博物館よりの管理換を中心として
The 8th Yasui Award Exhibition
New Pieces of Japanese-style Paintings in The Museum Collection
- 118 戦中世代の画家
Painters of the "Senchu" Generation
- 119 戦後の絵画：所蔵作品を中心として
同時開催 第8回サンパウロ・ビエンナーレ国際美術展：出品作品国内展示
同時開催 古賀春江の水彩
Postwar Japanese Paintings: Mainly from the Collection of The Museum
Preview Show for the 8th Biennial Exhibition of São Paulo
Water Colors of Harue Koga

昭和**40**年度[1965]

- 120 近代における文人画とその影響：日本と中国
Modern 'Bunjin-ga' of China and Japan and Its Influence

- 121 近代日本の裸体画
同時開催 新収集の油絵と彫刻
Paintings of Nudes in Modern Japan
New Pieces of The Museum Collection: Oil Painting and Sculpture
- 122 近代作家の回顧：小杉放庵 木村莊八 前川千帆 藤井浩祐
同時開催 ユーゴスラビア現代版画展
Posthumous Exhibition of Four Artists: Kosugi Hoan, Kimura Shohachi, Maekawa Senpan, Fujii Koyu
Exhibition of Contemporary Prints in Yugoslavia
- 123 近代日本の油絵：所蔵作品による
Modern Japanese Oil Paintings: From The Museum Collection
- 124 院展芸術の歩み：戦前
The Retrospective Exhibition of the Inten: The Prewar Period
- 125 在外日本作家展：ヨーロッパとアメリカ
Exhibition of Japanese Artists Abroad: Europe and America
- 126 第1回日本芸術祭：国内展示
The 1st Preliminary Show of Japan Art Festival
- 127 第9回安井賞候補新人展
同時開催 2人のアメリカの写真作家
The 9th Yasui Award Exhibition
Two American Photographers
- 128 現代美術の新世代
New Generation of Contemporary Art
- 129 近代の日本画：国立近代美術館所蔵作品による
同時開催 第33回ベニス・ビエンナーレ展：出品作品国内展示
Modern Japanese-style Paintings: From The Museum Collection
Preview Exhibition of the 33rd Venice Biennial Exhibits from Japan

昭和**41**年度[1966]

- 130 現代の眼：東洋の幻想
Today's Focus: Fantasy of the Orient Seen through Eyes of the Present
- 131 近代作家の回顧：岸田劉生
Posthumous Exhibition of Kishida Ryusei
- 132 ポーランドのポスター
同時開催 現代写真の10人
Posters of Poland
Ten Artists of Contemporary Japanese Photography
- 133 ミロ展
Joan Miró Exhibition: Japan, 1966
- 134 現代アメリカ絵画展
Two Decades of American Painting
- 135 第5回東京国際版画ビエンナーレ展
The 5th International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo
- 136 第10回安井賞候補新人展
特別陳列 安井賞の作家たち 受賞作品とその後
The 10th Yasui Award Exhibition
Yasui Award Artists: Their Awards and Later Works

137 所蔵作品による近代日本の美術：大正から昭和前期の絵画
同時開催 第9回サンパウロ・ビエンナーレ展：出品作品国内展示
Modern Japanese Paintings: From The Museum Collection—Paintings from
Taisho to Early Showa Eras
Preview Exhibition of the 9th São Paulo Biennial Exhibits from Japan

昭和42年度[1967]

- 138 グラフィック アート USA
Graphic Arts USA
- 139 近代日本の版画
Modern Japanese Prints
- 140 第2回日本芸術祭：国内展示
The 2nd Preliminary Show of Japan Art Festival
- 141 近代日本の水彩と素描
Modern Japanese Water Colors and Drawings
- 142 現代イタリア美術展
Exhibition of Contemporary Italian Art
- 143 ソ連絵画50年展
50 Years of Painting U.S.S.R.
- 144 第11回安井賞候補新人展
特別陳列 安井曾太郎の遺作
The 11th Yasui Award Exhibition
Special Show Sotaro Yasui
- 145 近代日本の油絵：大正・昭和(戦前)を中心として 昭和(戦後)を中
心として
同時開催 第34回ベニス・ビエンナーレ展：出品作品国内展示
Modern Japanese Oil Paintings: Mainly from Taisho and Showa (Prewar) Eras /
Mainly from the Postwar Showa Era
Preview Exhibition of the 34th Venice Biennial Exhibits from Japan

昭和43年度[1968]

- 146 現代陶芸の新世代
New Generation of Ceramic Art in Japan
- 147 第3回日本芸術祭：国内展示
The 3rd Preliminary Show of Japan Art Festival
- 148 ダダ展：世界のダダ運動の記録
同時陳列 日本におけるダダイスムからシュルレアリスムへ
Dada
Dadaism to Surrealism in Japan
- 149 韓国現代絵画展
Contemporary Korean Painting
- 150 東西美術交流展
Mutual Influences between Japanese and Western Arts
- 151 第6回東京国際版画ビエンナーレ展
The 6th International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo

昭和44年度[1969]

- 152 現代世界美術展：東と西の対話
Contemporary Art: Dialogue between the East and the West

- 153 ヘンリー・ムーア展
Henry Moore Exhibition in Japan, 1969
- 154 現代ドイツ建築展
Bauen in Deutschland
- 155 第4回ジャパン・アート・フェスティバル(日本芸術祭)：国内展示
The 4th Preliminary Show of Japan Art Festival
- 156 フランス現代タピスリー展
Tapisserie Française d'Aujourd'hui
- 157 ピカソ近作版画展
Picasso's Recent Works in Prints

昭和**45**年度[1970]

- 158 富本憲吉遺作展
Posthumous Exhibition of Kenkichi Tomimoto
- 159 ベン・シャーン展
Ben Shahn
- 160 第5回ジャパン・アート・フェスティバル(日本芸術祭)：国内展示
The 5th Preliminary Show of Japan Art Festival
- 161 1970年8月：現代美術の一断面
August 1970: Aspects of New Japanese Art
- 162 現代イギリス美術展
Contemporary British Art
- 163 現代インド絵画展
Contemporary Indian Painting
- 164 第7回東京国際版画ビエンナーレ展
The 7th International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo
- 165 バウハウス50年展
Bauhaus 50 Years

昭和**46**年度[1971]

- 166 近代日本美術における1930年
Around 1930 in Modern Japanese Art
- 167 ルネ・マグリット展
Rétrospective René Magritte
- 168 第6回ジャパン・アート・フェスティバル：国内展示
The 6th Preliminary Show of Japan Art Festival
- 169 新収蔵作品の展示：日本画 版画 工芸 書
New Pieces of The Museum Collection: Japanese-style Painting, Prints, Crafts, Calligraphy
- 170 近代作家の回顧 山口薫
Posthumous Exhibition of Yamaguchi Kaoru
- 171 現代ドイツ美術展
Zeitgenössische Deutsche Kunst
- 172 現代の陶芸：アメリカ・カナダ・メキシコと日本
Contemporary Ceramic Art: Canada, U.S.A., Mexico and Japan

- 173 戦後日本美術の展開：具象表現の変貌
Development of Postwar Japanese Art: Figurative Art
- 174 新収蔵作品の展示：洋画・彫刻
New Pieces of The Museum Collection: Western-style Painting, Sculpture

昭和**47**年度[1972]

- 175 現代スウェーデン美術展
Swedish Art 1972: A Contemporary Theme
- 176 近代イタリア美術の巨匠たち：ジャンニ・マッティオーリ・コレクションより
Masters of Modern Italian Art: From the Collection of Gianni Mattioli
- 177 昭和46年度新収蔵作品の展示
同時陳列 本館所蔵の素描
New Pieces of The Museum Collection 1971
Drawings from The Museum Collection
- 178 現代の眼：近代日本の美術から 開館20年記念
Today's Focus: On Modern Japanese Art
- 179 第8回東京国際版画ビエンナーレ展
The 8th International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo
- 180 ヨーロッパの日本作家
Japanese Artists in Europe
- 181 平櫛田中展
The Retrospective Exhibition of Denchu Hirakushi

昭和**48**年度[1973]

- 182 現代ユーゴスラヴィア美術展
Contemporary Yugoslav Art
- 183 戦後日本美術の展開：抽象表現の多様化
Development of Postwar Japanese Art: Abstract and Non-figurative
- 184 新収蔵作品の展示
同時陳列 東京国立博物館より移管の日本画
New Acquisitions
Japanese Paintings Transferred from The Tokyo National Museum
- 185 近代日本美術史におけるパリと日本
Modern Japanese Art and Paris
- 186 ジャコモ・マンズー展
Exhibition of Giacomo Manzu
- 187 アメリカの日本作家
Japanese Artist in the Americas
- 188 近代作家の回顧：新海竹蔵 福田豊四郎
Modern Japanese Artists in Retrospect: Takezo Shinkai / Toyoshiro Fukuda

昭和**49**年度[1974]

- 189 アンドリュー・ワイエス展
Works of Andrew Wyeth
- 190 徳岡神泉遺作展
Posthumous Exhibition of Shinsen Tokuoka

- 191 15人の写真家
Fifteen Photographers Today
- 192 現代メキシコ美術展
Contemporary Mexican Art
- 193 第9回東京国際版画ビエンナーレ展
The 9th International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo
- 194 近代日本の美術
Modern Japanese Art
- 195 福田平八郎遺作展
Posthumous Exhibition of Heihachiro Fukuda

昭和**50**年度[1975]

- 196 ポール・デルボー展
Paul Delvaux
- 197 前田青邨展
The Retrospective Exhibition of Seison Maeda
- 198 香月泰男遺作展
Posthumous Exhibition of Yasuo Kazuki
- 199 昭和48・49年度新収蔵作品の展示
同時陳列 ソ連寄贈：福田平八郎作品展
New Pieces of The Museum Collection 1973-1974
Exhibition of the Works by Heihachiro Fukuda: Donation from the Union of Soviet Socialist Republics
- 200 シュルレアリスム展
Surrealism
- 201 フランス工芸の美：15世紀から18世紀のタピスリー
Merveilles de la Tapisserie Française
- 202 ドイツ・リアリズム 1919-1933：ドイツ民主共和国所蔵 絵画・彫刻・版画
Realistische Tendenzen—Deutscher Kunst 1919-1933: Eine Ausstellung aus Museen der DDR

昭和**51**年度[1976]

- 203 ルフィーノ・タマヨ展
Exhibition Rufino Tamayo
- 204 安田鞞彦展
The Retrospective Exhibition of Yukihiko Yasuda
- 205 恩地孝四郎と「月映」
Koshiro Onchi and 'Tsukuhae'
- 206 シャガール展
Exposition Marc Chagall: Japon 1976
- 207 キュービズム展
Cubism
- 208 第10回東京国際版画ビエンナーレ展
The 10th International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo

- 209 今日の造形「織」：ヨーロッパと日本
Fiber Works: Europe and Japan
- 210 昭和50年度新収蔵作品の展示：購入 受贈作品
New Pieces of The Museum Collection: Purchases and Gifts 1975

昭和52年度[1977]

- 211 浜田庄司展
The Retrospective Exhibition of Shoji Hamada
- 212 素朴な画家たち
Exposition Peintres Naïfs
- 213 新収蔵作品の展示：昭和51年度収蔵作品 昭和50年度文化庁管理換
作品
New Pieces of The Museum Collection: New Acquisitions 1976, Works
Transferred from The Agency for Cultural Affairs 1975
- 214 フォンタネージ、ラゲーザと明治前期の美術
Fontanesi, Ragusa e l'Arte Giapponese nel Primo Periodo Meiji
- 215 **工1** 現代日本工芸の秀作：東京国立近代美術館工芸館 開館記念展
Masterpieces of Contemporary Japanese Crafts: Commemorative Exhibition for
Opening of The Crafts Gallery
- 216 今日の造形「織」：アメリカと日本
Fiber Works: Americas and Japan
- 217 フリードリッヒとその周辺
Friedrich und Sein Kreis

昭和53年度[1978]

- 218 マリノ・マリーニ展
Exhibition Marino Marini
- 219 斎藤義重展
Saito Yoshishige Exhibition 1978
- 220 **工2** 松田権六展
Gonroku Matsuda Exhibition
- 221 没後50年記念 佐伯祐三展
Yuzo Saeki Exhibition: 50th Year Posthumous Exhibition
- 222 スカンディナヴィアの工芸：世界現代工芸展
World Contemporary Crafts Exhibition: Scandinavian Crafts
- 223 ヨーロッパのポスター：その源流から現代まで
L'Affiche: En Occident de Ses Origines à Nos Jours
- 224 **工3** 近代日本の色絵磁器
Enamelled Porcelain of Modern Japan
- 225 新収蔵美術作品の展示：昭和52年度収蔵美術作品 絵画 素描
版画 彫刻
New Pieces of The Museum Collection: New Acquisition 1977 Paintings,
Drawings, Prints and Sculpture

昭和54年度[1979]

- 226 没後50年記念 岸田劉生展
Ryusei Kishida: 50th Year Posthumous Exhibition

- 227 第11回東京国際版画ビエンナーレ展
The 11th International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo
- 228 **工4** 昭和52, 53年度収蔵工芸作品の展示：
陶磁 漆工 竹工 金工 ガラス 染織 その他
The Permanent Exhibition "Modern Japanese Crafts"
- 229 **工5** 近代日本の漆芸
Lacquer Art of Modern Japan
- 230 ドローネー展：ロベールとソニア
Robert / Sonia Delaunay
- 231 ブリジット・ライリー展：1959年から1978年までの作品
Bridget Riley: Works 1959-78

昭和**55**年度[1980]

- 232 新収蔵美術作品の展示：昭和53, 54年度収蔵美術作品
絵画 水彩 素描 版画 彫刻 陶磁 染織 漆工
New Pieces of The Museum Collection: New Acquisition 1978 & 1979—
Paintings, Water-colors, Drawings, Prints, Sculpture, Ceramics, Dyeing, and
Lacquer Ware
- 233 山口長男 堀内正和展
Exhibition Yamaguchi Takeo & Horiuti Masakazu
- 234 **工6** 日本の型染：伝統と現代
Katazome / Japanese Stencil and Print Dyeing: Tradition and Today
- 235 ポンピドゥ・センター：20世紀の美術
Le Musée National d'Art Moderne Centre Georges Pompidou: L'Art du 20^e Siècle
- 236 **工7** 現代ガラスの美：ヨーロッパと日本
Contemporary Glass: Europe & Japan

昭和**56**年度[1981]

- 237 マチス展
Matisse Exhibition
- 238 **工8** 石黒宗麿展：陶芸の心とわざ
The Creative Spirit of His Ceramic Art: Ishiguro Munemaro Exhibition
- 239 **工9** 八木一夫展
The Ceramic Artist Kazuo Yagi
- 240 20世紀カナダ絵画展
Twentieth Century Canadian Painting
- 241 東山魁夷展
Higashiyama Kaii 1981
- 242 ムンク展
Munch Exhibition
- 243 **工10** 現代ガラスの美：オーストラリア、カナダ、アメリカと日本
Contemporary Glass: Australia, Canada, U.S.A. & Japan
- 244 1960年代：現代美術の転換期
The 1960's: A Decade of Change in Contemporary Japanese Art
- 245 **工11** 現代の食器：注ぐ
Contemporary Vessels: How to Pour

昭和57年度[1982]

- 246 坂本繁二郎展
Hanjirō Sakamoto Exhibition
- 247 近代日本の美術：1945年以後 所蔵作品による全館陳列
開館30周年記念展 1
The 30th Anniversary Exhibition from The Museum Collection: Modern Japanese Art, Part 1 [1945-]
- 248 **E12** 近代日本の工芸：所蔵作品による開館30周年記念展
陶磁 ガラス 漆工 木竹工 金工 染織
Modern Japanese Crafts: The 30th Anniversary Exhibition from The Museum Collection: Ceramics, Glass Ware, Lacquer Ware, Wood and Bamboo Work, Metal Work, and Textiles
- 249 アメリカに学んだ日本の画家たち：国吉・清水・石垣・野田とアメリカン・シーン絵画
Japanese Artists Who Studied in U.S.A. and the American Scene
- 250 近代日本の美術：1945年以前 所蔵作品による全館陳列
開館30周年記念展 2
The 30th Anniversary Exhibition from The Museum Collection: Modern Japanese Art, Part 2 [1900-1945]
- 251 **E13** 近代日本のガラス工芸：明治初期から現代まで
Modern Japanese Glass: Early Meiji to Present
- 252 ベルギー象徴派展
Symbolisme en Belgique
- 253 **E14** イギリスのニードルワーク
British Needlework
- 254 **E15** 黒田辰秋展：木工芸の匠
Kuroda Tatsuaki: Master Wood Craftsman

昭和58年度[1983]

- 255 ピカソ展：その芸術の軌跡
Picasso: Masterpieces from Marina Picasso Collection and from Museums in U.S.A. and U.S.S.R.
- 256 フランシス・ベーコン
Francis Bacon: Paintings 1945-1982
- 257 **E16** 伝統工芸30年の歩み
30 Years of Modern Japanese Traditional Crafts
- 258 現代美術における写真：1970年代の美術を中心として
Photography in Contemporary Art
- 259 **E17** モダニズムの工芸家たち：金工を中心にして
Modernism and Craftsmen: The 1920's to the 1930's
- 260 20世紀アメリカのポスター：ニューヨーク近代美術館所蔵品による
The Modern American Poster: From the Graphic Design Collection of The Museum of Modern Art, New York
- 261 村上華岳展
Kagaku Murakami Exhibition

昭和59年度[1984]

- 262 近代絵画の展開：ティッセン・コレクション名作展
Modern Masters from the Thyssen-Bornemisza Collection

- 263 三次元性：ドイツ彫刻の現在
Dreidimensional: Aktuelle Kunst aus der Bundesrepublik Deutschland
- 264 **工18** 河井寛次郎展：近代陶芸の巨星
Kawai Kanjiro: Master of Modern Japanese Ceramics
- 265 構成主義と幾何学的抽象
Constructivism and the Geometric Tradition
- 266 **工19** 今日のジュエリー：世界の動向
Contemporary Jewellery: The Americas, Australia, Europe and Japan
- 267 メタファーとシンボル：現代美術への視点
Metaphor and/or Symbol: A perspective on Contemporary Art
- 268 新収蔵品展：昭和58・59年度
New Acquisition 1983 and 1984
- 269 **工20** 竹の工芸：近代における展開
Modern Bamboo Craft
- 270 棟方志功展
Shiko Munakata

昭和**60**年度[1985]

- 271 **工21** 現代染織の美：森口華弘 宗廣力三 志村ふくみ
Kimono as Art: Modern Textile Works by Kako Moriguchi, Rikizo Munehiro, and Fukumi Shimura
- 272 モディリアーニ展
Modigliani
- 273 洋風表現の導入 江戸中期から明治初期まで：写実の系譜 1
Development of Western Realism in Japan [: Realistic Representation I]
- 274 現代デザインの展望：ポストモダンの地平から
Contemporary Landscape from the Horizon of Postmodern Design
- 275 19世紀ドイツ絵画名作展：プロイセン文化財団ベルリン国立美術館所蔵
Meisterwerke Deutscher Malerei des 19. Jahrhunderts aus der Nationalgalerie Berlin-Staatliche Museen Stiftung Preußischer Kulturbesitz
- 276 **工22** 人形工芸：昭和期を中心にして
Modern Japanese Dolls

昭和**61**年度[1986]

- 277 松本竣介展
Shunsuke Matsumoto Exhibition 1986
- 278 近代日本の美術：所蔵作品による全館陳列
Modern Japanese Art from The Museum Collection
- 279 近代の見なおし：ポストモダンの建築1960-1986
Revision der Moderne: Postmoderne Architektur 1960-1986
- 280 大正期の細密描写：写実の系譜 2
An Eye for Minute Details: Realistic Painting in the Taisho Period [: Realistic Representation II]
- 281 京都の日本画1910-1930：大正のころ・革新と創造
Nihonga, the Kyoto School 1910-1930

- 282 **工23** 1960年代の工芸：昂揚する新しい造形
Forms in Aggression: Formative Uprising of the 1960s
- 283 昭和60・61年度：新収蔵作品展
New Pieces of The Museum Collection: New Acquisitions 1985 & 1986
- 284 ゴーギャン展
Paul Gauguin: In Search of Paradise

昭和**62**年度[1987]

- 285 カンディンスキー展
Kandinsky
- 286 **工24** 木工芸：明治から現代まで
Modern Woodcraft
- 287 杉山寧展
Yasushi Sugiyama Exhibition
- 288 **工25** 加守田章二展：現代陶芸の美
Kamoda Shoji: A Prominent Figure in Contemporary Ceramics
- 289 若林奮展：今日の作家
Isamu Wakabayashi
- 290 難波田龍起展：今日の作家
Tatsuoki Nambata
- 291 ヨーロッパのレース：ブリュッセル王立美術歴史博物館所蔵
Dentelles Européennes
- 292 梅原龍三郎遺作展
Ryuzaburo Umehara Retrospective

昭和**63**年度[1988]

- 293 ルネ・マグリット展
René Magritte
- 294 近代美術にみる人間像：所蔵作品による全館陳列
The Image of Man in Modern Japanese Art from The Museum Collection
- 295 **工26** 図案の変貌：1868-1945
Design in Transition
- 296 明治中期の洋画：写実の系譜 3
Painting in Japan 1884-1907: Realistic Representation III
- 297 **工27** 現代イギリスの工芸
Contemporary British Crafts
- 298 オディロン・ルドン展
Odilon Redon

平成**元**年度[1989]

- 299 高山辰雄展
Tatsuo Takayama
- 300 昭和の美術：所蔵作品による全館陳列
Art of the Showa Period: From The Museum Collection
- 301 **工28** 生命のかたち：熊倉順吉の陶芸
Organs That Provoke: Ceramic Works of Junkichi Kumakura

	302	色彩とモノクローム：現代美術への視点 2 Color and/or Monochrome: A Perspective on Contemporary Art 2
	303	E29 能弁なオブジェ：現代アメリカ工芸の展開 The Eloquent Object: The Evolution of American Art in Craft Media since 1945
平成2年度[1990]	304	E30 ヴァン・ド・ヴェルド展 Van de Velde
	305	文展の名作[1907-1918] Masterpieces from the Bunten Exhibition 1907-1918
	306	手塚治虫展 Osamu Tezuka Exhibition
	307	写真の過去と現在 The Past and the Present of Photography
	308	E31 グラフィックデザインの今日 Graphic Design Today
	309	移行するイメージ：1980年代の映像表現 Images in Transition: Photographic Representation in the Eighties
平成3年度[1991]	310	E32 富本憲吉展 Tomimoto Kenkichi
	311	荒川修作の実験展：見る者がつくられる場 Constructing the Perceiver—Arakawa: Experimental Works
	312	E33 アフリカの染織：大英博物館所蔵品による African Textiles
	313	古賀春江：創作のプロセス 東京国立近代美術館所蔵作品を中心に Harue Koga: The Creative Process—A Show Built around The Museum Collection
	314	イサム・ノグチ展 Isamu Noguchi Retrospective 1992
平成4年度[1992]	315	ルネ・ラリック展 René Lalique
	316	形象のはざまに：現代美術への視点 3 Among the Figures: A Perspective on Contemporary Art 3
	317	アボリジニの美術：伝承と創造 オーストラリア大地の夢 Crossroads—Toward A New Reality: Aboriginal Art from Australia
	318	セバスチャン・サルガド：人間の大地 Sebastião Salgado: In Human Effort
	319	E34 塗りの系譜 Nuances in Laquer: 70 Years of Innovations
	320	フォーヴィスムと日本近代洋画 Fauvism and Modern Japanese Painting

平成5年度 [1993]

- 321 小川芋銭展
Ogawa Usen Retrospective
- 322 柳原義達展
Yoshitatsu Yanaguihara: A Retrospective
- 323 **工35** 山陰の陶窯 出西窯：現代の陶芸
Shussai-Kiln, Folk Craft in San'in Area: Contemporary Japanese Ceramic
- 324 国画創作協会回顧展
Kokuga-Sosaku-Kyokai Retrospective
- 325 黒田アキ：廻廊＝メタモルフォーゼ
Aki Kuroda: Corridor = Metamorphosis
- 326 **工36** 現代の型染：くりかえすパターン
Contemporary Stencil Dyeing and Printing: The Repetition of Patterns
- 327 山本丘人展
Yamamoto Kyujin Retrospective

平成6年度 [1994]

- 328 木村忠太展
Chuta Kimura
- 329 **工37** イスラエルの工芸：アリックス・ド・ロスチャイルド財団のコレクションを中心にして
Israeli Contemporary Crafts: Featuring the Collection of the Alix de Rothschild Foundation
- 330 「絵画」の成熟 1930年代の日本画と洋画：写実の系譜 4
Master Paintings in Japan in the 1930s: Realistic Representation IV
- 331 **工38** 素材の領分
The Domain of the Medium: New Approaches to the Medium in Art, Craft, Design
- 332 日本の美：伝統と近代
The Traditional Beauty in Japanese Art
- 333 **工39** 現代の彫漆
Choshitsu (Carved Lacquer) Today
- 334 若林奮展：素描という出来事
Isamu Wakabayashi: Works on Paper
- 335 抽象表現主義 紙の上の冒険：メトロポリタン美術館所蔵
同時開催 アメリカ抽象表現主義の名作展：国内所蔵
Abstract Expressionism: Works on Paper—Selections from The Metropolitan Museum of Art
Abstract Expressionism: Masterpieces from Japanese Collections
- 336 **工40** 板谷波山展：珠玉の陶芸
Itaya Hazan Retrospective

平成7年度 [1995]

- 337 東京国立近代美術館と写真 1953-1995
Photography and The National Museum of Modern Art, Tokyo 1953-1995
- 338 **工41** コンテンポラリー・ジュエリー：日本の作家30人による
Contemporary Jewellery: Exploration by Thirty Japanese Artists

- 339 **工42** アール・デコのポスター
Art Deco Posters
- 340 辰野登恵子：1986-1995
Toeko Tatsuno 1986-1995
- 341 **工43** 生活のなかの工芸：1950-1960年代のモダン・クラフト
Crafts in Everyday Life in the 1950s and 1960s
- 342 絵画、唯一なるもの：現代美術への視点 4
Painting—Singular Object: A Perspective on Contemporary Art 4
- 343 ドナウの夢と追憶：ハンガリーの建築と応用美術
Panorama: Architecture and Applied Arts in Hungary 1896-1916
- 344 **工44** 現代世界のポスター：東京国立近代美術館所蔵品より
Contemporary Posters from Museum's Collection
- 345 石元泰博展：現在の記憶
Yasuhiro Ishimoto: Remembrance of Things Present
- 346 身体と表現1920-1980：ポンピドゥーセンター所蔵作品から
La Dimension du Corps 1920-1980

平成8年度[1996]

- 347 岸田劉生 作品と資料
同時開催 新収蔵作品展：日本画 油彩その他 水彩 素描 版画
彫刻 写真
Kishida Ryusei: Works and Archives from The Museum Collection
New Acquisitions: Japanese-style Paintings, Oil and Other Paintings, Watercolors,
Drawings, Prints, Sculptures, Photographs
- 348 交差するまなざし：ヨーロッパと近代日本の美術
東京国立近代美術館、国立西洋美術館所蔵作品による
The Crossing Visions: European and Modern Japanese Art: From The Collection
of The National Museum of Western Art & The National Museum of Modern
Art, Tokyo
- 349 **工45** 亀倉雄策のポスター：時代から時代へ 1953年-1996年の軌跡
Yusaku Kamekura Poster Exhibition
- 350 **工46** 磁器の表現：1990年代の展開
New Expression in Porcelain: Development in the 1990s
- 351 90年代の韓国美術から：等身大の物語
An Aspect of Korean Art in the 1990s
- 352 東松照明写真展：インターフェイス
Shomei Tomatsu: Interface
- 353 プロジェクト・フォー・サバイバル：1970年以降の現代美術再訪
プロジェクトティブ[意志的・投企的]な実践の再発見に向けて
Project for Survival
- 354 北脇昇展
Noboru Kitawaki: A Retrospective
- 355 **工47** 藤井達吉展：近代工芸の先駆者
Tatsukichi Fujii: A Pioneer in Modern Crafts
- 356 モダニズムの光跡：恩地孝四郎 椎原治 瑛九
Traces of Light in Modernism: Koshiro Onchi, Osamu Shiihara and Ei-kyu

平成9年度[1997]

- 357 萬鐵五郎展：絵画の大地を揺り動かした画家
Yorozu Tetsugoro Retrospective
- 358 モダンデザインの父 ウィリアム・モリス
William Morris
- 359 **工48** 福田繁雄のポスター：視覚の遊気
Posters of Fukuda Shigeo: An Artist of Visual Wit
- 360 アルフレッド・スティーグリッツと野島康三
Alfred Stieglitz and Yasuzo Nojima
- 361 土田麦僊展
Bakusen Tsuchida: A Retrospective
- 362 **工49** 増村益城展：漆の美・塗の造形
Masumura Mashiki: Intrinsic and Formal Beauty of Lacquer
- 363 村岡三郎展：熱の彫刻 物質と生命の根源を求めて
Saburo Muraoka: Salt, Heat, Oxygen
- 364 **工50** トーネ・ヴィーゲラン：ノルウェーの現代アートジュエリー
Tone Vigeland: Norwegian Art Jewelry
- 365 鉄斎とその師友たち：文人画の近代
Destination of Literary School Painting in Modern Ages: Tessai, His Teachers and Friends
- 366 距離の不在：写真の現在
The Absence of Distance: Photography Today
- 367 加山又造展
Matazo Kayama Exhibition

平成10年度[1998]

- 368 **工51** 竹内碧外展：木工芸・わざと風雅
Elegance of Woodwork: Art of Takeuchi Hekigai
- 369 所蔵作品による20世紀の“線描”：「生成」と「差異」
Making It Visible: Graphic Elements in 20th Century Art
- 370 **工52** 永井一正ポスター展[Life]
Posters of Kazumasa Nagai [Life]
- 371 土谷武展
Takeshi Tsuchitani: A Retrospective
- 372 **工53** 「かたち」の領分：機能美とその転生
The Domain of the Form: Functional Beauty and Its Transmigration
- 373 京都の工芸1910-1940：伝統と変革のはざまに
Crafts Reforming in Kyoto 1910-1940: A Struggle between Tradition and Renovation
- 374 大辻清司写真実験室
Kiyoji Ohtsuji Retrospective: Experimental Workshop of Photography
- 375 **工54** 鈴木治の陶芸：詩情のオブジェ
Ceramic Art of Suzuki Osamu: Poetry in Ceramic Works
- 376 鏑木清方展
Kaburaki Kiyokata: A Retrospective

平成11年度[1999]

- 377 **Ⅰ55** 本野東一の染色：自由への旗印
Motono Toichi: A Retrospective
- 378 横山操展
Misao Yokoyama: A Retrospective
- 379 **Ⅰ56** 田中一光ポスター展：伝統への接点
Beyond Tradition: An Exhibition of Ikko Tanaka's Posters
- 380 **Ⅰ57** 加藤土師萌展：近代陶芸の精華
Kato Hajime: The Quintessence of Modern Japanese Ceramic Art
- 381 石内都：モノクローム—時の器
Miyako Ishiuchi: Time Textured in Monochrome
- 382 顔：絵画を突き動かすもの
Visage: Painting and Human Face in 20th-century Art

平成12年度[2000]

- 383 **Ⅰ58** 杉浦非水展：都市生活のデザイナー
Hisui Sugiura: A Retrospective
- 384 **Ⅰ59** うつわをみる：暮らしに息づく工芸
"Utsuwa": Thoughts on Contemporary Vessels
- 385 トーマス・シュトゥルット：マイ・ポートレイト
Thomas Struth: My Portrait
- 386 **Ⅰ60** ドイツ陶芸の100年：アール・ヌーヴォーから現代作家まで
Deutsche Keramik 1900-2000: Geschichte und Positionen des Jahrhunderts
- 387 美術館を読み解く：表慶館と現代の美術
Reading the Art Museum: Hyokeikan and Art of Today

平成13年度[2001]

- 388 **Ⅰ61** 1930年代日本の印刷デザイン：大衆社会における伝達
Japanese Posters and Handbills in the 1930s: Communication in Mass Society
- 389 **Ⅰ62** 現代の布：染と織の造形思考
Contemporary Textiles: Weaving and Dyeing: Ways of Formative Thinking
- 390 **Ⅰ63** 京都の工芸1945-2000
Crafts in Kyoto 1945-2000
- 391 未完の世紀：20世紀美術がのこすもの
The Unfinished Century: Legacies of 20th Century Art
- 392 カンディンスキー展
Kandinsky

平成14年度[2002]

- 393 サイト一場所と光景：写真の現在 2
[sáit] Site / Sight: Photography Today 2
- 394 **Ⅰ64** 森正洋：陶磁器デザインの革新
Masahiro Mori: A Reformer of Ceramic Design
- 395 小倉遊亀展
Yuki Ogura: A Retrospective
- 396 **Ⅰ65** 昭和の桃山復興：陶芸近代化の転換点
Modern Revival of Momoyama Ceramics: Turning Point toward Modernization of Ceramics

- 397 連続と侵犯：現代美術への視点 5
Continuity / Transgression: A Perspective on Contemporary Art 5
- 398 ヴォルフガング・ライブ展
Wolfgang Laib
- 399 **工66** [クッションから都市計画まで]ヘルマン・ムテジウスとドイツ工作連盟：ドイツ近代デザインの諸相
Hermann Muthesius und der Deutsche Werkbund: Modern Design in Deutschland, 1900-1927—Vom Sofakissen zum Städtebau
- 400 青木繁と近代日本のロマンティズム
Shigeru Aoki and Romanticism in Modern Japanese Art
- 401 **工67** 今日の人形芸術：想念の造形
Contemporary Dolls: Formative Art of Human Sentiment

平成 15 年度 [2003]

- 402 牛腸茂雄展
Shigeo Gocho: A Retrospective
- 403 **工68** オーストラリア現代工芸3人展：未知のかたちを求めて
Light Black: Three Contemporary Australian Craftspersons
- 404 地平線の夢：昭和10年代の幻想絵画
Dreams of the Horizon: Fantastic Paintings in Japan 1935-1945
- 405 **工69** 三代宮田藍堂展
Miyata Rando III: A Retrospective
- 406 野見山暁治展
Gyoji Nomiyama: A Retrospective
- 407 **工70** 現代の木工家具：スローライフの空間とデザイン
Contemporary Furniture and Woodworks in Japan
- 408 旅：「ここではないどこか」を生きるための10のレッスン
Traveling: Towards the Border
- 409 **工71** あかり：イサム・ノグチが作った光の彫刻
Akari: Light Sculpture by Isamu Noguchi
- 410 ヨハネス・イッテン：造形芸術への道
Johannes Itten: Wege zur Kunst
- 411 国吉康雄展：アメリカと日本、ふたつの世界のあいだで
Yasuo Kuniyoshi

平成 16 年度 [2004]

- 412 ブラジル：ボディ・ノスタルジア
Brazil: Body Nostalgia
- 413 琳派：Rimpa
Rimpa
- 414 **工72** 非情のオブジェ：現代工芸の11人
Cool & Light: New Spirit in Craft Making
- 415 木村伊兵衛展
Ihei Kimura: The Man with the Camera

- 416 草間彌生
Yayoi Kusama
- 417 **E73** 人間国宝の日常のうつわ：もう一つの富本憲吉
Daily Vessels by Kenkichi Tomimoto: The Master of Ceramic Art
- 418 痕跡：戦後美術における身体と思考
Traces: Body and Idea in Contemporary Art
- 419 **E74** 河野鷹思のグラフィックデザイン：都会とユーモア
Graphic Designs of Takashi Kono: Humor & City
- 420 ゴッホ展：孤高の画家の原風景 ファン・ゴッホ美術館
クレラー＝ミュラー 美術館所蔵
Van Gogh in Context: Collection from the Van Gogh Museum, Amsterdam and
the Kröller-Müller Museum, Otterlo

平成17年度[2005]

- 421 **E75** 伊砂利彦：型染の美
Isa Toshihiko: Beauty of Stencil Dyeing
- 422 小林古径展
Kokei Kobayashi, 1883-1957
- 423 アジアのキュビズム：境界なき対話
Cubism in Asia: Unbounded Dialogues
- 424 **E76** 日本のアール・ヌーヴォー 1900-1923：工芸とデザインの新時代
Art Nouveau in Japan, 1900-1923: The New Age of Crafts and Design
- 425 ドイツ写真の現在：かわりゆく「現実」と向かいあうために
Zwischen Wirklichkeit und Bild: Positionen Deutscher Fotografie der Gegenwart
- 426 アウグスト・ザンダー展
August Sander: Face of Our Time
- 427 須田国太郎展
Suda Kunitaro
- 428 **E77** 渡辺力：リビング・デザインの革新
Riki Watanabe: Innovating in Modern Living
- 429 生誕120年 藤田嗣治展：パリを魅了した異邦人
Léonard Foujita

平成18年度[2006]

- 430 生誕100年記念 吉原治良展
Jiro Yoshihara: A Centenary Retrospective
- 431 **E78** 人間国宝三輪壽雪の世界：萩焼の造形美
Jusetsu Miwa: A Retrospective
- 432 モダン・パラダイス：大原美術館＋東京国立近代美術館
東西名画の饗宴
Modern Paradise: Japanese and Western Masterpieces from Ohara Museum of Art
and The National Museum of Modern Art, Tokyo
- 433 **E79** ジュエリーの今：変貌のオブジェ
Transfiguration: Japanese Art Jewelry Today
- 434 臨界をめぐる6つの試論：写真の現在 3
Resolution / Dissolution: Photography Today 3

- 435 揺らぐ近代：日本画と洋画のはざまに
Modern Art in Wanderings: In between the Japanese- and Western-style Paintings
- 436 **工80** 人間国宝 松田権六の世界
Matsuda Gonroku: Master of Lacquer Art and Living National Treasure
- 437 都路華香展
Tsuji Kakō Exhibition
- 438 **工81** 柳宗理：生活のなかのデザイン
Sori Yanagi: Design in Everyday Life
- 439 **工82** 岡部嶺男展：青磁を極める
Mineo Okabe: A Retrospective
- 440 生誕100年 鬘光展
Ai-mitsu

平成19年度[2007]

- 441 アンリ・カルティエ＝ブレッソン：知られざる全貌
De Qui S'agit-il?: Retrospective de Henri Cartier-Bresson
- 442 アンリ・ミショー：ひとのかたち
Henri Michaux: Emerging Figures
- 443 平山郁夫：祈りの旅路
Ikkuo Hirayama: A Retrospective—Pilgrimage for Peace
- 444 **工83** 30年のあゆみ：開館30周年記念展 I
30 Years of The Crafts Gallery
- 445 日本彫刻の近代
Modern Age in Japanese Sculpture: From Its Beginnings through the 1960s
- 446 **工84** 工芸の力 21世紀の展望：開館30周年記念展 II
The Power of Crafts: Outlook for the 21st Century
- 447 わたしいまめまいしたわ：現代美術にみる自己と他者
Self / Other
- 448 生誕100年 東山魁夷展
Kaii Higashiyama: A Retrospective—Commemorating the 100th Anniversary of Artist's Birth

平成20年度[2008]

- 449 建築がうまれるとき：ペーター・メルクリと青木淳
Architectural Creation: Peter Märkli and Jun Aoki
- 450 **工85** カルロ・ザウリ展：イタリア現代陶芸の巨匠
Carlo Zauli: A Retrospective
- 451 エモーショナル・ドローイング：現代美術への視点 6
Emotional Drawing: A Perspective on Contemporary Art 6
- 452 **工86** かたちのエッセンス：平松保城のジュエリー
Yasuki Hiramatsu—Jewelry: The Essence of Form
- 453 **工87** 小松誠：デザイン＋ユーモア
Makoto Komatsu Exhibition: Design + Humour
- 454 沖縄・プリズム 1872-2008
Okinawa Prismed 1872-2008

- 455 高梨豊：光のフィールドノート
Yutaka Takanashi: Field Notes of Light
- 456 ヴィデオを待ちながら：映像，60年代から今日へ
Waiting for Video: Works from the 1960s to Today

平成21年度[2009]

- 457 ゴーギャン展
Paul Gauguin
- 458 **工88** 染野夫妻陶芸コレクション：リーチ 濱田 豊藏 壽雪
Bernard Leach, Hamada Shoji, Arakawa Toyozo and Miwa Jusetsu from Mr. and Mrs. Someno's Ceramics Collection
- 459 権鎮圭展
Kwon Jinkyu
- 460 河口龍夫展：言葉・時間・生命
Kawaguchi Tatsuo: Language, Time, Life
- 461 **工89** 装飾の力：現代工芸への視点
The Power of Decoration: A Viewpoint on Contemporary *Kôgei* (Studio Crafts)
- 462 ウィリアム・ケントリッジ 歩きながら歴史を考える：そしてドローイングは動き始めた...
William Kentridge — What We See & What We Know: Thinking about History while Walking, and Thus the Drawings Began to Move...
- 463 **工90** 早川良雄：“顔”と“形状”
Hayakawa Yoshio: “The Face” and “The Form”
- 464 生誕120年 小野竹喬展
Ono Chikkyo: 120 Years after His Birth

平成22年度[2010]

- 465 建築はどこにあるの？ 7つのインスタレーション
Where Is Architecture? Seven Installations by Japanese Architects
- 466 上村松園展
Uemura Shoen
- 467 **工91** 茶事をめぐって：現代工芸への視点
About the Tea Ceremony: A Viewpoint on Contemporary *Kôgei* (Studio Crafts) 2
- 468 鈴木清写真展：百の階梯、千の来歴
Suzuki Kiyoshi: Hundred Steps and Thousand Stories
- 469 麻生三郎展
Aso Saburo
- 470 「日本画」の前衛 1938-1949
The Avant-Garde of “Nihonga”
- 471 **工92** 柴木正敏のセラミック・デザイン：リズム&ウェーブ
Ceramic Design of Sakaegi Masatoshi: Rhythm and Waves
- 472 **工93** ガラス★高橋禎彦展
Takahashi Yoshihiko Goes to the Glass
- 473 生誕100年 岡本太郎展
Okamoto Taro: The 100th Anniversary of His Birth

- 474 ■E94 増田三男：清爽の彫金——そして、富本憲吉
Masuda Mitsuo's Bracing Metal Chasing: and Tomimoto Kenkichi
- 475 パウル・クレー—おわらないアトリエ
PAUL KLEE: Art in the Making 1883-1940
- 476 レオ・ルビンファイン 傷ついた街
Leo Rubinfien: Wounded Cities
- 477 イケムラレイコ うつりゆくもの
Leiko Ikemura: Transfiguration
- 478 ■E95 ゲッテリーノ・トラモンティ展：イタリア・ファエンツァ
が育んだ色の魔術師
Guerrino Tramonti, the Magician of Color, Raised in Faenza, Italy, Exhibition
- 479 ヴァレリオ・オルジャティ展
Valerio Olgiati
- 480 ぬぐ絵画—日本のヌード 1880-1945
Undressing Paintings: Japanese Nudes 1880-1945
- 481 ■E96 原弘と東京国立近代美術館 デザインワークを通して見え
てくるもの
Hara Hiromu and The National Museum of Modern Art, Tokyo: What One
Discovers Through Design Work
- 482 ■E97 「織」を極める：人間国宝 北村武資
Kitamura Takeshi: Master of Contemporary Weaving
- 483 生誕100年 ジャクソン・ポロック展
JACKSON POLLOCK: A Centennial Retrospective

- 484 ■E98 越境する日本人—工芸家が夢みたアジア 1910s-1945
Japanese Crossing Borders: Asia as Dreamed by Craftspeople, 1910s-1945
- 485 写真の現在 4 そのときの光、そのさきの風
Photography Today 4 : in their persistent endeavors to meet the world
- 486 吉川霊華展 近代にうまれた線の探究者
Kikkawa Reika: An Explorer for Lines in Modern Times
- 487 14の夕べ
14 evenings
- 488 夏の家
MOMAT Pavilion designed and built by Studio Mumbai
- 489 ■E99 現代の座標—工芸をめぐる11の思考—
New Footing: Eleven Approaches to Contemporary Crafts
- 490 東京国立近代美術館60周年記念特別展 美術にぶるっ！ ベストセ
レクション 日本近代美術の100年
Art will Thrill You! Best Selection — 100 Years of Modern Japanese Art: In
celebration of the 60th anniversary of The National Museum of Modern Art, Tokyo
- 491 ■E100 東京オリンピック1964 デザインプロジェクト
Design Project for the Tokyo 1964 Olympic Games
- 492 フランシス・ベーコン展
Francis Bacon

平成25年度[2013]

- 493 プレイバック・アーティスト・トーク
Playback Artist Talks
- 494 竹内栖鳳展 近代日本画の巨人
Takeuchi Seiho
- 495 **E101** クローズアップ工芸
Close Up Crafts
- 496 **E102** 現代のプロダクトデザイン—Made in Japanを生む
PRODUCT DESIGN TODAY: Creating "Made in Japan"
- 497 ジョセフ・クーデルカ展
Josef Koudelka Retrospective
- 498 **E103** 日本伝統工芸展60回記念 工芸からKŌGEIへ
From Crafts to Kōgei In Commemoration of the 60th Japan Traditional Art Crafts Exhibition
- 499 あなたの肖像—工藤哲巳回顧展
Your Portrait: A Tetsumi Kudo Retrospective

平成26年度[2014]

- 500 映画をめぐる美術—マルセル・ブロータースから始める
Reading Cinema, Finding Words: Art after Marcel Broodthaers
- 501 現代美術のハードコアはじつは世界の宝である展 ヤゲオ財団コレクションより
Guess What? Hardcore Contemporary Art's Truly a World Treasure: Selected Works from YAGEO Foundation Collection
- 502 **E104** 青磁のいま—受け継がれた技と美 南宋から現代まで
Celadon Now: Techniques and Beauty Handed Down from Southern Sung to Today
- 503 菱田春草展
Hishida Shunso: A Retrospective
- 504 奈良原一高 王国
Narahara Ikko: Domains
- 505 高松次郎ミステリーズ
Takamatsu Jiro: Mysteries
- 506 **E105** 中村ミナトのジュエリー：四角・球・線・面
NAKAMURA Minato's Jewelry: Square, Globe, Line, Plane
- 507 **E106** 大阪万博1970 デザインプロジェクト
Osaka Expo '70 Design Project

平成27年度[2015]

- 508 生誕110年 片岡球子展
Kataoka Tamako: The 110th Anniversary of Her Birth
- 509 No Museum, No Life?—これからの美術館事典 国立美術館コレクションによる展覧会
No Museum, No Life?—Art-Museum Encyclopedia to Come From the Collections of the National Museums of Art
- 510 Re: play 1972/2015—「映像表現 '72」展、再演
Re: play 1972/2015 - Restaging "Expression in Film '72"

- 511 **E107** 栗木達介展—現代陶芸の鬼才
Kuriki Tatsusuke
- 512 **E108** ようこそ日本へ：1920-30年代のツーリズムとデザイン
Visit Japan: Tourism Promotion in the 1920s and 1930s
- 513 恩地孝四郎展
Onchi Koshiro
- 514 **E109** 芹沢銈介のいろは—金子量重コレクション
「Text」 tiles by SERIZAWA KEISUKE, from the Kaneko Kazushige Collection
- 515 安田鞞彦展
Yasuda Yukihiko: A Restrospective

平成**28**年度 [2016]

- 516 声ノマ 全身詩人、吉増剛造展
The Voice Between : The Art and Poetry of Yoshimasu Gozo
- 517 トーマス・ルフ展
Thomas Ruff
- 518 **E110** 革新の工芸—“伝統と前衛”、そして現代—
Craft Arts: Innovation of “Tradition and Avant-Garde,” and the Present Day
- 519 瑛九1935-1937 闇の中で「リアル」をさがす
Ei-Q 1935-1937: Seeking the “Real” in the Dark
- 520 endless 山田正亮の絵画
endless: The Paintings of Yamada Masaaki
- 521 **E111** マルセル・ブロイヤールの家具：Improvement for good
Marcel Breuer's Furniture: Improvement for good
- 522 茶碗の中の宇宙 樂家一子相伝の芸術
The Cosmos in a Tea Bowl: Transmitting a Secret Art Across Generations of the Raku Family

平成**29**年度 [2017]

- 523 日本の家 1945年以降の建築と暮らし
The Japanese House : Architecture and Life after 1945
- 524 **E112** 工芸館開館40周年記念特別展 陶匠 辻清明の世界—明るる寂
びの美
The Crafts Gallery 40th Anniversary Exhibition Ceramic Artist TSUJI Seimei:
The Beauty of *Akaru Sabi*
- 525 没後40年 熊谷守一 生きるよろこび
Kumagai Morikazu: The Joy of Life

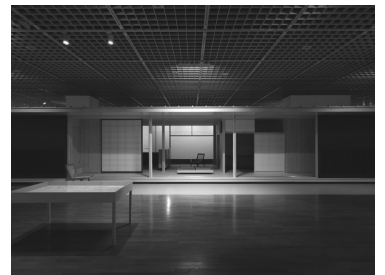
会期
平成29年7月19日～平成29年10月29日 (89日間)
会場
東京国立近代美術館本館 1階企画展ギャラリー、前庭
主催
東京国立近代美術館、国際交流基金
企画協力
MAXXI国立21世紀美術館、 パービカン・センター
協賛
積水化学工業株式会社
協力
トヨタホーム東京株式会社、 ミサワホーム株式会社、新建築社、 日本航空、川上産業株式会社
出品点数
424点
入場者数
81,175人(1日平均912人)
新聞・雑誌等における掲載記事
日本経済新聞 動画 7月21日 「戦後日本の住宅建築に迫る」(湯澤華織) 週刊文春 7月27日 「美しくも摩訶不思議——日本の家の『真骨頂』」(中岡愛子) T JAPAN 7月27日 「戦後日本の建築家が家に託したもの」(松本雅延) カーサ・ブルータス8月10日 「清家清の名作住宅がリアルに蘇りました!」(加藤純) NHK Eテレ日曜美術館 8月27日・9月3日 「小さな家たちの冒険」 毎日新聞 8月31日 「東工大が残した足跡」(五十嵐太郎) 婦人画報 9月1日 「『日本の家』の未来がここにある——平屋は自由だ!」(西端真矢) 朝日新聞 9月26日 「『日本の家』が見たい——時系列よりテーマ」(大西若人) 美術手帖 11月17日 「戸建て住宅の誕生と終焉」(鷺田めろろ) 朝日新聞 12月19日 「2017年美術 回顧／『私の3点』」(大西若人／北澤憲昭) 現代の眼 624号 「六甲の住居とクイーンズランダー 2.0」(島田陽) 現代の眼 624号 「インド・シャンティニケタンに同志を募って家を作りに行く」(佐藤研吾) 現代の眼 625号 「新しい星座の見方——『日本の家』展、展覧会評」(連勇太郎) 現代の眼 625号 「夏の美術館での過ごし方 『日本の家』展関連プログラムを振り返って」(荒井美月)

523 日本の家 1945年以降の建築と暮らし

小規模の個人の戸建て住宅に第一線で活躍する建築家が関わりそこでの経験が他の設計に生かされるのは、欧米には見られない日本の建築の特徴となっている。そこで本展では、建築家が設計した1945年以降の戸建て住宅を対象を絞り、時系列ではなく「系譜」と呼ぶテーマによって構成し、さらには、建築家ではなく住まい手の声や振る舞いをより重視することにした。56人(組)の建築家による77の家を、模型や写真、映像や図面を用いて展示するとともに、時代背景については画家や写真家、ファッションデザイナー等、のべ9人による他ジャンルの作品を通じて紹介した。あわせて「MOMATサマーフェス」とも連動し、2回のシンポジウム、ワークショップ「夏的小屋をつくらう」、ドロップイン(予約不要)型のワークショップ「プチプチ・ガーデン」、「けんちく体操」、「アーバン・キャンプ」など、家にちなんだ特色あるイベントを多数開催した。なお当館の연구원と塚本由晴氏(建築家、アトリエ・ワン、東京工業大学大学院教授)による企画立案となる本展は、当館での開催に先立ち、国際交流基金と現地美術館との共催によりロンドン、ローマを巡回し、計約155,000人の来館者を得た。

The Japanese House : Architecture and Life after 1945

Japanese architecture has been different from that of the West in that many leading architects have engaged themselves in the design of relatively small, private homes, and that experiences gained during such work have enhanced other types of design. Focusing on free-standing houses designed by leading architects after 1945, the exhibition highlighted the characteristics of the postwar "Japanese house" by adopting a thematic structure according to "genealogy" instead of chronological order, and by attaching importance to voices of the inhabitants rather than architects. In addition to illustrating seventy-seven homes designed by fifty-six architects with models, photographs, videos and plans, the show introduced the historical background with works by a total of nine artists in other genres including painters, photographers and fashion designers. In connection with the MOMAT Summer Festival, we held many distinctive events related to housing including two symposia, a workshop *Let's Build a Summer Cottage*, a drop-in workshop *Bubble-Wrap Garden*, *The Architectural Gymnastics and Urban Camping*. Planned by a curator at the MOMAT and Mr. Tsukamoto Yoshiharu, an architect at Atelier Bow-Wow and a professor at the Tokyo Institute of Technology graduate school, this exhibition was co-organized by the Japan Foundation and two overseas art museums, and traveled to London and Rome before Tokyo, attracting a total of 155,000 visitors.



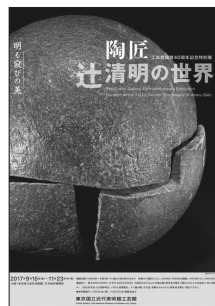
会期
平成29年9月15日～平成29年11月23日 (60日間)
会場
東京国立近代美術館工芸館
主催
東京国立近代美術館、日本経済新聞社
出品点数
211点
入場者数
12,195人(1日平均 203人)
新聞・雑誌等における掲載記事
新美術新聞 9月1日 「下半期展覧会カレンダー」(無記名)
ぶんかる 9月1日 「アートダイアリー」(唐澤昌宏)
東京新聞 9月14日 「ほっとなび」(無記名)
聖教新聞 9月16日 「毎日ビルディング広告」(無記名)
都政新報 9月22日 「アート・随筆・オピニオン」 「明る寂びの美」(無記名)
多摩川新聞 9月24日 「美術特集」(無記名)
陶説 2017年10月号 「陶匠 辻清明の世界—明る寂びの美」座談会 (岩瀬健一、唐澤昌宏、辻けい、山本幸子)
新美術新聞 10月1日 「展覧会」(無記名)
港区政新聞 10月1日 「工芸館で「陶匠辻清明の世界」展」(無記名)
陶業時報 10月5日 「陶匠 辻清明の世界」(無記名)
婦人公論 10月24日 「カルチャーセレクション」(無記名)
新潟日報 10月31日 「首都圏あらかると」(無記名)
アートコレクターズ 2017年11月号 「美術館」(無記名)
産経新聞 11月2日 「文化」 「大胆でおおらか、あふれる遊び心」(渋谷和彦)
日本経済新聞 11月2日 「「明る寂びの美」を極めた陶芸家の創作の軌跡」(無記名)
炎芸術 2017年秋号 「展覧会プレビュー」(無記名)
家庭画報 2017年12月号 「カルチャートピックス」(無記名)
現代の眼625号 「[On view] 「辻清明の蒐集品」(藤森武)
現代の眼625号 「[On view] 「辻清明の宇宙について」(森孝一)

524 (E112) 工芸館開館40周年記念特別展 陶匠 辻清明の世界—明る寂びの美

辻清明(1927-2008)は、1955年に東京・多摩に登窯を築いて以降、信楽の土を用いた無釉焼き締め陶を活動の中心とした陶芸家である。古美術の蒐集や芸術家との交流を通して感性を磨き、「明る寂び」と呼ばれる信楽特有の美の世界を構築した。工芸館開館40周年と、辻清明の没後10年を記念して開催する本展では、茶陶やオブジェなどの代表的な陶作品をはじめ、やきものの造形的な特徴を取り込んだガラス作品や、のびやかな筆致が辻の人となりを感じさせる書などの作品とともに、古信楽や古代ペルーの土器など、きびしい目で選び抜かれた愛蔵品、さらには洋画家の山口長男やアメリカの陶芸家ピーター・ヴォーコスら、芸術家が辻の陶房で制作した作品なども紹介し、辻清明という陶芸家の創作の軌跡を振り返った。

The Crafts Gallery 40th Anniversary Exhibition Ceramic Artist TSUJI Seimei: The Beauty of *Akaru Sabi*

Tsuji Seimei (1927–2008) was a ceramist who, after building his *noborigama* (climbing kiln) in Tama district of Tokyo in 1955, worked primarily on *yakishime* ware (high-fired, unglazed stoneware) using clay from Shigaraki town, Shiga Prefecture. With his sense polished through his collection of antiques and exchanges with artists, the potter built a unique world called *akaru sabi* (bright loneliness) peculiar to Shigaraki ware. In commemoration of the fortieth anniversary of the Crafts Gallery's inauguration and the tenth anniversary of the ceramist's death, this exhibition featured his important ceramics, glasswork showing formative characteristics of ceramics, and calligraphy demonstrating unhampered brush strokes that remind of Tsuji's personality. The show also presented works from his select collection such as classic Shigaraki ware and earthenware from ancient Peru, and works produced by Western-style painter Yamaguchi Takeo, American ceramic sculptor Peter Voulkos and other artists at Tsuji's studio to look back on the creative career of the ceramist.



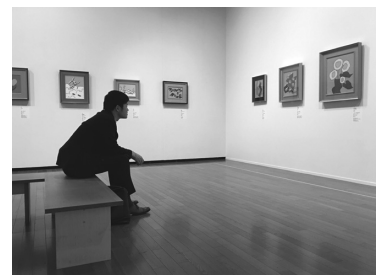
会期
平成29年12月1日～平成30年3月21日 (91日間)
会場
東京国立近代美術館本館 1階企画展ギャラリー
主催
東京国立近代美術館、日本経済新聞社、 テレビ東京
協賛
大日本印刷
出品点数
269点
入場者数
113,905人(1日平均1,252人)
新聞・雑誌等における掲載記事
芸術新潮 12月号 「我ら猫派のニャンダ フルライフ モリカズ氏の場合」(無署名) サライ 12月号 「ひたむきに生き、ひた すらに描く」(菅谷淳夫) ハルメク 12月号 「科学者のような眼で 描いたやわらかな生」(大塚千春) 月刊美術 12月号 「特別対談 代表作な ど200点超を集めた東京での大回顧展in東 京国立近代美術館」(池田良平、蔵屋美香) 朝日新聞 12月12日夕刊 「熊谷守一 シ ンプルへの旅路」(丸山ひかり) 週刊現代 12/30号 「それがどうした 熊 谷守一と栗の机が生まれた町」(伊集院静) 日経おとなのOFF 1月号 「ゆるかわ系代表? 熊谷守一の頭の中は超絶シャープ」(磯部道夫) 日本経済新聞 1月4日 「モリカズ様式 科学で確立 「没後40年 熊谷守一 生きるよろこび」(窪田直子) 産経新聞 1月11日 「科学的な目でとら えた自然 熊谷守一展」(渋谷和彦) 毎日新聞 1月17日夕刊 「目は語る 探 求と慟哭の日々経た画境」(高階秀爾) 読売新聞 1月22日夕刊 「ほんの散策「仙 人」画家の観察眼」(鶴飼哲夫) 週刊ポスト 1/26号 「大人の 修学旅行 檀蜜が触れた「熊谷守一の97年」(山下裕 二、檀蜜)※文：渡部美也 東京新聞 2月16日夕刊 「美術評 底なしに広がる「没 後40年 熊谷守一 生きるよろこび展」(古谷利裕) 日本経済新聞 2月20日夕刊 「プロムナード 体は勝手に連想する「熊谷守一 生きるよろこ び展」(山本貴光) 読売新聞 2月25日 「アート散歩 没後40年 熊谷守一 生きるよろこび 輝きの底に潜む 死と影」(星野知子)※聞き手：西條耕一 婦人之友 3月号 「対談 小さな絵に広がる宇 宙一画家・熊谷守一の世界」(熊谷樞、池田良平) SIGNATURE 3月号 「『また一人 素敵 な日本人に会えたわ』」(伊集院静) 読売新聞 3月3日 「時の余白に 純粹の 人と心ひろき人々と」(芥川喜好) 読売新聞 3月15日 「激情 鎮魂 愛らしさ 熊谷守一展 多面性に光」(岩城沢) 共同通信配信 「アート 追憶 熊谷守一展 赤い輪郭線と躍動感の秘密」(諏訪敦) ミセス 4月号 「画家 熊谷守一 その愛 される理由」(玉重佐知子、藤森武) 美術手帖 4月号 「転生する描線について「没 後40年 熊谷守一 生きるよろこび展」(塚田優) 現代の眼 626号 「熊谷守一の初期の支 援者たち」(石崎尚) 現代の眼 626号 「横たわる守一」(沢山遼) 現代の眼 627号 「クマガイモリカズ その光の眼」(ばくきよみ)

525 没後40年 熊谷守一 生きるよろこび

熊谷守一(1880-1977)は、明るい色彩とはっきりしたかたちを特徴とする作風で広く知られる。特に、花や虫、鳥など身近な生きものを描く晩年の作品は、世代を超えて多くの人に愛されている。その作品は一見何の苦もなく描かれたように思える。しかし70年以上に及ぶ制作活動をたどると、色彩学を研究したり、同じ図柄を何度も使うための手順を編み出したりと、実にさまざまな探究を行っていたことがわかってくる。本展は愛知県美術館、岐阜県美術館等による最新の研究成果を踏まえ、日本の美術家には稀有な熊谷の科学的かつ論理的な制作手法を約200点の作品とスケッチ、日記、遺品などによって明らかにし、従来の熊谷のイメージを一新した。加えて、アニメーション映画監督、高畑勲氏や美術家・美術批評家、岡崎乾二郎氏による講演会の開催、熊谷を主人公とする映画「モリがいる場所」とのタイアップ広報など、教育、広報面でも特色ある取り組みを行った。

Kumagai Morikazu: The Joy of Life

Painter Kumagai Morikazu (1880–1977) is renowned for his style featuring bright colors and distinct shapes. His last works showing familiar creatures such as flowers, insects and birds are particularly popular among people of all ages. They look as though painted quite effortlessly. When you trace his over seventy-year career, however, you will be impressed by the sheer variety of Kumagai's inquiries ranging from research into chromatics to the invention of processes for the repetitive use of a same motif. Building on the latest studies by the Aichi Prefectural Museum of Art and the Museum of Fine Arts, Gifu, this exhibition presented 200 paintings, sketches, diaries and mementos to reveal Kumagai's scientific and logical production style, rare for a Japanese artist, thus refurbishing his image. In addition, our distinctive activities in the areas of education and public relations included lectures by animated movie director Takahata Isao and artist and art critic Okazaki Kenjiro, and a tie-in promotion with the movie *Mori no iru basho* (where Mori is) with Kumagai as the main character.



新聞・雑誌等における掲載記事

◆平成29年2月18日～5月21日(83日間、うち平成29年度46日間)

特集：美術館の春まつり

girls Artalk (<http://girlsartalk.com/artdate/25305.html>) 4月11日「イケメンと行く妄想アートデート のんびりノスタルジック 神保町・竹橋篇」(かしまはるか)

読売新聞 4月14日都内版 「近代美術の眼 安井曾太郎《黄色い糞》」(岩田ゆず子)

読売新聞 5月19日都内版 「近代美術の眼 浜口陽三《青いガラス》」(都築千重子)

◆平成29年5月27日～11月5日(140日間)

特集：東山魁夷

読売新聞 6月9日都内版 「近代美術の眼 村上華岳《『聖者の死』のための下絵》」(鶴見香織)

朝日新聞 6月22日夕刊 「訪ねる 見る、学ぶ 東京国立近代美術館かいわい 東京都千代田区」(三ツ木勝巳)

東京新聞 7月9日 「カジュアル美術館 萩原守衛『女』」(出田阿生)

読売新聞 7月14日都内版 「近代美術の眼 須田一政《『風姿花伝』より 秋田・西馬音内、盆踊り》」(増田玲)

週刊ポスト 7月14日号 「生きているうちに見るべき名画 東山魁夷《道》」(原田マハ)

朝日新聞 8月2日夕刊 「一緒にTRY！美術館へ行こう(1)所蔵作品展」(大西若人)

朝日新聞 8月9日夕刊 「一緒にTRY！美術館へ行こう(2)写真を撮る」(大西若人)

日本経済新聞 8月16日夕刊 「プレミアムな夏の夜(中)座ってゆるり 絵画の世界へ」(三村幸作)

日本経済新聞 8月27日 「美の粋 夏の夜の夢(下)黄金の草むら たぎる生命力 まばゆい光放つ 川端龍子《草炎》(部分) 小茂田青樹《虫魚画卷》(部分)」(窪田直子)

読売新聞 9月8日都内版 「近代美術の眼 パウル・クレー 《破壊された都市》」(三輪健仁)

新美術新聞 9月11日 「所蔵作品展『MOMATコレクション』で東山魁夷特集《道》など本制作17点が一堂に並ぶ」(鶴見香織)

アートアニュアルオンライン(<http://www.art-annual.jp/news-exhibition/news/67943/>)

9月16日 「『MOMATコレクション』で東山魁夷特集—《道》など17点が一堂に」(鶴見香織)

すまーと 9月号 「特集 芸術の秋はアートに触れる 東京国立近代美術館・大谷美術課長に聞く」(無記名)

Find my Tokyo (<http://findmy.tokyo/challenge/>)

1-4 平成29年度所蔵作品展記録 Permanent Exhibit, 2017

1-4-1 本館

平成24年度に12室とギャラリー 4からなる展示室へトリニューアルし、展覧会名称を「MOMATコレクション」に一新させた。内容も近代美術史を通覧するこれまでの構成から、緩やかに近代美術の流れを見せながら、各室毎にテーマを設定してゆく構成へ改めている。さらには、時宜に応じて全室もしくは数室を使った特集展示を行い、美術を楽しむ新たな視点を提供しよう努めている。

本年度は、ロバート・フランク、東山魁夷、李禹煥など当館が充実したコレクションをもつ作家を特集する部屋を設けた他、近年の新収蔵作品により構成した「1960-70年代の美術」、今日の社会状況にも目を配った「難民」など、多様な視点からコレクションを紹介した。

また、1階で開催した企画展「熊谷守一 生きるよろこび」の際には、連動企画として生と死をテーマにした「生と死をめぐる造形」、動植物の主題を集めた「生きるよろこび」の部屋を設け、来館者の理解の一助とした。

ギャラリー4では、コレクションによる小企画「彫刻を作る／語る／見る／聞く」を企画し、1970年代から現在まで活躍している3人の彫刻家、黒川弘毅、鷺見和紀郎、戸谷成雄の作品と、彼らのアーティスト・トークの記録映像とをあわせて紹介した。

本年度は1階で開催される展覧会の会期が長かったことから、会期をおおむね合わせる所蔵作品展の一回の会期も長くなったが、一会期のなかで各室毎にテーマ替えを行い、例年と遜色なく展示内容に変化をもたせることができた。

この他、所蔵作品展の章解説、作品キャプション、および音声ガイドの多言語化では、アプリを運用しつつ、利便性の向上のため、平成30年度のコレクション展示室でのフリー Wi-Fi導入に向けて準備を進めた。

◆平成29年2月18日～5月21日(83日間、うち平成29年度46日間)

特集：美術館の春まつり

出品点数：202点(うち重要文化財6点)、資料3点

入場者数：73,387人(うち平成29年度53,618人)

◆平成29年5月27日～11月5日(140日間)

出品点数(特集以外)：360点(うち重要文化財5点)、資料6点

特集：東山魁夷(9月2日～11月5日)

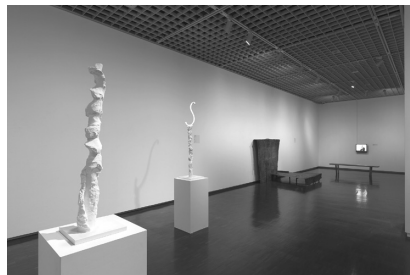
出品点数：17点

コレクションによる小企画：「彫刻を作る／語る／見る／聞く」

出品点数：10点

総出品点数：387点、資料6点

入場者数：88,993人



172) 10月1日「Challenge! 172 近代アートで対話を楽しもう！」(無記名)

読売新聞 10月13日都内版 「近代美術の眼 荻原守衛《文覚》」(大谷省吾)

散歩の達人 11月号 「ぶらぶらミュージアム vol.53 最終回 東京国立近代美術館の巻」(太田垣晴子)

東京人 11月号 「東京つれづれ日誌89 死者に対する敬意。 長谷川利行《カフェ・パウリスタ》」(川本三郎)

◆平成29年11月14日～平成30年5月27日
(168日間、うち平成29年度117日間)

特集：美術館の春まつり

読売新聞 11月10日都内版 「近代美術の眼 小出槿重《裸婦と白布》」(都築千重子)

日本経済新聞 11月23日「星へのまなざし 日本近代美術より十選(3) 関根正二『三星』」(鶴見香織)

東京新聞 11月24日「美術評 『MOMATコレクション』展から 村山知義の展示」(古谷利裕)

朝日新聞 12月5日夕刊 「目利きのイチオシコレクション 日本近代洋画(上)東京国立近代美術館」(児島薫・牧野祥)

読売新聞 12月8日都内版 「近代美術の眼 中村不折《廓然無聖》」(古館遼)

東京新聞 12月10日 「カジュアル美術館 安井曾太郎『金蓉』」(矢島智子)

毎日小学生新聞 12月31日 「井上涼の美術でござる(22) 年忘れ! 麗子フェスの巻」(井上涼)

読売新聞 2月9日都内版 『近代美術の眼』 椎原治《流氓ユダヤ》(増田玲)

女性のひろば 2月号 「太田治子の美術散歩(23) 津田青楓《犠牲者》」(太田治子)

読売新聞 3月9日都内版 「近代美術の眼 関根正二《三星》」(岩田ゆず子)

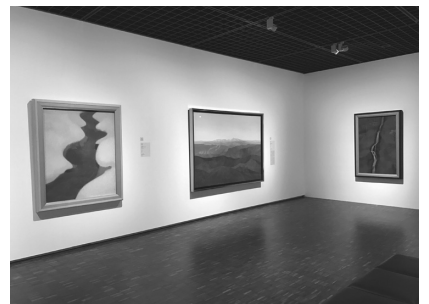
男の隠れ家 4月号 「美術館&博物館で楽しむ桜」(無記名)

◆平成29年11月14日～平成30年5月27日(168日間、うち平成29年度117日間)

特集：美術館の春まつり

出品点数：461点(うち重要文化財5点)、資料9点

入場者数：265,157人(うち平成29年度82,289人)



MOMAT Collection

In fiscal 2012 the collection gallery was renovated into one with twelve rooms and Gallery 4, the exhibition title was changed to *MOMAT Collection*. The content was also changed from one that provided a general view of modern art history to one that had themes for the respective rooms while loosely illustrating the historical trends of modern art. Whenever appropriate, special exhibitions are organized using all or several rooms to present new viewpoints on art appreciation.

In this fiscal year, some rooms were devoted to artists richly represented in our collection such as Robert Frank, Higashiyama Kaii and Lee Ufan. We employed multiple perspectives in introducing our collection, as in *Art of the 1960s and 1970s: New Additions to the Collection* that presented works acquired in recent years, and *Refugees* that paid attention to current social circumstances.

In connection with special exhibition *Kumagai Morikazu: The Joy of Life* given on the first floor, one room each was allotted to *Art of Life and Death* planned under the theme of life and death, and *The Joy of Life* that focused on animals and plants. A small collection exhibition *Producing / Discussing / Looking at / Hearing, Sculptures* held in Gallery 4 featured sculptors Kurokawa Hirotake, Sumi Wakiro and Toya Shigeo who has been active since the 1970s, complemented with the videos of their Artist Talks.

The exhibition periods of the special shows held on the first floor in this year were longer than usual. Because the periods of the collection exhibitions are set to generally fit those of the special shows, every collection exhibition was held for a longer period than usual. The topics of the respective rooms were changed during every period in order to diversify the display as in past years.

In addition to the multilingualization of introductions to exhibition chapters, captions for exhibited works and audio guides, we pushed forward, while utilizing smartphone apps, preparations for the launch of free Wi-Fi service at the collection galleries scheduled for fiscal 2018, aiming to enhance visitors' convenience.



◆Feb. 18 to May 21, 2017 (83 days of which 46 days were in fiscal 2017)
Spring Festival in The National Museum of Modern Art, Tokyo
Number of the exhibits: 202 works (including 6 Important Cultural Properties), 3 materials
Number of visitors: 73,387 (53,618 in fiscal 2017)

◆May 27 to Nov. 5 (140 days)
Number of the exhibits: 360 works (including 5 Important Cultural Properties), 6 materials
Artist in Focus: Higashiyama Kaiti (Sep. 2 to Nov. 5)
Number of the exhibits: 17 works
Producing / Discussing / Looking at / Hearing, Sculptures
Number of the exhibits: 10 works
Total number of the exhibits: 387 works, 6 materials
Number of visitors: 88,993

◆Nov. 14, 2017 to May 27, 2018 (168 days of which 117 days were in fiscal 2017)
Spring Festival in The National Museum of Modern Art, Tokyo
Number of the exhibits: 461 works (including 5 Important Cultural Properties), 9 materials
Number of visitors: 265,157 (82,289 in fiscal 2017)

新聞・雑誌等における掲載記事

◆平成29年7月4日～9月3日(54日間)

所蔵作品展 **こども×おとな芸館
調度♥ハッピーのかたち**

染織文庫 6月25日「美術展覧会」(無記名)

ちいき新聞 7月21日「Art」(無記名)

多摩川新聞 7月30日「夏休み美術特集」(無記名)

おやこでおでかけ 2017年夏号「こどもと一緒に楽しみたい! 企画展&展覧会」(無記名)

美術の窓 2017年8月号「アート(学習)の展覧会」(無記名)

Are you happy? 2017年9月号「Art」(無記名)

Hanako 9月14日「EVENT MENU」(セリーヌ ユカ)

散歩の達人 2017年10月号「ぶらぶら美術館」(太田垣晴子)

現代の眼624号「[On view] ハッピーはここに一調度をめぐる生活感情と空間の造形」(今井陽子)

◆平成29年12月1日～平成30年2月18日(66日間)

所蔵作品展 **日本の工芸—自然を愛でる—
人間国宝・巨匠コーナー**

染織文庫 11月10日「美術展覧会」(無記名)

なごみ 2017年12月号「展覧会」(無記名)

陶説 2017年12月号「展覧会」(無記名)

多摩川新聞 12月17日「美術特集」(無記名)

美じょん新報 12月20日「museum info」(無記名)

陶説 2018年1月号「展覧会」(無記名)

グッズプレス 2018年1月号「EXHIBITION」(無記名)

淡交 2018年1月号「美術館案内」(無記名)

にんぎょう日本 2018年1月号「INFORMATION」(無記名)

茶の湯 1月1日「展覧会案内」(無記名)

陶業時報 1月5日「美の探訪 陶芸・工芸」(石田由美)

読売新聞 1月19日「和の伝統芸」(無記名)

読売新聞 1月23日「ぎやらいいモール」(諸山正則)

現代の眼626号「[On view] 自然を愛でる—近代陶芸家・三者三様 北大路魯山人・富本憲吉・濱田庄司」(清水真砂)

1-4-2 工芸館

「こども×おとな芸館 調度♥ハッピーのかたち」

調度の設定は、生活の物理的な側面だけでなく、心理作用に基づくところから、館内の6室のうち第1～4室および6室を「私のハッピー」「だれかとハッピー」「LIFE①食器」「LIFE②人形」「ゆるやかな境界」として5つのテーマに分けて構成した。また、第5室には現代美術の分野で活動する造形作家・川崎広平を招待し、樹脂の透過性やLEDなどの光源を組み込んだ構造体が空間に与える効果を体験することによって、近代以降あまり省みられることのなかった美術における調度としての機能を検証した。

「日本の工芸—自然を愛でる—」

日本では、自然の移ろいゆく情景や風光の美しさに育まれた特有の自然観をうかがわせて工芸の多様な特質を形成し、暮らしを彩り日々の生活環境を装っている。自然にある美を感じとり形とし、描写している。いうなら日本の工芸は、自然を愛でることを主要な表題とし、時代に即した固有の表現芸術として発展してきた。豊かな自然のなかで生きる私たちの生命観を多分に反映したものであり、その文化は美しい日本の伝統を表している。本展では、当館が所蔵する近・現代の名品を主に、特別出品として陶芸家の杉浦康益氏の作品3点を加えた124点を陳列して、自然を愛でる日本人の心が生み出した工芸の美を紹介した。

「工芸館開館40周年記念所蔵作品展 名工の明治」

明治時代、その高い技術が評価され帝室技芸員に任命された鑄金家・鈴木長吉(1848-1919)による《十二の鷹》は、1893年アメリカで開催されたシカゴ・コロンプス世界博覧会で発表され、世界を魅了した明治工芸の代表的作品である。しかし、1985年の当館への受け入れの時点から、主要な付属品が失われ、本来の作品の意図を正しく伝えることができない状態であった。このため、平成26年から復元・修復作業をおこなってきたが、本展では、数年にわたる修復事業後初のお披露目をした。長らく失われていた鉾垂れ(鷹の止まり木に使用される装飾布)が復元され、発表当時の鮮やかな色合いが蘇った。「明治150年」にもちなみ、本展では、高い技術力と表現力を兼ね備え明治の精神を今に伝える名工たちの作品も、あわせて展示した。現代の工芸作品も含めた当館所蔵品111点を通して、技と表現が現代にいかにか継承されたのか、その後の展開を探った。



◆平成30年3月1日～5月27日
(79日間、うち平成29年度28日間)
工芸館開館40周年記念
所蔵作品展 名工の明治

寶石の四季 2月2日(No.241)「<十二の鷹>修復作業を終えて十二羽一挙公開」(無記名)
聖教新聞 2月17日「毎日ビルディングの広告として」(無記名)
陶工房 2018年3月号「展覧会レビュー&レポート」(無記名)
淡交 2018年3月号「展覧会案内」(無記名)
月刊ギャラリー 2018年3月号「日本の工芸力をあじわう」(無記名)
茶の湯 3月1日「展覧会案内」(無記名)
an-an 3月7日「ART「名工による精緻な金工に釘付け。」」(保手濱 奈美)
美じょん新報 3月20日「museum info.」(無記名)
朝日新聞 マリオン 3月27日「目利きのイチオシコレクション」(室瀬和美)
工芸+デザイン 第30号「鈴木長吉の業績と作品の紹介」(無記名)
陶業時報 4月5日「名工の明治」(無記名)
高島平きものしんぶん 5月1日「名工の明治」(無記名)
目の眼 5月15日「鈴木長吉《十二の鷹》と近代工芸の150年」(北村仁美)
小説推理 2018年6月号「芸術超人カタログ」(岡本奇太郎)

◆平成29年7月4日～9月3日(54日間)
所蔵作品展 こども×おとな工芸館 調度♥ハッピーのかたち
出品点数：209点
入場者数：11,271人

◆平成29年12月1日～平成30年2月18日(66日間)
所蔵作品展 日本の工芸—自然を愛でる—
人間国宝・巨匠コーナー
出品点数：124点
入場者数：21,253人

◆平成30年3月1日～5月27日(79日間、うち平成29年度28日間)
工芸館開館40周年記念所蔵作品展 名工の明治
出品点数：111点
入場者数：45,200人(うち平成29年度 18,920人)



Crafts Gallery for Kids×Adults: Furnishings-Forms to be HAPPY

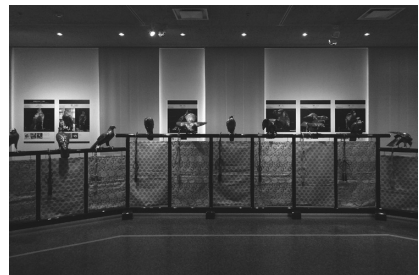
Because furnishings are planned considering not only physical aspects of everyday life but also mental processes, the exhibition adopted the following thematic structure: Rooms 1–4 and 6 were titled *My Happiness, Happiness With Someone, Tableware: Life I, Dolls: Life II and Loose Boundaries*. Kawasaki Kohei, an artist active in contemporary art, was invited to plan Room 5 where visitors experienced permeability of resin and the effects of structures incorporating LEDs and other light sources upon space, in an attempt to examine the functions of furnishings in art, a topic rarely discussed in modern times.

Cherishing Nature: Masterpieces of Japanese Modern Crafts

The diverse characteristics of Japanese crafts evolved from the people's view of nature nurtured by changes in natural scenery and scenic beauty. Craft works adorning our everyday life are shaped out of, or portray, perceived natural beauty. That is to say, Japanese crafts have focused mainly on cherishing nature, and have developed as native expressive arts adapted to the respective times. They amply reflect the sense of life held by Japanese people living in the heart of nature's bounty, and represent beautiful Japanese tradition. Presenting 124 modern masterpieces from our collection and three works by ceramist Sugiura Yasuyoshi as special exhibits, this show illustrated beauty of crafts created by the hearts of the Japanese that cherish nature.

Master Hands in the Meiji Period: The Crafts Gallery's 40th Anniversary Exhibition

Suzuki Chokichi (1848–1919) was a metalworker with exceptional skills who was appointed court artist in the Meiji period (1868–1912). His *Twelve Hawks* is a masterpiece of crafts of the period that was shown at the Columbian Exposition held in Chicago in 1893 and fascinated the world. However, by 1985 when it was acquired by our Gallery, important attachments had been lost, hampering a proper appreciation of the work. This exhibition featured the masterpiece for the first time after several years of restoration since 2014. The restored ornamental cloth on the perch that had been long lost has revived the original brilliant colors. In celebration of the 150th anniversary of the start of the Meiji period, this exhibition also presented works by master hands in the period that demonstrate excellent skills and expressive power, and convey the spirit of the era. Through 111 works from the Gallery's collection including ones of our own time, this show explored how skills and art were inherited to the present day.



◆ July 4 to Sep. 3, 2017 (54 days)

Crafts Gallery for Kids×Adults: Furnishings-Forms to be HAPPY

Number of the exhibits: 209

Number of visitors: 11,271

◆ Dec. 1, 2017 to Feb. 18, 2018 (66 days)

Cherishing Nature: Masterpieces of Japanese Modern Crafts

Masterpieces of Modern Crafts and Living National Treasures from the
Museum Collection

Number of the exhibits: 124

Number of visitors: 21,253

◆ Mar. 1 to May 27, 2018 (79 days of which 28 days were in fiscal 2017)

Master Hands in the Meiji Period: The Crafts Gallery's 40th Anniversary
Exhibition

Number of the exhibits: 111

Number of visitors: 45,200 (18,920 in fiscal 2017)

平成18年12月から、本館・工芸館の所蔵作品展、フィルムセンターの展示室を1年間、何度でも観覧できる「MOMATパスポート」の販売を開始した。本年度は所蔵作品展の観覧料変更に伴い、パスポートの価格を1,000円から1,200円に変更し、ホームページ等による広報で1386枚を販売した。

MOMAT Passport

The MOMAT Passport was launched in December 2006. The passport allows the holder to visit the Film Center gallery and the Museum Collection exhibitions in the Main Building and Crafts Gallery as often as desired during a 12-month period. In this fiscal year, the price of the Passport was changed from 1,000 yen to 1,200 yen in connection with the changes in the admission fees to the collection exhibition. Information on the Passport was provided to the public through website notices. Unit sales totaled 1,386 in fiscal 2017 (ending in March 2018).

会 期
平成29年8月10日～平成29年9月10日(29日間)
会 場
高岡市美術館
主 催
東京国立近代美術館、高岡市美術館 (公益財団法人高岡市民文化振興事業団)、 北日本新聞社
後 援
富山県、高岡市、高岡市教育委員会、 北日本放送
出品点数
85点
入館者数
3,471人
会 期
平成29年11月3日～平成29年12月24日(45日間)
会 場
新潟市美術館
出品点数
85点
入館者数
3,393人
新聞・雑誌等における掲載記事
【富山会場】
北日本新聞 8月5日 「工芸の躍動 国立近代美術館工芸館名品展 美と技の奥深い世界」(無記名)
北日本新聞 8月10日 「近代の逸品工芸を紹介」(無記名)
北日本新聞 8月11日 「工芸の奥深い世界紹介」(無記名)
北日本新聞 8月12日 「工芸の魅力 より深く」(無記名)
北日本新聞 8月13日 「漆の質感生かし造形」(無記名)
北日本新聞 8月17日 「街なかで美術解説会」(無記名)
北日本新聞 8月18日 「高岡市美術館街中で出前解説会」(無記名)
朝日新聞 8月18日 「工芸の躍動—東京国立近代美術館工芸館名品展」(無記名)
北日本新聞 8月27日 「市美術館 工芸内外の動向紹介」(無記名)
北日本新聞 9月8日 「技術の高さに感動」(無記名)
北日本新聞 9月10日 「工芸の奥深さ堪能」(無記名)
【新潟会場】
十日町新聞 10月26日 「東京国立近代美術館工芸館名品展 来月3日から、新潟市美術館で」(無記名)
妻有新聞 10月28日 「国立近代美術館工芸館の名品展」(無記名)
新潟日報 12月7日 「展覧会へようこそ」(星野立子)

工芸の躍動—東京国立近代美術館工芸館名品展(会場：高岡市美術館)

東京国立近代美術館工芸館名品展 一人為と天然 Art/Nature — (会場：新潟市美術館)

東京国立近代美術館工芸館が所蔵する日本の近代工芸(明治—現代)の名品85点を展示し、芸術性や優れた技、表現の豊かさを紹介した。19世紀半ば以降、装飾的で技巧的な作品を海外に輸出するために努力を重ねた工芸の世界に、20世紀に入って、変化する生活スタイルや、機械化・大量生産に応じようとする新しい哲学が導入された。太平洋戦争後の工芸界には、造形性、技の保存、デザイン性のそれぞれに重点を置く、ほぼ三つの潮流が確立されている。それから半世紀、工芸のさらなる進化・発展が続いている。

富山会場では、工芸を考えるキーワード(素材・装飾・民芸・伝統・機能・表現)をもとに構成し、日本工芸の躍動する姿を示し、その歴史と未来を考える機会を提供した。本展は、北陸の工芸の魅力の世界に発信していく広域的な催しとして、文化庁と北陸三県が連携して様々なイベントや展覧会等を開催する「国際北陸工芸サミット」事業の一環として位置づけられており、会期中には、銅器の街として知られる高岡の地域と連携するプログラムも実施され、高岡地区における工芸の普及に貢献した。

新潟会場では、工芸館の名品85点を、大きくは時代順に展示しながら、「人為と天然」をキーコンセプトとし、全体を三つの章に分けて構成した。第一章では、装飾や意匠に、作家が込めた人為のエネルギーが特徴的に表れた作品を、第二章では、高度なわざで、素材を引き立て自然現象に委ねながら、天然の要素を積極的に取り入れた作品を、第三章では、それまでの流れを踏まえながらさらに大きく飛躍、拡大していく工芸のいまを紹介した。着物や銅器など、新潟市美術館ではこれまで、さまざまな工芸が盛んに行われている土地柄であったが、工芸関係の展覧会の開催回数は少なかった。そのなかでも、今回の巡回展は、近現代の工芸の様相を総合的に紹介でき、また、地元の工芸作家たちにも注目されるよい機会となった。



高岡市美術館



新潟市美術館

Vibrant Crafts—Masterpieces from the Crafts Gallery, the National Museum of Modern Art, Tokyo (venue: Takaoka Art Museum)
Art & Nature—Masterpieces from the Crafts Gallery, the National Museum of Modern Art, Tokyo (venue: Niigata City Art Museum)

Presenting 85 masterpieces of modern Japanese crafts from the collection of the Crafts Gallery, this exhibition illustrated artistry, excellent skills and expressiveness of crafts. After the mid-nineteenth century, Japanese craftspeople worked hard to produce decorative, technically accomplished works for exportation. In the twentieth century, however, their focuses shifted to responding to changing lifestyles, mechanization and mass production. After World War II, Japan's crafts world was largely divided into three groups that attached importance to form creativity, skill preservation and design respectively. A half century later, Japanese crafts still continue evolving and developing.

The Toyama(Takaoka) exhibition was structured according to six key words—materials, decoration, folkcraft, tradition, function and expressiveness—to illustrate Japan's vibrant crafts and offer an opportunity to consider their history and future. This show was one of the various events of the International Hokuriku Kogei Summit, a regional program co-organized by the Agency for Cultural Affairs and Toyama, Ishikawa and Fukui Prefectures for the international promotion of crafts in the Hokuriku area. During the exhibition period, programs for crafts education were organized jointly with Takaoka, a city renowned for its copperware.

Presenting 85 masterpieces from our Gallery's collection generally in chronological order, the Niigata exhibition was divided into three chapters with the key concept of "Art & Nature". Chapter 1 focused on works with decoration or design that distinctively illustrate artisans' artificial efforts. Chapter 2 showcased pieces featuring natural elements that craftspeople skillfully produced making use of natural phenomena. Chapter 3 introduced the current trends in crafts that are growing and expanding greatly, building on tradition. While the region has been known for its various crafts such as kimonos and copperware, Niigata City Art Museum has given relatively few exhibitions featuring crafts. Providing a general view on modern crafts, this traveling exhibition also attracted attention of local craftspeople.

会 期
平成29年11月11日～平成29年12月17日 (37日間)
会 場
石川県立美術館
主 催
「東京国立近代美術館工芸館名品展」 開催実行委員会・石川県・金沢市・ 東京国立近代美術館
後 援
文化庁・北國新聞社
出品点数
54点
入館者数
8,429人
新聞・雑誌等における掲載記事
石川県立美術館だより 第409号 11月1日 石川テレビ11月5日 「ウィークリーいしかわ」 北國新聞夕刊 11月11日 「名品展の開会」 (無記名) 北陸朝日放送 11月11日 「石川ほっと ニュース」 北國新聞朝刊 11月12日 「名品展の開会」 (無記名) 北陸中日新聞朝刊 11月12日 「名品展 の開会」(無記名) 北國新聞朝刊 11月18日 「名品展の紹 介」(無記名) 朝日新聞北陸版 11月19日 「名品展の 紹介」(無記名) 北陸放送 11月25日 「ほっと石川」 石川テレビ 11月26日 「ウィークリー いしかわ」 北國新聞朝刊 11月26日 「タッチ & トークの開催」(無記名) 北國新聞夕刊 11月29日 「柳原理事長 の寄稿」(無記名) 北國新聞朝刊 11月30日 「名品展の紹 介」(無記名) 石川県立美術館だより 第410号 12月1 日 北國新聞朝刊 12月2日 「名品展と講演 会の紹介」(無記名) 北國新聞朝刊 12月3日 「講演会の開 催」(無記名) 北國新聞朝刊 12月8日 「ギャラリー トークの紹介」(無記名) ほっと石川 2017年秋季号 「名品展の 紹介」(無記名)

東京国立近代美術館工芸館名品展 陶磁いろいろ

東京国立近代美術館工芸館の石川移転に伴い、昨年度に引き続き東京国立近代美術館の所蔵作品(工芸・デザイン)による展覧会を石川県立美術館(金沢市)にて開催した。本年度はタイトルを「陶磁いろいろ」とし、所蔵作品の中でも多数を占める「陶磁」分野に焦点を当て、重要無形文化財保持者、芸術院会員、外国人著名作家らによる優品を紹介した。また、現代作家の作品や個人作家の作品に限らず、民窯やプロダクトデザインなどの作品も展示することで、陶磁分野の多様性ととともに、当館コレクションの工芸分野における幅広さを周知することに努めた。

Varieties of Ceramics: Masterpieces from Crafts Gallery, The National Museum of Modern Art, Tokyo Collection

As in last year, in connection with the planned move of the Crafts Gallery of the National Museum of Modern Art, Tokyo to Ishikawa Prefecture, this exhibition introduced crafts and design works selected from our collection at the Ishikawa Prefectural Museum of Art. Titled *Varieties of Ceramics*, this year's exhibition focused on ceramic ware, one of the largest groups in our collection, and presented masterpieces by holders of Important Intangible Cultural Properties, members of the Academy of Arts and leading international artisans. Presenting not only works by contemporary and individual artists but also those by *minyo* (kilns producing vessels for daily use) and product design, the show tried to highlight the diversity of ceramics and the richness of our craft collection.



石川県立美術館

2 作品貸与・特別観覧・プリントスタディ

2-1 本館

- ①貸 与 58件(243点)
- ②特別観覧 141件(267点)
- ③プリントスタディ(写真作品観覧制度) 8件(117名、181点)

2-2 工芸館

- ①貸 与 17件(182点)
- ②特別観覧 9件(47点)

1 本館

◆荒井美月

論文 「夏的美術館での過ごし方—日本の家展関連プログラムを振り返って」／『現代の眼』625号

◆一條彰子

論文 「フィンランドの美術館教育レポート—美術館×学校×行政」／『現代の眼』626号

発表 「フィンランド、デンマーク、鑑賞教育の海外調査報告」／第40回美術科教育学会(会場：滋賀大学、2018年3月30日)

◆岩田ゆず子

論文 「近代美術の眼 安井曾太郎《黄色い襖》」／『読売新聞』(都内版、2017年4月14日)

論文 「近代美術の眼 関根正二《三星》」／『読売新聞』(都内版、2018年3月9日)

◆大谷省吾

論文 「On view 『彫刻を作る／語る／見る／聞く』を準備しながら考えたこと」／『現代の眼』624号

論文 「東京国立近代美術館の戦争記録画とその周辺」／『BankART school いかにかに戦争は描かれたか』(BankART 1929、2017年4月30日)

論文 「手と素材との対話が、作品へと結実していくプロセス」／「第5回都美セレクショングループ展 記録集」(東京都美術館、2017年8月31日)

論文 「近代美術の眼《文覚》荻原守衛」／『読売新聞』(都内版、2017年10月13日)

論文 「北方からの問いかけ」／「第6回都美セレクショングループ展 記録集」(東京都美術館、2018年3月2日)

展覧会カタログ 「彫刻を作る／語る／見る／聞く」／「彫刻を作る／語る／見る／聞く」展

展覧会カタログ 「異文化との出会いと対話」／「文化庁新進芸術家海外研修制度50周年記念展」図録(日本橋高島屋他、2017年8月3日)

発表 「絵画に託されたメッセージを読み解く」／「絵画は告発する」展(会場：板橋区立美術館、2017年6月10日)

発表 「瑛九は現実をいかに捉えようとしたか」／「〈具体〉再考 第2回 1930年代の前衛」(会場：大阪大学中之島センター、2017年12月3日)

発表 「シュルレアリスムと福沢一郎」／「福沢一郎『シュルレアリスム』を読んでみた。」(会場：福沢一郎記念館、2017年12月9日)

発表 「『日刊美術通信』から見えてくる、もうひとつの昭和10年代アートシーン」／公開研究会「美術雑誌の情報共有に向けて」(会場：東京文化財研究所、2018年3月16日)

◆蔵屋美香

論文 「On View「没後40年 熊谷守一展」後記」／『現代の眼』626号

論文 共著「ポスト3.11の美術—美術と社会はどう関わらるべきか」／田中正

- 之編『現代アート10講』(武蔵野美術大学出版局、2017年4月1日)
- 論文 「お父さん、こわいよ、と彼は言う 小泉明郎展「帝国は今日も歌う」展評」/『美術手帖』2017年7月号(美術出版社、2017年7月1日)
- 論文 共著「奈良美智展ができるまで—美術館学芸員座談会」(木村絵理子(横浜美術館学芸員)、高橋しげみ(青森県立美術館学芸員)、富沢治子(熊本市現代美術館学芸員))/『ユリイカ』2017年8月臨時増刊号「総特集 奈良美智の世界」(青土社、2017年7月20日)
- 論文 共著「樹は確かか—日高理恵子とポール・セザンヌ」/『日高理恵子作品集』(ヴァンジ庭園美術館・NOHARA、2017年10月5日)
- 論文 「いつ動くの?『今』でしょ Chim↑Pom「Sukurappu ando Birudoプロジェクト 道が拓ける」展評」/『美術手帖』2017年11月号(美術出版社、2017年11月1日)
- 論文 「カタツムリのかくれんぼ」/『小原流 插花』2017年12月号(一般財団法人小原流、2017年12月1日)
- 論文 特別対談「熊谷守一 生きるよろこび 没後40年の今だから見えてくる真実」(池田亮平(天童市美術館館長))/『月刊美術』2017年12月号(実業之日本社、2017年12月1日)
- 論文 「没後40年 熊谷守一 生きるよろこび」/『公明新聞』(公明党機関紙委員会、2017年12月13日)
- 論文 共著『もっと知りたい 熊谷守一 作品と生涯』(池田亮平(天童市美術館館長))/『東京美術』(東京美術、2017年12月15日)
- 論文 「2017年展覧会ベスト3」/WEB版「美術手帖」(美術出版社、2018年1月6日)
- 論文 「没後40年 熊谷守一 生きるよろこび」/『新美術新聞』(美術年鑑社、2018年1月21日)
- 論文 「超ローカル発、世界行き 小沢剛「不完全—パラレルな美術史」展評」/『美術手帖』2018年2月号(美術出版社、2018年2月1日)
- 論文 「シンポジウム『厄災の記憶 その表象可能性』」(五十嵐太郎(東北大学大学院教授)、市田真理(第五福竜丸展示館学芸員)、内山大介(福島県立博物館学芸員)他11名)/『はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト トーク記録集 語り合う希望 2013—2017』(はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト2017、2018年3月31日)
- 展覧会カタログ 「いろいろな熊谷守一」、「コラム①-⑤ 守一の謎」、章解説、作品解説/「没後40年 熊谷守一 生きるよろこび」展/共同執筆者:喜安嶺(愛媛県美術館)、鈴川宏美(春日井市道風記念館)
- 発表 「キュレーターと作家」(黒瀬陽平(カオスラウンジ主宰))/ゲンロンカオスラウンジ新芸術校(2017年6月18日)
- 発表 「コレクションから考える現代美術史」(藤井光(映像作家))/東京大学「社会を指向する芸術のためのアートマネジメント育成事業」(会場:東京大学、2017年8月26日)
- 発表 「キュレーションを知る」/THINK SCHOOL(会場:THINK SCHOOL、2017年9月8日)
- 発表 シンポジウム「厄災の記憶 その表象可能性」(五十嵐太郎(東北大学大学院教授)、市田真理(第五福竜丸展示館学芸員)、内山大介(福島県立博物館学芸員)他11名)/『はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会(会場:いわきアリオス、2017年10月5日)
- 発表 日高理恵子×蔵屋美香(日高理恵子(多摩美術大学教授))/「日高理恵子 空と樹と」展(会場:ヴァンジ彫刻庭園美術館、2017年10月7日)

◆鈴木勝雄

論文 共著「美術資料をめぐる回想 稲憲一郎氏に聞く「精神生理学研究所」(1969-70年)を中心として」(伊村靖子(情報科学芸術大学院大学講師)、松井茂(情報科学芸術大学院大学准教授))／『国立新美術館研究紀要』4号(2017年12月26日)

論文 「精神生理学研究所というオルタナティブ・スペース」／『情報科学芸術大学院大学紀要』9号(情報科学芸術大学院大学、2018年3月)

論文 共著「『ルポルタージュ絵画』の変容と六全協のインパクト」／坪井秀人編『戦後日本を読みかえる』第2巻(臨川書店、2018年3月31日)

発表 「Beyond Art Archive」／国際シンポジウム「Archival Turn: East Asian Contemporary Art and Taiwan (1960-1989)」(会場: Taipei Fine Arts Museum、2017年4月9日)

発表 コメントータ／日本美術オーラル・ヒストリー・アーカイブ第3回シンポジウム「戦後日本美術の群声」(会場: 東京大学駒場21KOMCEE B1F、2017年7月9日)

発表 「戸谷成雄作品の裏側を読む」／シンポジウム「彫刻再考: 戸谷成雄をめぐる」(会場: 武蔵野美術大学美術館、2017年11月4日)

発表 「Homelessness: "Conceptual Art" in Japan」／日米キュレーター意見交換会(会場: 国際交流基金、2017年12月12日)

◆都築千重子

論文 「近代美術の眼 浜口陽三《青いガラス》」／『読売新聞』(都内版、2017年5月19日)

論文 「近代美術の眼 小出楯重《裸女と白布》」／『読売新聞』(都内版、2017年11月10日)

◆鶴見香織

論文 「新しいコレクション 速水御舟《白葡萄と茶碗》」／『現代の眼』624号

論文 「近代美術の眼 村上華岳『聖者の死のための小下絵』」／『読売新聞』(2017年6月9日)

論文 「所蔵作品展『MOMATコレクション』で東山魁夷特集」／『新美術新聞』(2017年9月11日)

論文 「星へのまなざし 日本近代美術より十選」連載／『日本経済新聞』(2017年11月20、21、23、24、27、28、30日、12月1、4、5日)

◆中林和雄

論文 『見ることの力 20世紀絵画の周縁に』(水声社、2017年6月30日)

◆古舘遼

論文 「作品研究 描くべきものを描く——中村不折《廓然無聖》」／『現代の眼』625号

論文 「展覧会カタログ評: 赤瀬川原平の芸術原論展」／『比較文学研究』103号(2017年9月25日)

論文 「近代美術の眼 中村不折《廓然無聖》」／『読売新聞』(都内版、2017年12月8日)

展覧会カタログ 作家解説「倉石太次郎」／「クロージング ネオヴィジョン 新たな広がり」展図録(長野県信濃美術館、2017年9月16日)

発表 「特別企画：美術展と展覧会カタログ制作の現場から」／国際地域学基礎演習 I (会場：東洋大学白山キャンパス、2017年6月29日)

◆保坂健二郎

論文 「On view アートは「難民」を先入観から解放する」／『現代の眼』626号

論文 「新しいコレクション 清宮質文《夕暮の裏門》」／『現代の眼』626号

論文 「鳥の声から線、そしてリズムへ」／『坂上チユキ』作品集(MEM、2017年7月)

論文 巻頭鼎談「日本の家」とは何か 伊東豊雄×塚本由晴×保坂健二郎／『新建築 住宅特集』376号(新建築社、2017年8月)

論文 「形をノリコエヨ」井上有一の制作について／『井上有一』作品集(リトルモア、2017年10月18日)

論文 「『道』を育てる」が意味すること——アーティストならではの新たな都市論／『10+1』(LIXIL出版、Web、2017年11月)

論文 「批評家としての南畷宏」／『南畷宏 最後の場所——現代美術、真に歓喜に値するもの』(月曜社、2017年11月3日)

論文 「かつては絵画を見ることが人生の転機になると信じられていた」／『BRUTUS』(マガジンハウス、2017年12月)

論文 「Editorial Notes (on the Series of Japanese Art Brut)」／『Psychiatry and Clinical Neurosciences』Volume 72, Issue 1 (2017年12月)

論文 隔月連載「美術」／『すばる』(集英社、2017年4,6,8,10,12月、2018年2月)

論文 「Works on Michiyo Yaegashi」／『Psychiatry and Clinical Neurosciences』Volume 72, Issue 2 (2018年2月)

展覧会カタログ 「日本の戦後の建築の系譜学について」、章解説(「3 プロトタイプと大量生産」「7 遊戯性」「8 感覚的な空間」「12 脱市場経済」、作品解説)／「日本の家 1945年以降の建築と暮らし」展

発表 「芸術作品とは何か？ 日本の事例から」／国際研究フォーラム「障害のある人の文化芸術とケアと権利」(会場：フランス・ナント国際会議センター、2017年10月23日)

発表 「アール・ブリュットの歴史とこれから」「パネルディスカッション 沖縄のアール・ブリュットの魅力と美術館の役割」／「素朴の大砲2017展」関連企画(会場：沖縄県立博物館・美術館会議室、2017年11月11日)

発表 「アール・ブリュットをこえて」／平成29年度 次代の文化を創造する新進芸術家育成事業(会場：愛知県立芸術大学、2017年11月15日)

発表 「見届けることの大切さ」／アートミーツケア学会2017年度大会におけるシンポジウム「集団のアホーダンス」(会場：京都市立芸術大学、2017年11月16日)

発表 「アール・ブリュットをこえて」／平成29年度 次代の文化を創造する新進芸術家育成事業 (会場：東京藝術大学上野キャンパス、2018年1月16日)

発表 「日本のアール・ブリュット「KOMOREBI」展の評価について」／アール・ブリュット国際フォーラム2018 (会場：びわ湖大津プリンスホテル コンベンションホール淡海、2018年2月10日)

◆梶田倫広

論文 「作品研究 文字通り《南風》を斜めから見る—和田三造の漂流」/『現代の眼』626号

論文 「展覧会の会場構成を建築家と協働することについて」/『ZENBI 全国美術館会議機関誌』12号(2017年8月1日)

展覧会カタログ 「Whose Portrait Is It?—Tetsumi Kudo's Aesthetic Turnabout in the 1970s」/The Everywhere Studio」展図録(ICA, Miami, 2017年12月)

発表 「東京国立近代美術館の事始と現在」/特別講義(会場:京都造形芸術大学 東京・外苑キャンパス、2018年1月20日)

◆増田玲

論文 「新しいコレクション 広川泰士《「BABEL Ordinary Landscapes」より 静岡県御殿場市 2002年10月》」/『現代の眼』623号

論文 「近代美術の眼 須田一政《「風姿花伝」より 秋田・西馬音内、盆踊り》」/『読売新聞』(都内版、2017年7月14日)

論文 展覧会レビュー「できごとを語る—松本美枝子写真展『ここがどこか、知っている。』について」/ガーディアン・ガーデン(ウェブサイト、2017年10月16日)/http://rcc.recruit.co.jp/gg/related_post/review/20170813_30576.html

論文 「近代美術の眼 椎原治《流氓ユダヤ》」/『読売新聞』(都内版、2018年2月9日)

発表 「写真が物語れることとは何か:増田玲×松本美枝子」/ガーディアン・ガーデン「松本美枝子:ここがどこか、知っている。」展トークイベント(会場:ガーディアン・ガーデン、2017年9月14日)

◆水谷長志

論文 「JALプロジェクト「海外日本美術資料専門家(司書)の招へい・研修・交流事業」二〇一四〜二〇一六—三年間の総括としてのアンサー・シンポジウムの開催について」/『現代の眼』623号

論文 「JALプロジェクト「海外日本美術資料専門家(司書)の招へい・研修・交流事業」2014〜2016—3年間の総括としての「日本美術の資料に関わる情報発信力の向上のための課題解決についての提案」」/『アート・ドキュメンテーション通信』113号(アート・ドキュメンテーション学会、2017年4月25日)

論文 「極私的MLA連携論変遷史試稿」/『美術フォーラム21』35号(醍醐書房、2017年5月30日)

論文 「JALプロジェクト「海外日本美術資料専門家(司書)の招へい・研修・交流事業」2014-2016—3年間の総括としてのアンサー・シンポジウムおよび「提言」への「応答」としての「提案」について」/『情報の科学と技術』67巻6号(情報科学技術協会、2017年6月1日)

論文 書評『専門図書館の役割としごと』/『情報の科学と技術』67巻11号(情報科学技術協会、2017年11月1日)

◆三輪健仁

論文 「新しいコレクション パウル・クレー《破壊された村》」/『現代の眼』625号

論文 作家解説「今井祝雄」/『イメージフォーラム・フェスティバル 2017』(イメージフォーラム、2017年4月29日)

論文 「近代美術の眼 パウル・クレー《破壊された村》」／『読売新聞』（都内版、2017年9月8日）

論文 「デイヴィッド・シュリグリーのドローイングについて」／『David Shrigley : Really Good』（ユミコチバアソシエイツ、2017年11月2日）

論文 「『展覧会の再演』について」『情報科学芸術大学院大学紀要 第9巻 2017年』（情報科学芸術大学院大学、2018年3月30日）

論文 「共同討議 | 越境するパフォーマンス——美術館と劇場の狭間で 加治屋健司×門林岳史×中島那奈子×三輪健仁×星野太」『表象12』（表象文化論学会、2018年3月31日）

展覧会カタログ 作品一覧「ノンサイトーデス・ヴァレー」／『ロバート・スミッソンの作品一覧 | 「プラスチック展」(1965年)から「ノンサイト展」(1969年)まで』

発表 シンポジウム「パフォーマンスと／しての展示」（門林岳史（関西大学）、中島那奈子（ダンス研究、ダンスドラマトゥルク）、星野太（金沢美術工芸大学）、司会：加治屋健司（東京大学））／表象文化論学会第12回大会（会場：シネマまえばし、2017年7月1日）

発表 レクチャー（外山紀久子（埼玉大学大学院）、越智雄磨（早稲田大学演劇博物館）、中島那奈子（ダンス研究・ダンスドラマトゥルク））／KYOTO EXPERIMENT 提携プログラム「イヴォンヌ・レイナーを巡るパフォーマンス・エクシビジョン」（会場：京都芸術劇場春秋座、2017年10月15日）

発表 シンポジウム「デイヴィッド・シュリグリーとのトーク、加賀美健を迎えて」（デイヴィッド・シュリグリー（作家）、加賀美健（作家））／ユミコチバアソシエイツ主催トークイベント（会場：東京藝術大学、2017年10月31日）

発表 シンポジウム「再演、再制作、再展示」（赤羽亨（IAMAS）、石谷治寛（京都市立芸術大学芸術資源研究センター）、伊村靖子（IAMAS））／「岐阜おおがきビエンナーレ2017」（会場：情報科学芸術大学院大学（IAMAS）、2017年12月20日）

2 工芸館

◆今井陽子

論文 「On view ハッピーはここに：調度をめぐる生活感情と空間の造形」／『現代の眼』624号

展覧会カタログ 「おとなのハッピー」／所蔵作品展「こども×おとな工芸館 調度♡ハッピーのかたち」展セルフガイド

展覧会カタログ 「こどものハッピー」／所蔵作品展「こども×おとな工芸館 調度♡ハッピーのかたち」展セルフガイド

展覧会カタログ 「招待出品：川崎広平」／所蔵作品展「こども×おとな工芸館 調度♡ハッピーのかたち」展リーフレット

展覧会カタログ 「私のハッピー」「誰かとハッピー」「LIFE④ うつわ」「LIFE① 人形」「しなやかな境界」／所蔵作品展「こども×おとな工芸館 調度♡ハッピーのかたち」展リーフレット

発表 「『+』から『×』へ：こどもと一緒に工芸鑑賞」／せとうち美術館ネットワーク主催「第9回せとうち美術館サミット・特別講演会」（会場：兵庫県立美術館、2017年12月17日）

◆唐澤昌宏

論文 「On view 工芸館開館40周年記念特別展 陶匠 辻清明の世界—明る
寂びの美」後記／『現代の眼』625号

論文 「陶匠 辻清明の世界—明る寂びの美—」／「文化庁広報誌 ぶんかる」
(文化庁)(Web、2017年9月1日)

論文 「伝統工芸と硯」／『第45回日本の書展記念講演会 講演録』(公益財
団法人全国書美術振興会、2017年9月1日)

論文 「中島宏さんを悼む」／『西日本新聞』(西日本新聞社、2018年3月30日)

展覧会カタログ 「辻清明の作陶—明る寂びの美」、章解説、作品解説／「陶
匠 辻清明の世界—明る寂びの美」展

展覧会カタログ 「林恭助の作陶—「黄瀬戸」「黒織部」そして「曜変」／『林
恭助展』図録(厦門博物館、2017年5月)

展覧会カタログ 「平井智のマジョリカ陶「イタロジャポネ・マジョリカ」
—色彩と素材の美」／『平井智展』図録(アトリエ・ヒロ、2017年9月)

展覧会カタログ 「荒川豊蔵の「志野」—染野コレクションから見えてくる
もの」／『荒川豊蔵展』図録(荒川豊蔵資料館、2017年10月)

展覧会カタログ 「伊勢崎晃一朗の作陶—素材と焼成の美」／『伊勢崎晃一
朗展』図録(そごう西武、2017年10月)

展覧会カタログ 「白磁の造形—和田的の作陶」／『和田的展』図録(水戸忠
交易、2017年10月)

展覧会カタログ 「武蔵野美術大学 美術館・図書館の陶磁器コレクション
から考える「鑑賞」と「創造」」／『やきものの在処』展図録(武蔵野美術大学 美
術館・図書館、武蔵野美術大学 造形研究センター、2017年10月10日)

展覧会カタログ 「並木恒延の作品に漂う空気感」／『並木恒延 漆芸展—時
を刻む—』図録(株式会社和光、2017年11月)

展覧会カタログ 「生命の躍動—神谷紀雄の作陶が示すもの」／『神谷紀雄
陶展』図録(株式会社三越伊勢丹、2017年12月)

展覧会カタログ 「新たなる挑戦—伊藤栄傑の無名異焼」／『伊藤栄傑作陶
展』図録(株式会社三越伊勢丹、2018年1月)

展覧会カタログ 「日本の美を伝える—四代徳田八十吉の作陶」／『四代徳
田八十吉展』図録(大西ギャラリー、2018年3月)

発表 「伝統工芸と硯」／日本の書展45周年記念講演会(会場：名古屋東急
ホテル3Fヴェルサイユ、2017年6月7日)

発表 「ジョン・メイソンとアメリカ陶芸」／ジョン・メイソン展記念対談
(会場：現代美術 艸居、2017年7月15日)

発表 「陶による造形としての備前焼—細工物と陶彫」／「備前細工物のき
のう・きょう・あした」展関連講演会(会場：備前焼伝統産業会館3階総合
研修室、2017年7月23日)

発表 「辻清明の作陶—明る寂びの美」／辻清明研究会(会場：拓殖大学文
京キャンパス 国際教育会館、2017年9月30日)

発表 公開シンポジウム「陶芸家・辻清明の世界」(辻けい(染色家、辻清明
氏長女)、辻文夫(画家、辻清明氏次男)、山本幸子(元辻陶房))／辻清明研究
会(会場：拓殖大学文京キャンパス 国際教育会館、2017年9月30日)

発表 「荒川豊蔵作品の魅力—染野コレクションを中心として—」／特別展
「染野コレクションより“荒川志野”に見せられて」関連講演会(会場：久々利
公民館ホール、2017年10月15日)

発表 「漆芸のデザインを考える—鑑賞と創造—」／「日本伝統漆芸展」講演

会(会場：池袋コミュニティカレッジ、2018年1月11日)

◆北村仁美

論文 「鈴木長吉作《十二の鷹》科学的調査と修復の報告」/『東京国立近代美術館研究紀要』第22号

論文 「一九世紀後半の英国におけるインテリアの位置」/『a+a 美学研究<11>』(大阪大学大学院文学研究科比較デザイン学クラスター、2017年4月)

論文 「書評 吉村典子『ウィリアム・ド・モーガンとヴィクトリアン・アート』」/『デザイン理論』71号(意匠学会、2018年3月)

展覧会カタログ 名工の明治 I～IV章解説/所蔵作品展「名工の明治」展リーフレット

展覧会カタログ 名工の明治 作家解説(加納夏雄、香川勝広、海野清、香取秀真、桂光春、二十代堆朱楊成、松田権六、勝城蒼鳳、三代徳田八十吉、大角幸枝)/所蔵作品展「名工の明治」展リーフレット

展覧会カタログ 十二の鷹_X線調査パネル/所蔵作品展「名工の明治」展リーフレット

展覧会カタログ 十二の鷹_細部解説パネル/所蔵作品展「名工の明治」展リーフレット

発表 「工芸の動向～日本と西欧を中心に～」/東京国立近代美術館、高岡市美術館(公益財団法人高岡市民文化振興事業団)、北日本新聞社主催「工芸の躍動－東京国立近代美術館工芸館名品展」講演会(会場：高岡市美術館、2017年8月26日)

◆高橋佑香子

論文 「新しいコレクション 中野孝一《蒔絵棗 蝋》」/『現代の眼』624号

展覧会カタログ 「おとなのハッピー」/所蔵作品展「こども×おとな工芸館 調度♡ハッピーのかたち」展セルフガイド

◆中尾優衣

論文 「新しいコレクション 大島如雲《鑄銅大膽瓶》」/『現代の眼』625号

展覧会カタログ 「おとなのハッピー」/所蔵作品展「こども×おとな工芸館 調度♡ハッピーのかたち」展セルフガイド

展覧会カタログ 「名工の明治」作品解説(赤塚自得、池田泰眞、石黒宗麿、板谷波山、十二代今泉今右衛門、黒田辰秋、清水卯一、志村ふくみ、須田賢司、富本憲吉、平田郷陽、森口華弘)/所蔵作品展「名工の明治」展リーフレット

◆成田暢

論文「東京国立近代美術館工芸館名品展 陶磁いろいろ」/『石川県立美術館だより』第410号(2017年12月1日)

◆西岡梢

論文 「新しいコレクション 笹井史恵《かさね 8》」/『現代の眼』626号

展覧会カタログ 「おとなのハッピー」/所蔵作品展「こども×おとな工芸館 調度♡ハッピーのかたち」展セルフガイド

◆野見山桜

論文 作品研究「亀倉雄策の光の表現について」／『現代の眼』624号

論文 「イケアの『Homemade is Best』」／『アイデア』378号（誠文堂新光社、2017年6月10日）

論文 「ハーマンミラーのピクニック・ポスター」／『アイデア』378号（誠文堂新光社、2017年6月10日）

論文 「オトル・アイヒャーのイズニー」／『アイデア』380号（誠文堂新光社、2017年12月10日）

論文 「片山利弘について」／『アイデア』380号（誠文堂新光社、2017年12月10日）

論文 「鼎談：野見山桜×高橋恒一×林 要—クリエイティビティのあり処を巡って」／AXIS, vol.190（アクシス、2017年11月1日）

展覧会カタログ 辻清明語録、辻清明略年譜、交流作家略歴、参考文献／「陶匠 辻清明の世界—明る寂びの美」展

◆諸山正則

論文 「新しいコレクション 栗木達介《黄鱗文巻弁花器》」／『現代の眼』623号

1 普及活動 Educational Activities

1-1 資料の収集及び図書室の公開 Art Libraries and Other Reference Materials

[本館]

①収集活動

種別	購入	寄贈	遡及入力	計	収蔵総点数
和図書	105	1,370	4	1,479	34,313
洋図書	74	251	2	327	13,656
国内展覧会カタログ	1	1,180	6	1,187	60,210
国外展覧会カタログ	72	306	0	378	32,799
計	252	3,107	12	3,371	140,978

種別	購入	寄贈	遡及入力	計	収蔵総点数
和雑誌	—	—	—	95	4,172
洋雑誌	—	—	—	4	1,110

注)雑誌はタイトル数を計上

②アトライブラリ(本館2階)公開活動

開室日数	232日
公開件数	7,729件
入室者数	2,065人
公開請求件数	1,346件

[工芸館]

①収集活動

種別	購入	寄贈	遡及入力	計	収蔵総点数
和図書	16	174	4	194	9,347
洋図書	5	6	0	11	1,284
国内展覧会カタログ	0	466	6	472	15,137
国外展覧会カタログ	2	15	0	17	1,884
計	23	661	10	694	27,652

種別	購入	寄贈	遡及入力	計	収蔵総点数
和雑誌	—	—	—	21	1,326
洋雑誌	—	—	—	3	139

注) 1. 雑誌はタイトル数を計上

2. 収集点数の合計と収蔵総点数の合計に雑誌タイトル数は含まない

②図書閲覧室(工芸館1階)公開活動

開室日数	155日
公開資料件数	701件
入室者数	219人
公開請求件数	123件

1-2 児童生徒を対象とした事業

1-2-1 本館

◆小・中・高等学校への授業等への協力(ギャラリートークやガイダンス等を伴う受入)

平成29年5月17日	宮城県多賀城市立多賀城中学校 3年生 6人
平成29年5月31日	福井県若狭町立三方中学校 3年生 7人
平成29年6月1日	岐阜県美濃加茂市立西中学校 3年生 12人
平成29年6月7日	愛知県小牧市立味岡中学校 3年生 5人
平成29年6月9日	川崎市立東菅小学校 6年生 76人
平成29年6月16日	法政大学女子高等学校 2年生 11人
平成29年6月30日	江戸川区立東小松川小学校 4年生 136人
平成29年7月6日	本庄東高等学校附属中学校 2年生 116人
平成29年7月14日	和洋九段女子中学校 2年生 99人
平成29年7月27日	都立大泉桜高等学校 1、2年生 50人
平成29年8月3日	足立区立伊興中学校 1～3年生 9人
平成29年8月9日	羽村市立羽村第三中学校 1～3年生 15人
平成29年8月30日	江戸川区立清新第一小学校 6年生 139人
平成29年8月31日	荒川区立諏訪台中学校 3年生 15人
平成29年9月6日	山形県米沢市立第二中学校 3年生 23人
平成29年9月6日	山形県米沢市立第四中学校 3年生 6人
平成29年9月7日	豊島区立長崎小学校 5年生 47人
平成29年9月8日	文京区立第十中学校 3年生 75人
平成29年9月13日	自由学園初等部 5、6年生 42人
平成29年9月20日	江戸川区立第三松江小学校 5年生 79人
平成29年9月26日	鹿島学園高等学校通信制 1～3年生 27人
平成29年9月26日	昭和女子大学附属昭和小学校 6年生 100人
平成29年10月3日	二宮町立一色小学校 6年生 59人
平成29年10月19日	葛飾区立西小菅小学校 5、6年生 48人
平成29年10月25日	若草幼稚園年中組① 25人
平成29年10月25日	若草幼稚園年中組② 25人
平成29年11月15日	女子美術大学付属高等学校 1年生 210人
平成29年11月17日	江戸川区立東小松川小学校 5年生 98人
平成29年12月1日	広島県福山市立福山中学校 3年生 6人
平成29年12月12日	杉並区立杉並第一小学校 5年生 68人
平成29年12月12日	国分寺市立第七小学校 6年生 45人
平成29年12月14日	聖ドミニコ学園高等学校 1年生 54人
平成29年12月15日	文京区立本郷小学校 6年生 74人
平成29年12月26日	都立稔ヶ丘高等学校 1～4年生 9人
平成30年1月26日	茅ヶ崎市立緑が浜小学校 6年生 52人
平成30年1月30日	千葉県八千代市立勝田台南小学校 5年生 62人
平成30年2月2日	千代田区立九段小学校 5年生 67人
平成30年2月8日	江戸川区立第三松江小学校 3年生 78人
平成30年2月9日	中野区立中野中学校 2年生 6人
平成30年2月14日	東京都市大学附属小学校 3年生 80人
平成30年2月16日	杉並区立東田小学校 6年生 27人

◆学校教職員を対象とした研究会

「日本の家 1945年以降の建築と暮らし」 先生のための鑑賞日

【特別観覧日】

平成29年7月21日～23日

観覧者数：45人

「没後40年 熊谷守一 生きるよろこび」 先生のための鑑賞日

【特別観覧日】

平成29年12月1日～3日

観覧者数：43人

◆小・中学生向けプログラム

「夏休みトークラリー」(対象：小学5年生～中学3年生)

日時：平成29年7月26日 10時00分～12時30分 参加者数：69人

平成29年8月4日 10時00分～12時30分 参加者数：91人

「夏の小屋をつくろう 子どもワークショップ」(対象：小学1年生～4年生)

日時：平成29年8月10日 10時30分～12時30分 参加者数：23人

平成29年8月10日 14時00分～16時00分 参加者数：26人

平成29年8月11日 10時30分～12時30分 参加者数：23人

平成29年8月11日 14時00分～16時00分 参加者数：22人

◆未就学児向けプログラム

「おやこでトーク」(対象：未就学児とその保護者)

日時：平成29年6月24日 10時20分～11時30分 参加者数：10組20人

平成29年6月24日 13時20分～14時30分 参加者数：13組26人

平成29年6月25日 10時20分～11時30分 参加者数：16組32人

平成29年6月25日 13時20分～14時30分 参加者数：13組26人

平成29年7月1日 10時20分～11時30分 参加者数：12組24人

平成29年10月14日 10時20分～11時30分 参加者数：9組18人

平成29年10月14日 13時20分～14時30分 参加者数：13組26人

平成29年10月15日 10時20分～11時30分 参加者数：12組24人

平成29年10月15日 13時20分～14時30分 参加者数：13組26人

平成30年2月10日 10時20分～11時30分 参加者数：10組20人

平成30年2月10日 13時20分～14時30分 参加者数：10組20人

平成30年2月18日 10時20分～11時30分 参加者数：10組20人

平成30年2月18日 13時20分～14時30分 参加者数：12組24人

◆MOMATコレクションセルフガイド

小・中学生を対象として、所蔵作品展に関連したセルフガイドを来館した

小・中学生に配布した。

◆MOMATコレクションセルフガイドプチ&みつけてビンゴ！

4歳～8歳を目安とする子どもたちが、大人の方と一緒に使用して所蔵作品展を楽しむための鑑賞ツール「セルフガイド・プチ」「みつけてビンゴ！」を配布した。

1-2-2 工芸館

◆小・中・高等学校への授業等への協力(ギャラリートークやガイダンス等を伴う受入)

平成29年5月18日	港区立南山小学校4年生	28人
平成29年7月17日	石川県立金沢泉丘高校	5人
平成29年7月21日	大田区立大森東中学校	12人
平成29年7月26日	大田区立久原小学校小学2年生～6年生	18人
平成29年8月2日	千代田区立千代田小学校小学3年生～6年生	19人
平成29年8月9日	千葉大学教育学部附属中学校	8人
平成29年9月27日	江戸川区立二之江第三小学校5年生	53人
平成29年11月9日	江東区立越中島小学校4年生	31人
平成29年11月10日	江東区立越中島小学校4年生	61人
平成29年12月12日	荒川区立第三峡田小学校5年生・6年生	53人
平成29年12月13日	文京区立本郷小学校4年生	100人

◆学校教職員を対象とした研究会

平成29年7月1日 工芸作品鑑賞研究会 22人

◆児童・生徒向け美術教室等への協力(ギャラリートーク、タッチ&トークまたはガイダンスを伴う受入)

平成29年8月20日 ボーイスカウト第7カブ隊(小学3年生～6年生)
17人

◆小・中学生向けプログラム

平成29年4月22日、29日 動物ウォッチ 20人
平成29年8月18日 キュレーターに挑戦 12人
平成29年12月10日 型染めワークショップ「葉っぱでごあいさつ」 12人

◆未就学児から小学生向けプログラム

平成29年7月5日～9月2日の水・土曜日
ジロジロめがね製作工房 101人
平成29年7月23日、24日、25日
こどもタッチ&トーク 50人

◆家族向けプログラム(未就学児、小・中学生を含む)

平成29年4月23日 コロコロ羊毛フェルト 20人
平成29年7月5日～9月2日の水・土曜日
家族でタッチ&トーク 120人

平成29年8月11日 つなげてハッピー 57人

◆こどもセルフガイド／おとなセルフガイド

平成29年7月4日～9月3日に配布

こどものハッピー KIDS／おとなのハッピー
ADULTS (セルフガイド)

平成29年7月4日～9月3日に配布

みんなで作る調度♥ハッピーのかたち図鑑
(ワークシート)

<企画展>

◆「茶碗の中の宇宙 樂家一子相伝の芸術」特別茶会

日時：平成29年4月1日 11時00分～13時00分

講師：武蔵野美術大学 茶乃会、多摩美術大学 茶道研究會

聴講者数：93人

日時：平成29年4月1日 14時00分～16時00分

講師：武蔵野美術大学 茶乃会、多摩美術大学 茶道研究會

聴講者数：94人

◆「茶碗の中の宇宙 樂家一子相伝の芸術」講演会

日時：平成29年4月1日 13時30分～15時00分

講師：十五代 樂吉左衛門

聴講者数：145人

◆「茶碗の中の宇宙 樂家一子相伝の芸術」サイン会

日時：平成29年4月1日 15時00分～16時00分

講師：十五代 樂吉左衛門

聴講者数：100人

◆「茶碗の中の宇宙 樂家一子相伝の芸術」学生とのグループディスカッション

日時：平成29年4月1日 17時00分～18時00分

講師：十五代 樂吉左衛門、学生

聴講者数：72人

◆「日本の家 1945年以降の建築と暮らし」ギャラリートーク

日時：平成29年7月21日 18時30分～20時00分

講師：保坂健二郎(美術課主任研究員)、岡啓輔

聴講者数：55人

日時：平成29年7月28日 18時30分～20時00分

講師：保坂健二郎(美術課主任研究員)

聴講者数：58人

日時：平成29年9月30日 18時30分～20時00分

講師：保坂健二郎(美術課主任研究員)

聴講者数：70人

日時：平成29年10月13日 18時30分～20時00分

講師：保坂健二郎(美術課主任研究員)

聴講者数：70人

日時：平成29年10月28日 14時00分～15時30分
講師：保坂健二郎(美術課主任研究員)
聴講者数：80人

◆「日本の家 1945年以降の建築と暮らし」講演会

日時：平成29年8月19日 14時00分～15時30分
講師：中谷礼仁(建築工学家、早稲田大学教授)
聴講者数：96人

日時：平成29年9月2日 14時00分～15時30分
講師：アサダワタル(文化活動家、アーティスト)
聴講者数：35人

日時：平成29年9月15日 18時30分～20時00分
講師：田所辰之助(建築史家、日本大学教授)
聴講者数：60人

◆「日本の家 1945年以降の建築と暮らし」シンポジウム

日時：平成29年9月1日 18時30分～20時00分
講師：青木淳(建築家、東京藝術大学客員教授)、西沢立衛(建築家、横浜国立大学大学院Y-GSA教授)、保坂健二郎(美術課主任研究員)
聴講者数：151人

日時：平成29年10月29日 14時00分～16時00分
講師：塚本由晴(アトリエ・ワン 本展チーフ・アドバイザー、東京工業大学大学院教授)、菊地敦己(アートディレクター、グラフィックデザイナー)、保坂健二郎(美術課主任研究員)
聴講者数：120人

◆「日本の家 1945年以降の建築と暮らし」ワークショップ

「夏の小屋をつくろう 大人ワークショップ」
日時：平成29年8月9日 10時00分～15時00分
講師：dot architects (家成俊勝+赤代武志)、吉行良平(デザイナー)
参加者数：10人

日時：平成29年8月10日 10時00分～15時00分
講師：dot architects (家成俊勝+赤代武志)、吉行良平(デザイナー)
参加者数：10人

日時：平成29年8月11日 10時00分～15時00分
講師：dot architects (家成俊勝+赤代武志)、吉行良平(デザイナー)
参加者数：10人

◆「日本の家 1945年以降の建築と暮らし」けんちく体操

日時：平成29年8月4日 18時30分～20時00分
講師：けんちく博士
参加者数：23人

日時：平成29年9月9日 14時00分～15時30分
講師：けんちく博士
参加者数：16人

◆「日本の家 1945年以降の建築と暮らし」アーバンキャンプ

日時：平成29年9月30日～10月1日

講師：MOSAKI

参加者数：65人

◆「没後40年 熊谷守一 生きるよろこび」講演会

日時：平成29年12月16日 14時00分～15時30分

講師：藏屋美香(企画課長)

聴講者数：153人

日時：平成30年1月13日 14時00分～15時30分

講師：岡崎乾二郎(造形作家、批評家)

聴講者数：153人

日時：平成30年2月24日 14時00分～15時30分

講師：高畑勲(アニメーション映画監督)、聞き手：藏屋美香(企画課長)

聴講者数：153人

<所蔵作品展>

◆キュレーター・トーク

「うつわをめぐる美術」

日時：平成29年4月21日 18時30分～19時30分

講師：鈴木勝雄(企画課主任研究員)

聴講者数：28人

「国画創作協会100年(まであと1年)」

日時：平成29年5月27日 14時00分～15時00分

講師：鶴見香織(美術課主任研究員)

聴講者数：49人

「斜めを見る、斜めから見る」

日時：平成29年6月30日 19時00分～20時00分

講師：榊田倫広(企画課研究員)

聴講者数：10人

「1970年頃 | アーティストとキュレーター」

日時：平成29年7月22日 14時00分～15時00分

講師：三輪健仁(美術課主任研究員)

聴講者数：42人

「こんなにちがうぞ、マチスとピカソ」

日時：平成29年8月25日 18時30分～19時30分

講師：中林和雄(副館長)

聴講者数：72人

「道はどっちに向かうのか：岸田劉生《道路と土手と堀(切通之写生)》と東山魁夷《道》」

日時：平成29年9月29日 19時00分～20時00分

講師：藏屋美香(企画課長)

聴講者数：75人

「美術館でヨガ」

日時：平成29年11月4日 17時30分～19時00分

講師：一條彰子(企画課主任研究員)、師岡絵美里(ヨガ講師)

聴講者数：50人

「昭和戦前期の写真について」

日時：平成29年11月18日 14時00分～15時00分

講師：都築千重子(美術課主任研究員)

聴講者数：54人

「アヴァンギャルドは二度死ぬ、あるいは死なない？」

日時：平成29年12月22日 18時30分～19時30分

講師：大谷省吾(美術課長)

聴講者数：28人

「難民と戦後のアート」

日時：平成30年1月20日 14時00分～15時00分

講師：保坂健二郎(美術課主任研究員)

聴講者数：45人

「美術館で朝ヨガ」

日時：平成30年2月4日 8時30分～10時15分

講師：一條彰子(企画課主任研究員)、師岡絵美里(ヨガ講師)

聴講者数：52人(有料1,000円)

「写真コレクションあれこれ」

日時：平成30年3月24日 14時00分～15時00分

講師：増田玲(美術課主任研究員)

聴講者数：42人

◆アーティスト・トーク

MOMATコレクション展関連企画 ホンマタカシ ニュードキュメンタリー
「最初にかケスがやってくる」映画上映会(225分)+アーティスト・トーク
(15分)

日時：平成30年3月24日 15時15分～19時15分

講師：ホンマタカシ

聴講者数：30人

＜企画展＞

◆マルセル・ブロイヤーの家具：Improvement for good

ギャラリートーク

日時：平成29年4月15日 14時00分～15時00分

講師：芦原太郎(建築家)

聴講者数：60人

ギャラリートーク

日時：平成29年4月22日 14時00分～15時00分

講師：北村仁美(工芸課主任研究員)

聴講者数：38人

◆工芸館開館40周年記念特別展 陶匠 辻清明の世界—明る寂びの美

開館40周年記念イベント 40歳のアーティストトーク

日時：平成29年11月12日 17時30分～19時00分

講師：中田英寿(元サッカー日本代表)+新里明土(陶芸家)+村瀬治兵衛(木
工作家)

聴講者数：54人

日時：平成29年11月19日 17時30分～19時00分

講師：須田悦弘(現代美術家)+新里明土(陶芸家)

聴講者数：55人

開館40周年記念呈茶

日時：平成29年10月1日 10時30分～15時30分

呈茶：村瀬治兵衛(木工作家)+嘉門工藝

参加者数：60人

ギャラリートーク

日時：平成29年9月17日 14時00分～15時00分

講師：唐澤昌宏(工芸課長)

聴講者数：23人

ギャラリートーク

日時：平成29年10月8日 14時00分～15時00分

講師：唐澤昌宏(工芸課長)

聴講者数：32人

ギャラリートーク

日時：平成29年10月29日 14時00分～15時00分

講師：唐澤昌宏(工芸課長)

聴講者数：25人

＜所蔵作品展＞

◆ギャラリー・トーク

「動物集合」展

日時：平成29年4月16日 14時00分～15時00分
講師：成田暢(工芸課特定研究員)
聴講者数：38人

「子ども×おとな工芸館 調度♥ハッピーのかたち」展
日時：平成29年7月9日 14時00分～15時00分
講師：西岡梢(工芸課研究補佐員)
聴講者数：14人

「日本の工芸—自然を愛でる—」展
日時：平成30年1月7日 14時00分～15時00分
講師：諸山正則(工芸課特任研究員)
聴講者数：44人

「名工の明治」展ギャラリートーク&オオタカと写真撮影会
講師：田籠善次郎氏・大塚紀子氏(ともに諏訪流鷹師)
日時：平成30年3月18日 14時00分～15時00分
聴講者数：57人

◆アーティストトーク

「日本の工芸—自然を愛でる—」展
日時：平成29年12月17日 14時00分～15時00分
講師：杉浦康益(陶芸家)
聴講者数：68人

<巡回展等>

◆東京国立近代美術館工芸館名品展 人為と天然

ギャラリートーク「コレクションにみる近現代工芸の流れ」
日時：平成29年12月2日 14時00分～15時00分
講師：北村仁美(工芸課主任研究員)
聴講者数：33人

おやかでタッチ&トーク「作品の関連資料に実際に触れる体験と、展示室での鑑賞」

日時：平成29年11月23日 14時00分～15時30分
講師：今井陽子(工芸課主任研究員)、西岡梢(工芸課研究補佐員)
参加者数：約10名

◆工芸の躍動—東京国立近代美術館工芸館名品展

講演会「伝統から創造へ—世界へ発信する漆造形表現—」
日時：平成29年8月12日 14時00分～15時30分
講師：田中信行(漆造形作家・金沢美術工芸大学教授)
聴講者数：約30人

講演会「工芸の動向～日本と西欧を中心に～」
日時：平成29年8月26日 14時00分～15時30分
講師：北村仁美(工芸課主任研究員)
聴講者数：約40人

◆東京国立近代美術館名品展 陶磁いろいろ

講演会「日本の近現代陶芸－歴史と鑑賞－」

日時：平成29年12月2日 14時00分～15時00分

講師：金子賢治(茨城県陶芸美術館長)

聴講者数：180人

ギャラリートーク

日時：平成29年11月11日 14時00分～15時00分

講師：唐澤昌宏(工芸課長)

聴講者数：48人

ギャラリートーク

日時：平成29年12月17日 14時00分～15時00分

講師：成田暢(工芸課特定研究員)

聴講者数：26人

タッチ&トーク

日時：平成29年11月25日 14時00分～15時00分

講師：今井陽子(工芸課主任研究員)、西岡梢(工芸課研究補佐員)

参加者数：10人

1-4 大学等との連携

1-4-1 本館

◆インターンシップ

参加者数：6名

研修内容：コレクション・企画展・美術館教育の3分野における基本的な日常業務の補助、および研修者の目的に沿った個別事業への参加。

◆キュレーター研修

主催：独立行政法人国立美術館

参加者数：1名

研修内容：所蔵作品の展示作業、保管と管理、広報や画像貸出等についての研修。

◆大学の授業等への協力（ギャラリートークやガイダンス等を伴う受入）

平成29年5月2日	日本大学通信教育部 3、4年生 40人
平成29年5月9日	早稲田大学国際コミュニティセンター（ICC）大学生、大学院生 24人
平成29年5月14日	東大ドリームネット 大学生 13人
平成29年6月2日	千葉大学 文学部 2、3年生 11人
平成29年6月10日	早稲田大学文化構想学部多元文化論系アジア近世史ゼミ 3、4年生 11人
平成29年6月14日	IES全米大学連盟東京留学センター 大学生 14人
平成29年7月21日	アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター 大学生、大学院生 16人
平成29年8月30日	埼玉大学博物館教育論 1～4年生 19人
平成29年9月23日	東京工業大学工学部建築学科 20人
平成29年10月4日	共立女子大学家政学部児童学科① 3年生 35人
平成29年10月4日	共立女子大学家政学部児童学科② 3年生 35人
平成29年11月1日	中央大学 1～4年生 31人
平成29年11月2日	中央大学 1～4年生 7人
平成29年11月15日	共立女子大学家政学部児童学科① 3年生 35人
平成29年11月15日	共立女子大学家政学部児童学科② 3年生 35人
平成29年12月20日	共立女子大学家政学部児童学科① 3年生 35人
平成29年12月20日	共立女子大学家政学部児童学科② 3年生 35人

◆生涯学習施設等への協力

平成29年5月31日	一般社団法人大学女性協会（JAUW） 30人
平成29年6月18日	甲陽学院地歴部同窓生 7人
平成29年6月27日	国立西洋美術館 4期建築ボランティアスタッフ 10人
平成29年7月20日	国立美術館新任職員研修 40人
平成29年9月14日	日本建築学会地球の声デザイン小委員会 15人

平成29年9月29日	船橋傾聴ボランティア	15人
平成29年9月30日	習志野市民カレッジOB	18人
平成29年10月12日	NHK文化センター青山教室・横浜教室	22人
平成29年10月14日	甲陽学院62回生東京同期会	27人
平成29年11月22日	新高根公民館女性セミナー	20人
平成29年12月15日	観光庁観光産業課	6人
平成29年12月16日	自由学園リビングアカデミー	60人
平成30年2月7日	千代田区高齢者活動センター	11人
平成30年2月21日	千代田区高齢者活動センター	10人

1-4-2 工芸館

◆インターンシップ

受入なし

◆博物館実習

受入なし

◆キュレーター研修

主催：独立行政法人国立美術館

参加者数：2名

研修内容：展示、作品保管、貸出に関する作業、ボランティアガイド養成研修と所蔵作品展関連イベント、教育プログラムに関する作業の研修

◆大学の授業等への協力（ギャラリートークやガイダンス等を伴う受入）

平成29年4月24日	家政大学	73人
平成29年5月13日	東京学芸大学	30人
平成29年5月16日	京都造形芸術大学東京芸術学舎	14人
平成29年5月20日	杉野服飾大学	11人
平成29年6月30日	筑波大学	18人
平成29年7月3日	筑波大学	18人
平成29年10月2日	家政大学	71人
平成29年11月17日	東京藝術大学	12人
平成29年12月16日	東京学芸大学	11人
平成30年1月5日	東京藝術大学	10人
平成30年1月20日	筑波技術大学	12人
平成30年1月27日	東洋美術学校	7人
平成30年2月3日	慶應義塾大学	10人

◆生涯学習施設等への協力

平成29年4月14日	小森コーポレーション	30人
平成29年4月25日	株式会社ナイスク	25人
平成29年7月8日	三越・伊勢丹の旅	7人
平成29年10月16日	日本工芸会東日本支部染織部会	40人

平成29年10月29日	阪急交通社の旅 21人
平成29年11月8日	ワカバ会 16人
平成29年11月10日	ミスインターナショナル 32人
平成29年12月10日	日本工芸会東海支部陶芸部会 11人
平成29年12月16日	日本クラフトデザイン協会 15人
平成30年2月8日	はいからツアー 38人
平成30年2月15日	はいからツアー 38人
平成30年3月4日	日本クラフトデザイン協会 15人

東京国立近代美術館の特色ある取り組みとして、ガイドスタッフの行う対話型ギャラリートークが、新聞・雑誌・TV・ウェブ記事等、メディアに紹介された。特に、サマーフェス期間中の夜間開館特別企画として実施したフライデー・ナイトトークは、経済紙の1面に取り上げられるなどし、来館者層の拡大に貢献した。フォローアップ研修では外部講師を招き「版画の技法と鑑賞」について学び、所蔵作品への理解を深めた。

ボランティアの登録人数 41人

◆MOMATガイドスタッフによる所蔵作品ガイド

平成29年5月27日～7月17日	44回／980人
平成29年7月19日～9月10日	46回／2486人
平成29年9月12日～11月5日	48回／545人
平成29年11月14日～平成30年1月14日	50回／459人
平成30年1月16日～3月18日	53回／696人
平成30年3月20日～5月27日	59回／879人

◆ハイライト・ツアー

平成29年6月4日	25人
平成29年7月2日	23人
平成29年8月6日	30人
平成29年9月3日	28人
平成29年10月1日	25人
平成29年11月5日	45人
平成29年12月3日	25人
平成30年1月7日	24人
平成30年2月4日	40人
平成30年3月4日	35人

◆春まつりトークラリー

日時：平成29年4月2日 12時00分～15時00分
参加者数：1350人

◆「日本の家 1945年以降の建築と暮らし」関連ワークショップ

「プチプチ・ガーデン」

日時：平成29年7月19日 13時00分～15時00分
参加者数：12人

日時：平成29年7月26日 13時00分～15時00分
参加者数：20人

日時：平成29年8月2日 13時00分～ 15時00分
参加者数：20人

日時：平成29年8月16日 13時00分～ 15時00分
参加者数：30人

日時：平成29年8月23日 13時00分～ 15時00分
参加者数：20人

日時：平成29年8月30日 13時00分～ 15時00分
参加者数：20人

◆フライデー・ナイトトーク

日時：平成29年7月21日 19時30分～ 20時00分
参加者数：27人

日時：平成29年7月28日 19時00分～ 19時30分
参加者数：30人

日時：平成29年7月28日 19時30分～ 20時00分
参加者数：30人

日時：平成29年8月4日 19時00分～ 19時30分
参加者数：25人

日時：平成29年8月4日 19時30分～ 20時00分
参加者数：25人

日時：平成29年8月11日 19時00分～ 19時30分
参加者数：30人

日時：平成29年8月11日 19時30分～ 20時00分
参加者数：15人

日時：平成29年8月18日 19時00分～ 19時30分
参加者数：40人

日時：平成29年8月18日 19時30分～ 20時00分
参加者数：40人

日時：平成29年8月25日 19時30分～ 20時00分
参加者数：50人

日時：平成29年9月1日 19時00分～ 19時30分
参加者数：25人

日時：平成29年9月1日 19時30分～ 20時00分

参加者数：28人

日時：平成29年9月8日 19時00分～19時30分

参加者数：30人

日時：平成29年9月8日 19時30分～20時00分

参加者数：30人

1-5-2 工芸館

工芸館ガイドスタッフの8期メンバーの募集と養成研修を実施。養成研修も13回を重ねたことで研修内容が精査され、また平常の活動や学校との研究協力によって対話を取り入れたスタイルが定着したことで、研修の目的は前回まで以上に達成できたと考える。8期には外国語に堪能なメンバーも含まれることから、これまで工芸館で10年以上実施してきた英語タッチ&トークのさらなる活性化が期待できる。

ボランティアの登録人数 33人

◆タッチ&トーク

所蔵作品展「動物集合」展	15回／204人
所蔵作品展「こども×おとなこうげいかん 調度♥ハッピーのかたち」展 家族でタッチ&トーク	18回／120人
所蔵作品展「こども×おとなこうげいかん 調度♥ハッピーのかたち」展 おとなのタッチ&トーク	18回／147人
工芸館開館40周年記念特別展「陶匠 辻清明の世界—明る寂びの美—」	20回／190人
所蔵作品展「日本の工芸—自然を愛でる—」展	21回／253人
工芸館開館40周年記念所蔵作品展「名工の明治」	9回／170人

◆連携事業

「名工の明治」展MOVIE+TOUCH&TALK

1回／55人(共催：公益財団法人ポーラ伝統文化振興財団)

小・中・高等学校の教員、美術館の学芸員、教育委員会の指導主事が一堂に会し、美術の鑑賞力を高めるための講演、グループワーク及び発表、事例紹介、ワールドカフェ（全体討論）、アートカード・ワークショップ等を、初めて関西で開催した。なお、昨年引き続き「平成29年度教員免許状更新講習」を実施した。

主 催：独立行政法人国立美術館

共 催：文部科学省

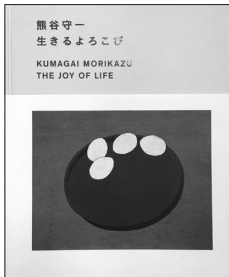
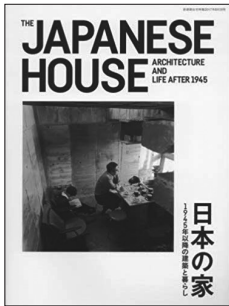
会 場：京都国立近代美術館、京都市勧業館みやこめっせ

日 時：平成29年7月31日(月)～8月1日(火)

参加者数：81名

(小学校教諭17名、中学校教諭21名、高等学校教諭11名、指導主事5名、学芸員24名、特別支援学校教諭3名)

教員免許状更新講習：受講者数12名、修了12名



2 刊行物 Publications

2-1 企画展覧会カタログ

2-1-1 本館

日本の家 1945年以降の建築と暮らし

30×23cm

255p

編著者：保坂健二郎、塚本由晴、藤岡洋保

出版者：新建築社

出版年：2017.7

熊谷守一 生きるよろこび

22×18cm

359p

編著者：蔵屋美香、喜安嶺、鈴川宏美

出版者：日本経済新聞社

出版年：©2017-2018

2-1-2 工芸館

工芸館開館40周年特別展 陶匠 辻清明の世界—明る寂びの美—

29.8×22.7cm

172p

編著者：唐澤昌宏、野見山桜

出版者：東京国立近代美術館

出版年：2017



2-2 目録・ガイド等

2-2-1 本館

彫刻を作る 語る 見る 聞く

60×21cm (折りたたみ15×21cm)

1枚

編著者：大谷省吾

出版者：東京国立近代美術館

出版年：©2017

日本の家 1945年以降の建築と暮らし

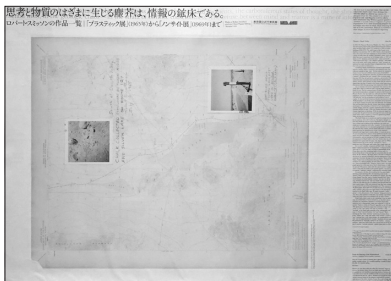
30×42cm (折りたたみ30×21cm)

1枚

編著者：保坂健二朗、能作文徳、小畑俊介、山崎鯛介

出版者：東京国立近代美術館

出版年：©2017



ロバート・スミッソンの作品一覧「プラスチック展」(1965年)から「ノンサイト展」(1969年)まで

103×73cm (折りたたみ52×73cm)

1枚

編著者：三輪健仁、上崎千

出版者：東京国立近代美術館

出版年：2017.5

「生誕150年横山大観展」子どもセルフガイド日本画スペシャル

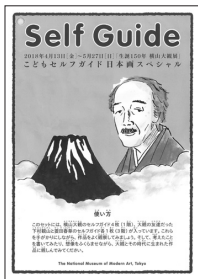
21×15cm

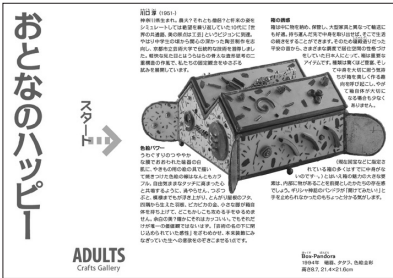
9枚(リング止め)

編著者：東京国立近代美術館教育普及室

出版者：[東京国立近代美術館]

出版年：2018.3





おとなのハッピー ADULTS [一般向けセルフガイド]

17.9×50.8cm (折りたたみ 17.9×8.5cm)

1枚

編著者：今井陽子、中尾優衣、西岡梢、高橋佑香子

出版者：東京国立近代美術館

出版年：2017



こどものハッピー KIDS [こども向けセルフガイド]

17.9×50.8cm (折りたたみ 17.9×8.5cm)

1枚

編著者：今井陽子

出版者：東京国立近代美術館

出版年：2017

みんなでつくる「調度♥ハッピーのかたち図鑑(ずかん)」(ワークシート)

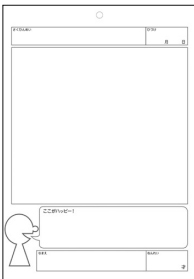
21×14.8cm

1枚

編著者：今井陽子、西岡梢

出版者：東京国立近代美術館

出版年：2017



工芸館開館40周年記念所蔵作品展 名工の明治 [作品解説シート]

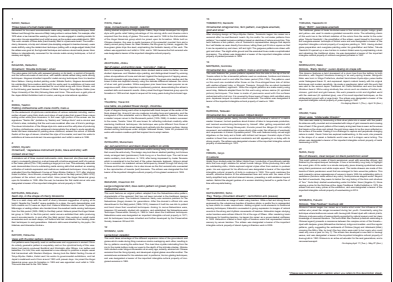
30×42cm (折りたたみ 30×21cm)

3枚(英・中・韓 各1枚)

編著者：北村仁美、中尾優衣

出版者：東京国立近代美術館

出版年：2018



「名工の明治」：工芸館開館40周年記念所蔵作品展 《十二の鷹》解説

(英語・中国語・韓国語)

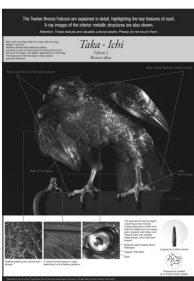
30×21cm

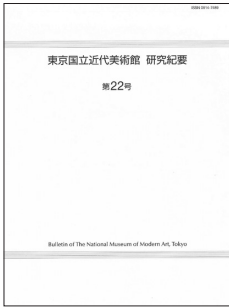
36枚(英・中・韓 各12枚)

編著者：北村仁美、中尾優衣

出版者：東京国立近代美術館

出版年：2018年3月





2-3 研究紀要・年報等

東京国立近代美術館研究紀要 第22号

24×19cm

90p

出版者：東京国立近代美術館

出版年：2018.3

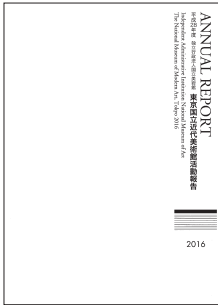
平成28年度 東京国立近代美術館活動報告

26×19cm

254p

出版者：東京国立近代美術館

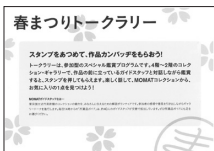
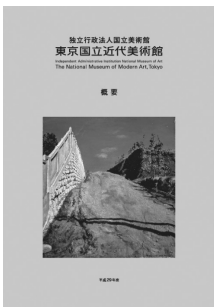
出版年：2018.3



平成29年度 東京国立近代美術館概要

30×21cm

17p



2-4 その他の刊行物

2-4-1 本館

春まつりトークラリー・スタンプカード

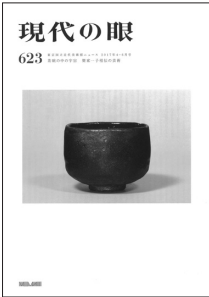
30×21cm (折りたたみ15×21cm)

1枚

編著者：[東京国立近代美術館教育普及室]

出版者：[東京国立近代美術館]

出版年：2017.4



30×21cm／16p
編著者：東京国立近代美術館、美術出版社
出版者：東京国立近代美術館

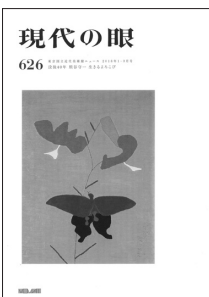
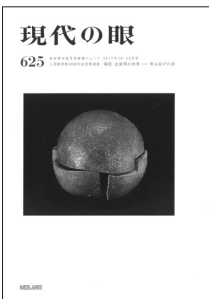
No.623 2017年4-6月号
特集：茶碗の中の宇宙 樂家一子相伝の芸術
出版年：2017.4

No.624 2017年7-9月号
特集：日本の家 1945年以降の建築と暮らし
出版年：2017.7



No.625 2017年10-12月号
特集：工芸館開館40周年記念特別展 陶匠 辻清明の世界—明る寂びの美
出版年：2017.10

No.626 2018年1-3月号
特集：没後40年 熊谷守一 生きるよろこび
出版年：2018.1



展覧会については、企画展のプレスリリースによるメディア向け情報発信のほか、チラシ・ポスターや新聞・交通機関・Web等の主要媒体へ広告出稿、ホームページやSNSによる情報発信を行った。所蔵作品展についても同様にプレスリリースを配信するなど、広報活動を強化した。

また本館では、展覧会だけでなく美術館そのものの広報(全館広報)として、地域連携や季節を考慮しながら館の強みをいかしたイベントの企画・実施とPR活動を展開した。夏は「MOMATサマーフェス」として、展覧会や常設のワークショップコーナー「プチプチ・ガーデン」のほか、夜の所蔵品ガイドプログラム「フライデー・ナイトトーク」や子ども美術館、前庭にはガーデン・ビアバーを設置するなど、“大人も子供も昼も夜も楽しめる美術館”をコンセプトにイベントを実施した。春は、千鳥が淵など桜の名所を擁する千代田区と連携して「美術館の春まつり」を開催し、工芸館と本館の所蔵作品展を中心に、所蔵品ガイドの特別企画「春まつりトークラリー」や前庭でのガーデンカフェ、周辺地域一帯の「千代田のさくらまつり」会場を巡回する無料シャトルバスの停留所設置などを行った。

その他、外部との連携も強化し、東京都立3館(東京都美術館、東京都江戸東京博物館、東京都写真美術館)と国立3館(東京国立近代美術館、国立西洋美術館、国立新美術館)の連携による夜間開館の共同PRや、東京メトロとのタイアップによる「サマーミュージアム・スタンプラリー」実施、「Find My Tokyo」シリーズ広告竹橋篇への登場などが実現した。

訪日外国人向けには、「美術館の春まつり」にあわせてPR番組を制作し、アジア6カ国(台湾・インドネシア・シンガポール・ミャンマー・スリランカ・モンゴル)で放映したほか、海外メディア(欧米豪・アジア)へのプレスリリース配信を行うなど、主に現地向けの広報活動を展開した。

3-2 美術館情報システムによる普及・広報

ホームページはタイムリーで分かりやすい情報発信を心がけ、展覧会や「美術館の春まつり」「MOMATサマーフェス」などの情報を画像にも工夫しながら掲載した。また、美術館のPRポイントをまとめたページ(美術館について)を作成し、英語・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語対応の更新も行った。今年度のホームページへのアクセス数は前年と比較して約140万件増加した。

SNSではFacebookとTwitterを継続し、魅力的な画像の添付やタイムリーな投稿に注力した。

平成25年6月に策定された「国立美術館のデータベース作成と公開の指針」にもとづき国立美術館各館の情報担当者による「国立美術館データベース作成と公開に関するWG」が継続的に会合を持って、各館の課題の整理と今後の事業について協議を深め、特に収蔵作品の来歴等歴史的データの蓄積および公開情報資源に関わるゲートウェイシステムの開発について検討を進め、前者についてはデータの試作を、後者についてはプロトタイプ的设计を進めた。

- (1) ホームページのアクセス件数
6,985,317件(本館・工芸館・フィルムセンター含む)
- (2) インターネットによる調査研究成果の公表
『研究紀要』第11号より、収録論文全文のホームページへの掲載を開始し、本年度も継続している。また、『現代の眼』600号より、収録記事全文の図書検索システム(OPAC)への登載も同様に取り組んでいる。なお、『研究紀要』『現代の眼』および自館開催展覧会カタログなどの目次情報をホームページや図書検索システムで従来通り公開している。
- (3) インターネットを用いた広報
 - ①SNS等を活用した取り組み
外部環境変化であるデジタルマーケティングの時流や効果を考慮し、SNSによるタイムリーかつ多様な情報発信に注力した。具体的にはTwitter (<http://twitter.com/momat60th>)、facebook (<http://www.facebook.com/momat.pr/>)を活用し、過去の投稿内容と効果を検証しながら運用した。担当学芸員による展示の見どころやこだわり、裏話の紹介を中心に、日々の臨場感溢れる展覧会情報や関連イベント告知、グッズ紹介、メディアへの掲載記事紹介などを配信した。さらに、画像の重要性を考慮し、展覧会や主要イベントでは魅力的な広報用画像を撮影して添付することを心掛けた。Twitterのフォロワー実績(2018年4月2日時点)は89,087。
 - ②美術館情報システムによる広報活動
独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システムに新収蔵作品の文字画像データを追加するとともに、同システムへの著作権のある作品画像掲載を進めるため、許諾を得た「平成18年度以降の新収蔵作品の作家」の作品1,644点について画像を新規登録した。また、著作権者情報の整備を引き続き行い、平成27年度以降の新収蔵作品の作家の著作権許諾申請手続を開始した。

フィルムセンターは、東京国立近代美術館の映画部門であるが、その収集方針については、芸術的評価を第一義とする選択的なアート・ミュージアム・ポリシーではなく、我が国唯一の国立映画機関として映画の歴史を全て集積させることを目標に掲げるアーカイバル・ポリシーを重視しており、年代、製作国及びフォーマットなどを問わず、あらゆる映画フィルムを収集している。中でも、日本映画については、最優先で網羅的な収集を目指しているが、この方針は各国のナショナル・フィルム・アーカイブが自国映画遺産の安全保護と次世代への確実な継承に責任を負うべきだという国際フィルム・アーカイブ連盟(FIAF)の精神にも合致している。

また、経年劣化や劣悪な環境に置かれていたため分解、腐朽が懸念されるフィルム、廃棄、滅失等による散逸が懸念されるフィルムや国内外で残存することが判明した作品を優先して収集する一方、文化的、歴史的、美学的に重要な作品も積極的に収集することとしている。

上映事業との関連では、とりわけ企画上映に必要となるフィルム、国際交流に必要な作品などのプリント作成を優先的に行っている。

平成29年度は、特に以下の点等について留意した。

ア 公開当時の画調を忠実に再現するために、カメラマンの立ち会いの下、フィルム複製を行うとともに、必要なデータを保存する。

イ 「BDCプロジェクト」と連動し、フィルム映画をデジタル化した保存用素材及び上映用素材、デジタル映画から複製された保存用素材、上映用素材及びレコーディングしたフィルム等の収集を行う。

企画上映に伴う映画フィルム等の購入では、羽田澄子監督作品について、『歌舞伎役者 片岡仁左衛門』6部作(1992-94年)等22作品・25本の映画フィルムを、石井岳龍監督作品については、『爆裂都市/BURST CITY』(1982年)等8作品・11本の映画フィルムと、デジタル作品4作品の上映用素材及び保存用素材等を購入したことが、本年度の特徴である。また、『木屋町三條』より『その前夜』(萩原遼監督、1939年)と『東京物語』(小津安二郎監督、1953年)については、海外での共催上映を念頭に新たに35mmプリントを作成・購入するとともに、前者には英語字幕を付した。

また、寄贈では、無声映画保存会より尾上松之助主演の『忠臣蔵』(1910-12年、牧野省三監督)の35mm可燃性染色ポジの寄贈を受けた。長さは不完全ながら、これまで活弁トーキー版のみが確認されていた同作のよりオリジナルに近い素材が発見されたことは特筆される。このほかにも、羽田澄子監督より『古代の美』(1958年)他全15本のプリント、中村幻児監督より『性神風土記3 赤い妖精』(1973年)他全12本のプリント、村野鐵太郎監督より『上方苦界草紙 KAMIGATA-KUGAI-ZOSHI』(1991年)の原版2本、岩佐寿彌監督の御親族より『叛軍No.1』(1970年)他全7本のプリント、横山隆一監督の御親族より『おんぶおぼけ』(1955年、横山隆一監督)原版1本の寄贈を受けるなど、文化記録映画、アニメーション映画からインディペンデント作品まで広範囲にわたる種別の作品を新たにコレクションに加えることができた。また上記の『忠臣蔵』『叛軍No.1』『おんぶおぼけ』を含め、本年の寄贈フィルムから多くの作品が上映企画「発掘された映画たち2018」でお披露目され注目を集めたことも特筆される。

平成29年度映画フィルム収集本数

種別(genre)	購入(purchase)	寄贈(donation)	所蔵総本数(total)
劇映画	120	196	316
文化・記録映画	150	288	438
アニメーション映画	29	94	123
ニュース映画	0	0	0
テレビ用映画	0	1	1
計	299	579	878

Although National Film Center (NFC) is the film division of the National Museum of Modern Art, Tokyo, as the only national film institution in Japan it regards its archival policy as acquisition. This means that it aims at accumulating the entire film history, rather than having a selective art museum policy that puts emphasis on artistic evaluation. To this end, NFC collects all kinds of motion picture films regardless of the year, country or format. Especially prioritizing Japanese films to aim to build a comprehensive collection, this policy matches the spirit of the International Federation of Film Archives (FIAF), which is to say that the national film archive of each country should be responsible for safeguarding its own film heritage and for securing it as an inheritance for future generations.

In collecting, NFC prioritizes films that have deteriorated or that might start decomposing owing to age or poor storage conditions in the past, as well as films at risk of being lost by being discarded or scattered, and films discovered extant within and outside of Japan. NFC is also actively trying to collect culturally, historically, and esthetically important films. In relation to screenings, NFC puts priority on preparing such prints as are needed for in-house screenings and international exchanges. NFC concentrated on the following points in fiscal year 2017.

a. NFC duplicates films requiring the expertise of a cinematographer to reproduce the image quality as close as possible to the original release and preserve necessary data.

b. In conjunction with 'BDC Project', NFC collects both preservation and projection materials digitized from film cinema, as well as preservation and projection materials duplicated from digital cinema, and materials recorded on film.

Noteworthy purchased films etc. for screening programs in fiscal year 2017 were firstly 25 films of 22 titles directed by Sumiko Haneda such as six chapters of *Kabuki yakusha Kataoka Nizaemon* [Kabuki Actor Nizaemon] (1992-94), and secondly 11 films of eight titles and projection and preservation materials of four digital cinema titles directed by Gakuryu Ishii such as "Burst City" (1982). Also, concerning "*Kiyomachi sanjo*" yori: *Sono zenya* (1939) directed by Ryo Hagiwara and "Tokyo Story" (1953) directed by Yasujiro Ozu, NFC newly made and purchased 35mm prints and added English subtitles to the former in preparation for co-organized screenings overseas. As a donation from Musei Eiga Hozon-kai, NFC acquired a 35mm tinted nitrate positive of *Chushingura* (1910-12) directed by Shozo Makino and starring Matsunosuke Onoe. Though incomplete, this was notable because it was closer to the original than the only existing *katsuben* talkie version. Other than this, a total of 15 prints from director Sumiko Haneda such as *Kodai no bi* [Beauty of the Ancients] (1958), 12

prints in all from director Genji Nakamura such as *Seishin fudoki 3: Akai yosei* (1973), two original negatives of “Kamigata-Kugai-Zoshi” (1991) from director Tetsutaro Murano, seven prints in all from the relatives of director Hisaya Iwasa such as *Hangun No.1* (1970), and an original negative of *Onbu obake* (1955) from the relatives of director Ryuichi Yokoyama were donated. As a result, NFC was able to newly add a wide variety of genres; documentary, animation, and independent films, to the collection. Also worthy of mention is that many films donated in fiscal year 2017 were shown and attracted media attention as part of the series ‘Cinema: Lost and Found 2018’ including the above mentioned *Chushingura*, *Hangun No.1*, and *Onbu obake*.

映画関連資料については、映画史の深まりとともに対象となる時期が長くなる一方、国内に同種機関が少ないことから寄贈される資料の数が年々増加する傾向にあるが、スチル写真やポスターなど基礎資料の整理方法が確立したことから、登録等の処理能力の及ぶ限りにおいて多くの受け入れを行うこととしている。従来からのシナリオやプレス資料のデータベース登録を前進させるとともに、アクセスへの対応が可能な資料のさらなる増加を目指す。また映画館の相次ぐ閉館や映画関連会社の活動停止によるポスターや機材などの受け入れにも、適宜対応している。

平成29年度は日本映画に関わるものを中心に、映画史の調査研究に資する資料の収集を行い、日活株式会社からロビーカード、スチル写真アルバム、台本等4,993点、東宝東和株式会社からスチル写真、映画パンフレット及びポスターなど19,272点の寄贈を受け、16件の寄贈者から合わせて25,236点の寄贈を受けた。

寄贈 25,236点

- (1) 八木浩子氏よりライオン35mm手回し映写機 1点
- (2) 山下浩子氏より『ウホッホ探検隊』（脚本・山下賢章）のシナリオなど14点
- (3) 西川芳男氏より映画撮影監督西川芳男氏旧蔵写真アルバム 3点
- (4) 香川京子氏より香川京子氏旧蔵シナリオ、旧蔵写真 6点
- (5) 柳下美恵氏より柳下美恵氏旧蔵図書 22点
- (6) 岩波ホールより高野悦子氏旧蔵図書『Chroniques du cinéma français』など 73点
- (7) 宮澤聡氏より洋雑誌『Cinema : das Kinoprogramm』Nr.2 (1977)など41点
- (8) 濱田優巳氏より日本映画スチル写真『民衆の敵』（1947年、今井正監督）など 493点
- (9) 株式会社アイカムよりエリ合成アニメーション撮影台 1点
- (10) 西尾壽美氏よりウェスタン・エレクトリック35mm光学録音機など6点
- (11) 永井善久氏より女優井川邦子氏のサイン 1点
- (12) 川合知代氏より『東京流れ者』（1966年、鈴木清順監督）ドイツ版のポスターなど 40点
- (13) 川合知代氏より『東京流れ者』（1966年、鈴木清順監督）ドイツ版のポスターなど 40点
- (14) 日活株式会社より『危険な年齢』（1957年、堀池清監督）のロビーカードなど 5,262点
- (15) 東宝東和株式会社より『チャップリンの替玉』（1916年、チャールズ・チャップリン監督）のスチル写真（ネガフィルム）など 19,272点
- (16) 沼崎憲滋氏よりSankyo 8mm ZOOM REF 8撮影機 1点

Regarding non-film materials, NFC is getting more donations each year as it is one of the very few institutions of its kind in Japan. In addition, the time span is getting wider as film history deepens. Since its standard of organizing basic materials such as still photos and movie posters has been

set, NFC is now trying to acquire as much material as possible within its capacity of data entry etc. Aiming at further increasing the range of materials accessible to the public, NFC is continuing to catalog scenarios and press materials through the construction of its database. As the need arises NFC also acquires posters and equipment from cinemas and film related companies as they close down. In fiscal year 2017, NFC collected materials which can be useful for research on film history, mainly related to Japanese films. A total of 25,236 items were donated from 16 donors including 4,933 items such as lobby cards, albums of still photographs, and scenarios that were donated by Nikkatsu and 19,272 items such as still photographs, film programs and posters from Toho-Towa.

映画フィルムのデジタル復元については、重要文化財指定を受けた『小林富次郎葬儀』（1910年、吉澤商店）可燃性35mmオリジナルネガや、『コルシカの兄弟』（1915年、アンドレ・アントワーヌ監督）可燃性35mm染色プリント、海外で発見された『男一匹の意地』（1921年、コリン・キャンベル監督）の可燃性35mmプリントを元素材とするスキャンデータをもとに、「BDCプロジェクト」が実施したデジタル復元に協力した。また、株式会社KADOKAWA、国際交流基金による小津安二郎監督『浮草』（1959年）のデジタル復元では技術協力を行い初公開当時のアグファ・カラーの再現を試みた。

従来の写真化学的な復元（アナログ復元）を実行するために必要な技術データの更新と保存を図るために、本年度は、相米慎二監督『セーラー服と機関銃 完璧版』（1982年）の再タイミング版作成を行い、同作を担当した仙元誠三カメラマンの監修と、当時タイミング（色彩補正）に関わったフィルムセンター技術スタッフの助言をもとに、初公開当時の色彩の再現を試みた。

修復件数

映画フィルムデジタル復元	0本
ノイズリダクション等	21本
不燃化作業	42本
映画フィルム洗浄	2本

As regards digital restoration of motion picture film, NFC cooperated with the digital restorations implemented by ‘BDC Project’ based on the scanned data of source materials, for example nitrate 35mm original negative of “The Funeral of Tomijiro Kobayashi” (1910, Yoshizawa Shoten), tinted 35mm nitrate print of “The Corsican Brothers” (1915) directed by André Antoine, and 35mm nitrate print of “Where Lights Are Low” (1921) directed by Colin Campbell, which was discovered overseas. In addition, for the digital restoration of Yasujiro Ozu’s *Ukikusa* [*A Story of Floating Weeds*] (1959), NFC provided technical assistance to reproduce the Agfa color of its original release. For update and preservation of the technical data necessary for the conventional photochemical restoration (analog restoration), in this fiscal year of 2017, NFC made a newly calibrated perfect version (132 min.) of “Sailor Suit and Machine Gun” (1982) directed by Shinji Somai to aim at the color of its first release, under the supervision of the original cinematographer Seizo Sengen and with advice from a member of NFC’s technical staff who was the original color timing person.

The number of restoration projects:

Digital restoration of motion picture films	0
Noise reduction, etc.	21
Making safety duplicates from nitrate films	42
Film Cleaning	2

文化庁が実施する「日本映画情報システム」については、文化庁主導で民間へ委託することで運営管理を行っている。当館としては、本年度も当館公開データベースへの接続に関する協力を行っている。

「所蔵映画フィルム検索システム」については、本年度中に日本劇映画の作品情報106件を新たに公開し、公開件数は7,405件となった。

	公開レコード数	累計公開件数
所蔵映画フィルム検索システム	106件	7,405件

As for the 'Japanese Cinema Database' implemented by the Agency for Cultural Affairs, the Agency has taken the lead in entrusting the system to a private entity that runs and maintains it. NFC has continued to participate by connecting it with our open database. Regarding the number of records open to the public through our open database, 106 records of Japanese feature films were newly added, resulting in 7,405 records in total.

II 公衆への観覧

1 上映会等 Screening Programs and Exhibitions

1-1 入場者数 Number of Visitors

	上映日数	プログラム数	上映作品数	上映回数	1回平均入場者数	入館者数	
上映会(大ホール)	215日	258	381	493	143人	70,535人	
上映会(小ホール)	26日	28	51	46	104人	4,782人	
上映会計	241日	286	432	539	140人	75,317人	
	一般	シニア	学生	小人	障害者等	無料	キャンパスメンバーズ
上映会 入館者数内訳	45.67%	28.26%	1.14%	0.08%	11.63%	6.18%	7.04%
	開催日数			1日平均入館者数		入館者数	
展覧会(展示室)	240日				76人	18,327人	
上映会と展覧会計	481日					93,644人	

1-1-1 上映会 Screening Programs

回数	上映会名	入場者数(人)	会場
390	よみがえるフィルムと技術	3,002人	大ホール
391	EUフィルムデーズ2017	10,251人	大ホール
392	映画プロデューサー 佐々木史朗	4,589人	大ホール
393	《京橋映画小劇場 No.35》アンコール特集	2,389人	小ホール
394	特集・逝ける映画人を偲んで2015-2016	20,709人	大ホール
395	第39回PFF	4,683人	大ホール 小ホール
396	シネマの冒険 闇と音楽2017	1,347人	大ホール
397	ジョージ・イーストマン博物館 映画コレクション	2,487人	大ホール
398	《京橋映画小劇場 No.36》ドキュメンタリー作家 羽田澄子 Part2	2,393人	小ホール
399	日本におけるチェコ文化年2017 チェコ映画の全貌	6,338人	大ホール
400	ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント コレクション	4,937人	大ホール
401	発掘された映画たち2018	9,006人	大ホール
402	自選シリーズ 現代日本の映画監督6 石井岳龍	3,186人	大ホール

1-1-2 展覧会 Visitors to Exhibitions

回数	展覧会名	入場者数(人)
50	人形アニメーション作家 持永只仁	6,946人
51	生誕100年 ジャン＝ピエール・メルヴィル、暗黒映画の美	3,287人
52	ポスターでみる映画史Part.3 SF・怪獣映画の世界	8,094人

1-2 上映会 Screening Programs

1-2-1 上映会一覧(開館より平成28年度まで)
Screenings from the Opening Programs in Fiscal 1970 until 2016

回数 企画名

昭和45年度[1970]

- 1 アメリカ古典映画の回顧
Retrospective of American Classic Films
- 2 成瀬巳喜男監督の特集
Films of Mikio Naruse
- 3 シナリオライター野田高梧をしのぶ
In Memory of the Scriptwriter Kogo Noda
- 4 フランス映画の歴史
History of French Films
- 5 ドイツ映画の回顧
Retrospective of German Films

昭和46年度[1971]

- 6 田中絹代特集——女優の歩みに見る日本映画史
Kinuyo Tanaka-Japanese Film History as Seen by an Actress
- 7 内田吐夢監督の回顧上映
Retrospective of Tomu Uchida
- 8 フランス映画の特集
French Film Program
- 9 アニメーション映画の回顧
Retrospective of Animation Film
- 10 小津安二郎監督の特集
Films of Yasujiro Ozu

昭和47年度[1972]

- 11 ベルギー映画の特集
Belgian Film Program
- 12 占領下の日本映画
Japanese Films under the Occupation
- 13 音楽映画の特集
Music Film Program
- 14 新収蔵映画の上映
Newly Acquired Films
- 15 金語楼映画の特集
Kingoro Yanagiya, Film Comedian
- 16 ポーランド映画の回顧
Retrospective of Polish Films
- 17 日本の記録映画特集—戦前篇—
Japanese Documentary Films: The Prewar Era

昭和48年度[1973]

- 18 イタリア映画の特集
Italian Film Program
- 19 溝口健二監督の特集
Films of Kenji Mizoguchi
- 20 飯田蝶子特集
Choko Iida, Film Actress
- 21 1930年代ヨーロッパ映画特集
European Films in the 1930s
- 22 1930年代ヨーロッパ映画特集(再上映)
European Films in the 1930s (Reprise)
- 23 収蔵映画未公開作品の上映
Unshown Films from Our Collection
- 24 現代ブルガリア映画の展望
Review of Contemporary Bulgarian Films
ジョン・フォード監督の回顧上映
In Memory of John Ford

昭和49年度[1974]

- 25 五所平之助監督特集
Films of Heinosuke Gosho
- 26 特集・逝ける映画人を偲んで
In Memory of Film Figures We Lost
- 27 日本の記録映画特集—戦後篇
Japanese Documentary Films: The Postwar Era
- 28 監督研究—清水宏と石田民三
Directors Research: Hiroshi Shimizu and Tamizo Ishida
- 29 島津保次郎監督特集
Films of Yasujiro Shimazu
- 30 フランス映画を創った人たち—第1期
People who Made French Film (1)
- 31 ハンガリー映画祭—ハンガリー映画の30年
Hungarian Film Festival: 30 Years of Hungarian Films
- 土曜特集 映画史上の名作
Saturday Special: Masterpieces of Film History
第9回東京国際アマチュア映画コンクール入賞作品披露上映
Awarded Films at the 9th Tokyo International Amateur Film Competition

昭和50年度[1975]

- 32 収蔵映画未公開作品の上映(戦前の時代劇を集めて)
Unshown Films in Our Collection
- 33 —エリザベス女王来日記念—英国映画の史的展望
Historical Review of British Films
- 34 特集・逝ける映画人を偲んで 1974-1975
In Memory of Film Figures We Lost 1974-1975

35 昭和50年度(第30回記念)芸術祭協賛 芸術祭大賞映画の回顧
Awarded Films at the Arts Festival of the Agency for Cultural Affairs

36 フランス映画を創った人たち—第2期
People who Made French Film (2)

37 小津安二郎監督特集
Films of Yasujiro Ozu

土曜特集 映画史上の名作
Saturday Special: Masterpieces of Film History

昭和51年度[1976]

38 戦後日本映画の流れ(1946-62) 収蔵映画未上映作品から
"Mainstreams of Postwar Japanese Film (1946-62)" - from Unshown Films
in Our Collection

39 戦前ドイツ・オーストリア映画の回顧 1919-1937
A Retrospective Screening of Prewar German and Austrian Films (1919-
1937)

40 監督研究 衣笠貞之助
Director Research: Teinosuke Kinugasa

41 特集・逝ける映画人を偲んで 1975-1976
In Memory of Film Figures We Lost in 1975-1976

42 70年代ポーランド映画の展望
Review of Polish Cinema in the 70s

43 建国200年記念 アメリカ映画の史的展望 1894-1936
The American Bicentennial - Panorama of American Cinema (1894-1936)

44 木下恵介監督特集
Keisuke Kinoshita Special Series

45 春休み少年少女名作鑑賞
Best Films for Boys and Girls for Spring Holidays

土曜特集 土曜特集：映画史上の名作
Saturday Special: Masterpieces of Film History

第10回アマチュア映画コンクール入賞作品披露上映
The 10th Tokyo International Amateur Film Contest - Screening of Prize
Winning Films

昭和52年度[1977]

46 文化功労者記念—黒澤明監督特集
Special Series – Akira Kurosawa (In Commemoration of Kurosawa's
receiving the Cultural Order of Merit)

47 監督研究 伊藤大輔
Director Research: Daisuke Ito

48 現代ブルガリア映画の展望
Review of Contemporary Bulgarian Films

49 恐怖と幻想の映画特集
Films of Terror and Fantasy

50 長篇ドキュメンタリー映画10選
10 Long Documentary Films

- 51 夏休み少年少女名作鑑賞
Famous Films for Boys and Girls for Summer Holidays
- 52 特集・逝ける映画人を偲んで 1976-1977
Memories of Film Figures We Lost in 1976-1977
- 53 映画に見る昭和十年代
The Second Decade of Showa (1935-1945) as Reflected in Films
- 54 日本映画技術の発展—戦後30年—
Development of Japanese Movie Techniques – During 30 Years after World War II
- 55 カナダ映画の史的展望
Historical Review of Canadian Films
- 56 ソ連映画の史的展望 1923-1946
Historical Review of Soviet Films
- 57 日本のアニメーション映画(1924-1958)
Japanese Animated Films (1924-1958)
- 58 春休み少年少女名作鑑賞
Best Films for Boys and Girls for Spring Holidays
- 土曜特集 土曜特集
Saturday Special Film Series

昭和**53**年度[1978]

- 59 日本映画の流れ(1961-1966) 収蔵映画未上映作品より
Stream of Japanese Films (1961-66) – from Unshown Films in Our Collection
- 60 映画史上の名作(第1集)
Masterpieces of Film History (Part 1)
- 61 溝口健二監督特集
Kenji Mizoguchi Retrospective
- 62 夏休み少年少女名作鑑賞
The Best Films for Boys and Girls during the Summer Holidays
- 63 特集・逝ける映画人を偲んで 1977-1978
Memories of Deceased Film World Personalities 1977-1978
- 64 一生誕100年記念—マキノ省三とその人脈
— The 100th Anniversary— Shozo Makino and his followers
- 65 映画史上の名作(第2集)
Masterpieces of Film History (Part 2)
- 66 チャップリン初期短篇特集—キーストン, エッサネイ, ミューチュアル,
ファースト・ナショナル時代—
Chaplin's Early Film – Keystone, Essanay, Mutual and First-National Period
- 67 デンマーク映画の史的展望
Panorama of Danish Films
- 68 田坂具隆監督特集
Tomotaka Tasaka Retrospective

昭和54年度[1979]

- 69 春休み少年少女名作鑑賞
Best Films for Boys and Girls for Spring Holidays
土曜特集
Saturday Special Film Series
短篇・文化・記録映画特集
Special Series for Short Films, Cultural Films and Documentary Films

- 70 長谷川一夫特集
Special Series of Kazuo Hasegawa
- 71 映画史上の名作
Masterpieces of Film History
- 72 特集・逝ける映画人を偲んで 1978-1979
In Memory of Film Figures We Lost in 1978-1979
- 73 夏休み少年少女名作鑑賞
Best Films for Boys and Girls for Summer Holidays
- 74 成瀬巳喜男監督特集
Mikio Naruse Retrospective
- 75 現代ベルギー映画の展望
Panorama of Contemporary Belgian Films
- 76 牛原虚彦監督特集
Kiyohiko Ushihara Retrospective
- 77 豊田四郎監督特集
Shiro Toyoda Retrospective
- 78 戦後フランス映画秀作集 1945-1954
The Collection of the Best Postwar French Films (1945-1954)
- 79 監督研究 ジャン・ルノワール
Special Series of Jean Renoir
- 80 オーストラリア映画の史的展望
Historical Panorama of Australian Films
- 81 春休み少年少女名作鑑賞
Best Films for Boys and Girls for Spring Holidays

- 土曜特集
Saturday Special Film Series
短篇・文化・記録映画特集
Special Series of Short Films, Cultural Films and Documentary Films

昭和55年度[1980]

- 82 戦後日本映画の流れ(1967-1971)
Stream of the Japanese Postwar Cinema (1967-1971)
- 83 監督研究 クロード・ジュトラ
Director Study: Claude Jutra
- 84 映画史上の名作
Masterpieces of Film History

- 85 特集・逝ける映画人を偲んで 1979-1980
In Memory of Film Figures We Lost in 1979-1980
- 86 夏休み少年少女名作鑑賞
Best Films for Boys and Girls for Summer Holidays
- 87 監督研究 吉村公三郎と新藤兼人
- The 30th Anniversary of Kindai Eiga Kyokai- Directors Study: Kozaburo
Yoshimura and Kaneto Shindo
- 88 戦後フランス映画秀作集 1955-1960
Collection of the Best Postwar French Films (1955-1960)
- 89 小津安二郎監督特集
Yasujiro Ozu Retrospective
- 90 マーティン・スコセッシ監督特集
Martin Scorsese Retrospective
- 91 スイス映画の史的展望 1941-1979
Historical Overview of Swiss Films (1941-1979)
- 92 一国際障害者年協賛一春休み少年少女名作鑑賞
- An International Year of the Handicapped Project - Best Films for Boys
and Girls for Spring Holidays
- 土曜特集 土曜特集
Saturday Special Film Series
- 短篇・文化・記録映画特集
Special Series of Short Films, Cultural Films and Documentary Films

昭和56年度[1981]

- 93 サドウル賞受賞作選集
Winners of Georges Sadoul Prize
- 94 映画史上の名作
Masterpieces of Film History
- 95 稲垣浩監督特集
Retrospective of Hiroshi Inagaki
- 96 特集・逝ける映画人を偲んで 1980-1981
In Memory of Film Figures We Lost in 1980-1981
- 97 夏休み少年少女名作鑑賞
Best Films for Boys and Girls for Summer Holidays
- 98 1920年代のドイツ映画
German Films of the 1920s
- 99 日本のトーキー：誕生から確立へ
Japanese Talking Pictures: From Birth to Establishment
- 100 イタリア古典映画選集
Classic Italian Films
- 101 日本映画史研究(1) 東映映画30年の歩み
Japanese Film History Research (1) - Thirty Years of Toei Movies
- 102 フィンランド映画の史的展望 1940-1977
Historical Overview of Finnish Films (1940-1977)

- 103 収蔵映画未上映作品集(外国篇)
Unscreened Foreign Films from the Film Center Collection
- 104 春休み少年少女名作鑑賞
Best Films for Boys and Girls for Spring Holidays
- 土曜特集 短篇・文化・記録映画特集
Special Series of Short Films, Cultural Films and Documentary Films
- 土曜特集
Saturday Special Film Series

昭和**57**年度[1982]

- 105 映画史上の名作
Masterpieces of Film History
- 106 D.W.グリフィス監督特集
D. W. Griffith Retrospective
- 107 夏休み少年少女名作鑑賞
Best Films for Boys and Girls for Summer Holidays
- 108 特集・逝ける映画人を偲んで 1981-1982
In Memory of Film Figures We Lost in 1981-1982
- 109 日本映画史研究(2) 東宝映画50年の歩み
Japanese Film History Research (2) – Fifty Years of Toho Movies
- 110 現代イギリス映画の展望
Overview of Contemporary British Films
- 111 スウェーデン映画の史的展望 1910-1969
Historical Overview of Swedish Films 1910-1969
- 112 春休み少年少女名作鑑賞
Best Films for Boys and Girls for Spring Holidays
- 短篇・文化・記録映画特集
Special Series of Short Films, Cultural Films and Documentary Films

昭和**58**年度[1983]

- 113 映画史上の名作
Masterpieces of Film History
- 114 ジョン・フォード監督特集<1917-1946>
John Ford Retrospective (1917-1946)
- 115 夏休み少年少女名作鑑賞
Best Films for Boys and Girls for Summer Holidays
- 116 特集・逝ける映画人を偲んで<1982-1983>
In Memory of Film Figures We Lost in 1982-1983
- 117 フランス映画の回顧 1930-1946 (1)
French Film Retrospective (1930-1946) Part 1
- 118 今井正監督特集
Tadashi Imai Retrospective
- 119 フランス映画の回顧 1930-1946 (2)
French Film Retrospective (1930-1946) Part 2

- 120 春休み少年少女名作鑑賞
Best Films for Boys and Girls for Spring Holidays
短篇・文化・記録映画特集
Special Series of Short Films, Cultural Films and Documentary Films

昭和59年度[1984]

- 121 フィルムセンター所蔵映画選集(1)
Selected Films from the Collection of the Film Center, Part I
- 122 1920年代のドイツ映画—表現主義と新即物主義の間
German Films of the 1920s – Between Expressionism and New Objectivity
- 123 撮影監督 宮川一夫特集
Retrospective of Kazuo Miyagawa, Director of Photography
- 124 夏休み少年少女名作鑑賞
Best Films for Boys and Girls for Summer Holidays
- 125 特集・逝ける映画人を偲んで 1983-1984
In Memory of Film Figures We Lost in 1983-1984
- 126 スペイン映画の史的展望 1951-1977
Historical Review of Spanish Films (1951-1977)
- 127 フィルムセンター所蔵外国映画選集
Selected Foreign Films from the Collection of the Film Center
短篇・文化・記録映画特集
Special Series of Short Films, Cultural Films and Documentary Films

昭和60年度[1985]

- 128 フィルムセンター所蔵日本映画選集—名傍役の魅力—
Selected Japanese Films from the Collection of the Film Center –
Outstanding Supporting Players
- 129 中国映画の回顧 1922-1952
Retrospective of Chinese Films (1922-1952)
- 130 所蔵外国映画選集Ⅱ
〈フィルムセンター焼失フィルムのための募金の会寄贈による〉
Selected Foreign Films from the Collection of the Film Center, Part II
- 131 フィルムセンター所蔵日本映画選集—映画カメラマンの魅力
〈1921-1944〉
Selected Japanese Films from the Collection of the Film Center –
Outstanding Cameramen (1921-1944)
- 132 特集・逝ける映画人を偲んで 1984-1985
In Memory of Film Figures We Lost in 1984-1985

昭和61年度[1986]

- 133 フィルムセンター所蔵外国映画選集
Selected Foreign Films from the Collection of the Film Center
- 134 日本映画史研究(3) —蒲田映画の世界〈1921-1936〉
Japanese Film History Research (3) - The World of Kamata Film 1921-1936
- 135 アメリカ映画の名匠たち—ラオール・ウォルシュとその時代
〈1914-1939〉
Masters of American Film – Retrospective of Raoul Walsh and Others
1914-1939

	136	現代スイス映画の展望 Survey of Contemporary Swiss Film
昭和62年度[1987]	137	蒲田映画の若き日—小津・清水・成瀬 When Kamata Film was Young – Early Works by Ozu, Shimizu and Naruse
	138	フィルムセンター所蔵外国映画選集 Selected Foreign Films from the Collection of the Film Center
	139	特集・逝ける映画人を偲んで<1986-1987> In Memory of Film Figures We Lost in 1986-1987
	140	中国映画の回顧<1932-1964> Retrospective of Chinese Films, 1932-1964
	141	フィルムセンター所蔵外国映画選集 Selected Foreign Films from the Collection of the Film Center
	142	フィルムセンター所蔵日本映画選集(1) Selected Japanese Films from the Collection of the Film Center 1
昭和63年度[1988]	143	フィルムセンター所蔵日本映画選集(2) Selected Japanese Films from the Collection of the Film Center 2
	144	特集・逝ける映画人を偲んで<1987-1988> In Memory of Film Figures We Lost in 1987-1988
	145	フィルムセンター所蔵映画選集—日本のアニメーション Selected Japanese Animation Films from the Collection of the Film Center
	146	フィルムセンター所蔵外国映画選集 D.W.グリフィスとその時代 D. W. Griffith and His Age - Selected Foreign Films from the Collection of the Film Center
平成元年度[1989]	147	フィルムセンター所蔵日本映画選集 新興キネマの時代 Selected Japanese Films from the Film Center Collection – The World of <i>Shinko Kinema</i>
	148	フランス映画の黄金時代 The Golden Age of French Film
	149	日本映画の系譜 Selected Works of Japanese Film Masters
	150	戦後ヨーロッパ映画秀作選 Selected Postwar European Film Masterpieces
平成2年度[1990]	151	シナリオ作家 依田義賢特集 Retrospective of Yoshikata Yoda, Screenwriter
	152	特集・「ポーランド派」の映画(1948-1963) Selected Postwar Polish Films 1948-1963
	153	特集・逝ける映画人を偲んで<1988-1989> In Memory of Film Figures We Lost in 1988-1989 特集上映 日本映画の系譜 Selected Works of Japanese Film Masters

平成3年度 [1991]	154	発掘された映画たち—小宮登美次郎コレクション Cinema: Lost and Found – From the Collection of Tomijiro Komiya
	155	特集・逝ける映画人を偲んで〈1990-1991〉 In Memory of Film Figures We Lost in 1990-1991 特集上映 日本映画の系譜 Selected Works of Japanese Film Masters
平成4年度 [1992]	156	内田吐夢監督特集 Retrospective of Tomu Uchida
	157	孫瑜監督と上海映画の仲間たち 中国映画の回顧 Sun Yu and His Shanghai Colleagues – Retrospective of Chinese Films
	158	フィルムセンター所蔵日本映画選集 Selected Japanese Films from the Collection of the Film Center 特集上映 日本映画の系譜 Selected Works of Japanese Film Masters 「忠次旅日記」特別上映会 Special Screening of <i>Chuji Tabi Nikki</i>
平成5年度 [1993]	159	知られざるアメリカ映画 American Films – The Little Known
	160	特集・逝ける映画人を偲んで〈1991-1993〉 In Memory of Film Figures We Lost in 1991-1993 特集上映 日本映画の系譜 Selected Works of Japanese Film Masters
平成6年度 [1994]	161	サイレント・ルネサンス 映画と音楽の新たな出会いに向けて Silent Film Renaissance
平成7年度 [1995]	162	フィルムは魅了する：銀幕の体験 Reviving the Enchantment of Cinema A Special Program for the Opening of the New National Film Center
	163	フィルムは記録する：日本の文化・記録映画作家たち Glimpses of Nippon: A Japanese Documentary Tradition A Special Program for the Opening of the New National Film Center
	164	マキノ雅広の世界：「次郎長三國志」と「日本侠客伝」 <i>Jirocho-sangokushi</i> and <i>Nihon-kyokaku-den</i> : Two Movie Series by Masahiro Makino
	165	インド映画の魅力 A Passage to 'Film India': From Rekha to Ghatak
	166	1930年代ヨーロッパ映画10選 Diversity in Europe: Ten Films from the '30s
	167	女優 山田五十鈴 Isuzu Yamada, Our Actress
	168	特集・逝ける映画人を偲んで 1993-1994 In Memory of the Film Figures We Lost in 1993-1994

- 169 第8回東京国際映画祭協賛企画 特集上映 日本映画の系譜
Selected Works of Japanese Film Masters
A 1995 Tokyo International Film Festival Sponsored Event
- 170 特別企画上映／映画生誕百周年記念 シネマの冒険 闇と音楽
Silent Film Renaissance 1995
A Program for the Centenary of Cinema at the NFC
- 171 コニカラー：甦る国産カラー・プロセス「緑はるかに」特別上映会
Special Screening of a Restored Konicolor Feature: *Midori Harukani / Far off in the Green*
A Program for the Centenary of Cinema at the NFC
- 172 映画生誕百周年記念 ゴーモン映画の100年 フランス映画の100年
Gaumont Presents: A Century of French Cinema
A Program for the Centenary of Cinema at the NFC
- 173 映画生誕百周年記念 ジョルジュ・メリエス 夢と魔法の王国
Georges Méliès: In the Kingdom of Dreams and Magic
A Program for the Centenary of Cinema at the NFC
- 174 ゴーモン映画秀作選
Gaumont Presents More
- 175 1950年代の青空と太陽
Brighter Summer Days: Films by Yasuzo Masumura and Ko Nakahira in the late '50s

平成8年度[1996]

- 176 日本映画の発見Ⅰ：無声映画時代
Rediscovering Our National Film Heritage (I): The Silent Years
- 177 日本映画の発見Ⅱ：トーキーの開始と戦前の黄金時代
Rediscovering Our National Film Heritage (II): The Advent of Sound and the Prewar Golden Age
- 178 芸術祭協賛 シネマの冒険 闇と音楽1996
Silent Film Renaissance 1996
- 179 ジャン・ルノワール、映画のすべて。
Le Grand Théâtre de Jean Renoir
- 180 フィルムは記録する'97：日本の文化・記録映画作家たち
Glimpses of Nippon '97: A Japanese Documentary Tradition

平成9年度[1997]

- 181 日本映画の発見Ⅲ：戦争の時代
Rediscovering Our National Film Heritage (III): During the War Years
- 182 特集・逝ける映画人を偲んで1995-1996
In Memory of the Film Figures We Lost in 1995-1996
- 183 芸術祭協賛 シネマの冒険 闇と音楽1997
Silent Film Renaissance 1997
- 184 NFC所蔵外国映画選集 1970年代映画の一断面
Films in the 1970s: A Profile
- From the Foreign Film Collection of the National Film Center -
- 185 フィルムは記録する'98：日本の文化・記録映画作家たち
Glimpses of Nippon '98: A Japanese Documentary Tradition

平成10年度[1998]

- 186 日本映画の発見Ⅳ：占領下のNIPPON
Rediscovering Our National Film Heritage (IV): Nihon Eiga under the Occupation
- 187 特集・逝ける映画人を偲んで1997
In Memory of the Film Figures We Lost in 1997
- 188 シネマの冒険 闇と音楽1998
Silent Film Renaissance 1998
- 189 憧憬のフランス映画—1930年代を中心に—
En souvenir du cinema français

平成11年度[1999]

- 190 日本映画の発見Ⅴ：栄光の'50年代
Rediscovering Our National Film Heritage (V): The Glorious 1950s
- 191 発掘された映画たち1999
Cinema: Lost and Found 1999
- 192 ハリウッド伝説 ハワード・ホークス映画祭
Legend of Hollywood: A Howard Hawks Retrospective
- 193 シネマの冒険 闇と音楽：フリッツ・ラング選集
Silent Film Renaissance - Featuring Fritz Lang

平成12年度[2000]

- 194 特別追悼特集 偉大なる“K” (1)：小林正樹
Homage to Three Great “K”s - Part 1: Masaki Kobayashi
- 195 特別追悼特集 偉大なる“K” (2)：黒澤明
Homage to Three Great “K”s - Part 2: Akira Kurosawa
- 196 特別追悼特集 偉大なる“K” (3)：木下恵介
Homage to Three Great “K”s - Part 3: Keisuke Kinoshita
- 197 シネマの冒険 闇と音楽：オランダの無声映画
Silent Film Renaissance: Dutch Silent Cinema
- From the Collection of Nederlands Filmmuseum -
- 198 フィルムは記録する2001：日本の文化・記録映画作家たち
Glimpses of Nippon 2001: A Japanese Documentary Tradition
- 199 発掘された映画たち2001：ロシア・ゴスフィルモフォンで発見された日本映画
Cinema: Lost and Found - The Treasure of Japanese Cinema Returns from Russia

平成13年度[2001]

- 200 中国映画史の流れ：無声後期からトーキーへ
A Study of Chinese Cinema: From Silent to Sound
- 201 日本映画の発見Ⅵ：1960年代
Rediscovering Our National Film Heritage (VI): 1960s
- 202 日本におけるイタリア2001 イタリア映画大回顧
Grande Retrospectiva del Cinema Italiano: dal muto agli anni 80
- 203 フィルムで見る20世紀の日本
Twentieth Century Japan as Captured by Film

平成14年度[2002]

- 204 NFC所蔵外国映画選集 追憶のスター女優たち
Remembering Star Actresses - From the Foreign Film Collection of the National Film Center -
- 205 日本映画の発見Ⅶ：1970年代
Rediscovering Our National Film Heritage (VII): 1970s
- 206 こども映画館
Kids★Cinema
- 207 2002年日韓国民交流記念事業 韓国映画—栄光の1960年代
Korean Films – The Glorious 1960s
- 208 シネマの冒険 闇と音楽 D・W・グリフィス選集
Silent Film Renaissance - Featuring D. W. Griffith
- 209 特集・逝ける映画人を偲んで1998-2001
In Memory of the Film Figures We Lost in 1998-2001
- 210 こども映画館：2003年の春休み
Kids★Cinema

平成15年度[2003]

- 211 発掘された映画たち2003
Cinema: Lost and Found 2003
- 212 映画監督 市川崑
Kon Ichikawa Retrospective
- 213 社団法人映像文化製作者連盟創立50周年記念 短編映像メディアに見る現代日本
Contemporary Japan as Seen by Documentary Films
- 214 日本におけるトルコ年記念事業 トルコ映画の現在
Turkish Cinema Now
- 215 聖なる映画作家、カール・ドレイヤー
The Art of Carl Th. Dreyer
- 216 小津安二郎生誕100年記念 小津安二郎の藝術
Yasujiro Ozu: Japanese Film Master
- 217 第4回東京フィルメックス 特集上映 清水宏 生誕100年
The 4th TOKYO FILMeX Special Program: The 100th Anniversary of Shimizu Hiroshi's Birth
- 218 シリーズ・日本の撮影監督(1)
Master Cinematographers of Japan Part 1

平成16年度[2004]

- 219 日本・キューバ外交関係樹立75周年記念 キューバ映画への旅
Voyage to Cuban Cinema
- 220 アジア映画—“豊穡と多様” 福岡市総合図書館フィルム・アーカイブ所蔵
アジア映画コレクションより
Asian Cinemas: “Fertile and Diverse”
From the Asian Film Collection of the Fukuoka City Public Library Film Archive
- 221 日本アニメーション映画史
A History of Japanese Animation

- 222 映画女優 高峰秀子
Hideko Takamine, Film Actress
- 223 第5回東京フィルメックス 特集上映 内田吐夢監督選集 映画真剣勝負
The 5th TOKYO FILMeX: Seriously Entertaining: The Battle for Uchida Tomu's Film Style
- 224 特集・逝ける映画人を偲んで2002-2003
In Memory of the Film Figures We Lost in 2002-2003
- 225 シネマの冒険 闇と音楽 アメリカ無声映画傑作選
Silent Film Renaissance: An American Tradition
- 226 フィルムは記録する2005：日本の文化・記録映画作家たち
Glimpses of Nippon 2005: A Japanese Documentary Tradition

平成17年度[2005]

- 227 生誕百年特集 映画監督 稲垣浩
Hiroshi Inagaki Retrospective at his Centenary
- 228 生誕百年特集 映画監督 豊田四郎
Shiro Toyoda Retrospective at his Centenary
- 229 発掘された映画たち2005
Cinema: Lost and Found 2005
- 230 生誕百年特集 映画監督 成瀬巳喜男
Mikio Naruse Retrospective at his Centenary
- 231 ポーランド映画, 昨日と今日
Polish Film, Yesterday and Today
- 232 生誕百年特集 映画監督 斎藤寅二郎と野村浩将
Torajiro Saito and Hiromasa Nomura: Retrospective at their Centenary
- 233 第6回東京フィルメックス特集上映 生誕百年特集 中川信夫—地獄のアルチザン—
The 6th TOKYO FILMeX: Nobuo Nakagawa Retrospective at his Centenary
- 234 日韓友情年2005 韓国リアリズム映画の開拓者 兪賢穆^{ユヒョンモク}監督特集
Japan-Korea Friendship Year 2005
Yu Hyeon-Mok Retrospective: The Pathfinder of Korean Realism
- 235 シネマの冒険 闇と音楽 生誕百年の監督たち
Silent Film Renaissance: Masters at their Centenary
- 236 松竹創業110周年記念 松竹映画探索 1960-70年代
Shochiku Company at 110: A Quest of Shochiku Films in the 1960s and 1970s
- 237 日本におけるドイツ2005/2006 NFC所蔵外国映画選集
ドイツ・オーストリア映画名作選
Deutschland in Japan
A Study of German and Austrian Cinema: From the National Film Center Collection

平成18年度[2006]

- 238 シナリオ作家 新藤兼人
Written by Kaneto Shindo

- 239 《京橋映画小劇場 No.1》 映画の教室2006
Kyobashi-za No.1: Film Class of 2006
- 240 NFC所蔵外国映画選集 フランス古典映画への誘い
Invitation to French Cinema Classics From the National Film Center
Collection
- 241 ロシア文化フェスティバル2006 IN JAPAN ロシア・ソビエト映画祭
Russian and Soviet Film Festival
- 242 《京橋映画小劇場 No.2》 アンコール特集：平成17年度上映作品より
Kyobashi-za No.2: Back by Popular Demand: From the Programs of 2005
- 243 日本映画史横断① 日活アクション映画の世界
Cross-section of Japan's Cinematic Past [Part 1]
Nikkatsu Action Film
- 244 《京橋映画小劇場 No.3》 生誕100周年記念 美術監督 水谷浩作品選集
Kyobashi-za No.3: Pioneering Art Director: Hiroshi Mizutani at His
Centenary [Film Screening]
- 245 日豪交流年2006 オーストラリア映画祭
Australian Film Festival
2006 Australia-Japan Year of Exchange
- 246 《京橋映画小劇場 No.4》 シネマの冒険 闇と音楽2006
Kyobashi-za No.4: Silent Film Renaissance 2006
- 247 没後50年 溝口健二再発見
Kenji Mizoguchi Retrospective
- 248 第7回東京フィルメックス 特集上映 岡本喜八 日本映画のダンディズム
The 7th TOKYO FILMeX: Okamoto Kihachi Retrospective
- 249 日本映画史横断② 歌謡・ミュージカル映画名作選
Cross-section of Japan's Cinematic Past [Part 2]
Song and Dance Tradition
- 250 シリーズ・日本の撮影監督(2)
Master Cinematographers of Japan Part 2
- 251 《京橋映画小劇場 No.5》 CHANBARA① 市川右太衛門
Kyobashi-za No.5: Chanbara, the Art of Japanese Sword Fight Part 1:
Uraemon Ichikawa

平成19年度[2007]

- 252 追悼特集 映画監督 今村昌平と黒木和雄
Retrospective in Memory of Shohei Imamura and Kazuo Kuroki
- 253 EUフィルムデーズ2007
EU Film Days 2007
- 254 映画監督 川島雄三
Yuzo Kawashima Retrospective
- 255 《京橋映画小劇場 No.6》 映画の教室2007
Kyobashi-za No.6: Film Class of 2007
- 256 特集・逝ける映画人を偲んで 2004-2006
In Memory of Film Figures We Lost in 2004-2006

- 257 《京橋映画小劇場 No.7》 アンコール特集：2006年度上映作品より
Kyobashi-za No.7: Back by Popular Demand: From the Programs of 2006
- 258 日本・ポーランド国交回復50周年記念 ポーランド短篇映画選
ウッチ映画大学の軌跡
Polish Short Film Selection: Masterpieces of the Łódź Film School
- 259 日本・ウズベキスタン国交樹立15周年記念 ウズベキスタン映画祭
Uzbekistan Film Festival
- 260 日印交流年 インド映画の輝き
Japan-India Friendship Year 2007: Indian Film Festival
- 261 スウェーデン・ドキュメンタリー新作選
Swedish Documentary Now
- 262 第8回東京フィルメックス 特集上映 山本薩夫監督特集
—ザッツ<社会派>エンタテインメント—
The 8th TOKYO FILMeX Special Program Satsuo Yamamoto
- 263 NFC所蔵外国映画選集 ヨーロッパ映画名作選
European Film Classics : From the National Film Center Collection
- 264 《京橋映画小劇場 No.8》 日本の文化・記録映画選：芸術を記録する
Kyobashi-za No.8: A Selection of Japanese Documentary Film: Arts on Screen
- 265 生誕百年 映画監督 マキノ雅広
Masahiro Makino Retrospective
- 266 《京橋映画小劇場 No.9》 NFC所蔵外国映画選集 アメリカ映画史研究①
Kyobashi-za No.9: A Survey of American Film History Part 1: From the National Film Center Collection

平成20年度 [2008]

- 267 「ルノワール+ルノワール展」開催記念 ジャン・ルノワール映画の世界
ジャン・ルノワール監督名作選
L'univers cinématographique de Jean Renoir
Rétrospective Jean Renoir
- 268 《京橋映画小劇場 No.10》 映画の中の日本文学Part 1
Kyobashi-za No.10: Japanese Literature in Film Part 1
- 269 発掘された映画たち2008
Cinema : Lost and Found 2008
- 270 EUフィルムデーズ2008
EU Film Days 2008
- 271 スターと監督 長谷川一夫と衣笠貞之助
Kazuo Hasegawa and Teinosuke Kinugasa
- 272 日本インディペンデント映画史シリーズ① PFF30回記念
ぴあフィルムフェスティバルの軌跡 vol.1
The History of Japanese Independent Cinema I
Retrospective of Pia Film Festival vol.1
- 273 生誕100年 川喜多かしことヨーロッパ映画の黄金時代
Madame Kawakita: L'Ambassadrice cinématographique du film européen
- 274 《京橋映画小劇場 No.11》 アンコール特集：2007年度上映作品より
Kyobashi-za No.11: Back by Popular Demand: From the Programs of 2007

- 275 生誕110周年 スターと監督 大河内傳次郎と伊藤大輔
Denjiro Okochi and Daisuke Ito
In Celebration of the 110th Anniversary of their Birth
- 276 《京橋映画小劇場 No.12》 映画の教室2008
Kyobashi-za No.12: Film Class of 2008
- 277 第9回東京フィルメックス特集上映 蔵原惟繕監督特集—狂熱の季節—
The 9th TOKYO FILMeX Special Program: Kurahara Koreyoshi
Retrospective
- 278 生誕百年 映画監督 亀井文夫
Fumio Kamei Retrospective at his Centenary
- 279 日本映画史横断③ 怪獣・SF映画特集
Cross-Section of Japan's Cinematic Past [Part 3]
Monster and Science Fiction Film
- 280 日本オランダ年2008-2009 オランダ映画祭2009
Nederland in Japan 2008-2009
Holland Film Festival 2009
- 281 カナダ・アニメーション映画名作選
A Selection of Canadian Animation: From the Collection of la
Cinémathèque québécoise
- 282 《京橋映画小劇場 No.13》 NFC所蔵外国映画選集 アメリカ映画史研究②
Kyobashi-za No.13: A Survey of American Film History Part 2: From the
National Film Center Collection
- 283 映画の中の日本文学 Part 2
Japanese Literature in Film Part 2
- 284 発掘された映画たち2009
Cinema: Lost and Found 2009
- 285 日本・ブルガリア外交関係再開50周年記念 ブルガリア映画特集
50 Years of Reestablishment of Diplomatic Relations between Bulgaria and
Japan
Bulgarian Film Week
- 286 日本映画史横断④ 怪獣・SF映画特集Part 2
Cross-section of Japan's Cinematic Past [Part 4]
Monster and Science Fiction Film II
- 287 EUフィルムデーズ2009
EU Film Days 2009
- 288 特集・逝ける映画人を偲んで2007-2008
In Memory of Film Figures We Lost in 2007-2008
- 289 日本インディペンデント映画史シリーズ② ぴあフィルムフェス
ティバルの軌跡 vol.2
The History of Japanese Independent Cinema II: Retrospective of Pia Film
Festival vol.2
- 290 第31回 ぴあフィルムフェスティバル
31st Pia Film Festival
- 291 《京橋映画小劇場 No.14》 ドキュメンタリー作家 土本典昭
Kyobashi-za No.14: Noriaki Tsuchimoto: a Documentary Filmmaker

- 292 《京橋映画小劇場 No.15》 映画の教室2009
Kyobashi-za No.15: Film Class of 2009
- 293 生誕百年 映画監督 山中貞雄
Sadao Yamanaka Retrospective at his Centenary
- 294 生誕百年 映画女優 田中絹代
Film Actress Kinuyo Tanaka at her Centenary
- 295 《京橋映画小劇場 No.16》 アンコール特集：2008年度上映作品より
Kyobashi-za No.16: Back by Popular Demand: From the Programs of 2008
- 296 映画監督 大島渚
Nagisa Oshima Retrospective
- 297 川喜多かちこ生誕100年記念事業 川喜多賞受賞監督作品選集
“A Wreath for Madame Kawakita” in Tokyo
- 298 アンコール特集：1995-2004年度の上映作品より
Back by Popular Demand: From the Programs of 1995-2004
- 299 映画監督 篠田正浩
Masahiro Shinoda Retrospective
- 300 《京橋映画小劇場 No.17》 NFC所蔵外国映画選集 アメリカ映画史研究③
Kyobashi-za No.17: A Survey of American Film History Part 3: From the National Film Center Collection

平成22年度[2010]

- 301 映画の中の日本文学 Part 3
Japanese Literature in Film Part 3 [Film Screening]
- 302 《京橋映画小劇場 No.18》 映画の教室2010
Kyobashi-za No.18: Film Class of 2010
- 303 フィルムセンター開館40周年記念① 発掘された映画たち2010
The 40th Anniversary of National Film Center Part 1
Cinema: Lost and Found 2010
- 304 EUフィルムデーズ2010
EU Film Days 2010
- 305 フィルムセンター開館40周年記念②
フィルム・コレクションに見るNFCの40年
The 40th Anniversary of National Film Center Part 2
To the Sources of the NFC Film Collection
- 306 日本インディペンデント映画史シリーズ③
ぴあフィルムフェスティバルの軌跡 vol.3
The History of Japanese Independent Cinema III: Retrospective of Pia Film Festival vol.3
- 307 第32回PFF ぴあフィルムフェスティバル
32nd Pia Film Festival
- 308 《京橋映画小劇場 No.19》 アニメーションの先駆者 大藤信郎
Kyobashi-za No.19: Noburo Ofuji: Pioneer of Japanese Animation
[Film Screening]

- 309 日本ポルトガル修好通商条約150周年 ポルトガル映画祭2010
マノエル・ド・オリヴェイラとポルトガル映画の巨匠たち
The 150th Anniversary of the Peace, Friendship and Trade Treaty between Portugal and Japan (1860-2010) Portuguese Cinema Festival 2010
- 310 《京橋映画小劇場 No.20》 アンコール特集：2009年度上映作品より
Kyobashi-za No.20: Back by Popular Demand: From the Programs of 2009
- 311 映画監督五十年 吉田喜重
Kiju Yoshida Retrospective
- 312 生誕百年 映画監督 黒澤明
Akira Kurosawa Retrospective at his Centenary
- 313 日本—南アフリカ交流100周年記念 シネマアフリカ2010
Cinema Africa 2010
Celebrating the Centennial of Official South Africa-Japan Relations
- 314 現代フランス映画の肖像—ユニフランス寄贈フィルム・コレクションより
Une petite découverte du cinéma français d'aujourd'hui dans la donation de l'Unifrance
- 315 フィルムセンター開館40周年記念③
よみがえる日本映画—映画保存のための特別事業費による
The 40th Anniversary of National Film Center Part 3
The Little Known Japanese Cinema - NFC's Newly Acquired Collection from Major Film Studios
- 316 生誕百年 映画監督 吉村公三郎
Kozaburo Yoshimura Retrospective at his Centenary
- 317 よみがえる日本映画vol.2 [東映篇]
—映画保存のための特別事業費による
The Little Known Japanese Cinema vol.2 - NFC's Newly Acquired Collection from Major Film Studios
- 318 《京橋映画小劇場No.21》 映画の教室2011
Kyobashi-za No.21: Film Class of 2011
- 319 EUフィルムデーズ2011
EU Film Days 2011
- 320 《京橋映画小劇場No.22》 アンコール特集：2010年度上映作品より
Kyobashi-za No.22: Back by Popular Demand : From the Programs of 2010
- 321 生誕百年 映画監督 森一生
Kazuo Mori Retrospective at his Centenary
- 322 特集・逝ける映画人を偲んで2009—2010
In Memory of Film Figures We Lost in 2009-2010
- 323 シネマの冒険 闇と音楽2011
Silent Film Renaissance 2011
- 324 第33回PFFぴあフィルムフェスティバル
The 33rd Pia Film Festival
- 325 再映：よみがえる日本映画—映画保存のための特別事業費による／
生誕百年 映画監督 吉村公三郎
Coming Back : The Little Known Japanese Cinema - NFC's Newly Acquired Collection from Major Film studios
Kozaburo Yoshimura Retrospective at his Centenary

- 326 映画女優 香川京子
Kyoko Kagawa Retrospective
- 327 日本の文化・記録映画選 文化庁「工芸技術記録映画」の特集
Japanese Craft Techniques on Screen : Documentary Film series by Agency for Cultural Affairs
- 328 よみがえる日本映画 vol.3 [新東宝篇] 一映画保存のための特別事業費による
The Little known Japanese Cinema Vol.3 - NFC's Newly Acquired Collection from Major Film Studios
- 329 現代フランス映画の肖像2—ユニフランス寄贈フィルム・コレクションより
Une petite découverte du cinéma français d'aujourd'hui 2 dans la donation de l'Unifrance

平成24年度[2012]

- 330 よみがえる日本映画vol.4 [大映篇] 一映画保存のための特別事業費による
The Little Known Japanese Cinema vol.4 - NFC's Newly Acquired Collection from Major Film Studios
- 331 《京橋映画小劇場No.23》 映画の教室2012
Kyobashi-za No.23: Film Class of 2012
- 332 生誕百年 映画監督 今井正
Tadashi Imai Retrospective at his Centenary
- 333 EUフィルムデーズ2012
EU Film Days 2012
- 334 《京橋映画小劇場No.24》 アンコール特集 2011年度上映作品より
Kyobashi-za No.24: Back by Popular Demand: From the Programs of 2011
- 335 ロードショーとスクリーン プームを呼んだ外国映画
LET'S GO TO THE MOVIES! Celebrating the 50th Anniversary of Foreign Film Importer- Distributors Association of Japan
- 336 シネマの冒険 闇と音楽 2012 ロシア・ソビエト無声映画選集
Silent Film Renaissance 2012: A Selection of Russian and Soviet Silent Films
- 337 第34回 PFFぴあフィルムフェスティバル
The 34th Pia Film Festival
- 338 生誕百年 木下恵介劇場
Keisuke Kinoshita Retrospective at his Centenary
- 339 日活映画の100年 日本映画の100年
Nikkatsu 100: A Century of Japanese Cinema [Screening]
- 340 《京橋映画小劇場No.25》 東京国立近代美術館60周年記念 美術館と映画：フィルムセンター以前の上映事業
Kyobashi-za No.25: The 60th Anniversary of The National Museum of Modern Art, Tokyo
Film in the Museum: Screenings before National Film Center
- 341 よみがえる日本映画vol.5 [日活篇] 一映画保存のための特別事業費による
The Little Known Japanese Cinema vol.5 - NFC's Newly Acquired Collection from Major Film Studios
- 342 自選シリーズ 現代日本の映画監督 1 崔 洋一
Directed by Yoichi Sai - His Own Selection

平成25年度[2013]

- 343 特集・逝ける映画人を偲んで2011-2012
In Memory of Film Figures We Lost in 2011-2012
- 344 生誕110年 映画監督 清水宏
Hiroshi Shimizu Retrospective in Celebration of the 110th Anniversary of His Birth
- 345 《京橋映画小劇場No.26》 アンコール特集：2012年度上映作品より
Kyobashi-za No.26: Back by Popular Demand: From the Programs of 2012
- 346 よみがえる日本映画vol.6 [東宝篇] 一映画保存のための特別事業費による
The Little Known Japanese Cinema vol.6 - NFC's Newly Acquired Collection from Major Film Studios
- 347 シネマの冒険 闇と音楽2013 ロイス・ウェバー監督選集
Silent Film Renaissance 2013: A Selection of Lois Weber Films
- 348 映画監督 山田洋次
Yoji Yamada Retrospective
- 349 《京橋映画小劇場No.27》 映画の教室2013
Kyobashi-za No.27: Film Class of 2013
- 350 テクニカラー・プリントでみる NFC所蔵外国映画選集
Selected Films Printed by Technicolor I.B. Process From the National Film Center Collection
- 351 よみがえる日本映画vol.7 [松竹篇] 一映画保存のための特別事業費による
The Little Known Japanese Cinema vol.7 - NFC's Newly Acquired Collection from Major Film Studios
- 352 自選シリーズ 現代日本の映画監督2 大森一樹
Directed by Kazuki Omori - His Own Selection

平成26年度[2014]

- 353 日本の初期カラー映画
The Birth and Development of Japanese Color Film
- 354 《京橋映画小劇場No.28》 アンコール特集：2013年度上映作品より
Kyobashi-za No.28: Back by Popular Demand: From the Programs of 2013
- 355 EUフィルムデーズ2014
EU Film Days 2014
- 356 映画監督 増村保造
Yasuzo Masumura Retrospective
- 357 《京橋映画小劇場No.29》 映画の教室2014
Kyobashi-za No.29: Film Class of 2014
- 358 第36回PFF
The 36th Pia Film Festival
- 359 発掘された映画たち2014
Cinema: Lost and Found 2014
- 360 MoMAニューヨーク近代美術館映画コレクション
Film Treasures from The Museum of Modern Art

- 361 シネマの冒険 闇と音楽2014 fromウィーン
フィルムアルヒーフ・オーストリアの無声映画コレクション
Silent Film Renaissance 2014 from Vienna: Treasures of Filmarchiv Austria
- 362 映画監督 千葉泰樹
Yasuki Chiba Retrospective
- 363 日本映画史横断⑤ 東映時代劇の世界
Cross-section of Japan's Cinematic Past [Part5] The Toei *Jidaigeki*
- 364 現代アジア映画の作家たち 福岡市総合図書館コレクションより
Masters of Contemporary Asian Cinema: From the Collection of Fukuoka
City Public Library Film Archive
- 365 自選シリーズ 現代日本の映画監督3 井筒和幸
Directed by Kazuyuki Izutsu - His Own Selection

平成27年度[2015]

- 366 日本映画史横断⑥ 東映時代劇の世界 Part 2
Cross-section of Japan's Cinematic Past [Part 6] The Toei *Jidaigeki* Part 2
- 367 《京橋映画小劇場No.30》 アンコール特集：2014年度上映作品より
Kyobashi-za No.30: Back by Popular Demand: From the Programs of 2014
- 368 EUフィルムデーズ2015
EU Film Days 2015
- 369 特集・逝ける映画人を偲んで 2013-2014
In Memory of Film Figures We Lost in 2013-2014
- 370 《京橋映画小劇場No.31》 映画の教室2015
Kyobashi-za No. 31: Film Class of 2015
- 371 第37回PFF
37th Pia Film Festival
- 372 生誕110年 映画俳優 志村喬
Film Actor Takashi Shimura
- 373 シネマの冒険 闇と音楽 2015
Silent Film Renaissance 2015
- 374 生誕100年 オーソン・ウェルズ——天才の発見
Orson Welles: The Known and The Unknown
- 375 日韓国交正常化50周年 韓国映画1934-1959 創造と開花
Korean Cinema 1934-1959: Its Foundation and Burgeoning
- 376 映画監督 三隅研次
Kenji Misumi Retrospective
- 377 《京橋映画小劇場No.32》 キューバ映画特集
革命映画から映画革命へ
Kyobashi-za No.32: Cuban Film Retrospective
- 378 自選シリーズ 現代日本の映画監督4 根岸吉太郎
Directed by Kichitaro Negishi - His Own Selection

平成28年度[2016]

- 379 生誕100年 木下忠司の映画音楽
Chuji Kinoshita Retrospective at his Centenary: A Film Score Composer
- 380 《京橋映画小劇場No.33》アンコール特集：2015年度上映作品より
Kyobashi-za No. 33: Back by Popular Demand: From the Programs of 2015

- 381 EUフィルムデーズ2016
EU Film Days 2016
- 382 生誕100年 映画監督 加藤泰
Tai Kato Retrospective at his Centenary
- 383 《京橋映画小劇場No.34》ドキュメンタリー作家 羽田澄子
Kyobashi-za No. 34: Sumiko Haneda: A Documentary Filmmaker
- 384 第38回PFF
The 38th Pia Film Festival
- 385 シネマの冒険 闇と音楽2016 スウェーデン映画協会コレクション
Silent Film Renaissance 2016: Treasures from the Archive of the Swedish
Film Institute
- 386 UCLA映画テレビアーカイブ 復元映画コレクション
Film Treasures from UCLA Film & Television Archive
- 387 NFC所蔵外国映画選集2016
Foreign Films Selection from the NFC Collection 2016
- 388 DEFA70周年 知られざる東ドイツ映画
DEFA 70th Anniversary: Tracing the East German Cinema
- 389 自選シリーズ 現代日本の映画監督5 押井守
Directed by Mamoru Oshii— His Own Selection

会 期
平成29年5月13日(土)～ 平成29年5月21日(日)(8日間)
会 場
大ホール
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター
特別協力
一般社団法人日本映画テレビ技術協会
作品数・上映回数
18作品/13プログラム/16回上映
入場者数
3,002人(1回平均188人)
新聞・雑誌等における掲載記事
合同通信 第20677号 4月19日 「◎NFC、 特集『よみがえるフィルムと技術』MPTE 日本映画技術賞受賞作14本他上映」 合同通信 第20687号 5月19日 「ジャ ズ娘誕生」 読売新聞 夕刊 9面 5月9日 情報掲 載 読売新聞 夕刊 8面 5月12日 「往時 の色を復元・上映映画テレビ技術協会70 年記念」 映像新聞 5月24日 朝日新聞 5月24日 情報掲載 河北新報 5月24日 南極探検上映レポ 東京エキマチ vol.12 4月10日 情報掲載 映画秘宝 6月号 4月21日 「祝・再開！ フィルムセンターの新企画「よみがえる フィルムと技術」」 月刊 視聴覚教育 5月号 5月1日NFC & MPTE アーカイブセミナー 情報掲載 週刊新潮 菖蒲月増大号 5月18日 「蘇 る「江利チエミ」美声 「ジャズ娘誕生」復 元上映」 ぴあ オフシアター 定期 上映スケ ジュール 常陽藝文 定期 情報掲載 名画座かんべ 定期 上映スケジュール イーラス「SPICE」 4月11日 「『時をか ける少女[再タイミング版]』などを上映 東京国立近代美術館フィルムセンター再 開後の特別企画にて」 タイムアウト東京 4月12日 情報掲載 Tokyo Art Beat 4月12日 情報掲載 CINRA 5月6日 「日本映画の技術を再発 見する上映企画『よみがえるフィルムと技 術』に18本」 太田出版ケトルニュース 5月12日 「日 本映画技術賞受賞作品を厳選上映『よみ がえるフィルムと技術』」 映画ナタリー 5月12日 「大林宣彦版 「時をかける少女」や日本最古の長編記録 映画を復元フィルムで上映」 Kyobashi times 5月13日 情報掲載 デイリー新潮 5月18日 「蘇る「江利チ エミ」美声 「ジャズ娘誕生」復元上映」

390 よみがえるフィルムと技術

本上映会は、一般社団法人日本映画テレビ技術協会（MPTE）の創立70周年を記念し、日本映画を支えた各技術パート（撮影、照明、美術、録音など）の表現と、フィルムアーカイブを支えるラボの技術を再評価する試みであった。構成は、フィルムセンターが平成27年度から平成28年度にかけて復元した日本映画3プログラムと、フィルムセンター所蔵の良質のプリントからMPTEの日本映画技術賞又は技術選奨受賞作品10プログラムを組んで上映した。復元作品は土日に2回上映とし、当館研究員が復元プロセスを解説するトークイベントを上映後に開催した。

Rediscovering the Beauty of Film and Film Technique

Commemorating the 70th anniversary of the Motion Picture and Television Engineering Society of Japan (MPTE), these screenings were an attempt to re-evaluate the expression of each technical area (cinematography, lighting, art design, sound recording, etc.) behind Japanese films and laboratory techniques that support film archiving. They consisted of three programs of Japanese films NFC restored from fiscal year 2015 to 2016, and 10 programs of titles awarded MPTE technology prizes, with high quality prints from NFC collection. The restored titles were shown twice on the weekend and had talk events by a NFC curator to explain the restoration process after the screenings.



1

5/16(火)3:00pm

グッドバイ(女性操縦法)[改題短縮版](69分・35mm・白黒)
1949(新東宝)(監)島耕二

2

5/16(火)7:00pm

煙突の見える場所(108分・35mm・白黒)
1953(スタジオ・エイト・プロ=新東宝)(監)五所平之助

3

5/17(水)3:00pm

近松物語(102分・35mm・白黒・英語字幕付)
1954(大映京都)(監)溝口健二

4

5/17(水)7:00pm

座頭市と用心棒(116分・35mm・カラー)
1970(勝プロ)(監)岡本喜八

5

5/18(木)3:00pm

忘れえぬ慕情(115分・35mm・カラー)
1956(松竹=シラ=テラ=パテシネマ)(監)イヴ・シャンピ

6

5/18(木)7:00pm

世界の動き 第一集 朝鮮(18分・35mm・白黒)
1953(日本映画新社)(構成)(編集)須永五郎、工藤晴雄
エラブの海(63分・35mm・カラー)
1960(日本映画新社)(監)西尾善介

7

5/19(金)3:00pm

その場所に女ありて(94分・35mm・カラー)
1962(東宝)(監)鈴木英夫

8

5/19(金)7:00pm

陸軍残虐物語(99分・35mm・白黒)
1963(東映東京)(監)佐藤純弥

9

5/21(日)1:00pm

古都(105分・35mm・カラー)
1963(松竹京都)(監)中村登

10

5/21(日)4:00pm

マッチ売りの少女(18分・35mm・カラー)
1967(学研映画)(監)渡辺和彦
みにくいあひるの子(20分・35mm・カラー)
1968(学研映画)(監)渡辺和彦

雪の女王 THE SNOW QUEEN(20分・35mm・カラー)

1978(学研映画)(監)渡辺和彦

火宅能^{ちよめづか}「求塚」より(19分・35mm・カラー)

1978(川本プロダクション)(監)川本喜八郎

11

5/13(土)1:00pm 5/20(土)4:00pm

ジャズ娘誕生[デジタル復元版](79分・35mm・カラー)
1957(日活)(監)春原政久

12

5/14(日)4:00pm 5/20(土)1:00pm

日本南極探検[デジタル復元版]
(49分・35mm・16fps・無声・白黒/染色/調色)

1912(Mパター商会)(撮)田泉保直

千人針[デジタル復元版](23分・35mm・カラー・不完全)

1937(大日本天然色映画製作所)(監)三枝源次郎

13

5/13(土)4:00pm 5/14(日)1:00pm

時をかける少女[再タイミング版](104分・35mm・カラー)
1983(角川春樹事務所)(監)大林宣彦

会 期
平成29年5月26日(金)～ 平成29年6月22日(木) (24日間)
会 場
大ホール
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター、 駐日欧州連合代表部及び EU加盟国大使館・文化機関
作品数・上映回数
34作品／28プログラム／54回上映
入場者数
10,251人(1回平均190人)
新聞・雑誌等における掲載記事
東京新聞 5月21日 開催告知 東京新聞 5月26日 開催告知 朝日ウィークリー 5月26日 開催告知 ジャパントイムス 5月26日 開催告知 読売新聞 6月16日 開催告知 SCREEN 5月21日 開催告知 NHKテレビ 5月22日 「ひるまえほっと」 NHKテレビ 6月1日 「首都圏ネットワーク」

391 EUフィルムデーズ2017

欧州連合(EU)加盟国の近作を一堂に集め、ヨーロッパ社会・文化の多様性を紹介する企画。平成29年度は、2003年にスタートしてから15回目、フィルムセンターでは10回目の開催であり、25カ国から参加を得た。全体のプログラムは、日本初公開作品や主要な国際映画祭の受賞・ノミネート作品を含む26番組の「上映プログラム」と、講演や著名な日本人女優の未公開主演作品の上映などの「特別プログラム」2番組を加えた、計28プログラムで構成。上映プログラムは、劇映画のみならず、ドキュメンタリー、アニメーションを含み、ジャンルも家族ドラマや史実に題材を採ったドラマ、児童向けファンタジー、コメディ、人形劇映画、社会派など、EUの多様さを明らかにする構成とした。

EU Film Days 2017

This event introduces the diversity of European societies and cultures by gathering recent films from European Union (EU) member nations. Starting in 2003, this was the 15th installment, and the 10th since NFC offered the venue, and 25 countries took part. There were 28 programs in total; 26 'screening programs' including Japanese premieres or films awarded prizes or nominated by major international film festivals, plus two 'special programs' which included lectures and a screening of an unreleased film starring a famous Japanese actress. 'Screening programs' included not only feature films, but also a documentary and animations. The genres also ranged widely, including family dramas, dramas based on historical events, fantasy for children, comedy, puppet animation, and films dealing with social issues, to show the diversity of the EU.



1

6/1 3:00pm 6/3 10:45am

[アイルランド]

シング・ストリート 未来へのうた(106分・DCP・カラー)

Sing Street

2016(アイルランド)(監)ジョン・カーニー

2

6/4 4:15pm 6/14 6:45pm

[イタリア]

五日物語—3つの王国と3人の女—(133分・DCP・カラー)

Il racconto dei racconti / Tale of Tales

2015(イタリア=フランス)(監)マッテオ・ガローネ

3

6/16 7:00pm 6/20 3:00pm

[英国]

リリーのすべて(120分・Blu-ray・カラー)

The Danish Girl

2015(英国=米国)(監)トム・フーパー

4

6/9 7:00pm 6/11 10:30am

[エストニア]

お母さん(89分・DCP・カラー)

EMA/ Mother

2016(エストニア)(監)カドリ・コーサール

5

6/7 7:00pm 6/9 3:00pm

[オーストリア]

エディットをさがして(90分・Blu-ray・カラー)

Auf Ediths Spuren / Tracking Edith

2016(オーストリア)(監)ペーター・シュテファン・ユンク

6

6/6 7:00pm 6/11 1:30pm

[オランダ]

善意の行方(106分・Blu-ray・カラー)

Publieke Werken / A Noble Intention

2015(オランダ)(監)ロヨラム・ルーレンセン

7

5/27 11:00am 5/30 3:00pm

[クロアチア]

私に構わないで(105分・Blu-ray・カラー)

Ne gledaj mi u pijat / Quit Staring at My Plate

2016(クロアチア=デンマーク)(監)ハナ・ユシッチ

8

6/13 7:00pm 6/15 3:00pm

[スウェーデン]

アイスドラゴン(73分・Blu-ray・カラー)

Isdraken / The Ice Dragon

2012(スウェーデン)(監)マッティン・ヘーグダール

9

6/16 3:00pm 6/18 1:30pm

[スペイン]

フラワーズ(99分・HDCAM・カラー)

Loreak/ Flowers

2014(スペイン)(監)ホセ・マリア・ゴエナガ、ジョン・ガラニョ

10

5/26 4:30pm 5/28 10:30am

[スロヴァキア]

ヴォイチェフ(99分・Blu-ray・カラー)

Vojtech

2015(スロヴァキア)(監)ヴィクトル・ツダイ

11

5/27 2:00pm 5/31 7:00pm

[スロヴェニア]

ナイトライフ(85分・DCP・カラー)

Nočno življenje / Nightlife

2016(スロヴェニア=ボスニア・ヘルツェゴビナ=マケドニア共和国)(監)ダミアン・コブレ

12

6/3 1:30pm 6/15 7:00pm

[チェコ]

リトル・マン(84分・Blu-ray・カラー)

Malý Pán / The Little Man

2015(チェコ)(監)ラデク・ペラン

13

6/4 10:45am 6/8 7:00pm

[デンマーク]

マリー・クロヤー 愛と芸術に生きて(102分・DCP・カラー)

Marie Krøyer

2012(デンマーク=スウェーデン)(監)ビレ・アウグスト

14

6/10 10:30am 6/14 3:00pm

[ドイツ]

クリスマスの伝説—4人の若き王たち(99分・DCP・カラー)

4 Könige / 4 Kings

2015(ドイツ)(監)テレーザ・フォン・エルツ

15

5/30 7:00pm 6/3 4:30pm

[ハンガリー]

ホワイトゴッド 少女と犬の狂詩曲^{ラプソディ}(119分・DCP・カラー)

Fehér Isten / White God

2014(ハンガリー=ドイツ=スウェーデン)(監)ムンドルッツォ・コーネル

16

6/18 4:30pm 6/21 7:00pm

[フィンランド]

オリ・マキの人生で最も幸せな日(92分・Blu-ray・白黒)

Hymylevä Mies / The Happiest Day in the Life of Olli Mäki

2016(フィンランド=スウェーデン=ドイツ) (監)ユホ・クオスマネン

17

5/28 4:00pm 6/2 6:30pm

[フランス]

パティーとの二十一夜(115分・DCP・カラー)

21 nuits avec Pattie / 21 Nights with Pattie

2015(フランス)(監)アルノー・ラリュエ、ジャン＝マリー・ラリュエ

18

6/7 3:00pm 6/11 4:15pm

[ブルガリア]

検事、弁護士、父親、そして息子(102分・Blu-ray・カラー)

Прокурорът, защитникът, Башата и неговият син / The Prosecutor, the Defender, the Father and His Son

2015(ブルガリア=スウェーデン=オランダ) (監)イグリカ・トリフォノヴァ

19

6/17 10:45am 6/22 3:00pm

[ベルギー]

猫はみんな灰色(87分・DCP・カラー)

Tous les chats sont gris / All Cats Are Grey

2015(ベルギー)(監)サヴィナ・デリクール

20

6/17 1:15pm 6/20 7:00pm

[ベルギー]

フィフスシーズン～春が来ない村(93分・DCP・カラー)

La cinquième saison / The Fifth Season

2012(ベルギー=オランダ=フランス) (監)ピーター・プロッセン、ジェシカ・ウッドワース

21

6/8 3:00pm 6/10 1:15pm

[ポーランド]

すべて売り物(100分・Blu-ray・カラー)

Wszystko na sprzedaż / Everything for Sale

1968(ポーランド)(監)アンジェイ・ワイダ

22

6/17 3:45pm 6/21 3:00pm

[ポルトガル]

男として死ぬ(133分・Blu-ray・カラー)

Morrer Como Um Homem / To Die like a Man

2009(ポルトガル=フランス)(監)ジョアン・ペドロ・ロドリゲス

23

6/13 3:00pm 6/18 11:00am

[ラトビア]

ラトビアのショートアニメ特集(計66分・Blu-ray・カラー)

Selection of short animation films

新種の発見(10分)

Jaunā suga / The New Species

2008(監)E・ラーツイス

タイガー(8分)

Tīģeris / Tiger

2010(監)J・ツイメルマニス

子豚の冒険(10分)

Ruksīša ceļojums / Piglet's Journey

2016(監)D・リードウゼ

ミノタウルス(8分30秒)

Minotaurs / Minotaur

2016(監)K・ヴァイトルス

テディ・ベア(8分30秒)

Puslācis / Half a Bear

2007(監)N・スカパーンス

魔法使いのボタン(7分)

Raganas poga / The Witch's Button

2006(監)N・スカパーンス

素晴らしい1日(14分)

Burvīga diena / Wonderful Day

2010(監)N・スカパーンス

24

5/27 4:30pm 6/6 3:00pm

[リトアニア]

いつまでも一緒に(88分・DCP・カラー)

Amžinai Kartu / Together For Ever

2016(リトアニア=ルーマニア)(監)リナ・ルジエテ

25

5/28 1:30pm 6/1 7:00pm

[ルーマニア]

テキールの奇跡(90分・Blu-ray・カラー)

Miracolul din Tekir / Miracle of Tekir

2015(ルーマニア=スイス)(監)ルクサンドラ・ゼニデ

26

5/31 3:30pm 6/4 1:30pm

[ルクセンブルク]

明日、戦争の後で(106分・DCP・カラー)

Eng nei Zäit / Tomorrow After the War

2015(ルクセンブルク)(監)クリストフ・ヴァグナー

特別プログラム1：上映&講演

6/10 4:45pm

ワイダとツィプルスキーポーランド派の名監督と名俳優

[ポーランド]

ズビシェク(70分・DVD・白黒)

Zbyszek

1969(ポーランド)(監)ヤン・ラスコフスキ

特別プログラム2：上映

6/22 7:00pm

[ラトビア]

OKI (沖) (85分・Blu-ray・カラー)

Oki - In the Middle of the Ocean

2014(ラトビア=米国)(監)マーリス・マルティンソーンズ

会 期
平成29年6月27日(火)～ 平成29年7月16日(日)(18日間)
会 場
大ホール
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター
作品数・上映回数
18作品／18プログラム／36回上映
入場者数
4,589人(1回平均127人)
新聞・雑誌等における掲載記事
ニッポン放送「高田文夫のビバリー屋」 7月3日
合同通信 第20691号 5月29日 「◎NFC 『佐々木史朗特集』6月27日開幕「転校生」 など プロデュース18作品上映」
文化通信 6月1日 情報掲載
朝日新聞 夕刊 5月30日 Around Tokyo
朝日新聞 夕刊 6面 6月23日 情報掲載 +劇場鑑賞券プレゼント
読売新聞 夕刊 8面 6月23日 「才能 を送り出した40年の軌跡」 「特集上映「映画 プロデューサー 佐々木史朗」27日から」
読売新聞 夕刊 9面 6月27日 情報掲載
J Movie Magazine vol.24 6月2日 「特集上 映「映画プロデューサー 佐々木史朗」が開 催」
映画秘宝8月号 6月21日
週刊ポスト「笑刊ポスト 第195回」 7月21 日 高田文夫さん 連載エッセイ
常陽藝文 定期 情報掲載
名画座かんべ 定期上映スケジュール
Kyobashi times 5月25日 情報掲載
銀座経済新聞 5月30日 「フィルムセン ターで佐々木史朗さんの特集上映「ナビ の恋」など18作品」
CINRA 6月1日 情報掲載
文化庁web広報誌「ぶんかる」アートダイ アリー 6月6日 富田主任研究員寄稿
CINRA 6月11日 「大林宣彦、井筒和幸、 黒沢清らの18本上映 プロデューサー・ 佐々木史朗特集」
映画ナタリー 6月26日 「「20世紀ノス タルジア」など18本を上映、映画プロ デューサー・佐々木史朗特集」
晴れときどき(ブログ) 7月5日 「フィ クション万歳！」

392 映画プロデューサー 佐々木史朗

フィルムセンターでは、これまで映画監督や脚本家、カメラマン、映画美術、映画音楽等の「映画人」に焦点をあてた特集上映を継続して開催してきたが、今回はその新たな企画として「映画プロデューサー」という職種に着目し、その第一弾として佐々木史朗氏(1939年-)を取り上げた。佐々木氏は、ATG(日本アートシアター・ギルド)の経営、アルゴ・プロジェクトへの参加、映画製作・配給会社オフィス・シロウズの立ち上げ等を経ながら、一貫して才能ある若い作家・監督を世に送り出してきた人物である。

特集は、佐々木氏の意向も踏まえながら1監督1作品の18プログラム・18作品に絞り込んだ。本特集を通して、映画プロデューサーという職種についての来館者の理解を深めると同時に、「自選シリーズ 現代日本の映画監督」でフィルムセンターがこれまで取り上げてきた監督たちとともに1970年代後半以後の日本映画の表現や映画界のあり方を変えていった佐々木氏の活動とその功績を再評価することで、来館者が総体的に現代日本映画を把握する機会を創出した。

Shiro Sasaki: A Film Producer

NFC has continuously held special screenings to focus on 'people in the film world' such as directors, scenario writers, cinematographers, art directors, or musicians, and this fiscal year 2017 a new series began to look at one of these professions - 'film producer'. Its first installment featured Shiro Sasaki (1939-), whose resume includes the management of ATG (Art Theatre Guild Japan), participation in the Argo Project, and foundation of the film production and distribution company Office Shirous. Sasaki has always introduced young talented artists and directors into the film world. This program, complying with the wishes of Sasaki himself, selected 18 titles of 18 programs limited to one title per director. It aimed to give audiences a better understanding of 'film producer' as a profession, as well as to re-evaluate his activities and achievements. Sasaki gradually changed the style and the state of the Japanese film business in and after the late 1970s in cooperation with those directors NFC featured in past series of 'His/Her Own Selection'. This program provided a chance for audiences to understand contemporary Japanese films comprehensively.



1

6/27(火)3:00pm 7/7(金)7:00pm

星空のマリオネット(99分・35mm・カラー)
1978(東京ビデオセンター)(企画)佐々木史朗(監)橋浦方人

2

6/27(火)6:45pm 7/8(土)12:30pm

ヒポクラテスたち(126分・35mm・カラー)
1980(シネマハウト=ATG)(製作)佐々木史朗(監)大森一樹

3

6/28(水)3:00pm 7/8(土)4:00pm

ガキ帝国(116分・35mm・カラー)
1981(プレイガイドジャーナル社=ATG)(製作)佐々木史朗(監)井筒和幸

4

6/28(水)6:30pm 7/7(金)3:00pm

遠雷(135分・35mm・カラー)
1981(につかつ撮影所=ニュー・センチュリー・プロデューサーズ=ATG)(製作)佐々木史朗(監)根岸吉太郎

5

6/29(木)3:00pm 7/9(日)4:00pm

転校生(113分・35mm・カラー)
1982(日本テレビ放送網=ATG)(製作総指揮)佐々木史朗(監)大林宣彦

6

6/29(木)7:00pm 7/11(火)3:00pm

TATTOO [刺青]あり(107分・35mm・カラー)
1982(国際放映=高橋プロダクション=ATG)(製作)佐々木史朗(監)高橋伴明

7

7/1(土)12:30pm 7/11(火)7:00pm

家族ゲーム(106分・35mm・カラー)
1983(につかつ撮影所=ニュー・センチュリー・プロデューサーズ=ATG)(製作)佐々木史朗(監)森田芳光

8

6/30(金)7:00pm 7/9(日)1:00pm

人魚伝説(110分・35mm・カラー)
1984(ディレクターズ・カンパニー=ATG)(製作)佐々木史朗(監)池田敏春

9

6/30(金)3:00pm 7/12(水)7:00pm

空がこんなに青いわけがない(94分・35mm・カラー)
1993(オフィス・シロウズ=サントリー)(製作)佐々木史朗(監)柄本明

10

7/1(土)4:00pm 7/13(木)3:00pm

20世紀ノスタルジア(93分・35mm・カラー)
1997(オフィス・シロウズ)(企画)佐々木史朗(監)原将人

11

7/2(日)1:00pm 7/13(木)7:00pm

ナビィの恋(91分・35mm・カラー)
1999(イエス・ビジョンズ=オフィス・シロウズ)(製作)佐々木史朗(監)中江裕司

12

7/2(日)4:00pm 7/12(水)3:00pm

ごめん(103分・35mm・カラー)
2002(「ごめん」製作事業委員会[読売テレビ=バンダイビジュアル=舞夢プロ=イエス・ビジョンズ=オフィス・シロウズ])(製作)佐々木史朗(監)富樫森

13

7/4(火)3:00pm 7/14(金)6:30pm

カナリア(132分・35mm・カラー)
2005(「カナリア」パートナーズ[オフィス・シロウズ=衛星劇場=バンダイビジュアル])(製作)佐々木史朗(監)塩田明彦

14

7/4(火)7:00pm 7/15(土)12:30pm

SCRAP HEAVEN スクラップ・ヘブン(117分・35mm・カラー)
2005(『スクラップ・ヘブン』パートナーズ[オフィス・シロウズ=テレビ東京=バンダイビジュアル=イエス・ビジョンズ=ザズウ])(企画)佐々木史朗(監)李相日

15

7/5(水)3:00pm 7/15(土)4:00pm

闇打つ心臓 HEART, BEATING in the DARK(104分・35mm・カラー)
2006(「闇打つ心臓」パートナーズ[オフィス・シロウズ=バンダイビジュアル])(製作)佐々木史朗(監)長崎俊一

16

7/6(木)7:00pm 7/14(金)3:00pm

やじきた道中 てれすこ(108分・35mm・カラー)
2007(「てれすこ」講中[オフィス・シロウズ=バンダイビジュアル=トータル=テレビ朝日サービス])(製作)佐々木史朗(監)平山秀幸

17

7/5(水)6:45pm 7/16(日)1:00pm

キツツキと雨(129分・35mm・カラー)
2012(「キツツキと雨」製作委員会[角川映画=オフィス・シロウズ=関西テレビ放送=衛星劇場=トライストーン・エンタテイメント=NTT DOCOMO=Yahoo! JAPAN=読売新聞社=パレード])(企画)佐々木史朗(監)沖田修一

7/6(木)3:00pm 7/16(日)4:00pm

岸辺の旅(128分・DCP・カラー)

2015(「岸辺の旅」製作委員会[アミューズ=WOWOW=ショウゲート=ポニーキャニオン=博報堂=オフィス・シロウズ])(製作)佐々木史朗(監)黒沢清

会 期
平成29年6月28日、7月5日、7日～9日、 12日、14日～16日、19日、26日、 10月11日、25日、11月8日、22日、 12月6日(16日間)
会 場
小ホール
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター
作品数・上映回数
28作品／16プログラム／22回上映
入場者数
2,389人(1回平均109人)
新聞・雑誌等における掲載記事
読売新聞 夕刊 6月27日 情報掲載 SCREEN 8月号 6月21日 情報掲載 常陽藝文 定期 情報掲載 名画座かんぺ 定期 上映スケジュール Kyobashi TIMES 6月14日 情報掲載 映画ナタリー 6月27日 「スコセッシによる記録映画や押井守の監督作など28本、フィルムセンターで上映」

393 《京橋映画小劇場No.35》 アンコール特集

前年度に上映して満席を記録した作品などくに人気が高かった作品、ならびに2005年度～2015年度に上映した中で人気が高かった作品を再上映した。共にそれぞれの期間の入場者数データを検討し、前者については6プログラム(6作品)を選定し、各プログラム2回の上映を行った。後者は10プログラム(22作品)を選定し、各プログラム1回の上映を行った。

Kyobashi-za No. 35: Back by Popular Demand: From the Programs of Recent Years

This series re-screened especially popular films such as those titles whose screenings sold out during the previous year's programs, as well as popular titles amongst films shown from fiscal year 2005 to 2015. In each period, NFC examined the data of the audience numbers respectively and chose six programs (six titles) for the former, showing each program twice. For the latter, NFC chose 10 programs (22 titles) showing each program once.



1

7/7(金)2:00pm 7/15(土)3:00pm

高度7000米 恐怖の四時間(76分・35mm・カラー)

1959(東映東京)(監)小林恒夫

2

7/7(金)4:30pm 7/16(日)12:00pm

風と女と旅鴉(90分・35mm・白黒)

1958(東映京都)(監)加藤泰

3

7/8(土)11:30am 7/16(日)3:00pm

元始、女性は太陽であった 平塚らいてうの生涯(140分・16mm・カラー)

2001(企画:平塚らいてうの記録映画をつくる会|製作:自由工房)(監)羽田澄子

4

7/8(土)3:00pm 7/14(金)2:00pm

アウシュウィッツの女囚(106分・35mm・白黒)

OSTATNI ETAP

1948(フィルム・ポルスキ)(監)ワンダ・ヤクボフスカ

5

7/9(日)12:00pm 7/14(金)5:00pm

うる星やつら2 ビューティフル・ドリーマー(97分・35mm・カラー)

1984(東宝=キティ・フィルム)(監)押井守

6

7/9(日)3:00pm 7/15(土)12:00pm

GHOST IN THE SHELL 攻殻機動隊(83分・35mm・カラー)

1995(講談社=バンダイビジュアル=MANGA ENTERTAINMENT)(監)押井守

7

6/28(水)3:30pm

萬世流芳(151分・35mm・白黒)

1942(中華聯合製片公司=中華電影=満映)(監)朱石麟

8

7/5(水)4:00pm

恋多き女(97分・35mm・カラー)

ELENA ET LES HOMMES

1956(フランコ・ロンドン・フィルム=レ・フィルム・ジベ=エレクトラ・コンパニニア・チネマトグラフィカ)(監)ジャン・ルノワール

9

7/12(水)4:00pm

発掘されたアニメーション映画(計115分)

なまくら刀(塙内名刀之巻) [デジタル復元・最長版] (4分・16fps・35mm・無声・染色)

1917(小林商会)(作画)幸内純一

浦島太郎(仮) [デジタル復元版] (2分・16fps・35mm・無声・染色) 1918頃

漫画 癩取り(14分・18fps・35mm・無声・染色)

1929(横浜シネマ商会)(監)青地忠三

火の用心(13分・18fps・35mm・無声・染色)

1930(横浜シネマ商会)(監)青地忠三

古寺のおばけ騒動(5分・35mm・白黒)

1936(日本マンガフィルム研究所)(撮)鈴木宏昌

熊に喰われぬ男(9分・35mm・白黒)

1948(三幸映画社)(監)オーフジ・ノブロー(大藤信郎)

狐と小鳥(11分・35mm・白黒)

1948(近代映画株式会社)(監)森野佐登志

ガリヴァー奮闘記(9分・35mm・白黒)

1950(近代映画社)(監)黒田外喜男, 小沢重行

バクダット姫 [最長版] (48分・35mm・白黒)

1948(三幸映画社)(監)芦田巖

10

7/19(水)4:00pm

羅生門 [デジタル復元版] (88分・35mm・白黒)

1950(大映京都)(監)黒澤明

11

7/26(水)4:30pm

地獄門 [デジタル復元版] (89分・35mm・カラー)

1953(大映京都)(監)衣笠貞之助

12

10/11(水)4:00pm

幕末太陽傳 [デジタル修復版] (111分・35mm・白黒)

1957(日活)(監)川島雄三

13

10/25(水)4:00pm

大佛さまと子供たち(102分・35mm・白黒)

1952(蜂の巣映画部)(監)清水宏

奈良には古き佛たち(36分・35mm・白黒)

1953(蜂の巣映画部)(監)清水宏

14

11/8(水)4:00pm

ニューヨークの地下鉄(4分・24fps・35mm・無声・白黒)

INTERIOR N. Y. SUBWAY, 14TH STREET TO 42ND STREET

1905(アメリカン・ミュートスコープ・アンド・バイオグラフ)(監)G・W・ピッツァー

ツーリスト(6分・18fps・35mm・無声・白黒)

THE TOURISTS

1912(バイオグラフ)(監)マック・セネット

フラッシング・メドウズ(9分・24fps・16mm・無声・カラー)

FLUSHING MEADOWS

1965(監)ジョゼフ・コーネル

イタリアン・アメリカン(49分・35mm・カラー)

ITALIANAMERICAN

1974(監)マーティン・スコセッシ

15

11/22(水)4:00pm

バンド・ワゴン(112分・35mm・カラー)

THE BAND WAGON

1953(MGM)(監)ヴァンセント・ミネリ

16

12/6(水)4:00pm

總會屋 錦城勝負師とその娘(110分・35mm・白黒)

1959(大映東京)(監)島耕二

会 期
平成29年7月20日～9月10日、10月15日、 11月9日～10日、11月14日～17日、 11月21日～23日(56日間)
会 場
大ホール
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター
作品数・上映回数
86作品／77プログラム／157回上映
入場者数
20,709人(1回平均132人)
新聞・雑誌等における掲載記事
朝日新聞 夕刊 7面 7月28日 「亡き 映画人しのぶ75本」 朝日新聞 夕刊 8月1日 情報掲載/バリ アフリー上映 朝日新聞 7月28日 情報掲載 読売新聞 7月28日 情報掲載 夕刊フジ 7月25日 「あのスターたちの 名作を一挙公開！映画人しのぶ特集上映 「東京国立近代美術館フィルムセンター」」 日刊ゲンダイ 15面 8月18日 「大高宏雄の日本 映画最前線/総勢80人超の映画人を偲びに…」 映画秘宝9月号 7月21日 週刊新潮 11月16日号 11月16日 「たっ た520円で観られる原節子15歳デビュー作」 東京新聞 12月1日 情報掲載/原節子 常陽藝文 定期 情報掲載 名画座かんべ 定期 上映スケジュール 東映キネマ旬報 8月1日 情報掲載/東映 作品ラインナップ紹介 カンフェティ 9月号 8月7日 情報掲載 /チケブレ 東京エキマチ vol.14 8月10日 情報掲載 CINRA 7月15日 「永六輔、蜷川幸雄、根津甚 八ら80人超の「逝ける映画人」偲ぶ特集上映」 映画ナタリー 7月18日 「根津甚八、安 藤昇らの作品を上映「逝ける映画人を偲 んで」フィルムセンターで開催」 zakzak by夕刊フジ 7月25日 「あのスターた ちの名作を一挙公開！映画人しのぶ特集上 映「東京国立近代美術館フィルムセンター」」 銀座経済新聞 8月2日 「フィルムセンターで 特集「逝ける映画人を偲んで」 75作品を上映」 銀座経済新聞 8月2日 「フィルムセンターで 特集「逝ける映画人を偲んで」 75作品を上映」 kyobashi times 8月6日 情報掲載 日刊ゲンダイ DIGITAL 8月18日 「大高宏雄の 日本映画最前線/総勢80人超の映画人を偲びに…」 中央区観光協会特派員 10月26日情報掲載 銀座経済新聞 11月2日 「フィルムセンターで「原 節子選集」 現存する最初期の出演作品含む11本」 INTRO 11月4日 情報掲載 映画ナタリー 11月6日 「原節子をしの ぶ特集上映が開催、「魂を投げろ」「わが青春 に悔なし」など11本」 デイリー新潮 11月16日 「15歳「原節子」デ ビュー作が上映 セーラー服、水着、浴衣姿も」

394 特集・逝ける映画人を偲んで2015-2016

フィルムセンターのアーカイバル・コレクションを生かして、近年逝去した映画関係者の業績をその代表作で偲び、回顧する恒例企画である。今回は2015年1月1日から2016年12月31日までの期間に亡くなった監督、俳優、技術スタッフなどを対象とした。原節子や瀬川昌治、沖島勲をはじめとする80名以上の映画人が関わった86作品(77プログラム)を上映し、その業績を回顧・顕彰した。また、各映画人のフィルモグラフィー上重要な作品の一部については新規購入のプリントもプログラムしながら日本映画史の厚みを示した。

In Memory of Film Figures We Lost in 2015-2016

This program is to commemorate people in the film world who recently passed away, and to trace their achievements by showing their important works from the archival collection of NFC. This time, focusing on the directors, actors, or technicians who passed away between 1st January 2015 and 31st December 2016, it screened 86 films (77 programs) involving over 80 film figures, such as Setsuko Hara, Masaharu Segawa, and Isao Okijima, to commemorate their accomplishments. In addition, it showed the depth of Japanese film history by adding some newly purchased prints of outstanding titles in the filmography of each person.



1

7/20(木)1:00pm 8/2(水)3:30pm

土[最長版](117分・35mm・白黒・ドイツ語字幕付)
1939(日活多摩川)(出)風見章子(おつぎ)(監)内田吐夢

2

7/20(木)4:00pm 8/4(金)1:00pm

山猫令嬢(86分・35mm・白黒)
1948(大映京都)(録音助手)林士太郎(出)三條美紀(敏子)(監)森一生

3

7/20(木)7:00pm 8/5(土)11:00am

この二人に幸あれ(93分・35mm・白黒)
1957(東宝)(脚)松山善三(出)小泉博(久夫)、白川由美(雅子)(監)本多猪四郎

4

7/21(金)1:00pm 8/3(木)7:00pm

巨人と玩具(95分・35mm・カラー)
1958(大映東京)(脚)白坂依志夫(出)目黒幸子(岩崎)(監)増村保造

5

7/22(土)11:00am 8/3(木)4:00pm

弁天小僧(86分・35mm・カラー・英語字幕付)
1958(大映京都)(録)林士太郎(監)伊藤大輔

6

7/23(日)5:00pm 8/2(水)1:00pm

警視庁物語 顔のない女(83分・16mm・白黒)
1959(東映東京)(音)富田勲(監)村山新治

7

7/25(火)1:00pm 8/4(金)4:00pm

影法師捕物帖(85分・35mm・カラー)
1959(新東宝)(出)魚住純子(腰元お縫)(監)中川信夫

8

7/21(金)4:00pm 8/9(水)4:00pm

汜濫(98分・35mm・カラー)
1959(大映東京)(脚)白坂依志夫(出)川崎敬三(種村恭助)、三角八郎(荒田助手)、目黒幸子(邦子)(監)増村保造

9

7/21(金)7:00pm 8/5(土)2:00pm

野獣死すべし(96分・35mm・白黒)
1959(東宝)(脚)(出)白坂依志夫(辻)(出)小泉博(真杉刑事)、白川由美(峯洋子)、滝田裕介(遠藤記者)(監)須川栄三

10

8/16(水)1:00pm 8/26(土)10:30am

高橋克雄選集(計67分)
笛吹き王子ーグリム童話よりー(27分・16mm・白黒)
1959(東京中央人形劇場=教育映画配給社=電通映画)(監)(脚)高橋克雄(監)松本治助
V・ポッターの童話より ピーターうさぎの冒険!(11分・16mm・カラー)
1960(東京中央人形劇場=教育映画配給社=電通映画)(監)(脚)高橋克雄
子鬼の祭(10分・16mm・カラー)
1961(電通映画=教育映画配給社=東京中央人形劇場)(監)(脚)高橋克雄
野ばら(19分・16mm・カラー)
1976(東京中央プロダクション)(監)高橋克雄

11

7/22(土)2:00pm 8/3(木)1:00pm

死者との結婚(96分・35mm・白黒)
1960(松竹大船)(監)(脚)高橋治

12

8/26(土)12:30pm 8/26(土)4:00pm

名もなく貧しく美しく(129分・35mm・白黒)
1961(東京映画)(監)松山善三(出)西本裕行、守田比呂也、加藤武

13

7/23(日)11:00am 8/8(火)1:00pm

ねずみのよめいり(13分・35mm・カラー)
1961(東映動画)(監)白川大作(監)月岡貞夫
わんわん忠臣蔵(81分・35mm・カラー)
1963(東映動画)(監)白川大作

14

7/22(土)5:00pm 8/8(火)7:00pm

東京・丸の内(78分・35mm・白黒)
1962(東映東京)(脚)大川久男(監)小西通雄

15

7/25(火)4:00pm 8/9(水)1:00pm

てなもんや三度笠(81分・35mm・白黒)
1963(東映京都)(出)秋田A助(松)、秋田B助(竹)(監)内出好吉

16

7/26(水)7:00pm 8/13(日)2:00pm

夜霧のブルース(104分・35mm・カラー)
1963(日活)(監)野村孝(出)深江章喜(押川)

17

7/25(火)7:00pm 8/6(日)11:00am

三大怪獣 地球最大の決戦(93分・35mm・カラー)
1964(東宝)(出)小泉博(村井助教授)、伊藤ユミ(小美人)(監)本多猪四郎

18

7/23(日)2:00pm 8/8(火)4:00pm

ガリバーの宇宙旅行(80分・35mm・カラー)
1965(東映動画)(音)富田勲(監)黒田昌郎

19

7/26(水)1:00pm 8/12(土)5:00pm

二人の世界(91分・35mm・カラー)
1966(日活)(音)嵐野英彦(技斗)渡井嘉久雄(出)深江章喜(小谷)(監)松尾昭典

20

7/26(水)4:00pm 8/13(日)5:00pm

拳銃は俺のパスポート(84分・35mm・白黒)
1967(日活)(監)野村孝(出)深江章喜(船木)

21

8/19(土)11:00am 8/30(水)7:00pm

白昼の惨殺(87分・35mm・白黒)
1967(ゴールデンぷろ)(音)真鍋理一郎(出)安藤昇(時岡敬太)、川口小枝(村井高子)(監)梅津明治郎

22

7/28(金)1:00pm 8/6(日)2:00pm

大怪獣空中戦 ガメラ対ギャオス(86分・35mm・カラー)
1967(大映東京)(脚)高橋二三(監)湯浅憲明

23

7/27(木)1:00pm 8/11(金・祝)2:00pm

若者たち(96分・35mm・白黒)
1967(劇団俳優座=新星映画)(脚)山内久(出)梅津栄(小川の親戚)(監)森川時久

24

7/28(金)4:00pm 8/12(土)11:00am

喜劇 初詣列車(91分・35mm・カラー)
1968(東映東京)(監)瀬川昌治(出)川崎敬三(上田夏雄)

25

7/27(木)7:00pm 8/4(金)7:00pm

博奕打ち 総長賭博(95分・35mm・カラー)
1968(東映京都)(出)曾根晴美(水谷岩吉)(監)山下耕作

26

8/19(土)2:00pm 8/31(木)4:30pm

日本暗黒史 情無用(90分・35mm・カラー)
1968(東映京都)(出)安藤昇(健一)(監)工藤栄一

27

8/6(日)5:00pm 8/15(火)1:00pm

妖怪百物語(79分・35mm・カラー)
1968(大映京都)(特技監督)黒田義之(監)安田公義

28

8/17(木)7:00pm 9/3(日)5:00pm

引裂れた処女(72分・35mm・パートカラー)
1968(葵映画)(出)香取環(雅美)(監)西原儀一

29

7/29(土)11:00am 8/9(水)7:00pm

俺たちの荒野(91分・35mm・カラー)
1969(東宝)(監)出目昌伸(音)真鍋理一郎

30

7/27(木)4:00pm 8/11(金・祝)4:30pm

私が棄てた女(116分・35mm・パートカラー)
1969(日活)(脚)山内久(出)加藤治子(三浦ユリ子)、加藤武(八郎)(監)浦山桐郎

31

8/16(水)4:00pm 9/2(土)2:00pm

尼寺博徒(86分・35mm・カラー)
1971(東映東京)(出)加藤治子(慈照)(監)村山新治

32

7/28(金)7:00pm 8/5(土)5:00pm

♀女郎責め地獄(77分・35mm・カラー)
1973(日活)(出)中川梨絵(おせん)(監)田中登

33

8/1(火)1:00pm 8/10(木)4:00pm

化石の森(117分・35mm・カラー)
1973(東京映画)(出)八木昌子(塩見菊江)(監)篠田正浩

34

7/30(日)11:00am 8/10(木)1:00pm

愛と誠(89分・35mm・カラー)
1974(松竹=芸映プロ)(出)三角八郎(西田運転手)(監)山根成之

35

7/29(土)5:00pm 8/10(木)7:00pm

血を吸う薔薇(83分・35mm・カラー)
1974(東宝映像)(脚)武末勝(音)真鍋理一郎(監)山本迪夫

36

7/29(土)2:00pm 8/15(火)4:00pm

沖田総司(92分・35mm・カラー)
1974(東宝)(監)出目昌伸(音)真鍋理一郎

37

7/30(日)2:00pm 8/15(火)7:00pm

祭りの準備(116分・35mm・カラー)
1975(綜映社=映画同人社=ATG)(照)伴野功(出)阿藤海(良介)(監)黒木和雄

38

7/30(日)5:00pm 8/16(水)7:00pm

狂った野獣(77分・35mm・カラー)

1976(東映京都)(脚)大原清秀(出)リリィ(監)中島貞夫

39

8/19(土)4:30pm 9/1(金)7:00pm

任侠外伝 玄海灘(122分・35mm・カラー)

"1976(唐プロ=ATG)(製)富沢幸男(音)安保由夫(出)安藤昇(近藤)、根津甚八(田口)(監)唐十郎

40

8/1(火)4:00pm 8/12(土)2:00pm

瀬戸はよいとこ 花嫁観光船(92分・35mm・カラー)

1976(松竹)(監)瀬川昌治(脚)大川久男

41

8/1(火)6:30pm 8/11(金・祝)10:30am

天保水滸伝(144分・35mm・カラー)

1976(全国農村映画協会=大映)(原)(脚)山内久(出)平幹二郎(大原幽学)、加藤武(笹川繁蔵)(監)山本薩夫

42

8/18(金)4:00pm 8/30(水)1:00pm

世界名作童話 白鳥の王子(61分・35mm・カラー)

1977(東映動画)(監)西沢信孝

43

8/18(金)1:00pm 8/31(木)7:00pm

春男の翔んだ空(120分・35mm・カラー)

1977(現代ぷろだくしょん)(出)永六輔(野村春男)、愛川欽也(白石先生)(監)山田典吾

44

8/17(木)4:00pm 9/2(土)4:30pm

トラック野郎 突撃一番星(103分・35mm・カラー)

1978(東映東京)(出)愛川欽也(松下金造)(監)鈴木則文

45

8/20(日)5:00pm 9/5(火)7:00pm

制服脅迫犯し(62分・35mm・カラー)

1979(日本シネマ)(監)(脚)中山潔

46

8/2(水)6:30pm ※10/15(日)11:00am ※10/15(日)3:00pm

連合艦隊(145分・35mm・カラー)

1981(東宝)(脚)須崎勝彌(監)松林宗恵 ※10/15は8/13の振替上映

47

8/22(火)3:45pm 8/31(木)1:00pm

さらば愛しき大地(134分・35mm・カラー)

1982(プロダクション群狼=アトリエダンカン)(出)根津甚八(山沢幸雄)(監)柳町光男

48

8/22(火)1:00pm 8/30(水)4:00pm

愛の陽炎(108分・35mm・カラー)

1986(松竹)(出)萩原流行(関口岩松)、今福将雄(監)三村晴彦

49

8/17(木)1:00pm 9/1(金)4:00pm

ジャズ大名(84分・35mm・カラー)

1986(大映)(出)今福将雄(由比軍太夫)、小川真司(中山八兵衛)(監)岡本喜八

50

8/18(金)7:00pm 9/2(土)11:00am

天空の城ラピュタ(124分・35mm・カラー)

1986(徳間書店)(仕上)保田道世(原画)篠原征子、二木真希子(監)宮崎駿

51

8/20(日)11:00am 9/1(金)1:00pm

19 ナインティーン(94分・35mm・カラー)

1987(東宝=ジャニーズ事務所)(監)山下賢章(出)中康治(ゼブラ)

52

8/23(水)6:30pm 9/5(火)3:45pm

帝都物語(135分・35mm・カラー)

1988(エクゼ)(特殊美術)池谷仙克(出)平幹二郎(平井保昌)(監)実相寺昭雄

53

8/20(日)2:00pm 9/6(水)7:00pm

死霊の罟(100分・35mm・カラー)

1988(ジャパンホームビデオ=ディレクターズカンパニー)(音)吉良知彦(監)池田敏春

54

8/22(火)7:00pm 9/6(水)1:00pm

ありふれた愛に関する調査(107分・35mm・カラー)

1992(メリエス=サントリー)(照)金沢正夫(監)榎戸耕史

55

8/23(水)1:00pm 9/9(土)11:00am

蒸気機関車の詩(16分・35mm・カラー)

1974(日活)(監)(脚)飯塚二郎

ぼくに涙はにあわない(51分・16mm・カラー)

1992(共和教育映画社)(監)黒田義之

56

8/23(水)3:00pm 9/10(日)10:30am ※11/15(水)1:00pm

土くれの歳時記 民俗舞踊集(22分・16mm・白黒)

1960(舞踊映画プロダクション=新映画テレビ)(照)渡辺生(構成)宇部敬、東喬一

民と匠の伝説 三五荘の記録(50分・16mm・カラー)

1994(日本映画学校)(監)武重邦夫

光りの島 ISLAND OF LIGHT(58分・16mm・カラー)
1995(UMI(海)inc.) (監)(製)(脚)(編)大重潤一郎 ※11/15に8/23分
を振替上映

57

8/24(木)1:00pm 9/9(土)2:00pm

WINDS OF GOD(97分・35mm・カラー)
1995(松竹第一興行=ケイエスエス)(原)(脚)(出)今井雅之(田代誠、
岸田中尉)(監)奈良橋陽子

58

8/24(木)4:00pm 9/3(日)2:30pm

ファザーファッカー(90分・35mm・カラー)
1995(フィルムメイカーズ=ホリプロ=ポニーキャニオン)(監)荒戸
源次郎

59

8/27(日)5:00pm 9/7(木)7:00pm

したくて、したくて、たまらない、女。(61分・35mm・カラー)
1995(RELAX)(監)(脚)沖島勲

60

8/25(金)1:00pm 9/7(木)4:00pm

GAMA 月桃の花(110分・35mm・カラー)
1996(G. G. S=こぶしプロダクション)(出)平良とみ(カミおばあ)
(監)大澤豊

61

8/25(金)4:00pm 9/10(日)1:45pm

戦後在日五〇年史 在日(259分・16mm・カラー)
1997(映画「戦後在日五〇年史」製作委員会)(監)呉徳洙

62

8/29(火)7:00pm 9/6(水)4:00pm

御法度(100分・35mm・カラー)
1999(松竹=角川書店=IMAGICA=BS朝日=衛星劇場)(制作担当)元
持昌之(監)大島渚

63

8/29(火)1:00pm 9/8(金)4:00pm

郡上一揆(112分・35mm・カラー)
2000(映画「郡上一揆」製作委員会)(脚)加藤伸代

64

8/29(火)4:00pm 9/7(木)1:00pm

たそがれ清兵衛(129分・35mm・カラー)
2002(松竹=日本テレビ放送網=住友商事=博報堂=日本出版販売
=衛星劇場)(デジタル光学録音)西尾昇(音)富田勲(監)山田洋次

65

8/24(木)7:00pm 9/9(土)4:30pm

青の炎(116分・35mm・カラー)
2003(「青の炎」製作委員会)(監)(脚)蜷川幸雄

66

8/27(日)2:00pm 9/8(金)7:00pm

一万年、後....。(77分・DCP・カラー)
2007(YYKプロダクション)(監)(製)(脚)沖島勲(出)阿藤快(男)

67

8/27(日)11:00am 9/5(火)1:00pm

パークアンドラブホテル(111分・35mm・カラー)
2008(PFFパートナーズ)(出)りりィ(艶子)(監)熊坂出

68

9/3(日)11:00am 9/8(金)12:30pm

終の信託(144分・35mm・カラー)
2012(フジテレビ=東宝=アルタミラピクチャーズ)(撮)寺田緑郎
(出)角谷栄次(監)周防正行

原節子選集

1

11/9(木)3:00pm 11/17(金)7:00pm

魂を投げろ(26分・35mm・24fps・無声・白黒・部分)
1935(日活多摩川)(出)原節子(女学生)(監)田口哲
いのち
生命の冠[短縮版](53分・35mm・24fps・無声・白黒)
1936(日活多摩川)(出)原節子(有村絢子)(監)内田吐夢

2

11/9(木)7:00pm 11/21(火)3:00pm

冬の宿(84分・35mm・白黒・不完全)
1938(東京発声)(出)原節子(三宅和子)(監)豊田四郎

3

11/10(金)3:00pm 11/16(木)7:00pm

美はしき出発(66分・35mm・白黒)
1939(東宝東京)(出)原節子(北條都美子)(監)山本薩

4

11/10(金)7:00pm 11/23(木・祝)1:00pm

東京の女性(82分・35mm・白黒)
1939(東宝東京)(出)原節子(君塚節子)(監)伏水修

5

11/14(火)3:00pm 11/23(木・祝)4:00pm

青春の氣流(87分・35mm・白黒)
1942(東宝)(出)原節子(由島慎子)、御舟京子[加藤治子](喫茶店の
女)(監)伏水修

6

11/14(火)7:00pm 11/22(水)3:00pm

緑の大地(118分・16mm・白黒)
1942(東宝)(出)原節子(上野初枝)(監)島津保次郎

7

11/15(水)3:00pm 11/21(火)7:00pm

母の地図(102分・16mm・白黒)

1942(東宝)(出)原節子(岸桐江)(監)島津保次郎

8

11/15(水)6:30pm 11/17(金)3:00pm

怒りの海(89分・35mm・白黒)

1944(東宝)(出)原節子(平賀光子)(監)今井正

北の三人(41分・35mm・白黒・部分)

1945(東宝)(出)原節子(上野すみ子)(監)佐伯清

9

11/16(木)3:00pm 11/22(水)7:00pm

わが青春に悔なし(110分・35mm・白黒)

1946(東宝)(出)原節子(八木原幸枝)(監)黒澤明

会 期
平成29年9月16日(土)～ 平成29年9月29日(金)(12日間)
会 場
大ホール、一部小ホール
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター、一般社団法人PFF、公益財団法人ユニジャパン、公益財団法人川喜多記念映画文化財団
オフィシャルパートナー
びあ株式会社、株式会社ホリプロ、日活株式会社
特別支援
一般社団法人 日本映画製作者連盟
オフィシャルTOPサポーター
(株)電通、博報堂DYメディアパートナーズ
オフィシャルサポーター
スカパー！、住友不動産、セガサミーグループ、セブン&アイ・ホールディングス、富士通
特別協賛
(株)朝日新聞社、(株)インターネットイニシアティブ、(株)NTTぷらら、ギャガ(株)、(株)クロックワークス、ビデオパス、(株)スター・チャンネル、(株)エフエム東京、東京メトロポリタンテレビジョン(株)、東京テアトル(株)、凸版印刷(株)、日本航空(株)、三井住友カード(株)、三菱UFJニコス(株)
協 賛
(株)コンセント、(株)ジェーシービー、(株)Jストリーム、(株)シネマトゥデイ、CINEMORE、(株)ディスクガレージ、(株)テレビ朝日、(株)テレビ東京、(株)トーハン、(株)ニッポン放送、日本映画専門チャンネル、バンダイビジュアル(株)、パナソニック映像(株)、(株)フジテレビジョン、(株)文化放送、(株)ポニーキャニオン、一般社団法人 夜景観光コンベンション・ビューロー、(株)ロボット、(株)WOWOW
後 援
NPO法人 映像産業振興機構(VIPO)、協同組合 日本映画監督協会
賛 助
アテネ・フランセ文化事業(株)、(株)伊藤園、(株)IMAGICA、ウルシステムズ(株)、(株)ガイエ、KICCORIT、キングレコード(株)、クエストルーム(株)、(株)スキップ、(有)スタンス・カンパニー、(株)ノーフューチャー、(株)バップ、(株)パラダイス・カフェ、(株)PIVOT、(有)プレス、(株)マンハッタンピープル、(株)ユー・スタッフ
作品数・上映回数
60作品/25プログラム/36回上映
入場者数
4,683人(1回平均130人)
新聞・雑誌等における掲載記事
日本経済新聞(夕刊) 9月2日 「自主映画か 課題映画か」 日本経済新聞(朝刊) 9月8日 「いいじゃん!自主映画」

395 第39回PFF

今年第39回を迎えたPFFをフィルムセンターと一般社団法人PFF、公益財団法人ユニジャパン、川喜多映画記念文化財団の共同主催で開催した。フィルムセンターでの開催は8回目となる。映画祭のメイン事業である自主映画コンペティション「PFFアワード」のほか、プロの映画監督による短篇自主映画を集めた「ワンピース! 新旧バトル」、PFFアワード受賞者の最新作「第24回PFFスカラシップ作品」「特別上映」、長時間映画作品を集めた「映画の闘い/闘いの映画」、今年生誕100年を迎えたジャン＝ピエール・メルヴィル監督を特集した「何度でも!メルヴィル」、映画人同士が特定のテーマについて対談する「PFF講座シリーズ 映画のコツ」からなる多彩なプログラムによる上映会を実施した。

39th Pia Film Festival

NFC co-organized the 39th PFF with PFF General Incorporated Association, UNIJAPAN, and Kawakita Memorial Film Institute. This was the eighth time PFF had been held at NFC. A wide variety of programs were shown. Other than the main event of the festival, 'PFF Award Competition' for independent films, various programs were held including 'One Piece! Old vs. New' which showcased short independent films by professional directors, 'The 24th PFF Scholarship Films', 'Special Screenings' which showed the latest titles from past PFF awardees, 'Fighting Film/Film on Fighting' which gathered longer films, 'As often as possible! Melville' featuring director Jean-Pierre Melville on his centennial, and 'PFF Lecture Series' which was guest talks on particular themes to learn the secrets of film.



コンペティション部門**◆PFFアワード2017****A**

9/19(火)6:00pm 9/27(水)2:45pm

風船(27分・カラー)

(監)中尾広道

さようなら、ごくろうさん(43分・カラー)

(監)城真也

子どものおもちや(52分・カラー)

(監)松浦真一

B

9/17(日)11:00am 9/20(水)3:00pm

かえりみち(48分・カラー)

(監)大浦美蘭

赤色彗星倶楽部(82分・カラー)

(監)武井佑吏

C

9/17(日)5:45pm 9/21(木)2:30pm

春みたいだ(33分・カラー)

(監)シガヤダイスケ

同じ月は見えない(105分・カラー)

(監)杉本大地

D

9/17(日)2:30pm 9/21(木)11:00am

うつらうつら(36分・カラー)

(監)高橋カンナ

狐のバラッド(85分・カラー)

(監)藤田千秋

E

9/19(火)2:30pm 9/23(土)2:30pm

円の網(48分・カラー)

(監)本村花菜

沈没家族(72分・カラー)

(監)加納土

F

9/19(火)11:00am 9/21(木)6:15pm

蠟石(29分・カラー)

(監)門脇康平

情操家族(83分・カラー)

(監)竹林宏之

G

9/20(水)11:00am 9/23(土)6:00pm

ブンデスリーガ(65分・カラー)

(監)太田達成

やさしいフルスイング(75分・カラー)

(監)尾崎健

H

9/16(土)5:30pm 9/27(水)11:00am

あみこ(66分・カラー)

(監)山中瑠子

わたしたちの家(80分・カラー)

(監)清原惟

招待作品部門**◆ワンピース!新旧バトル****U-1**

9/24(日)2:30pm

ワンピース・インターナショナル・クラシックス(全76分・カラー・英語字幕付)

(監)鈴木卓爾/矢口史靖

U-2

9/24(日)5:30pm

ワンピース・チャレンジ!(60分+トーク)

チャレンジャー(監)黒川幸則/深田晃司/今泉力哉/三宅唱ほか

◆第24回スカラシップ作品**V**

9/28(木)6:30pm

サイモン&タダタカシ(90分・カラー)

2017(監)小田学

◆特別上映**W**

9/20(水)6:30pm

枝葉のこと(114分・カラー)

2017(監)二ノ宮隆太郎

◆映画の闘い/闘いの映画**X-1**

9/28(木)6:30pm

あゝ、荒野(前篇:157分+後篇:147分・カラー)

2017(監)岸善幸

X-2

9/17(日)11:45am 9/22(金)12:30pm

チリの闘い(263分・カラー)

1975-1978(チリ=フランス=キューバ)(監)パトリシオ・グスマン

X-3

9/26(火)12:30pm

仁義なき戦い(1973/99分・35mm・カラー)

仁義なき戦い 広島死闘篇(1973/100分・35mm・カラー)

仁義なき戦い 代理戦争(1973/103分・35mm・カラー)

仁義なき戦い 頂上作戦(1974/101分・35mm・カラー)

(監)深作欣二

X-4

9/16(土)12:00pm

立ち去った女(228分・白黒)

2016(フィリピン)(監)ラヴ・ディアス

X-5

9/24(日)2:00pm

悲情城市(160分・35mm・カラー)

1989(台湾)(監)ホウ・シャオシェン

牯嶺街少年殺人事件(236分・カラー)

1991(台湾)(監)エドワード・ヤン

X-6

9/28(木)11:30am

昔のはじまり(338分・白黒)

2014(フィリピン)(監)ラヴ・ディアス

◆PFF講座シリーズ 映画のコツ

Z-1

9/22(金)6:30pm

月光の囁き(100分・35mm・カラー)

1999(監)塩田明彦

Z-2

9/24(日)11:00am

永遠の人(107分・35mm・白黒)

1961(監)木下恵介

◆何度でも！メルヴィル

Y-1

9/23(土)11:00am 9/27(水)6:15pm

ギャング(150分・35mm・白黒)

1966年(フランス)(監)ジャン＝ピエール・メルヴィル

Y-2

9/16(土)4:30pm

海の沈黙(86分・白黒)

1947(フランス)(監)ジャン＝ピエール・メルヴィル

Y-3

9/17(日)5:15pm

いぬ(108分・白黒)

1962(フランス)(監)ジャン＝ピエール・メルヴィル

Y-4

9/23(土)2:00pm

影の軍隊(140分・カラー)

1969(フランス)(監)ジャン＝ピエール・メルヴィル

Y-5

9/23(土)5:00pm

仁義(140分・カラー)

1970(フランス)(監)ジャン＝ピエール・メルヴィル

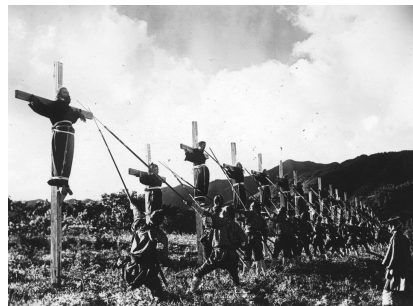
会 期
平成29年10月17日(火)～ 平成29年10月22日(日)(6日間)
会 場
大ホール
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター
作品数・上映回数
8作品／6プログラム／12回上映
入場者数
1,347人(1回平均112人)
新聞・雑誌等における掲載記事
合同通信 第20732号 9月6日 「◎センター、無声映画弁士・伴奏付上映会」
朝日新聞 夕刊 5面 9月29日 情報掲載/劇場鑑賞券プレゼント
読売新聞 夕刊 13面 10月10日情報掲載
常陽藝文 定期 情報掲載
名画座かんべ 定期 上映スケジュール
Kyoubashi Times 9月17日 情報掲載
映画ナタリー 10月16日 「無声映画を弁士&伴奏付きで上映、溝口健二の現存する最古の作品など8本」
東京アートビート 10月17日 情報掲載

396 シネマの冒険 闇と音楽 2017

1995年からシリーズ化された「シネマの冒険 闇と音楽」は、無声映画を音楽や弁士の語りとともに上映し、無声映画時代の鑑賞様態も含めて体験することができる特別企画である。今回は、フィルムセンターが所蔵する日本映画の中から、上映機会の少ない秀作で、プリント状態も非常に良い作品8本(6プログラム)を上映し、作家のフィルモグラフィにおける教育映画の位置づけ、カトリック教会と日本映画界との関係、従来注目されてこなかった独立プロにおけるモダニズムなど、映画史において十分に検証されてこなかった視点を提起した。

Silent Film Renaissance 2017

'The Silent Film Renaissance' series appeared in 1995, as a special program to experience silent films including the screening style in the silent film era with live music and *benshi* performance. This time it showed eight films (six programs) selected from excellent but rarely shown Japanese films in good print condition in NFC's collection, to suggest angles that had not been previously considered or given sufficient attention in film history, such as the position of educational films in a filmmaker's filmography, the relationship between the Catholic Church and Japanese films, and modernism of independent productions.



★印の回は、弁士・伴奏付き上映(特別料金)

1

10/17(火)7:00pm★ 10/21(土)12:00pm

慈悲心鳥(2分・18fps・35mm・無声・白黒・断片)

1927(日活大将軍)(監)溝口健二

東京行進曲[日活グラフ版](22分・18fps・35mm・無声・白黒)

1929(日活太秦)(監)溝口健二

ふるさとの歌 水車小屋の子、改題(50分・20fps・35mm・無声・
染色/調色)[英語字幕付]

1925(文部省=日活関西教育部)(監)溝口健二

2

10/17(火)3:00pm 10/22(日)4:30pm★

十字路(87分・18fps・35mm・無声・白黒)[英語インタータイトル
版]

1928(衣笠映画聯盟=松竹下加茂)(監)衣笠貞之助

3

10/18(水)3:00pm 10/20(金)7:00pm★

明日天気になあれ(61分・18fps・35mm・無声・白黒)[英語字幕付]

1929(松竹蒲田)(監)島津保次郎, 西尾佳雄

4

10/19(木)3:00pm 10/21(土)4:30pm★

殉教血史 日本二十六聖人(96分・20fps・35mm・無声・白黒)

1931(日活太秦)(監)池田富保

5

10/18(水)7:00pm★ 10/22(日)12:00pm

榮冠涙あり(110分・18fps・35mm・無声・白黒)

1931(不二映画)(監)鈴木重吉

6

10/19(木)7:00pm★ 10/20(金)3:00pm

熊の出る開墾地(104分・20fps・35mm・無声・白黒)

1932(不二映画)(監)鈴木重吉

会 期
平成29年10月28日(土)～ 平成29年11月5日(日)(8日間)
会 場
大ホール
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター、 東京国際映画祭、モーション・ピク チャー・アソシエーション(MPA)
特別協力
ジョージ・イーストマン博物館
助 成
アメリカ合衆国大使館
作品数・上映回数
8作品／8プログラム／16回上映
入場者数
2,487人(1回平均155人)
新聞・雑誌等における掲載記事
合同通信 第20730号 9月1日 ◎Fセン ター『イーストマン博物館』特集 東京リビング新聞 10月28日 情報掲載 読売新聞 夕刊 10月27日 情報掲載 東京エキマチvol.15 10月10日 情報掲 載 常陽藝文 定期 情報掲載 名画座かんぺ 定期 上映スケジュール 週刊ポスト 11月10日 情報掲載／週刊 名画座かんぺ ファッションプレス 10月11日 情報掲 載 スターチャンネルニュース 7月31日 情報掲載 シネマトゥデイ 7月31日 情報掲載 映画ナタリー 7月31日 情報掲載 TIFF学生応援団ブログ 10月26日 「ジョージ・イーストマン博物館 映画コレ クション」番外編～フィルムの魅力に迫 る！～ TIFF学生応援団ブログ 10月26日 「ジョージ・イーストマン博物館 映画コレ クション」vol.2～フィルムセンターで映 画体験を！～ TIFF学生応援団ブログ 10月26日 「ジョージ・イーストマン博物館 映画コレ クション」vol.1～企画の魅力を紹介！～ Kyobashi times 10月4日 情報掲載 リアルサウンド映画部 7月31日情報掲 載

397 ジョージ・イーストマン博物館 映画コレクション

映画と写真の博物館として世界的にその名を馳せるジョージ・イーストマン博物館(GEM)は、イーストマン・コダック社の創業者であるジョージ・イーストマン(1854-1932)の邸宅(ニューヨーク州ロチェスター市)を、彼の死後に活用する形で1949年に開館した博物館である。開館以来、歴代の映画キュレーターたちのユニークな選択眼を基にしたアーカイブ事業を展開し、現在では、無声アメリカ映画を始めとする数々の貴重な作品の可燃性原版やプリントのコレクションを誇るのみならず、世界の映画保存をリードする教育機関としても評価を不動のものとしている。本企画は、同アーカイブの所蔵作品を通して、フィルムアーカイブの活動と意義を普及し、フィルム上映ならではのフィルム表現の特性の理解を促すと同時に、アメリカ映画の歴史と文化への関心を深めることを狙いとした。

Film Treasures from George Eastman Museum

George Eastman Museum (GEM) is winning fame worldwide as a museum of cinema and photography. Opened in 1949, it is based in the residence of George Eastman (1854-1932), the founder of Eastman Kodak Company in Rochester, NY, renovated after his death. Since its opening, its film department has been developing film archiving through the unique tastes of successive film curators. Its reputation is now established due to the uncountable number of nitrate originals and prints in the collection, including precious American silent films, and also as an educational institution leading film preservation worldwide. This event aimed to spread the significance of film archiving through its collection, promote film expressions peculiar to film projection, and deepen the understanding of history and culture of American films.



★印の回は弁士・伴奏付で上映します。

1

10/28(土)3:30pm★ 11/3(金・祝)3:30pm★

ベン・ハー(152分・20fps・35mm・無声・白黒)

BEN-HUR: A TALE OF THE CHRIST

1925(MGM)(監)フレッド・ニプロ

2

10/29(日)4:00pm★ 11/3(金・祝)11:00am

人生の乞食(81分・24fps・35mm・無声・白黒)

BEGGARS OF LIFE

1928(パラマウント・フェイマス・ラスキー)(監)ウィリアム・A・ウエルマン

3

10/28(土)11:45am 10/31(火)7:00pm

クイーン・ケリー [スワンソン・エンディング版] (75分・35mm・白黒)

QUEEN KELLY

1931(グロリア・スワンソン・ピクチャーズ)(監)エリッヒ・フォン・シュトロハイム

4

11/2(木)3:00pm 11/5(日)12:30pm

グランド・ホテル(112分・35mm・白黒)

GRAND HOTEL

1932(MGM)(監)エドマンド・ゲールディング

5

11/1(水)3:00pm 11/4(土)3:30pm

戦艦 バウンティ号の叛乱(132分・35mm・白黒)

MUTINY ON THE BOUNTY

1935(MGM)(監)フランク・ロイド

6

11/1(水)7:00pm 11/5(日)4:00pm

マルクス一番乗り(111分・35mm・白黒)

A DAY AT THE RACES

1937(MGM)(監)サム・ウッド

7

10/31(火)3:00pm 11/4(土)12:30pm

生まれながらの悪女(90分・35mm・白黒)

BORN TO BE BAD

1950(RKO)(監)ニコラス・レイ

8

10/29(日)12:00pm 11/2(木)7:00pm

パンドラ(123分・35mm・カラー)

PANDORA AND THE FLYING DUTCHMAN

1951(ロムルス・フィルムズ)(監)アルバート・ルーイン

会 期
平成29年11月9日(木)～ 平成29年11月19日(日)(10日間)
会 場
小ホール
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター
作品数・上映回数
23作品／12プログラム／24回上映
入場者数
2,393人(1回平均100人)
新聞・雑誌等における掲載記事
朝日新聞 夕刊 10月26日 「■名優の晩年追う@京橋」
読売新聞 夕刊 10月29日 情報掲載
常陽藝文 定期 情報掲載
名画座かんべ 定期 上映スケジュール
歌舞伎公式総合サイト「歌舞伎美人」 10月19日 ドキュメンタリー映画『歌舞伎役者 片岡仁左衛門』6部作一挙上映のお知らせ
Kyobashi Times 10月23日 情報掲載
中央区観光協会特派員ブログ 11月10日 情報掲載
neonco web 10月25日 【News】2017/11/9(木)～19(日) ドキュメンタリー作家羽田澄子 Part 2 開催! @東京国立近代美術館フィルムセンター
kabuki on the web 10月25日 「京橋映画小劇場No.36」で羽田澄子監督の映画『歌舞伎役者 片岡仁左衛門』を上映

398 《京橋映画小劇場 No.36》 ドキュメンタリー作家 羽田澄子 Part2

昨年度に続く羽田澄子監督特集の第2弾として、歌舞伎関係の作品に加え、企業PR映画や教養テレビ番組「生きものぼんざい」など、第1弾では上映できなかった短篇記録映画作品23点を12プログラムに構成した。これにより、日本のドキュメンタリー映画史における代表的監督の一人である羽田監督の主要作品のほぼ網羅的な上映となった。

Kyobashi-za No. 36: Sumiko Haneda: A Documentary Filmmaker, Part 2

Continued from the previous fiscal year, this screenings event of film director Sumiko Haneda organized 23 short documentaries into 12 programs, including *kabuki* related or corporate PR titles and an educational TV program *Ikimono banzai* which were left out of Part One. Thanks to this Part Two, NFC was able to show almost all the important titles of director Haneda, a leading film director of Japanese documentary film history.



1

11/9(木)2:00pm 11/15(水)4:30pm

頌 齊藤知一郎(32分・35mm・カラー)

1961(企画:大昭和製紙/製作:岩波映画)(監)羽田澄子

木と家(25分・35mm・カラー)

1973(企画:住友林業株式会社/製作:岩波映画)(監)羽田澄子

鐵齋の画(32分・35mm・カラー)

1981(企画:清荒神清澄寺/製作:岩波映画)(監)羽田澄子

2

11/9(木)5:00pm 11/17(金)2:00pm

EXPO'70 コンピュートピア(23分・16mm・カラー)

1970(企画:富士通株式会社/製作:岩波映画)(監)羽田澄子

コカ・コーラのお話(15分・35mm・カラー)

1977(企画:コカ・コーラボトラーズ/製作:岩波映画)(監)羽田澄子

日米文化交流の記録—1983年—(17分・16mm・カラー)

1984(企画:サントリー美術館、サントリー文化財団/製作:岩波映画)(監)羽田澄子

加齢 一肌の変化とそのしくみ—(20分・35mm・カラー)

1979(企画:ポーラ化粧品/製作:岩波映画)(監)羽田澄子

3

11/14(火)2:00pm 11/17(金)5:00pm

大田区につたわる無形文化財(35分・16mm・カラー)

1973(企画:東京都大田区/製作:岩波映画)(監)羽田澄子

早池峰神楽の里(52分・16mm・カラー)

1981(企画:映画「早池峰神楽の里」をつくる会/製作:岩波映画)(監)羽田澄子

4

11/14(火)5:00pm 11/16(木)2:00pm

生きものばんざい モンシロチョウの恋(26分・16mm・カラー)

1974(制作:毎日放送、岩波映画)(監)羽田澄子

生きものばんざい 流れ藻 運命の乗合バス(26分・16mm・カラー)

1974(制作:毎日放送、岩波映画)(監)羽田澄子

生きものばんざい 奇魚! 魚を釣る魚(26分・16mm・カラー)

1974(制作:毎日放送、岩波映画)(監)羽田澄子

生きものばんざい モモンガ赤ちゃん日記(26分・16mm・カラー)

1974(制作:毎日放送、岩波映画)(監)羽田澄子

5

11/10(金)2:00pm 11/16(木)5:00pm

岩波ホール演劇シリーズ第二回公演 東海道四谷怪談(93分・16mm・カラー)

1976(企画:岩波ホール/製作:岩波映画)(監)羽田澄子

6

11/10(金)5:00pm 11/15(水)1:30pm

歌舞伎の魅力 菅 丞相 片岡仁左衛門 一義太夫狂言の演技—(36分・16mm・カラー)

1982(企画監修:国立劇場/製作:岩波映画)(監)羽田澄子

歌舞伎の魅力 音楽 おさん 茂兵衛 大經師 昔磨にみる(35分・16mm・カラー)

1985(企画監修:国立劇場/製作:岩波映画)(監)羽田澄子

歌舞伎の魅力 新歌舞伎(34分・16mm・カラー)

1986(企画監修:国立劇場/製作:岩波映画)(監)羽田澄子

7

11/11(土)11:00am 11/18(土)11:00am

歌舞伎役者 片岡仁左衛門 若鮎の巻(100分・16mm・カラー)

1992(企画:仁左衛門の芸談をきく会/製作:自由工房)(監)羽田澄子

8

11/11(土)2:00pm 11/18(土)2:00pm

歌舞伎役者 片岡仁左衛門 人と芸の巻 上巻(94分・16mm・カラー)

1992(企画:仁左衛門の芸談をきく会/製作:自由工房)(監)羽田澄子

9

11/11(土)4:30pm 11/18(土)4:30pm

歌舞伎役者 片岡仁左衛門 人と芸の巻 中巻(101分・16mm・カラー)

1992(企画:仁左衛門の芸談をきく会/製作:自由工房)(監)羽田澄子

10

11/12(日)11:00am 11/19(日)11:00am

歌舞伎役者 片岡仁左衛門 人と芸の巻 下巻(110分・16mm・カラー)

1992(企画:仁左衛門の芸談をきく会/製作:自由工房)(監)羽田澄子

11

11/12(日)1:40pm 11/19(日)1:40pm

歌舞伎役者 片岡仁左衛門 孫右衛門の巻(86分・16mm・カラー)

1992(企画:片岡仁左衛門の芸談をきく会/製作:自由工房)(監)羽田澄子

12

11/12(日)4:00pm 11/19(日)4:00pm

歌舞伎役者 片岡仁左衛門 登仙の巻(158分・16mm・カラー)

1994(企画:仁左衛門の芸談をきく会/製作:自由工房)(監)羽田澄子

会 期
平成29年11月28日(火)～ 平成29年12月24日(日)(24日間)
会 場
大ホール
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター、 チェコ国立フィルムアーカイブ、 チェコセンター東京
助 成
ペトル・ホリー (チェコ蔵主宰、女子美術大学講師)
作品数・上映回数
26作品／24プログラム／48回上映
入場者数
6,338人(1回平均132人)
新聞・雑誌等における掲載記事
東京新聞 11月23日 情報掲載 読売新聞 夕刊 8面 11月24日 「チェコ映画の特集企画」 読売新聞 夕刊 7面 12月5日 情報掲載 国書刊行会「チェコスロヴァキア・ヌーヴェルヴァーグ」映画祭公式本。10月25日 情報掲載 SCREEN 1月号 11月21日 情報掲載 常陽藝文 定期 情報掲載 名画座かんぺ 定期 上映スケジュール 週刊新潮 12月7日号 11月30日 「カチンコ闇魔帳/1929年の「エロ」映画」 ファッションプレス 11月14日 「過去最大チェコ映画特集が東京国立近代美術館フィルムセンターで、日本初『エロティコン』ピアノ伴奏と上映」 銀座経済新聞 11月20日 「フィルムセンターでチェコ映画特集 日本初上映18本を含む26本」 Kyobashi times 11月18日 情報掲載 CINRA 11月23日 「特集『チェコ映画の全貌』に無声映画やチェコ・ヌーヴェルヴァーグなど26本」 CINRA 11月23日 情報掲載

399 日本におけるチェコ文化年2017 チェコ映画の全貌

中欧の映画大国・チェコの、史上最大規模の回顧上映。チェコ国立フィルムアーカイブおよびチェコセンター東京との共催。知られざるチェコ無声映画から、多種多様なトーキー時代、チェコ・ヌーヴェルヴァーグ作品、1970年代の娯楽作まで、歴史的変遷を示す多様な上映プログラムを組んだ。理解を深めるために、チェコ国立フィルムアーカイブの研究者による講演会を開催した。本企画は平成29年12月、京都国立近代美術館で巡回開催を行った。また、平成30年2月には福岡市総合図書館での巡回開催を行った。

Tracing the Czech Cinema at The Year of Czech Culture 2017

This is the largest ever retrospective of the Czech Republic, a major film producing country in central Europe, co-hosted with Czech National Film Archive and Czech Center Tokyo. From unknown Czech silent films via various titles made in the talkie-era and Czech Nouvelle Vague, to the entertainment films of the 1970s, a diverse program was organized to show historical changes. Also, to deepen understanding, a lecture by a researcher from Czech National Film Archive was held. The program was also for circulation to the National Museum of Modern Art, Kyoto in December 2017, and Fukuoka City Public Library in February 2018.



★印の回はピアノ伴奏付きで上映

1

11/28(火)3:00pm 12/3(日)4:00pm★

大聖堂の建築者(40分・DCP・無声・染色・チェコ語インタータイトル)

STAVITEL CHRÁMU

1920(デグル兄弟社)(監)カレル・デグル、アントニン・ノヴォトニー

暗闇の訪れ(65分・DCP・無声・白黒・チェコ語インタータイトル)

PRÍCHOZÍ Z TEMNOT

1921(レックスフィルム)(監)ヤン・スタニスラフ・コラル

2

11/28(火)7:00pm 12/2(土)12:00pm★

悪党の女たち(113分・DCP・無声・染色・チェコ語インタータイトル・英語字幕付き)

MILENKY STARÉHO KRIMINÁLNÍKA

1927(アグロ・フィルム カヴァリアルカ・スタジオ)(監)スヴァトプルク・イネマン

3

11/29(水)3:00pm 11/30(木)7:00pm★

バタリオン(99分・DCP・無声・白黒・チェコ語インタータイトル・英語字幕付き)

BATALION

1927(プシエミスル・プラシュスキー)(監)プシエミスル・プラシュスキー

4

11/29(水)7:00pm 12/2(土)4:30pm★

エロティコン(89分・DCP・無声・白黒・チェコ語インタータイトル)

EROTIKON

1929(ゲー・エム・フィルム)(監)グスタフ・マハティール

5

11/30(木)3:00pm 12/1(金)7:00pm★

これが人生(75分・DCP・無声・白黒・チェコ語インタータイトル・英語字幕付き)

TAKOVÝ JE ŽIVOT

1930(テオドル・ピシュチェク、ヴァーツラフ・ブカッチ)(監)カール・ユンハンス

6

12/1(金)3:00pm 12/3(日)12:00pm★

勇敢な兵士シュヴェイク(79分・DCP・無声・白黒・チェコ語インタータイトル)

OSUDY DOBRÉHO VOJÁKA ŠVEJKA

1930(グロリアフィルム)(監)マルチン・フリッチ

7

12/5(火)7:00pm 12/7(木)3:00pm

絞首台のトンカ(87分・DCP・パートトーキー・白黒・フランス

語インタータイトル・英語字幕付き)

TONKA ŠIBENICE

1930(アントンフィルム)(監)カレル・アントン

8

12/5(火)3:00pm 12/9(土)12:30pm

土曜から日曜へ(73分・DCP・白黒・英語字幕付き)

ZE SOBOTY NA NEDĚLI

1931(AB)(監)グスタフ・マハティール

9

12/6(水)7:00pm 12/8(金)3:00pm

サイレン(78分・DCP・白黒)

SIRÉNA

1947(チェコスロヴァキア国営映画社)(監)カレル・ステクリー

10

12/6(水)3:00pm 12/9(土)4:00pm

クラカチット(102分・DCP・白黒・英語字幕付き)

KRAKATIT

1948(チェコスロヴァキア映画協会)(監)オタカル・ヴァーヴラ

11

12/7(木)7:00pm 12/10(日)1:00pm

お人好しの兵士シュヴェイク(111分・DCP・カラー・英語字幕付き)

DOBRÝ VOJÁK ŠVEJK

1957(バランドフ撮影所)(監)カレル・ステクリー

12

12/8(金)7:00pm 12/10(日)4:00pm

閣下に報告(96分・DCP・カラー・英語字幕付き)

POSLUŠNĚ HLÁSÍM

1958(バランドフ撮影所)(監)カレル・ステクリー

13

12/12(火)3:00pm 12/23(土・祝)5:00pm

鳩(70分・DCP・白黒)

HOLUBICE

1960(バランドフ撮影所)(監)フランチシェク・ヴラーチル

14

12/12(火)7:00pm 12/24(日)4:00pm

天井(43分・DCP・白黒)

STROP

1963(FAMU)(監)ヴィエラ・ヒチロヴァー

袋いっぱいの蚤(45分・DCP・白黒・英語字幕付き)

PYTEL BLECH

1963(科学教育映画スタジオ)(監)ヴィエラ・ヒチロヴァー

15

12/13(水)7:00pm 12/19(火)3:00pm

ホップ・サイド・ストーリー (93分・DCP・カラー・英語字幕付き)

STARCI NA CHMELU

1964(バランドフ撮影所)(監)ラジスラフ・リヒマン

16

12/13(水)3:00pm 12/24(日)1:00pm

夜のダイヤモンド(67分・DCP・白黒・英語字幕付き)

DÉMANTY NOCI

1964(バランドフ撮影所)(監)ヤン・ニューメツ

17

12/14(木)3:00pm 12/19(火)7:00pm

嚴重に監視された列車(93分・DCP・白黒・英語字幕付き)

OSTŘE SLEDOVANÉ VLAKY

1966(バランドフ撮影所)(監)イジー・メンツル

18

12/14(木)6:00pm 12/23(土・祝)1:00pm

マルケータ・ラザロヴァー(166分・DCP・白黒・英語字幕付き)

MARKETA LAZAROVÁ

1967(バランドフ撮影所)(監)フランチシェク・ヴラーチル

19

12/16(土)4:00pm 12/20(水)3:00pm

火事だよ！カワイ子ちゃん(73分・DCP・カラー・英語字幕付き)

HOŘÍ, MÁ PANENKO

1967(バランドフ撮影所=カルロ・ボンティ・チネマトグラフィカ)
(監)ミロシュ・フォルマン

20

12/16(土)1:00pm 12/22(金)7:00pm

すべての善良なる同胞(121分・DCP・カラー・英語字幕付き)

VŠICHNI DOBRŮ RODÁCI

1969(バランドフ撮影所)(監)ヴォイチェフ・ヤスニー

21

12/17(日)4:00pm 12/22(金)3:00pm

アデルハイト(104分・DCP・カラー・英語字幕付き)

ADELHEID

1970(バランドフ撮影所)(監)フランチシェク・ヴラーチル

22

12/17(日)1:00pm 12/21(木)7:00pm

新入りの死刑執行人のための事件(107分・DCP・白黒・英語字幕付き)

PŘÍPAD PRO ZAČÍNÁJÍCÍHO KATA

1970(バランドフ撮影所)(監)パヴェル・ユラーチェク

23

12/15(金)3:00pm 12/20(水)7:00pm

ほうぎに乗った女の子(79分・DCP・カラー)

DÍVKA NA KOŠTĚTI

1972(バランドフ撮影所)(監)ヴァーツラフ・ヴォルリーチェク

24

12/15(金)7:00pm 12/21(木)3:00pm

アデラ／ニック・カーター、プラハの対決(107分・DCP・カラー・英語字幕付き)

ADÉLA JEŠTĚ NEVEČĚRELA

1978(バランドフ撮影所)(監)オールドジフ・リプスキー

会 期
平成30年1月5日(金)～ 平成30年1月25日(木)(18日間)
会 場
大ホール
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター
特別協力
ソニー・ピクチャーズエンタテインメント
作品数・上映回数
17作品/17プログラム/34回上映
入場者数
4,937人(1回平均145人)
新聞・雑誌等における掲載記事
読売新聞 夕刊 7面 12月26日情報掲載
読売新聞 夕刊 8面 12月15日「ソニー・ピクチャーズ寄贈の17本一挙上映」常陽藝文 定期 情報掲載
名画座かんべ 定期 上映スケジュール
週刊東京ウォーカー 1月3日 情報掲載
デジタルびあ 定期 上映スケジュール
文化庁web広報誌「ぶんかる」イベント紹介 1月公開分 情報掲載
ファッションプレス 12月7日 『タクシードライバー』や『スタンド・バイ・ミー』ソニーの名作上映、東京国立近代美術館フィルムセンターで」
Kyobashi times 12月8日 情報掲載
銀座経済新聞 12月22日 「フィルムセンターで特集上映「ソニー・ピクチャーズエンタテインメントコレクション」」
INTRO 12月9日 情報掲載
タイムアウト東京 12月25日 情報掲載

400 ソニー・ピクチャーズエンタテインメント コレクション

ソニー・ピクチャーズエンタテインメント (SPE) 社から寄贈された日本語字幕付き外国映画17本の35mmプリントすべてをお披露目するコレクション紹介の企画であり、アメリカ映画にきわめて重要な貢献を果たしてきた同社の足跡を振り返る回顧特集である。作品は、同社に1989年に買収されたコロムビア・ピクチャーズが1957年から1986年にかけて製作・配給した8本の作品と、SPE社が2011年から2014年にかけて製作・配給した9本の作品とで構成された。

Sony Pictures Entertainment Collection

This program was to introduce NFC's collection by showing all the 17 foreign films on 35mm prints with Japanese subtitles donated from Sony Pictures Entertainment (SPE). It was also a retrospective program to look back at the history of SPE, which had played an important role in supporting American films. The program was organized with eight titles produced and distributed from 1957 to 1986 by Columbia Pictures, which was purchased by SPE in 1989, and nine titles SPE produced and distributed from 2011 to 2014.



1

1/5(金)3:00pm 1/20(土)12:30pm

戦場にかける橋(161分・35mm・カラー)

THE BRIDGE ON THE RIVER KWAI

1957(コロンビア・ピクチャーズ=ホライズン・ピクチャーズ)(監)デヴィッド・リーン

2

1/6(土)12:00pm 1/16(火)6:30pm

ナバロンの要塞(156分・35mm・カラー)

THE GUNS OF NAVARONE

1961(コロンビア・ピクチャーズ=ハイロード・プロダクションズ)(監)J・リー・トンブソン

3

1/5(金)7:00pm 1/21(日)1:00pm

シベールの日曜日(111分・35mm・白黒)

CYBELE OU LES DIMANCHES DE VILLE D'AVRAY

1962(テラ・フィルム=フィデス=オルセー・フィルム=レ・フィルム・トロカデロ)(監)セルジュ・プーレギニオン

4

1/7(日)1:00pm 1/17(水)3:00pm

アラビアのロレンス 完全版(227分・35mm・カラー)

LAWRENCE OF ARABIA

1962(ホライズン・ピクチャーズ)(監)デヴィッド・リーン

5

1/6(土)4:00pm 1/18(木)7:00pm

追憶(118分・35mm・カラー)

THE WAY WE WERE

1973(コロンビア・ピクチャーズ=ラスター・プロダクションズ)(監)シドニー・ポラック

6

1/9(火)3:00pm 1/21(日)4:00pm

タクシードライバー(114分・35mm・カラー)

TAXI DRIVER

1976(コロンビア・ピクチャーズ=ビル/フィリップス)(監)マーティン・スコセッシ

7

1/13(土)1:00pm 1/19(金)7:00pm

クレイマー、クレイマー(105分・35mm・カラー)

KRAMER VS. KRAMER

1979(コロンビア・ピクチャーズ=スタンリー・ジャッフェ・プロダクション)(監)ロバート・ベントン

8

1/9(火)7:00pm 1/20(土)4:30pm

スタンド・バイ・ミー(89分・35mm・カラー)

STAND BY ME

1986(コロンビア・ピクチャーズ=アクトⅢプロダクションズ)(監)ロブ・ライナー

9

1/13(土)4:00pm 1/18(木)3:00pm

おとなのけんか(80分・35mm・カラー)

CARNAGE

2011(SBSプロダクションズ=コンスタンティン・フィルム=SPIフィルム・スタジオ=ヴェルサティル・シネマ=ザナガル・フィルムズ=フランス・ドウ・シネマ)(監)ロマン・ポランスキー

10

1/14(日)3:30pm 1/19(金)3:00pm

ドラゴン・タトゥーの女(158分・35mm・カラー)

THE GIRL WITH THE DRAGON TATTOO

2011(コロンビア・ピクチャーズ=MG M=スコット・ルーディン/イエロー・バード・プロダクションズ)(監)デヴィッド・フィンチャー

11

1/10(水)3:00pm 1/23(火)7:00pm

トータル・リコール(118分・35mm・カラー)

TOTAL RECALL

2012(コロンビア・ピクチャーズ=オリジナル・フィルム)(監)レン・ワイズマン

12

1/12(金)3:00pm 1/25(木)7:00pm

アフター・アース(100分・35mm・カラー)

AFTER EARTH

2013(コロンビア・ピクチャーズ=オーヴァーブルック・エンタテインメント=ブライディング・エッジ・ピクチャーズ)(監)M・ナイト・シャマラン

13

1/12(金)6:30pm 1/24(水)3:00pm

ホワイトハウス・ダウン(132分・35mm・カラー)

WHITE HOUSE DOWN

2013(コロンビア・ピクチャーズ=ミソロジー・エンタテインメント=セントロポリス・エンタテインメント)(監)ローランド・エメリッヒ

14

1/14(日)12:00pm 1/25(木)3:00pm

キャプテン・フィリップス(134分・35mm・カラー)

CAPTAIN PHILLIPS

2013(スコット・ルーディン・プロダクションズ=マイケル・デルカ・プロダクションズ=トリガー・ストリート・プロダクションズ)(監)ポール・グリーングラス

15

1/10(水)7:00pm 1/16(火)3:00pm

ロボコップ(117分・35mm・カラー)

ROBOCOP

2014(MGM=コロンビア・ピクチャーズ=ストライク・エンタテインメント)(監)ジョゼ・パジーリャ

16

1/11(木)3:00pm 1/24(水)7:00pm

NY心霊捜査官(118分・35mm・カラー)

DELIVER US FROM EVIL

2014(スクリーン・ジェムズ=ジェリー・ブラッカイマー・フィルムズ=Lスター・キャピタル)(監)スコット・デリクソン

17

1/11(木)6:30pm 1/23(火)3:00pm

イコライザー(132分・35mm・カラー)

THE EQUALIZER

2014(ヴィレッジ・ロードショウ・ピクチャーズ=エスケープ・アーティスツ=コロンビア・ピクチャーズ=Lスター・キャピタル=ZHI V=メイス・ニューフェルド)(監)アントワン・フークア

会 期
平成30年1月30日(火)～ 平成30年3月4日(日)(30日間)
会 場
大ホール
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター
作品数・上映回数
89作品／30プログラム／60回上映
入場者数
9,006人(1回平均150人)
新聞・雑誌等における掲載記事
北羽新報 1面 3月13日 「能代港町全貌」の紹介 秋田魁新報 2月20日 裕仁皇太子の映画 北羽新報 8面 2月15日 「能代港町全貌」の紹介 しんぶん赤旗 9面 2月12日 発掘・復元した「映画たち」 河北新報 2月9日 戦前の港町 銀幕に 読売新聞 夕刊 2月6日 シティライフのコーナー／情報掲載 秋田魁新報 2月4日 「能代港町全貌」上映へ11、28日に都内 産経新聞 14面 2月2日 修復・発掘した貴重な89本の映像紹介 毎日新聞 秋田版 24面 1月29日「能代港町全貌」の紹介 朝日新聞 夕刊 3面 1月26日 発掘・復元された映画89本 東京で30日から上映会 日本経済新聞 夕刊 14面 1月24日 若き昭和天皇の映画を復元 読売新聞 夕刊 9面 1月20日 無声版「忠臣蔵」など89本上映 フィルムセンター 世界日報 12面 1月19日 復元活動の成果を示す「発掘された映画たち2018」 北羽新報 9面 1月10日 「能代港町全貌」の紹介 常陽藝文 定期 情報掲載 名画座かんべ 定期 上映スケジュール 東京エキマチvol.17 2月10日 情報掲載 産経フジ 2月2日 情報掲載 週刊新潮 2月1日号 2月1日 発掘「大正2年」ホームムービーが撮っていたもの 東映キネマ旬報 冬号 2月1日 情報掲載 SCREEN 3月号 1月21日 情報掲載 映画秘宝 3月号 1月21日 情報掲載 Confetti 2月号 1月1日 情報掲載 デジタルびあ 定期 上映スケジュール 文化庁web広報誌「ぶんかる」イベント紹介 定期 情報掲載

401 発掘された映画たち2018

本特集は、国立唯一の映画機関であるフィルムセンターの、日々のアーカイブ活動の成果を一般の映画ファンにも目に見える形で披露する上映シリーズであり、今回で節目の10回目を迎えた。今回は過去のシリーズでも最大規模となる30番組（89作品）を、複数バージョン特集、発掘されたアニメーション映画、個人映画特集、カラー復元特集、可燃性オリジナルネガからのダイレクトプリントなど、映画史ならびに保存復元の観点から、多彩な切り口で紹介した。上映に際しては、ゲスト講師や研究員、製作スタッフ、フィルム寄贈者らによるトークイベントを計25回開催した。

Cinema: Lost and Found 2018

This program is a screenings series in which NFC, the only national film institution in Japan, introduces the results of its daily activities to ordinary film fans. As the 10th installment in the series, it showed 30 programs (89 titles), which was the largest ever. And from a film history and preservation/restoration point of view, it introduced films from a wide variety of angles such as screenings of multiple versions, found animation films, private films, color restorations, and direct prints from nitrate originals. A total of 25 talk events were held at the screenings by guest lecturers, researchers, production staff members, and film donors.



★印の回は当館研究員等による解説あり

1

2/3(土)12:30pm★ 2/23(金)6:30pm

複数バージョン特集1—横田商会製作の『忠臣蔵』(計125分)

実録 忠臣蔵[活弁トーキー版](74分・35mm・白黒)

1910-12(横田商会)(監)牧野省三

忠臣蔵[仮題](51分・16fps・35mm・無声・染色・部分)

1910-12(横田商会)(監)牧野省三

2

2/3(土)4:00pm★ 2/27(火)7:00pm★

複数バージョン特集2—裕仁皇太子の渡欧映画(計84分)

皇太子渡欧映画総集篇[仮題](76分・16fps・35mm・無声・白黒)

1921

東宮殿下御外遊 實況 大正十年(8分・16fps・35mm・無声・染色)

1921

3

2/4(日)1:00pm★ 2/28(水)7:00pm★

複数バージョン特集3

一日露戦争と関東大震災の記録映画(計74分)

國宝的記録映画 旅順開城と乃木將軍(16分・16fps・35mm・無声・白黒)

1932(セカイフィルム社)

日露大戦争(6分・16fps・35mm・無声・染色)

1930(大阪フィルム商会)

日本之大地震(3分・24fps・35mm・無声・白黒)

1923以降

震災後之日本(3分・24fps・35mm・無声・白黒)

1923以降

東京大震災の惨状(11分・18fps・35mm・無声・白黒)

1923頃(山本興行部)

関東大震災実写 1923[仮題](17分・18fps・35mm・無声・白黒)

1923頃(原版協力:マツダ映画社)

SCENES OF JAPAN'S EARTHQUAKE DISASTER(11分・

18fps・35mm・無声・白黒・英語 インタータイトル・日本語字幕付)

1923(アメリカン・パステル・ニュース)

1923年9月1日 東京 大震災[仮題](7分・16fps・16mm・無声・白黒)

1945以降

4

2/4(日)4:00pm 2/21(水)3:00pm

発掘されたアニメーション映画1(計61分)

なまくら刀はなわへこないめいとろのまき[新最長版](5分・16fps・35mm・無声・染色)

1917(小林商会)(作画)幸内純一

飛行家の夢(1分・16fps・35mm・無声・染色)

製作年等不詳

熱河爆撃隊[ライオン印版・仮題](2分・16fps・35mm・無声・白黒)

製作年等不詳

日乃丸旗之助 ギヤング討伐[ライオン印版](2分・16fps・35mm・無声・白黒)

製作年等不詳

トム君の漫画 腕白日記[ライオン印版](2分・16fps・35mm・無声・白黒)

製作年等不詳

小人の電話(26分・35mm・カラー)

1953(渡部プロダクション)(監)藪下泰司

おんぶおばけ(23分・24fps・16mm・無声・カラー)

1955(監)横山隆一

5

2/6(火)3:00pm 3/3(土)12:30pm

発掘されたアニメーション映画2

ヤスジのボルノラマ やっちまえ!!(96分・35mm・カラー)

1971(東京テレビ動画)(監)三輪孝輝・高桑慎一郎

6

2/9(金)3:00pm★ 2/25(日)1:00pm★

個人映画特集1:阿部正直コレクション(計75分)

北口富士登山 大正二年八月(2分・16fps・35mm・無声・白黒)

1913(撮)阿部正直

阿部正道一才(大正六年十二月)ニ才(大正七年七月)(2分・16fps・35mm・無声・白黒)

1917-18(撮)阿部正直

阿部正直の子供たち 興津にて(2分・16fps・35mm・無声・白黒)

1920頃(撮)阿部正直

母・篤子と興津海岸にて(2分・16fps・35mm・無声・白黒)

製作年不詳(撮)阿部正直

欧米風光 天然色映画 昭和五年七月より十二月まで(17分・16fps・35mm・無声・カラー)

1930(撮)阿部正直

京都 嵐山と祇園(4分・16fps・35mm・無声・カラー)

1931(撮)阿部正直

本郷区西片町阿部伯爵邸の庭園にて(4分・16fps・35mm・無声・カラー)

1932(撮)阿部正直

吊し雲の雲機巧に関する氣流實驗(7分・16fps・16mm・無声・白黒)

1927頃(撮)阿部正直

阿部雲氣流研究所 観測事務室執務(2分・16fps・16mm・無声・白黒)

1927頃(撮)阿部正直

御殿場研究所(興子と正之)(3分・16fps・16mm・無声・白黒)

1927頃(撮)阿部正直

富士登山 昭和十年八月十五日(11分・16fps・16mm・無声・白黒)

1935(撮)阿部正直

昭和十二年八月 富士山の自然美(4分・16fps・16mm・無声・カラー)

1937(撮)阿部正直

銀座通り 服部時計店前(2分・16fps・16mm・無声・白黒)

1937(撮)阿部正直

七年後の四兄弟 阿部伯爵邸のバルコニーにて(4分・16fps・16mm・無声・白黒)

1937-1944年(撮)阿部正直

昭和十六年 皆既日食 台湾(3分・16fps・16mm・無声・白黒)
1941(撮)阿部正直
御殿場 疎開 昭和二十年冬(3分・16fps・16mm・無声・白黒)
1945(撮)阿部正直
阿部家一同 鎌倉浄明寺の自邸にて(3分・16fps・16mm・無声・白黒)
1954(撮)阿部正直

7

2/9(金)7:00pm 2/24(土)4:00pm★
個人映画特集2：森紅・服部茂作品集(計91分)
(森紅監督作品)
釈周然 今日佛事 巻周忌(7分・16fps・35mm・無声・白黒)
1930
納骨の日(10分・16fps・35mm・無声・白黒)
1930年代初頭
別府のお父さんに逢ふて来ます(14分・16fps・35mm・無声・白黒)
1930頃
寂光(13分・16fps・35mm・無声・白黒)
1930頃
森紅小品集(四天王寺／森展利二歳／或る日の母／淀川公園
にて露子つ多子／散策の榮子／スケッチ)(4分・16fps・35mm・
無声・白黒)
1932
私の子供(6分・16fps・35mm・無声・白黒)
1934

〈服部茂監督作品〉

※以下の、しげる、志げる、服部南歌、南歌生、南歌は、すべて服部茂
忍術三太郎(8分・12fps・35mm・無声・白黒/染色)
1927(監)しげる
學生スポーツ劇 若き日(15分・12fps・35mm・無声・白黒/染色)
1927(監)志げる
彌次喜多 散歩の巻(6分・12fps・35mm・無声・白黒)
1928(監)南歌生
喜劇 ホイホイ先生 海岸の巻(4分・12fps・35mm・無声・白黒)
製作年不詳(監)南歌
さくら(4分・16fps・35mm・無声・白黒)*参考上映
1938(監)野村美明

8

2/8(木)7:00pm 2/25(日)4:00pm
松平恒忠コレクション(計71分)
秩父宮殿下の御英姿(10分・18fps・16mm・無声・染色)
1931(藤谷教育映画製作所)
秩父宮同妃両殿下 三峯山御成(23分・16fps・16mm・無声・白黒)
1933(監)廣瀬信吾
冬の弘前(11分・16fps・16mm・無声・白黒)
1935
夏の弘前 撮影 昭和十一年八月(10分・16fps・16mm・無声・白黒)
1936
秩父宮さまの生活(10分・16mm・白黒)1948(東プロダクション)
故秩父宮殿下御喪儀の記録(7分・16mm・白黒)
1953(読売映画社)

9

2/18(日)4:30pm 2/22(木)3:00pm★
カラー復元特集1：染色/調色のデジタル・シミュレーション
コルシカの兄弟[デジタル復元版](60分・DCP・無声・染色/調色・
不完全・英語インタータイトル・日本語字幕)
LES FRÈRES CORSES
1915(仏・スカグル)(監)アンドレ・アントワヌ

10

2/10(土)12:00pm★ 2/22(木)6:30pm
カラー復元特集2：再タイミング
セーラー服と機関銃 完壁版[再タイミング版](132分・35mm・
カラー)
1982(キティ・フィルム=角川春樹事務所)(監)相米慎二

11

2/17(土)12:30pm★ 3/2(金)7:00pm
カラー復元特集3：小津のアグファカラー 1
浮草[デジタル復元・DCP版](123分・DCP・カラー)
1959(大映東京)(監)小津安二郎

12

2/18(日)1:00pm 3/1(木)7:00pm
カラー復元特集3：小津のアグファカラー 2
浮草[デジタル復元・35mm版](123分・35mm・カラー)
1959(大映東京)(監)小津安二郎

13

2/24(土)12:30pm★ 3/2(金)3:00pm★
復元された弁士説明版(計94分)
日露戦争記録[弁士説明版](16分・HDCAM-SR・染色)
1904(撮)ジョゼフ・ローゼンタール
旧劇 太功記十段目 尼ヶ崎の段[弁士説明版](17分・HDCAM-
SR・白黒)
1908(Mパター商会)
ジゴマ[弁士説明版](8分・HDCAM-SR・染色)
1911(監)ヴィクトラン・ジャッセ
小羊[弁士説明版](53分・HDCAM-SR・染色)
1923(松竹キネマ)(監)賀古残夢

14

2/11(日)1:00pm 2/27(火)3:00pm
野田醤油、鈴木商店の記録と濱口雄幸の葬儀記録(計116分)
野田醤油株式会社 第十七工場 披露祝賀会 大正十五年四月二
日…三日(56分・16fps・35mm・無声・染調色・不完全)
1926(勝本映画製作所)
故鈴木三郎助殿 肖像掲揚式(8分・16fps・16mm・無声・白黒)
1931
鈴木家ホーム・ムービー(14分・16fps・16mm・無声・白黒)
1928-29頃
御葬儀実況 昭和六年八月廿九日(32分・16fps・16mm・無声・白黒)
1931(撮)福留巳年
濱口雄幸氏 生前の佛(6分・16fps・16mm・無声・白黒)
1929-31

15

2/11(日)4:00pm 2/28(水)3:00pm

能代・佃島・築地市場の記録映画(計86分)

能代港町全貌(45分・16fps・35mm・無声・白黒)

1934(日本国民映画協会)(監)中川子行

佃島(18分・16mm・カラー)

1964

魚市場の一日(23分・16mm・カラー)

1964頃

16

2/17(土)4:00pm 2/23(金)3:00pm★

男一匹の意地(68分・DCP・無声・染色・日本語字幕付)

WHERE LIGHTS ARE LOW

1921(ハヤカワ・フィーチャー・プレイ)(監)コリン・キャンベル

17

2/2(金)7:00pm 2/20(火)3:00pm

狂熱の果て(78分・35mm・白黒)

1961(佐川プロ)(監)山際永三

18

2/6(火)7:00pm 3/4(日)1:00pm★

海を渡る友情(49分・35mm・白黒)

1960(東映教育映画部)(監)望月優子

ここに生きる(41分・35mm・白黒)

1962(オオタ・ぷろだくしょん)(監)望月優子

19

2/7(水)7:00pm 3/4(日)4:00pm

ヴェトナム戦争(93分・35mm・カラー・日本語ナレーション付)

1967(池部良プロ)(監)池部良、蜷川親博

20

2/14(水)3:00pm★ 3/3(土)3:00pm★

『叛軍』シリーズ(計155分)

叛軍No.1(22分・16mm・白黒)

1970(「叛軍」製作集団)(監)岩佐寿弥

叛軍No.2(28分・16mm・白黒)

1970(「叛軍」製作集団)(監)岩佐寿弥

叛軍No.3(9分・16mm・白黒)

1971(「叛軍」製作集団)(監)岩佐寿弥

叛軍No.4(96分・16mm・白黒) *参考上映

1972(「叛軍」製作集団)(監)岩佐寿彌

21

2/7(水)3:00pm 2/20(火)7:00pm

スワノセ・第四世界 Su-wa-no-se, the fourth world(71分・16mm・カラー・日本語吹替付)

1976(「スワノセ・第四世界」製作上映委員会)(監)上野圭一

22

2/8(木)3:00pm 2/21(水)7:00pm

バイバイ・ラブ(87分・16mm・カラー)

1974(LED FILM COMPANY)(監)藤沢勇夫

23

2/10(土)4:00pm 3/1(木)3:00pm

宮川一夫は語る(計93分)

映画の天使(42分・16mm・カラー)

2000(『映画の天使』を作る会=スタジオ・デルタ)(監)高岡茂

反射スル眼 L'CEIL QUI REFLECHIT ALEKAN visite MIYAGAWA(51分・35mm・カラー・日本語字幕付)

2001(スタジオANIMA)(監)亀井武彦

◆可燃性オリジナルネガからのダイレクトプリント

24

1/30(火)3:00pm 2/14(水)7:00pm

わかれ雲(96分・35mm・白黒)

1951(スタジオ・エイト・プロ=新東宝)(監)五所平之助

25

1/30(火)7:00pm 2/15(木)3:00pm

朝の波紋(103分・35mm・白黒)

1952(スタジオ・エイト・プロ=新東宝)(監)五所平之助

26

1/31(水)3:00pm 2/13(火)7:00pm

大阪の宿(122分・35mm・白黒)

1954(新東宝)(監)五所平之助

27

1/31(水)7:00pm 2/16(金)3:00pm

鶏はふたたび鳴く(118分・35mm・白黒)

1954(新東宝)(監)五所平之助

28

2/1(木)3:00pm 2/16(金)7:00pm

たそがれ酒場(94分・35mm・白黒)

1955(新東宝)(監)内田吐夢

29

2/1(木)7:00pm 2/13(火)3:00pm

明治一代女(111分・35mm・白黒)

1955(新東宝)(監)伊藤大輔

30

2/2(金)3:00pm 2/15(木)7:00pm

下郎の首(98分・35mm・白黒)

1955(新東宝)(監)伊藤大輔

402 自選シリーズ 現代日本の映画監督6 石井岳龍

1980年代以降の日本映画を牽引してきた映画監督の足跡を自選作品で紹介し、現代日本映画の原点を探る上映企画「自選シリーズ 現代日本の映画監督」の第6弾で、石井岳龍監督の特集とした。石井監督は1970年代に新進の自主映画作家として注目を集め、劇場映画監督デビューした後、映像と音響が相乗効果を生む革新的な作風によって、日本映画のニューウェーブの旗手としてその評価を確立した。その後は数々の実験的な中・短篇を発表しながら、人間の持つ広大な無意識や内面の探求へとテーマを変化させ、近年も話題作を発表し続けている。本特集は、12プログラム・17作品という過去最大規模の石井監督特集であり、特別に導入した音響設備によって、作品が本来持つ豊かな音を再生することにより、石井監督の軌跡を振り返った。会期中は監督のトークイベントも複数行った。

Directed by Gakuryu Ishii – His Own Selection

This series of 'His/Her Own Selection' is to pick a film director each time who was the driving force behind Japanese films from the 1980s onwards, and search for the origin of contemporary Japanese film through their selected works from debut to the present. The sixth installment featured film director Gakuryu Ishii, who was noted as a new independent filmmaker in the 1970s. After his commercial debut, he had established his reputation as a Japanese leading new wave filmmaker by his innovative style creating a synergy of sound and vision. Releasing many experimental middle length or short films since then, his theme shifted to the search for the vastness of the unconscious or the inner space of human beings and he has continued releasing much discussed films in recent years. This retrospective to trace director Ishii's career was the largest ever, with 17 titles in 12 programs, and achieved its original rich sound thanks to a special sound system prepared for this program. Also, the director himself appeared for talk events during the period.



会 期
平成30年3月13日(火)～ 平成30年3月25日(日)(11日間)
会 場
大ホール
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター
協 力
有限会社スタンス・カンパニー
作品数・上映回数
17作品／12プログラム／24回上映
入場者数
3,186人(1回平均133人)
新聞・雑誌等における掲載記事
読売新聞 夕刊 12面 2月23日「石井岳龍監督の特集上映」 読売新聞 夕刊 9面 3月14日「脚本家・花野純子 来春上演目指す」／「DEAD END RUN」収録紹介 朝日新聞 3月1日 情報掲載 朝日新聞 2月23日 情報掲載／チケットプレゼント Japan Times 3月14日 spotlight/Punk's not dead 読売新聞 4月5日 映画上映の「理想」の追求 プレーン 3月号 1月21日 情報掲載 産経スポーツ 3月14日 「小嶺麗奈に映画監督から指示「逆三角形の体と6パックの腹筋を作れ」」 常陽藝文 定期 情報掲載 名画座かんべ 定期 上映スケジュール 週刊金曜日 3月9日 きんようぶんか／「永遠の一瞬」を刻み付けるのが映画 東京メトロ沿線だより 3月号 3月1日 情報掲載 東京エキマチ vol.17 2月10日 情報掲載 銀座経済新聞 3月7日 「京橋のフィルムセンターで石井岳龍監督の自選作品特集上映」 タイムアウト東京 12月21日 情報掲載 CINRA 3月12日 「石井岳龍の自選上映企画に『爆裂都市』など16作 「PA轟音上映」も」 タイムアウト東京 3月13日 インタビュー：石井岳龍 東京、白昼夢、ドラゴン。映画でパンクを表現する Time Out Tokyo 3月20日 Interview: Gakuryu Ishii 産経スポーツ 3月14日 「小嶺麗奈に映画監督から指示「逆三角形の体と6パックの腹筋を作れ」」 ハフィントンポスト 3月20日 映像に刻み込む不条理への怒り、嘆き、叫び。監督・石井岳龍はなぜ、映画を撮り続けるのか ハフィントンポスト 2月28日 石井岳龍(ex.石井聰互)監督自選の12プログラム(16作品)を上映する企画が東京国立近代美術館フィルムセンター大ホールにて開催！ デジタルぴあ 定期 上映スケジュール Rooftop 2月28日 石井岳龍(ex.石井聰互)監督自選の12プログラム(16作品)を上映する企画が東京国立近代美術館フィルムセンター大ホールにて開催！ 文化庁web広報誌「ぶんかる」イベント紹介 定期 情報掲載

★印の回は「PA轟音上映」

1

3/15(木)7:00pm 3/17(土)1:30pm

狂い咲きサンダーロード—Crazy Thunder Road—(97分・35mm・カラー)

1980(狂映舎=ダイナマイトプロ)(監)石井聰互

2

3/17(土)4:00pm 3/23(金)7:00pm

爆裂都市/BURST CITY(116分・35mm・カラー)

1982(ダイナマイトプロ)(監)石井聰互

3

3/13(火)3:00pm 3/18(日)4:30pm

逆噴射家族(106分・35mm・カラー)

1984(ディレクターズ・カンパニー=国際放映=ATG)(監)石井聰互

4

3/21(水・祝)12:00pm★ 3/25(日)4:00pm

半分人間 1/2 MENSCH(46分・16mm・カラー)

1986(WAVE)(監)石井聰互

SHUFFLE [ヒカシュー & バチラス・アーミー・プロジェクト版](33分・35mm・パートカラー)

1981(ダイナマイトプロ)(監)石井聰互

STREET NOISE(7分・35mm・カラー)

1993(WOWOW)(監)石井聰互

HEART OF STONE(10分・35mm・カラー)

1993(WOWOW)(監)石井聰互

THE MASTER OF SHIATSU 指圧王者(13分・35mm・カラー)

1989(General Entertainment)(監)石井聰互

5

3/15(木)3:00pm 3/25(日)1:00pm

Angel Dust エンジェル・ダスト(117分・35mm・カラー)

1994(ツインズ)(監)石井聰互

6

3/14(水)6:30pm 3/24(土)1:00pm

水の中の八月(118分・35mm・カラー)

1995(「水の中の八月」製作委員会)(監)石井聰互

7

3/14(水)3:00pm 3/18(日)1:45pm

ユメノ銀河(90分・35mm・カラー)

1997(ケイエスエス)(監)石井聰互

8

3/18(日)10:30am 3/23(金)3:00pm

五条霊戦記 GOJOE(138分・35mm・カラー)

2000(サンセントシネマワークス=WOWOW)(監)石井聰互

9

3/16(金)7:00pm 3/21(水・祝)4:00pm★

ELECTRIC DRAGON 80000V(55分・35mm・白黒)

2001(サンセントシネマワークス=タキコーポレーション)(監)石井聰互

DEAD END RUN(59分・35mm・カラー)

2003(ナル=パイオニアLDC)(監)石井聰互

10

3/13(火)7:00pm 3/16(金)3:00pm

生きてるものはいないのか(113分・DCP・カラー)

2011(ドラゴンマウンテン)(監)石井岳龍

11

3/22(木)3:00pm 3/24(土)4:00pm

シャニダールの花 The flower of Shanidar(105分・DCP・カラー)

2013(「シャニダールの花」製作委員会)(監)石井岳龍

12

3/17(土)10:30am 3/22(木)7:00pm

ソレダケ/ that's it(110分・DCP・カラー)

2015(ドラゴンマウンテン)(監)石井岳龍

1-3 展覧会 Exhibitions

1-3-1 展覧会一覧（新ビル開館より平成28年度まで）
Exhibitions from the Opening of NFC's New Building in Fiscal 1995 until 2016

回数 展覧会名

平成7年度[1995]	1	映画生誕百周年記念 ポスターでみる日本映画史 みそのコレクションより Japanese Film History in Posters: From the Collection of Kyohei Misono
平成8年度[1996]	2	写真で見る「ジャン・ルノワール、映画のすべて。」 UCLAジャン・ルノワール・コレクションより Le Grand Théâtre de Jean Renoir: A Photo Exhibition from UCLA Library Special Collections Jean Renoir Papers
平成9年度[1997]	3	ポスターで見る「無声時代後期のソビエト映画」 Soviet Film Posters in Late Silent Era
平成10年度[1998]	4	ポスターでみる日本映画史PART II みそのコレクションより Japanese Film History in Posters, Part II: From the Collection of Kyohei Misono
平成11年度[1999]	5	フリッツ・ラング：映像とそのイメージの原型 Fritz Lang: Filmbilder Vorbilder
平成12年度[2000]	6	ポスターで見る「無声時代後期のソビエト映画」PART II Soviet Film Posters in the Late Silent Era, Part II
平成13年度[2001]	7	「イタリア映画大回顧」ポスター展 Italian Film Posters in Japan: From the National Film Center Collection
	8	資料でみる日本映画史 みそのコレクションより Japanese Film History in Documents: From the Collection of Kyohei Misono
平成14年度[2002]	9	展覧会 映画遺産 東京国立近代美術館フィルムセンター・コレクションより The Japanese Film Heritage: From the Non-Film Collection of the National Film Center
平成15年度[2003]	10	映画資料でみる蒲田時代の小津安二郎と清水宏 Days of Youth: Ozu and Shimizu at the Shochiku Kamata Studio
平成16年度[2004]	11	造形作品でみる 岡本忠成アニメーションの世界 Artworks from the Animation Films of Tadanari Okamoto
	12	映画女優 高峰秀子展 Hideko Takamine, Film Actress

平成17年度 [2005]

- 13 尾上松之助と時代劇スターの系譜
Matsunosuke Onoe and the Culture of Period Films
- 14 ポーランドの映画ポスター 東京国立近代美術館フィルムセンター・コレクションより
Polish Posters for Films: From the Collection of National Film Center
- 15 松竹創業110周年記念 松竹と映画
Shochiku Company at 110: Shochiku in the History of Japanese Cinema
『浮雲』再現セット
Recreated Set of *Ukigumo*

平成18年度 [2006]

- 16 生誕100周年記念 美術監督 水谷浩の仕事
Pioneering Art Director: Hiroshi Mizutani at his Centenary
- 17 生誕110周年記念 衣笠貞之助の世界
Teinosuke Kinugasa: From Female Impersonator to Master Filmmaker

平成19年度 [2007]

- 18 スチル写真でみる日本の映画女優
Japanese Film Actresses: from the NFC Still Photo Collection
- 19 没後30年記念 チャップリンの日本
チャップリン秘書・高野虎市遺品展
Chaplin Meets Japan: from the Collection of Toraichi Kono, Charles Chaplin's Secretary
- 20 マキノ映画の軌跡
The Makino Picture Story

平成20年度 [2008]

- 21 映画資料でみる 映画の中の日本文学 Part 1
Japanese Literature in Film Part 1—From the NFC Non-film Collection
- 22 生誕100年 川喜多かしこ展
Madame Kawakita, Her Life and Films
- 23 無声時代ソビエト映画ポスター展 東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵《袋一平コレクション》より
Soviet Film Posters in the Silent Era

平成21年度 [2009]

- 24 映画資料でみる 映画の中の日本文学 Part 2
Japanese Literature in Film Part 2—From the NFC Non-film Collection
- 25 ドキュメンタリー作家 土本典昭
Noriaki Tsuchimoto: The Life of a Documentary Filmmaker
- 26 生誕百年 映画女優 田中絹代
Film Actress Kinuyo Tanaka at her Centenary
- 27 戦後フランス映画ポスターの世界 東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵《新外映コレクション》より
Postwar French Cinema in Posters

平成22年度 [2010]

- 28 映画資料でみる 映画の中の日本文学 Part 3
Japanese Literature in Film Part 3—From the NFC Non-film Collection
- 29 アニメーションの先駆者 大藤信郎
Noburo Ofuji, Pioneer of Japanese Animation

	30	生誕百年 映画監督 黒澤明 Akira Kurosawa at his Centenary [常設展] NFCコレクションでみる 日本映画の歴史 Nihon Eiga: The History of Japanese Film From the NFC Non-film Collection
	31	フィルムセンター設立40周年企画 展示室リニューアル記念 NFC映画 展覧会の15年 1995-2010 15 Years of NFC's Exhibitions: 1995-2010
平成23年度[2011]	32	映画パンフレットの世界 Souvenir Movie Programs of Japan
	33	映画女優 香川京子 Kyoko Kagawa, Film Actress
	34	日本の映画ポスター芸術 The Art of Film Posters in Japan
平成24年度[2012]	35	ロードショーとスクリーン 外国映画ブームの時代 LET'S GO TO THE MOVIES! Celebrating the 50 th Anniversary of Foreign Film Importer-Distributors Association of Japan
	36	日活映画の100年 日本映画の100年 Nikkatsu 100: A Century of Japanese Cinema
	37	西部劇の世界 ポスターでみる映画史Part1 Film History in Posters Part 1: WESTERN MOVIES
平成25年度[2013]	38	映画より映画的！日本映画 スチル写真の美学 Titled Film Stills : Publicity Photos for Japanese Cinema
	39	チェコの映画ポスター Czech Posters for Films: From the Collection of Terry Posters
	40	小津安二郎の図像学 Iconography of Yasujiro Ozu
平成26年度[2014]	41	赤松陽構造と映画タイトルデザインの世界 The Works of Hicozoh Akamatsu and Movie Title Design in Japan
	42	ジャック・ドゥミ 映画／音楽の魅惑 Le monde en- <i>chanté</i> de Jacques Demy
	43	ポスターでみる映画史Part2 ミュージカル映画の世界 Film History in Posters Part 2: Musical Films
平成27年度[2015]	44	シネマブックの秘かな楽しみ The Discreet Charm of Film Books
	45	生誕110年 映画俳優 志村喬 Film Actor Takashi Shimura
	46	キューバの映画ポスター 竹尾ポスターコレクションより Cuban Posters for Films: From the Takeo Poster Collection

- 47 写真展 映画館 映写技師/写真家 中馬聡の仕事
Movie Theaters: The Works of Satoshi Chuma, Projectionist-Photographer
- 48 角川映画の40年
Forty Years of Kadokawa Pictures
- 49 戦後ドイツの映画ポスター
Postwar German Posters for Films

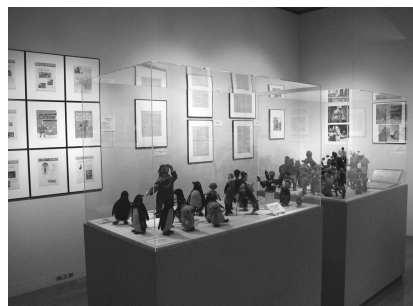
50 人形アニメーション作家 持永只仁

日本に国産アニメーション映画が誕生して100年を迎えるにあたり、人形アニメーションという新分野を切り拓いた持永只仁に光を当てた企画。1939年に芸術映画社に入社、瀬尾光世のもとで修業を積んだ持永は、日本初の多層式アニメーション撮影台を開発、中国に渡った1945年以降は新生中国で動画製作を指導、後の中国動画界をリードする多くの人材を育てた。1953年の帰国後は人形映画製作所を率いて『ちびくろ・さんぼのどらたいじ』(1956年)などの名作を送り出し、その後もアメリカのテレビ・劇場向け作品に携わった。日中両国の人形アニメーションの創始者であり、アメリカの子どもたちも魅了した持永は、日本のアニメーション史においても独自の国際性を持つ存在である。持永家で保管されてきた人形や製作資料、写真や作品映像も交えながら、卓越したクリエイターであり優れた教育者でもあったその生涯に迫った。

50 Tadahito Mochinaga, Puppet Animation Filmmaker

Celebrating the centenary of animation in Japan, this exhibition focused on Tadahito Mochinaga who started puppet animation as a new genre. Entering Geijutsu Eigasha in 1939, Mochinaga learned under Mitsuyo Seo and was also the inventor of the first multiplane animation stand in Japan. He moved to China in 1945, where he took charge of animation production in the newly born state and nurtured many animators who would later become leading lights in China's animation world. After coming back to Japan in 1953, he led the Ningyo Eiga Seisakujo and produced masterpieces such as *The Story of Little Black Sambo* (1956), and afterwards got involved in American TV programs and commercial films. As a pioneer puppet animator both in Japan and China, who also attracted children in the US, Mochinaga has a unique internationality in Japanese animation history. This exhibition aimed to take a close look at the life of this distinguished creator and prominent educator through his puppets, production documents, photography and own works, which have been kept at his family home.

会期
平成29年5月13日(日)～ 平成29年9月10日(日)(104日間)
会場
展示室
主催
東京国立近代美術館フィルムセンター
協力
一般社団法人日本動画協会、日本アニメーション学会、日本アニメーション協会
特別協力
北京電影学院
企画協力
木村智哉(アニメーション史研究、明治学院大学非常勤講師)
出品点数
322点
入場者数
6,946人(1日平均67人)
新聞・雑誌等における掲載記事
日本アニメーション協会主催 国立新美術館「イントゥアニメーション7」8月4日～7日「日本アニメーション映画クラシックス」持永只仁の紹介展示 サガテレビ「かちかちPress」5月24日～ものづくりの原点に迫る～人形アニメーションの祖「持永只仁」氏とは… NHK佐賀 8月25日「人形アニメの父」佐賀出身 持永只仁 合同通信 第20681号 4月28日 ©NFC展覧会『人形アニメ作家持永只仁』 合同通信 第20683号 5月10日 ©NFC『持永只仁展』プレス向け説明会 共同通信 5月18日 イベント紹介コーナー「ほっとクリップ」情報掲載 公明新聞 5面 5月19日 情報掲載 朝日新聞 5月22日 情報掲載 産経新聞 朝刊 17面 6月14日 「人形アニメーション作家 持永只仁」展 忘れられた巨人…偉大な足跡たどる 定年時代 8月上旬号 8月7日 情報掲載 papyrus by PYRAMID FILM GROUP 8月10日 次のOFFのためのインフォメーション 東京エキマチvol.13 6月10日 情報掲載 東京メトロ沿線だより 7月号 7月1日 情報掲載 装苑 7月号 5月27日 「日本の人形アニメの黎明期を作った作家、持永只仁のあたたかく厳しい創造の目」 東方第四三六号 6月5日 情報掲載 デフシアターパンフレット夏号 7月1日 紹介記事 ハイパーホビー VOL.3 7月6日 「日中両国における人形アニメーションの創始者時代を超えて人を魅了するその世界の全貌」 月刊MOE 8月3日 情報掲載 ハイパーホビー VOL.4 8月5日 情報掲載



会期
平成29年9月26日(火)～ 平成29年12月10日(日)(66日間)
会場
展示室
主催
東京国立近代美術館フィルムセンター、 ノクテルヌ・プロデュクション
協力
アンスティチュ・フランセ日本、 在日フランス大使館、KADOKAWA、 マーメイド・フィルム、 PFF(びあフィルムフェスティバル)
協賛
エルメスジャポン株式会社
出品点数
215点
入場者数
3,287人(1日平均50人)
新聞・雑誌等における掲載記事
合同通信 第20726号 8月23日 情報掲載
合同通信 第20732号 9月6日 「©NFC 『生誕100年メルヴィル展』開催」
朝日新聞 夕刊 社会面 9月26日 情報掲載
読売新聞 夕刊 9月29日 情報掲載
産経新聞 朝刊 22面 10月6日 「独立独歩… 巨匠の仕事振り返る——フィルムセンターでメルヴィル展」(藤井克郎)
世界日報 12面 10月7日 「アラン・ドロンの 新境地を開く作品」
東京エキマチvol.14 10月1日 情報掲載
東京メトロ沿線だより7月号 10月1日 情報掲載
散歩の達人 11月号 10月21日 情報掲載
定年時代 12月上旬号 12月1日 情報掲載

51 生誕100年 ジャン＝ピエール・メルヴィル、暗黒映画の美

監督ジャン＝ピエール・メルヴィルの名はフランス映画史の中でも特別な輝きを放っている。少年期からアメリカ映画に傾倒、助監督修業を経ずに自主製作で長篇デビュー作『海の沈黙』(1949年)を送り出したメルヴィルは、ジャン・コクトーの依頼による『恐るべき子供たち』の映画化(1950年)などで頭角を現し、そのインディペンデント魂は若きヌーヴェル・ヴァーグの監督たちから敬愛された。やがて優れた暗黒映画の作り手として認められ、『ギャング』、『サムライ』、『仁義』といった硬質の犯罪映画、そしてレジスタンス経験に根差した戦争大作『影の軍隊』(1969年)などはフランス映画に一時代を築いた。メルヴィルの生誕100年にあたり、ドキュメンタリー『コードネームはメルヴィル』(2008年)の監督オリヴィエ・ボレル氏が長年収集してきた資料を中心にその孤高の生涯と業績を振り返った企画である。

Jean-Pierre Melville, cineaste of noir

The name of film director Jean-Pierre Melville shines with a special brightness in French film history. Having devoted himself to American films in his youth, he made his debut with the feature length independent film “Le Silence de la Mer” (1949) without any training as an assistant film director. Melville came to prominence when he was commissioned to direct “Les Enfants Terribles” (1950) by Jean Cocteau, who wrote the original novel. His independent spirit was loved and respected by young Nouvelle Vague filmmakers. He gradually gained recognition as a great director of film noir, and built up his reputation in French cinema with hard-boiled crime films such as “Le Deuxième Souffle” [Second Breath], “Le Samouraï” [The Godson], and “Le Cercle Rouge” [The Red Circle], as well as the big budget war film “Army of Shadows” (1969), based on his own experiences in the Resistance. To commemorate Melville’s centenary, this exhibition looked back at his distinguished life and achievements by mainly showing materials collected over a period of many years by director Olivier Bohler, who made the documentary “Code Name Melville” (2008).



会 期
平成30年1月4日(水)～ 平成30年3月25日(日)(70日間)
会 場
展示室
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター
出品点数
118点
入場者数
8,094人 (1日平均116人)
新聞・雑誌等における掲載記事
東京新聞 12月7日 情報掲載
朝日新聞 夕刊 9面 12月26日 アラウンドトーキョー
産経新聞 朝刊 12面 1月21日 『SF映画の歴史たどる』
毎日新聞 朝刊 23面 2月2日 「ぐるっと首都圏 アートを歩く」
産経新聞 朝刊 19面 2月8日 『ポスターでみる映画史Part 3 SF・怪獣映画の世界』
読売新聞 朝刊 32面 2月9日 情報掲載
毎日新聞 夕刊 11面 2月26日 『核と怪獣』
定年時代 3月上旬号 3月1日 情報掲載
東京エキマチvol.17 2月10日 情報掲載
芸術新潮 12月号 11月25日 情報掲載
ブレン2月号 12月29日 情報掲載
月刊ホビージャパン3月号 1月25日 情報掲載
ハイパーホビー VOL.7 2月6日 情報掲載
週刊大衆 2月10日 情報掲載

52 ポスターでみる映画史Part.3 SF・怪獣映画の世界

宇宙への旅、時間の超越、地球の破滅、信じられない未来——人間の尽きない想像力が、映画においてもっとも自在に発揮されてきたのがサイエンス・フィクション（SF）という分野である。私たちの現実を凌駕するそのストーリーや映像表現は、今も世界の観客に圧倒的なインパクトを与えている。シリーズ「ポスターでみる映画史」の第3回となるこの「SF・怪獣映画の世界」では、フィルムセンターのコレクションを中心に、傍流からやがてメインストリームの地位を得たこの壮大なジャンルを取り上げた。『メトロポリス』や『キング・コング』といった古典、1954年の『ゴジラ』第一作以来、特撮技術の粋をつぎ込み海外にもファンを生んだ日本の怪獣映画、1960年代以降のスタンリー・キューブリック監督らの台頭、全世界を席巻した「スター・ウォーズ」シリーズ以降のSF映画の黄金期など、このジャンルの豊かな系譜をたどった。

Film History in Posters Part 3: Science Fiction and Monster Films

Voyages to outer space, timeless worlds, destruction of the earth, unbelievable futures ... throughout film history, inexhaustible human imagination has been most freely demonstrated in the genre of Science Fiction. Those stories and visual expressions, which go way beyond our reality, give tremendous impact to audiences all over the world. As the third installment of the series 'Film History in Posters', this 'Science Fiction and Monster Films' was for posters of this extraordinary genre, mainly from NFC's collection. Sci-Fi started as a minor film genre then achieved mainstream status. The exhibition traced the rich genealogy from classic masterpieces such as "Metropolis" and "King Kong", through Japanese monster films with outstanding special effects technology that attracted fans inside and outside of Japan from the first "Godzilla" in 1954, to new generations gaining power from the 1960s such as Stanley Kubrick, and the golden age of Sci-Fi film after the worldwide success of the "Star Wars" series.



会 期
福岡会場 平成29年4月1日（土）～23日（日） 京都会場 平成29年5月12日（金）～14日（日） （上映日数20日間）
会 場
2会場 （福岡市総合図書館 映像ホール・シネラ、 京都国立近代美術館）
主 催
（福岡会場） 東京国立近代美術館フィルムセンター、 福岡市総合図書館 映像ホール・シネラ実行委員会、 DEFA財団、 ドイツ・キネマテーク （京都会場） 東京国立近代美術館フィルムセンター、 京都国立近代美術館、 DEFA財団、ドイツ・キネマテーク
協 力
（福岡会場） 山根恵子（法政大学名誉教授）
特別協賛
木下グループ
作品数・上映回数
19作品／24プログラム／上映回数43回
入場者数
1,679人

1-4 共催事業 Co-organized Events

1-4-1 共催による館外上映会 Co-organized Out-of-premises Screening Programs

DEFA70周年 知られざる東ドイツ映画

本事業は、国立美術館の大型寄附金を活用して実施する事業「各国映画国内上映シリーズ」の一つであり、2016年度にフィルムセンターでDEFA財団およびドイツ・キネマテークとの共催で開催した旧東ドイツDEFA (Deutsche Film Aktiengesellschaft)映画の大規模回顧特集「DEFA70周年 知られざる東ドイツ映画」の巡回上映である。フィルムセンターで開催した24プログラムから、福岡市総合図書館では19プログラム19作品を上映し、京都国立近代美術館では「NFC所蔵作品選集 MoMAK Films2017」の枠で5作品を上映した。日本初の本格的な旧東ドイツ映画の回顧上映の鑑賞機会を、関西や九州の方にまで提供することができた。

DEFA 70th Anniversary: Tracing the East German Cinema

'Silent Film Renaissance' is one of the circulation screenings series utilizing National Museum's large-scale donation, and circulated the first major retrospective in Japan of films produced by DEFA (Deutsche Film Aktiengesellschaft) in the former East Germany, 'DEFA 70th Anniversary: Tracing the East German Cinema', which was co-held in fiscal year 2016 at NFC with DEFA Foundation and Deutsche Kinemathek. At Fukuoka City Public Library, 19 titles of 19 programs were screened out of 24 programs held at NFC, and at the National Museum of Modern Art, Kyoto, five titles were screened as part of 'MoMAK Films 2017' series. This extended the opportunity to show former East German films to people in the Kansai and Kyushu regions.

会 期
平成29年5月～12月まで4回開催 (延べ上映日数9日間)
会 場
1会場 (京都国立近代美術館)
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター、 京都国立近代美術館
5月の主催： 東京国立近代美術館フィルムセンター、 京都国立近代美術館、DEFA財団、 ドイツ・キネマテーク
12月の主催： 東京国立近代美術館フィルムセンター、 京都国立近代美術館、 チェコ国立フィルムアーカイブ、 チェコセンター東京
特別協賛
木下グループ
作品数・上映回数
21作品／17プログラム／上映回数21回
入場者数
393人

NFC所蔵作品選集 MoMAK Films2017

本事業は、フィルムセンターと京都国立近代美術館が平成19年度に開始した共同主催による映画上映会であり、今年で11年目を迎えた。

本年度は、全4回のうち2回を、フィルムセンターの大型寄付金展覧会事業「各国映画国内巡回上映シリーズ」の巡回企画とし、5月に「DEFA70周年知られざる東ドイツ映画特集」、12月に「日本におけるチェコ文化年2017 チェコ映画の全貌」を開催し、また、さらなる新たな試みとして、フィルムセンター恒例企画の研究員の解説つき「こども映画館」巡回を9月に行い、いずれも好評を博した。7月は夏休みの独自企画として「日本の怪奇映画特集」とし、関西では上映機会の少ない日本映画を紹介した。

MoMAK Films 2017

This was the 11th year of the established screening series that NFC first co-organized with the National Museum of Modern Art, Kyoto (MoMAK) in 2007. In fiscal year 2017, two out of the total of four times were held as part of NFC's circulation screenings series utilizing a large-scale donation; 'DEFA 70th Anniversary: Tracing the East German Cinema' in May, and 'Tracing the Czech Cinema at The Year of Czech Culture 2017' in December. Also, newly tried was the circulation of NFC's annual 'Kids' Cinema' with an introductory talk by a researcher in September. Both received favorable reviews. In July, as a special program for the summer holiday season, 'Japanese Horror Movie Special' was held to introduce Japanese films which have not had many chances to be screened in the Kansai region.

会 期
平成29年7月3日（月）、9月25日（月）、 12月4日（月）及び平成30年3月5日（月） （上映日数4日間）
会 場
1会場 （東京国際フォーラム ホールD1）
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター、 東京国際フォーラム
特別協賛
木下グループ
作品数・上映回数
9作品／4プログラム／上映回数8回
入場者数
428人

東京国際フォーラム＋東京国立近代美術館フィルムセンター月曜シネサロン&トーク

本企画は、平成28年度に開始した東京国際フォーラムと東京国立近代美術館フィルムセンターとの共催企画で、フィルムセンターが所蔵する映画作品の中から、鑑賞機会が少ない文化記録映画を、講師の解説を交えながら上映するイベント。開催日は、フィルムセンター休館日の月曜とし、上映は東京国際フォーラムの設備上、デジタル上映となっている。本年度は「日本のスポーツ文化史—大正から戦後まで—」をテーマに、日本に根づいたスポーツ文化の変遷を、大正から東京オリンピックの時代まで、4回に分けて上映した。

Tokyo International Forum + National Film Center, The National Museum of Modern Art, Tokyo: Monday Cine-salon & Talk

This event, co-hosted with Tokyo International Forum (TIF) and NFC, started in 2016 to show cultural documentary films from NFC's collection, especially those which do not have frequent chances to be screened, in conjunction with commentary by a lecturer. It is held on Mondays when NFC is closed, and due to the equipment of TIF, screenings are on digital format. This fiscal year of 2017, the theme was 'History of Japanese Sport Culture: From Taisho to the Postwar-era', and the history of sports culture in Japan from its roots in the Taisho-era to the Tokyo Olympics in 1964 were divided into four parts and screened accordingly.

会 期
平成29年9月18日（月・祝）、 平成29年10月22日（日）、 平成30年1月17日（水）～ 平成30年1月31日（水） （上映日数11日間）
会 場
3会場 （せんだいメディアテーク （宮城県・仙台市）、 川崎市市民ミュージアム （神奈川県・川崎市）、 広島市映像文化ライブラリー （広島県・広島市））
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター、 一般社団法人コミュニティシネマセンター、 仙台短篇映画祭 川崎市市民ミュージアム、 広島市映像文化ライブラリー
特別協賛
木下グループ
作品数・上映回数
19作品／13プログラム／上映回数13回
入場者数
1,477人

蘇ったフィルムたち

東京国立近代美術館フィルムセンター復元作品特集

本事業は、一般社団法人コミュニティシネマセンターとの共催によって、デジタル復元作品を含め、近年フィルムセンターで取り組んできた復元作業の成果を、全16番組、42本のパッケージから、コミュニティシネマセンターに加盟する全国の公共文化施設等が、それぞれに作品を選び上映会を開催する事業であり、平成25年度に開始してから5年目を迎えた。本年度は、国産アニメーションの100周年の節目にもあたることから、せんだいメディアテーク、川崎市市民ミュージアムの2会場では周年の記念イベントに位置付けられたことが特徴である。また、これらとは対照的に、広島市映像文化ライブラリーでは、短篇プログラム「明治・大正のドキュメント」「蘇ったアニメーション」に長篇劇映画9本を加えた11プログラムを編成し、より広くフィルムセンターにおける近年の映画復元の成果を概観することができる催しとなった。

Cinema: Found and Restored by National Film Center, Tokyo

This is a project co-hosted with Japan Community Cinema Center (JCCC), for which public cultural organizations etc. all over the country that have membership of JCCC choose titles for screening events from 16 programs of 42 recently restored films by NFC, including digitally restored versions. This was the fifth year since it started in 2013. Since it was a commemorative year of the centenary of Japanese animation, two venues, Sendai Mediatheque and Kawasaki City Museum, set this as their special annual event. On the contrary, Hiroshima City Cinematographic and Audio-visual Library added nine feature films to two short programs titled 'Document of Meiji and Taisho-era' and 'Restored Animation', organizing a total of 11 programs, which was an event to give a broader overview of the results of recent film restoration by NFC.

会 期
平成29年11月2日(木)～11月5日(日) (上映日数1日間) ※上映は11月3日(金・祝)の1日間のみ
会 場
1会場 (新千歳空港ターミナルビル内 「ソラシネマチとせ」 (北海道・千歳市))
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター、 新千歳空港国際アニメーション映画祭 実行委員会
特別協賛
木下グループ
作品数・上映回数
1作品 / 1プログラム / 上映回数1回
入場者数
68人

新千歳空港国際アニメーション映画祭2017 「中国アニメーション特集」

本映画祭は、新千歳空港のターミナルビルディングにある映画館等の施設を会場とするユニークな催しとして、2014年よりスタートした新しい映画祭であるが、短編作品のコンペティションから商業アニメーション、アートアニメーション、学生映画など、幅広いジャンルのアニメーション映画を紹介するとともに、日本アニメーション学会所属の研究者によるアカデミックなプログラムや子供向けのワークショップを含む多彩な番組で好評を得ている。本年度は中国アニメーション特集が開催されるにあたり、フィルムセンター研究員が中国と縁の深い持永只仁についての講演を行うとともに、中国アニメーションの記念碑的名作『長篇漫画 西遊記 鐵扇公主の巻』(1941、萬籟鳴監督)を紹介した。

New Chitose Airport International Animation Festival: Focus on Chinese Animation

This is a new film festival started in 2014 which is a unique event using facilities such as a cinema inside New Chitose Airport's terminal. It introduces a variety of programs including a competition for short films, commercial animation, art animation, student films, as well as academic programs by researchers belonging to Japan Society for Animation Studies and workshops for children and has received good reviews. For special screenings of Chinese Animation in fiscal year 2017, a NFC curator gave a lecture on Tadahito Mochinaga, who had a strong connection with China, and introduced a monumental feature length animation from China "Princess Iron Fan" (1941), a masterpiece directed by Wan Laiming.

会 期
平成29年12月1日(金)、12月2日(土)、 平成30年2月1日(木)～25日(日) (上映日数21日間)
会 場
2会場 (京都国立近代美術館、 福岡市総合図書館 映像ホール・シネラ (福岡県・福岡市))
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター、 チェコ国立フィルムアーカイブ、 チェコセンター東京、 京都国立近代美術館(京都会場)、 福岡市総合図書館(福岡会場)
特別協賛
木下グループ
作品数・上映回数
18作品／17プログラム／上映回数34回
入場者数
1,444人

日本におけるチェコ文化年2017 チェコ映画の全貌

本企画は、国立美術館(大型寄付金)事業「各国映画国内上映シリーズ」の一つであり、平成29年度にフィルムセンターでチェコ国立フィルムアーカイブ、チェコセンター東京と共催で開催したチェコ映画の大規模回顧特集の巡回上映である。フィルムセンターで開催した24プログラムから、福岡市総合図書館では18プログラム18作品を上映し、京都国立近代美術館では「NFC所蔵作品選集 MoMAK Films 2017」の枠で4作品を上映した。

日本初の本格的なチェコ映画回顧上映の鑑賞機会を、関西、九州の方今まで提供することができた。

Tracing the Czech Cinema at The Year of Czech Culture 2017

This extensive retrospective of Czech films was one of the circulation screenings series utilizing National Museum's large-scale donation and was held at NFC co-hosted with the Czech National Film Archive and Czech Center Tokyo in fiscal year 2017. Out of 24 programs held at NFC, 18 titles of 18 programs were shown at Fukuoka City Public Library, and four titles were shown at the National Museum of Modern Art, Kyoto (MoMAK) as part of its 'MoMAK Films 2017' series. This was the first major retrospective of Czech films in Japan, and the opportunity to see them was extended to people in the Kansai and Kyushu regions.

会 期
平成30年3月10日（土）～ 平成30年3月11日（日） （上映日数2日間）
会 場
1会場 （国立国際美術館）
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター、 国立国際美術館
協 賛
ダイキン工業現代美術振興財団
特別協賛
木下グループ
協 力
イメージフォーラム
作品数・上映回数
18作品／4プログラム／上映回数4回
入場者数
153人

第15回 中之島映像劇場「松本俊夫の軌跡：記録・幻想・実験」

本事業は、従前より映像作品の紹介に努めてきた国立国際美術館が、美術と映像の歴史の変遷を探るため、平成22年度より「中之島映像劇場」の名称で開始した定期上映会の第15回目である。今回のプログラムは、ドキュメンタリー、実験映画、劇映画、ビデオアートなど様々な形式を通してその後の映像表現の流れに大きな影響を与えた映像作家であり、2017年に逝去した松本俊夫の足跡を、全18本の上映で回顧するものである。フィルムセンターからは、『銀輪』デジタル復元版、『石の詩』など7本の作品を提供した。

Nakanoshima Screen Vol. 15: Tracing Toshio Matsumoto: Document, Illusion, Experiment

The National Museum of Art, Osaka has been showing films, and in 2010 it launched the series entitled 'Nakanoshima Screen' to research the historical transformation of fine arts and moving images. This was the 15th installment of the series, to mark the impact of Toshio Matsumoto, a filmmaker who had a huge effect on the current wave of visual expression through various genres such as documentary, experimental films, feature films, and video art, and who passed away in 2017. In all, 18 films were shown, and NFC offered seven films including *Isbi no uta* [A Poem of Stone] and a digitally restored version of *Ginrin* [Bicycle in Dream].

会 期
平成30年3月18日（日）～ 平成30年3月31日（土） （上映日数6日間）
会 場
2会場 （広島市映像文化ライブラリー、 川崎市市民ミュージアム）
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター、 一般社団法人コミュニティシネマセンター 広島市映像文化ライブラリー（広島会場）、 川崎市市民ミュージアム（川崎会場）
特別協賛
木下グループ
作品数・上映回数
11作品／5プログラム／上映回数11回
入場者数
348人

Fシネマ・プロジェクト こども映画館 スクリーンで見る日本アニメーション！

本企画は、一般社団法人コミュニティシネマセンターと東京国立近代美術館フィルムセンターとの共催企画で、本年度から開始したこども映画館の巡回上映プログラムである。巡回上映の全体プログラムは、フィルムセンターが所蔵する映画作品の中から鑑賞機会のすくないアニメーション映画16本と、コミュニティシネマセンター提供の作品で構成されるが、本年度実施した広島、川崎の2会場では、その中から11作品（うち、NFC所蔵9作品）が上映された。上映は、親子で参加しやすい春休み期間に実施した。

F Cinema Project: Kids' Cinema: Japanese Animation on Screen!

This is a project co-hosted by Japan Community Cinema Center (JCCC) and NFC, started in fiscal year 2017 to circulate 'Kids' Cinema'. The whole program consisted of 16 animation films from the NFC collection which have not had such frequent screening opportunities, as well as films offered by JCCC. It was held at two venues in Hiroshima and Kawasaki, and 11 titles (including nine films from NFC collection) were shown during Spring holiday season so that it was easy for parents with kids to attend.

会 期
平成29年5月5日（金）～ 平成29年5月7日（日） （上映日数3日間）
会 場
1会場 （ジョージ・イーストマン博物館 ドライデン劇場 （アメリカ・ニューヨーク州 ロチェスター））
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター、 ジョージ・イーストマン博物館
特別協賛
木下グループ
作品数・上映回数
1作品／1プログラム／上映回数1回
入場者数
500人

ナイトレート・ピクチャー・ショー 2017における 小津安二郎監督作品「麥秋」上映会

ジョージ・イーストマン博物館が2015年より毎年開催している第三回「ナイトレート・ピクチャー・ショー」において、同博物館との共同主催により、フィルムセンターが2016年度より実施している所蔵可燃性フィルムの全巻検査の成果を踏まえ、極めて良好な状態で保管されていることを確認した、小津安二郎監督の『麥秋』（1951年）を紹介した。本上映会は、映画史において主に1950年代まで使用されていたナイトレート・フィルム（可燃性フィルム）を輸送や事前の検査・補修、取り扱いなどに万全な体勢を図りながら映写を行なっている。『麥秋』の可燃性フィルム上映は、その映像美が世界的に高い評価を受けるとともに、広く可燃性フィルム保存の意義を再確認する機会となった。

Nitrate Picture Show 2017 “Early Summer” directed by Yasujiro Ozu

Co-hosted with George Eastman Museum, which has been holding Nitrate Picture Show annually since 2015, NFC introduced *Bakushu* [*Late Spring*] (1951) directed by Yasujiro Ozu for its third installment. The print was found to be in extremely good condition after thorough inspection of the nitrate films in NFC collection which NFC has implemented since 2016. This screenings event is careful to establish the workflow of how to ship, inspect and repair in advance, and handle nitrate (flammable) films for screening. The nitrate print of *Bakushu* received great reviews internationally due to its exquisite image and brought an opportunity to reconfirm the significance of nitrate film preservation in general.

会 期	平成29年6月12日（月）～ 平成29年6月17日（土） （上映日数6日間）
会 場	1会場 （ゴEMON・パテ館 （フランス・アマシー））
主 催	東京国立近代美術館フィルムセンター、 一般社団法人日本動画協会、 アマシー国際アニメーション映画祭
特別協賛	木下グループ
作品数・上映回数	8作品／3プログラム／上映回数6回
入場者数	350人

日本のアニメーション100周年特別上映プログラム 「アニメ NEXT100」

アニメーション映画祭として世界的に最も長い歴史を有するアマシー国際アニメーション映画祭において、同映画祭、一般社団法人日本動画協会、フィルムセンターの共同主催により、本年100周年を迎えた日本のアニメーション文化を紹介する特別プログラムとして、日本動画協会提供の『AKIRA』（1998年）等に加え、フィルムセンターの所蔵する初期アニメーション映画6作品を紹介した。これら6作品は、1917年～1941年に製作・上映されたアニメーション映画を動画配信するフィルムセンター初の試み「日本アニメーション映画クラシックス」から選定され、日本のアニメーション文化の多様性を披露する貴重な機会となった。

The Centennial of Japanese Animation: Anime Next 100

Anecy International Animation Film Festival has the longest history among animation film festivals. This special program co-hosted by the festival, the Association of Japanese Animation (AJA), and NFC, introduced Japanese animation culture, which celebrated its centenary in 2017. It showed six early animations from the NFC collection, adding to the films offered by AJA such as “AKIRA” (1998). These six films were chosen from the ‘Japan Animated Film Classics’, which is NFC’s first attempt to stream animation films made from 1917-1941 and created a precious opportunity to show the diversity of Japanese animation culture.

会 期
平成29年6月24日（土）～ 平成29年7月1日（土） （上映日数8日間） 会期の内、6月24日、26日、27日、28日、 29日、30日、7月1日が上映日
会 場
1会場 （リュミエール劇場 （イタリア・ボローニャ））
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター、 フオンダツィオーネ・チネテカ・ディ・ ボローニャ
特別協賛
木下グループ
作品数・上映回数
8作品／8プログラム／上映回数8回
入場者数
1,155人

第31回チネマ・リトロバート映画祭 「暗い谷間における日本の時代劇映画」

古典映画を紹介する世界最大の祭典として知られるチネマ・リトロバート映画祭において、同映画祭を主催するフオンダツィオーネ・チネテカ・ディ・ボローニャ（FIAF加盟機関、イタリア）と共同で、戦前の時代劇映画を紹介する標記の特集を開催し、英語字幕を付した8本のフィルムを上映した。本企画では、山中貞雄監督『人情紙風船』（1937年）をはじめ、軍国主義が台頭する1930年代後期の日本映画界で、時代劇の製作を通して社会批評を行った作品、ならびに鳴滝組のメンバーとそれに関わる進歩的映画人たちの再評価を試み、幕末の池田屋事件を女性の登場人物の視線で描いた『花ちりぬ』（石田民三監督、1938年）が多くの観客を集めるなど、海外では上映の機会の少ない日本映画の秀作に注目が集まった。

The 31st Cinema Ritrovato “The Japanese Period Film in the Valley of Darkness”

This was a co-hosted program, giving an overview of period films made in prewar Japan at Il Cinema Ritrovato held by Fondazione Cineteca di Bologna (a FIAF member in Italy), which is renowned as the largest scale festival introducing classic films. NFC offered eight films with English subtitles. This program showed titles such as Sadao Yamanaka's *Ninjo kamifusen* [Humanity and Paper Balloons] (1937), as well as other period films criticizing the late 1930s Japanese society where militarism was rising, and *Hana chirinu* [Fallen Blossoms] (1938) which was directed by Tamizo Ishida. This film depicted the Ikedaya incident in the late Tokugawa shogunate through the eyes of the female character and was the work which attracted most attention. These works were also screened to re-evaluate members of Narutaki-gumi (Narutaki gang) and related progressive film figures, and excellent Japanese films which have fewer chances to be shown overseas were spotlighted.

会期 (上映)
平成29年9月25日(月)～10月1日(日) (7日間)※上映は9月28日のみ。
会期 (展示)
平成29年9月10日(日)～10月20日(金) (41日間)
会場
1会場 (ヴィボー博物館 (デンマーク・ヴィボー))
主催
東京国立近代美術館フィルムセンター、 ヴィボー・アニメーションフェスティバル
特別協賛
木下グループ
作品数・上映回数
6作品 / 1プログラム / 上映回数1回
入場者数
上映90人、展示3,721人

かわいいとエピクーマンガ&アニメ大展覧会

第5回ヴィボー・アニメーションフェスティバル「かわいいとエピクーマンガ&アニメ大展覧会」において、日本とデンマークの外交関係樹立150年を記念し、本年100周年を迎えた日本のアニメーション文化を紹介する特別上映・展示プログラムとして、ヴィボー・アニメーション映画祭とフィルムセンターの共同主催により、英語字幕を付した全6作品のDCP上映と、大藤信郎関連の画像26点の展示を行った。DCP上映を行った6作品は、今年度にあヌシー国際アニメーション映画祭と実施した共催企画「アニメNEXT100」(会期:平成29年6月12日から6月17日)でも披露された作品であり、日本の優れた初期アニメーション映画に対する期待と認知度の高まりを再確認する機会となった。日本アニメーションの先駆者である大藤の戦前から戦後にかけての原画やスタジオで使用されていた機材等でその足跡をたどった展示では、かつて1952年の『くじら』や1956年の『幽霊船』等により、海外の映画祭で高い評価を受けた大藤の優れた業績を改めて顕彰することができた。

Kawaii & Epikku Manga and Animé Museum

To commemorate the 150th Anniversary of Japan-Denmark Diplomatic Relations, a special screenings program and exhibition program to introduce Japanese animation culture, which was in its centenary year, was co-held at 'Kawaii & Epikku Animé Museum', part of the fifth Viborg Animation Festival. It showed a total of six titles on DCP with English subtitles and exhibited 26 items related to Noburo Ofuji. The same six titles were also shown in this fiscal year at 'Anime Next 100' co-hosted with the Annecy International Animation Film Festival (from June 12th to 16th, 2017), and both became an opportunity to reconfirm that expectations and recognition for excellent Japanese early animation films are increasing. The exhibition traced Japanese animation pioneer Ofuji's works with original paintings from the pre and postwar-eras and equipment he used in his studio to celebrate once again his great achievements in receiving acclaim from foreign film festivals through films such as *Kujira* (1952) or *Yureisen* (1956).

会 期
平成29年9月30日(土)～10月7日(土) (8日間) ※上映は10月1日、5日のみ。
会 場
1会場 (ジュゼッペ・ヴェルディ市立劇場 (イタリア・ボルデノーネ))
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター、 チネテカ・デル・フリウリ
特別協賛
木下グループ
作品数・上映回数
2作品／2プログラム／上映回数2回
入場者数
603人

第36回ボルデノーネ無声映画祭における 「サウンド版——トーキー移行期の日本映画（第一部）」

無声映画の発見・復元を顕彰する映画祭として国際的な名声を得ているボルデノーネ無声映画祭において、同映画祭を主催するチネテカ・デル・フリウリ（FIAF加盟機関、イタリア）と共同で、「サウンド版——トーキー移行期の日本映画」と題し、無声映画からトーキーへの移行期に日本で製作されたサウンド版作品を紹介する特集を開催した。本特集は2年連続の開催を予定しており、その初回となる本年度は野村芳亭監督『島の娘』（1933年）と小津安二郎監督『東京の宿』（1935年）の2本を上映した。製作時サウンドトラックに録音された音楽や効果音は、当時の日本人の嗜好を知る貴重な手がかりとなるものでもあり、いずれも高い関心をもって受け入れられた。

Saundo-ban - The Japanese Silent Cinema Goes Electric (PART 1 of 2)

Le Giornate del Cinema Muto held by Cineteca del Friuli (a FIAF member in Italy) is internationally renowned as a film festival to honor the discovery and restoration of silent films. Co-hosted with Cineteca del Friuli, NFC held a special program to introduce sound versions which were produced in Japan in the era when silent films were shifting to talkies, titled 'Saundo-ban - The Japanese Silent Cinema Goes Electric'. A sequel is planned for the following year, and in this Part one, two films were screened; *Shima no musume* [The Island Girl] (1933) directed by Hotei Nomura and *Tokyo no yado* [An Inn in Tokyo] (1935) directed by Yasujiro Ozu. The music and sound effects recorded on the film at the time of its release are precious hints to tell us the preferences of Japanese people in those days. Both were received with great interest by audiences.

会 期
平成29年9月30日(土)～10月7日(土) (43日間) ※上映は10月15日、19日、25日、28日、 11月2日、9日、18日、21日、25日のみ。
会 場
1会場 (スウェーデン映画協会 フィルムハウス (スウェーデン・ストックホルム))
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター、 スウェーデン映画協会
特別協賛
木下グループ
作品数・上映回数
14作品／9プログラム／上映回数9回
入場者数
723人

「知られざる日本映画特集」

スウェーデンにおける国立の映画保存機関、スウェーデン映画協会 (FIAF 加盟機関) との交換事業の一環として、同協会が昨年度実施された共催事業「サイレント・ジャパン—日本無声映画特集」に続き、本年度は「知られざる日本映画特集」と題し、フィルムセンターが所蔵するトーキー以後の日本映画を対象に、当館と先方のキュレーターが共同で作品選定を行った。『東海道四谷怪談』『飢餓海峡』『有りがたうさん』『どたんば』『丹下左膳餘話 百萬両の壺』『桃太郎の海鷲』『くもとちゅうりっぷ』『茶日子の一日』『漫画 おい等の野球』『馬具田城の盗賊』『幽霊船』(YUUREISEN)『座頭市物語』『巨人と玩具』『けんかえれじい』の全14作品が提供された。海外で比較的上映されることの稀な作品が選定されたが、入館者数としては群を抜いて『東海道四谷怪談』の入りが多く(148名)、日本の怪談映画に対する関心の高さがうかがわれた。

Unknown Japan

As part of an exchange program with a national film archive in Sweden, Swedish Film Institute (FIAF member), and continued from the co-hosted event 'Silent Japan' in the previous year, this fiscal year 2017 NFC curators and a Swedish curator selected Japanese films in and after the talkie-era for the program titled 'Unknown Japan'. A total of 14 titles were shown; *Tokaido yotsuya kaidan* [The Ghost of Yotsuya], *Kiga kaikyō* [A Fugitive from the Past], *Arigatosan* [Mr. Thank You], *Dotanba* [The Eleventh Hour], *Tangesazen yowa: byakumanryo no tsubo* [Tange Sazen's Sidestory: The Pot Worth a Million Ryo], *Momotaro no umiwashi* [Momotaro's Sea Eagles], *Kumo to Churippu* [The Spider and the Tulip], *Chameko no ichinichi* [A Day in the Life of Chameko], *Manga: oira no yakyū* [Our Baseball Match], *Bagudajo no tozoku* [The Thief of Baguda Castle], *Yureisen*, *Zatoichi monogatari* [The Tale of Zatoichi], *Kyojin to gangū* [Giants and Toys], and *Kenka ereji* [Fighting Elegy]. Films having relatively few chances to be screened overseas were selected, but audience numbers for "The Ghost of Yotsuya" were by far the greatest (148 people), showing the tremendous interest in Japanese horror movies.

会 期
ハーバード会場 平成29年11月3日（金）～ 11月27日（月） （25日間） ※うち11月3日（金）、4日（土）、 17日（金）、18日（土）の4日間上映。 ニューヨーク会場 平成29年11月20日（月）～ 12月10日（日） （21日間） ※うち11月21日（火）、22日（水）、 12月3日（日）、9日（土）の4日間上映。
会 場
3会場 （ハーバード・フィルムアーカイブ （アメリカ・ケンブリッジ）、 アンソロジー・フィルムアーカイブズ （アメリカ・ニューヨーク）、 マーティン・E・シーガル・シアター・ センター（アメリカ・ニューヨーク）
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター、 ハーバード・フィルムアーカイブ、 アンソロジー・フィルムアーカイブズ
特別協賛
木下グループ
作品数・上映回数
22作品／14プログラム／上映回数18回
入場者数
1,511人

ハーバード・フィルムアーカイブ
 アンダーグラウンドの皇帝：寺山修司
 アンソロジー・フィルムアーカイブズ
 書を捨てよ：寺山修司特集

国際フィルムアーカイブ連盟（FIAF）に加盟する映画保存機関であり、劇映画から実験映画まで幅広いジャンルの上映活動を積極的に行ってきたハーバード・フィルムアーカイブ（アメリカ・ケンブリッジ）およびアンソロジー・フィルムアーカイブズ（アメリカ・ニューヨーク）との共同主催により、これまでアメリカで紹介される機会の少なかった寺山修司監督の作品を上映した。

日本映画の多様性を海外の研究者やアーカイブ関係者に紹介するとともに、フィルムセンターで近年新たに収蔵した寺山修司監督の短編作品の色の再現プロセスなど、フィルムセンターにおける映画保存への取り組みを海外に発信することができた。上映は多くの観客を集め、寺山修司および日本映画の再発見の貴重な機会となった。

Shuji Terayama, Emperor of the Underground
 Throw Away Your Books: The Films of Shuji Terayama

Co-organized with two FIAF member film archives; Harvard Film Archive (Cambridge, US) and Anthology Film Archives (NY, US), which have actively screened a wide variety of genres from feature films to experimental films, this program showed works directed by Shuji Terayama. Terayama's films had not been screened so often in the US in the past. Through this opportunity, NFC was able to introduce the diversity of Japanese films to researchers and film archivists overseas, as well as sending out information about the film archiving activities of NFC, such as the process of color restoration of Terayama's short films which were newly acquired in recent years. The screenings attracted large audiences and became a precious opportunity to rediscover director Terayama and Japanese films.

国民の映画文化や映画芸術への関心を高め、映画保存の重要性についての理解を促進するため、文化庁との共催事業として、教育委員会、公共文化施設等と連携・協力して、全国各地で35mmフィルムによる日本映画の巡回上映を実施した。29回目の実施となった本年度も、昨年度同様、全25プログラム、100作品による番組編成を行ったが、著作権者による旧作上映との調整等の理由から、5作品について差し替えを行った。このうち『喜劇 急行列車』（瀬川昌治、1967年）は、今回新たに巡回用プリントを作成しプログラムに加えたものである。また、『心中天網島』（篠田正浩、1969年）についても新たなプリントを作成しこれまで使用していたアセテートベースからポリエステルベースへの差し替えを行った。なお、実施会場は採択時には178会場が見込まれたが、長野県の上田文化会館では事業計画の都合により実施が見送られたため、177会場での開催となった。入場者数は、70,312人を記録した。

会 期	平成29年7月3日(月)～平成30年3月11日(日) (延べ上映日数334日間)
会 場	177会場(徳島県、鹿児島県を除く、全国45都道府県)
主 催	東京国立近代美術館フィルムセンター、文化庁、各実施会場
特別協力	一般社団法人日本映画製作者連盟、全国興行生活衛生同業組合連合会
特別協賛	木下グループ
出品点数	100作品25プログラム
入場者数	70,312人
入場料金	成人1人1回500円以内

As a co-organized project with the Agency for Cultural Affairs, and in liaison and cooperation with various boards of education and public cultural institutions, NFC circulated screening events of 35mm films in many places around Japan so as to encourage people's interest in film culture and film art, and also to deepen their understanding of the importance of film preservation. For this 29th edition, again in fiscal year 2017 as in the previous year, the program consisted of 100 titles in 25 programs. As changes occurred because of the screening schedules of the copyright holders, five titles were replaced. Amongst the replacements, NFC prepared a new print for circulation of *Kigeki: kyuko ressha* (1967) directed by Masaharu Segawa to add to this project. Also, a new print for *Shinju ten no amijima* [Double Suicide] (1969) directed by Masahiro Shinoda was made to replace the previously used acetate base film with polyester. Though 178 venues were expected at the beginning, at Ueda Culture Hall in Nagano the screenings were canceled due to a change of plan, so eventually 177 venues held screenings. Audience numbers totaled 70,312.

Aプログラム

日本映画を代表する溝口健二監督が、1950年代に世界の映画祭で絶賛を博した時代ものの名作を紹介いたします。

- 西鶴一代女** (1952年・溝口健二・新東宝＝児井プロ・137分)
出演＝田中絹代、三船敏郎、宇野重吉
- 雨月物語** (1953年・溝口健二・大映・97分)
出演＝京マチ子、田中絹代、森雅之
- 山椒大夫** (1954年・溝口健二・大映・124分)
出演＝田中絹代、香川京子、花柳喜章
- 近松物語** (1954年・溝口健二・大映・103分)
出演＝長谷川一夫、香川京子、南田洋子

Bプログラム

男女の心のあやや生きることはかなさを、冷徹な視線で描写し、確固たる作風を築いた成瀬巳喜男監督の戦後代表作を、遺作を含めて紹介いたします。

- めし** (1951年・成瀬巳喜男・東宝・97分)
出演＝上原謙、原節子、島崎雪子
- おかあさん** (1952年・成瀬巳喜男・新東宝・98分)
出演＝田中絹代、香川京子、岡田英次
- 流れる** (1956年・成瀬巳喜男・東宝・116分)
出演＝田中絹代、山田五十鈴、高峰秀子、杉村春子
- 乱れ雲** (1967年・成瀬巳喜男・東宝・108分)
出演＝加山雄三、司葉子、森光子

Cプログラム

近代日本の光と影を情感ゆたかなりアリズムで描いた今井正——その多彩な作品群から大ヒット作や社会派ドラマを紹介いたします。

- 青い山脈** (1949年・今井正・藤本プロ＝東宝・172分)
出演＝原節子、杉葉子、池部良
- また逢う日まで** (1950年・今井正・東宝・109分)
出演＝岡田英次、久我美子、滝沢修
- 真昼の暗黒** (1956年・今井正・現代プロ・124分)
出演＝草薙幸次郎、松山照夫、左幸子
- 純愛物語** (1957年・今井正・東映・130分)
出演＝江原真二郎、中原ひとみ、岡田英次

Dプログラム

人間の善と悪、生と老、大胆な構成と躍動感あふれる演出で描き続け、世界中の映画人と観客を魅了した黒澤明監督の傑作を紹介いたします。

- わが青春に悔いなし** (1946年・黒澤明・東宝・分)
出演＝原節子、藤田進、大河内伝次郎、杉村春子
- 酔いどれ天使** (1948年・黒澤明・東宝・98分)
出演＝志村喬、三船敏郎、木暮実千代
- 羅生門[デジタル復元版]** (1950年・黒澤明・大映・88分)
出演＝三船敏郎、京マチ子、森雅之、志村喬
- 用心棒** (1961年・黒澤明・東宝＝黒澤プロ・110分)
出演＝三船敏郎、仲代達矢、山田五十鈴、司葉子

Eプログラム

叙情的な作風で多くの観客を魅了した木下恵介監督の作品から、戦後日本映画の代名詞とも言える珠玉の作品を紹介いたします。

- カルメン故郷に帰る** (1951年・木下恵介・松竹・86分)
出演＝高峰秀子、小林トシ子、佐田啓二
- 二十四の瞳** (1954年・木下恵介・松竹・155分)
出演＝高峰秀子、月丘夢路、田村高廣
- 野菊の如き君なりき** (1955年・木下恵介・松竹・92分)
出演＝有田紀子、田中晋二、田村高廣
- 喜びも悲しみも幾年月** (1957年・木下恵介・松竹・159分)
出演＝高峰秀子、佐田啓二、中村賀津雄

Fプログラム

才気あふれる作風で日本映画の刷新を試み続けた市川崑——小説の映画化として評価の高い作品に、国民的論議を巻き起こした記録映画を加えた4作品を紹介いたします。

- 野火** (1959年・市川崑・大映・104分)
出演＝船越英二、滝沢修、ミッキー・カーチス
- ぼんち** (1960年・市川崑・大映・104分)
出演＝市川雷蔵、若尾文子、山田五十鈴
- 東京オリンピック** (1965年・市川崑・東京オリンピック映画協会＝東宝・169分)
記録映画
- おはん** (1984年・市川崑・東宝映画・112分)
出演＝吉永小百合、大原麗子、石坂浩二、ミヤコ蝶々

Gプログラム

日本映画に類稀なる光彩を与えた鬼才・川島雄三と戦中派の屈折をスケールの大きい活劇に昇華させた異才・岡本喜八——二人の個性派監督の作品を紹介いたします。

洲崎パラダイス 赤信号

(1956年・川島雄三・日活・81分)
出演＝新珠三千代、三橋達也、轟夕起子

雁の寺

(1962年・川島雄三・大映・98分)
出演＝若尾文子、三島雅夫、高見国一、山茶花究

独立愚連隊

(1959年・岡本喜八・東宝・108分)
出演＝佐藤允、雪村いづみ、中丸忠雄

日本のいちばん長い日

(1967年・岡本喜八・東宝・157分)
出演＝三船敏郎、笠智衆、松本幸四郎

Hプログラム

1960年前後より登場した若き映画監督たち——人間の意志と情熱を大胆に描き出し、巨匠になってからも、その瑞々しい感性と獐猛なバイタリティで観客を魅了する作品群を紹介いたします。

秋津温泉

(1962年・吉田喜重・松竹・112分)
出演＝岡田茉莉子、長門裕之、山村聡、宇野重吉

少年

(1969年・大島渚・創造社・97分)
出演＝渡辺文雄、小山明子、阿部哲夫、木下剛志

心中天網島

(1969年・篠田正浩・表現社＝ATG・103分)
出演＝中村吉右衛門、岩下志麻、滝田裕介

復讐するは我にあり

(1979年・今村昌平・松竹・140分)
出演＝緒方拳、小川真由美、倍賞美津子

Iプログラム

1980年代以降、主に独立プロダクションを舞台に、日本映画の顔として活躍してきた監督たちの意欲作を紹介いたします。

遠雷 (1981年・根岸吉太郎・にっかつ撮影所他・135分)
出演＝永島敏行、ジョニー大倉、石田えり

ロックよ、静かに流れよ

(1988年・長崎俊一・東宝他・100分)
出演＝岡本健一、高橋一也、前田耕陽

櫻の園

(1990年・中原俊・ニューセンチュリープロデューサーズ＝サントリー・100分)
出演＝中島ひろ子、つみきみほ、白島靖代

お引越し

(1993年・相米慎二・讀賣テレビ放送・124分)
出演＝田畑智子、中井貴一、桜田淳子

Jプログラム

映画史を艶やかに彩ってきた監督と女優との宿命的な出会い——数ある名作、代表作から選んだ4作品を紹介いたします。

稲妻

(1952年・成瀬巳喜男・大映・87分)
出演＝高峰秀子、三浦光子、香川京子

にごりえ

(1953年・今井正・文学座ほか・130分)
出演＝丹阿弥谷津子、久我美子、淡島千景

伊豆の踊子

(1963年・西河克己・日活・87分)
出演＝吉永小百合、高橋秀樹、南田洋子、浪花千栄子

華岡青洲の妻

(1967年・増村保造・大映・99分)
出演＝若尾文子、高峰秀子、市川雷蔵

Kプログラム

山本富士子、岸恵子、佐久間良子、岩下志麻——今や大女優となった彼女たちの若き姿を、文芸ものや時代ものを通して紹介いたします。

夜の河

(1956年・吉村公三郎・大映・104分)
出演＝山本富士子、上原謙、川崎敬三

雪国

(1957年・豊田四郎・東宝・133分)
出演＝岸恵子、池部良、八千草薫、久保明

五番町夕霧楼

(1963年・田坂具隆・東映・137分)
出演＝佐久間良子、河原崎長一郎、木暮実千代

五瓣の椿

(1964年・野村芳太郎・松竹・163分)
出演＝岩下志麻、田村高広、伊藤雄之助

Lプログラム

山口百恵、松田聖子、原田知世、宮沢りえ——時代を彩るアイドルたちのみずみずしい魅力にあふれる作品を紹介いたします。

伊豆の踊子

(1974年・西河克己・東宝・82分)
出演＝山口百恵、三浦友和、中山仁

野菊の墓

(1981年・澤井信一郎・東映・91分)
出演＝松田聖子、桑原正、村井国男

時をかける少女

(1983年・大林宣彦・角川春樹事務所・104分)
出演＝原田知世、尾美としのり、高柳良一

ぼくらの七日間戦争

(1988年・菅原比呂志・角川書店・94分)
出演＝宮沢りえ、五十嵐美穂、安孫子理香

Mプログラム

池部良、石原裕次郎、三船敏郎、勝新太郎、田宮二郎、——個性豊かな男優たちの魅力があふれる作品を紹介

いたします。

暁の脱走 (1950年・谷口千吉・新東宝・110分)
出演＝池部良、山口淑子、小沢栄

嵐を呼ぶ男 (1957年・井上梅次・日活・100分)
出演＝石原裕次郎、北原三枝、芦川いづみ、金子信雄

隠し砦の三悪人 (1958年・黒澤明・東宝・138分)
出演＝三船敏郎、上原美佐、藤田進

悪名 (1961年・田中徳三・大映・94分)
出演＝勝新太郎、田宮二郎、中村玉緒

Nプログラム

市川雷蔵と中村錦之助——多くの映画ファンを魅了し一世を風靡した二大スターの作品を紹介いたします。

弁天小僧 (1958年・伊藤大輔・大映・86分)
出演＝市川雷蔵、青山京子、黒川弥太郎

眠狂四郎殺法帖 (1963年・田中徳三・大映・81分)
出演＝市川雷蔵、中村玉緒、若山富三郎

反逆児 (1961年・伊藤大輔・東映・110分)
出演＝中村錦之助、桜町弘子、月形龍之介

沓掛時次郎 遊侠一匹 (1966年・加藤泰・東映・90分)
出演＝中村錦之助、池内淳子、渥美清

Oプログラム

見るものを惹きつけて止まない異端のヒーローたち。シリーズ化やリメイクにより、時代を超越するアイコンとなった主人公を描く作品群を紹介いたします。

不知火検校 (1960年・森一生・大映・91分)
出演＝勝新太郎、中村玉緒、近藤美恵子

次郎長三国志 (1963年・マキノ雅弘・東映・102分)
出演＝鶴田浩二、松方弘樹、佐久間良子

網走番外地 (1965年・石井輝男・東映・91分)
出演＝高倉健、丹波哲郎、田中邦衛、嵐寛寿郎

人生劇場 飛車角と吉良常
(1968年・内田吐夢・東映・109分)
出演＝鶴田浩二、高倉健、辰巳柳太郎

Pプログラム

終戦直後の混乱のなかで、古き時代への悔恨と新しい時代に向けた希望を映し出した力作を紹介いたします。

戦争と平和
(1947年・山本薩夫、亀井文夫・東宝・110分)
出演＝伊豆肇、岸旗江、池部良

安城家の舞踏会 (1947年・吉村公三郎・松竹・90分)
出演＝原節子、滝沢修、森雅之

蜂の巣の子供たち
(1948年・清水宏・蜂の巣映画部・84分)
出演＝島村俊作、夏木雅子、後庄正一

帰郷 (1950年・大庭秀雄・松竹・104分)
出演＝佐分利信、木暮実千代、津島恵子

Qプログラム

戦後の混乱を乗り越え、復興の時を迎えた日本に生きる様々な家族や夫婦の姿を描いた作品を紹介いたします。

煙突の見える場所 (1953年・五所平之助・新東宝＝スタジオ8プロ・108分)
出演＝田中絹代、上原謙、高峰秀子

この広い空のどこかに
(1954年・小林正樹・松竹・109分)
出演＝高峰秀子、佐田啓二、久我美子

名もなく貧しく美しく
(1961年・松山善三・東宝・128分)
出演＝高峰秀子、小林桂樹、島津雅彦

裸の島 (1960年・新藤兼人・近代映画協会・96分)
出演＝乙羽信子、殿山泰司、田中伸二

Rプログラム

阪妻、長谷川一夫、右太衛門、千恵蔵——定番時代劇の醍醐味を存分に発揮したスター競演の作品を紹介いたします。

大江戸五人男 (1951年・伊藤大輔・松竹・132分)
出演＝阪東妻三郎、市川右太衛門、山田五十鈴

銭形平次捕物控 からくり屋敷
(1953年・森一生・大映・86分)
出演＝長谷川一夫、アチャコ、三浦光子、入江たか子

旗本退屈男 (1958年・松田定次・東映・108分)
出演＝市川右太衛門、桜町弘子、片岡千恵蔵

赤穂浪士 (1961年・松田定次・東映・150分)
出演＝片岡千恵蔵、大川橋蔵、市川右太衛門

Sプログラム

風俗喜劇に重喜劇、人気シリーズにユーモアあふれるコメディ——森繁久弥出演の2作品を含め、さまざまな笑いで見るものを楽しませてきた喜劇映画の代表作を紹介いたします。

本日休診 (1952年・渋谷実・松竹・97分)
出演＝柳永二郎、淡島千景、三国連太郎

駅前旅館 (1958年・豊田四郎・東京映画・109分)
出演＝森繁久弥、伴淳三郎、フランキー堺

喜劇・女は男のふるさとヨ
(1971年・森崎東・松竹・90分)
出演＝森繁久弥、中村メイコ、倍賞美津子

大誘拐 RAINBOW KIDS
(1991年・岡本喜八監督・喜八プロ
＝ニチメン＝フジエイト・120分)
出演＝北林谷栄、緒形拳、風間トオル、樹木希林

Tプログラム

日本映画の量産時代に登場した監督たちが、喜劇映画のなかで新たな挑戦を試みた秀作を紹介いたします。

おかしな奴 (1963年・沢島忠・東映・110分)
出演＝渥美清、三田佳子、南田洋子

喜劇 急行列車 (1967年・瀬川昌治・東映・90分)
出演＝渥美清、佐久間良子、西村晃、小沢昭一

吹けば飛ぶよな男だが
(1968年・山田洋次・松竹・91分)
出演＝なべおさみ、緑魔子、犬塚弘

あゝ軍歌 (1970年・前田陽一・松竹・88分)
出演＝フランキー堺、財津一郎、倍賞千恵子

Uプログラム

軽やかなリズムと華やかな色彩にのせて、歌と笑いと夢にあふれた音楽・歌謡映画の決定版を紹介いたします。

エノケンの頑張り戦術
(1939年・中川信夫・東宝・74分)
出演＝榎本健一、如月寛多、柳田貞一

ジャンケン娘 (1955年・杉江敏男・東宝・92分)
出演＝美空ひばり、江利チエミ、雪村いづみ

大学の若大将 (1961年・杉江敏男・東宝・82分)
出演＝加山雄三、星由里子、田中邦衛

君も出世ができる (1964年・須川栄三・東宝・100分)
出演＝フランキー堺、高島忠夫、雪村いづみ

Vプログラム

純情と犇猛さが入り混じった青春の一瞬を、気鋭の監督たちが鮮やかに捉えた青春映画、恋愛映画の秀作を紹介いたします。

めぐりあい (1968年・恩地日出夫・東宝・91分)
出演＝酒井和歌子、黒沢年男、田村亮

八月の濡れた砂 (1971年・藤田敏八・日活・91分)
出演＝村野武範、広瀬昌助、テレサ野田

約束
(1972年・斎藤耕一・斎藤耕一プロダクション・88分)
出演＝萩原健一、岸恵子、三国連太郎

忍ぶ川 (1972年・熊井啓・俳優座映画放送・120分)
出演＝加藤剛、栗原小巻、永田靖、信欽三

Wプログラム

松本清張、山崎豊子による社会派ミステリー小説の映画化など、名匠たちが丹精こめて作り上げた力作を紹介いたします。

張込み (1958年・野村芳太郎・松竹・116分)
出演＝宮口精二、菅井きん、大木実

悪い奴ほどよく眠る
(1960年・黒澤明・東宝＝黒澤プロ・151分)
出演＝三船敏郎、森雅之、香川京子

黒い画集 あるサラリーマンの証言
(1960年・堀川弘通・東宝・95分)
出演＝小林桂樹、原千佐子、平田明彦

白い巨塔 (1966年・山本薩夫・大映・150分)
出演＝田宮二郎、東野英治郎、藤村志保

Xプログラム

時代を超えて読み継がれる児童文学の名作や人気漫画を、豊かな情感と奔放な想像力で映画化した4作品を紹介いたします。

あすなろ物語 (1955年・堀川弘通・東宝・108分)
出演＝久保明、岡田茉莉子、根岸明美

次郎物語 (1987年・森川時久・キネマ東京・110分)
出演＝加藤剛、高橋恵子、伊勢将人、樋口剛嗣

風の又三郎 ガラスのマント
(1989年・伊藤俊也・日本ヘラルド映画・107分)
出演＝早瀬美里、小林悠、草刈正雄

少年時代
(1990年・篠田正浩・「少年時代」製作委員会・117分)
出演＝岩下志麻、細川俊之、藤田哲也

Yプログラム

今や日本文化の顔となったアニメーション映画。日本アニメの歴史を画した劇場用長篇映画の代表作を紹介いたします。

西遊記 (1960年・藪下泰司、手塚治虫・東映動画・88分)
声の出演＝小宮山清、新道乃里子、木下秀雄

太陽の王子 ホルスの大冒険

(1968年・高畑勲・東映動画・82分)

声の出演＝大方斐沙子、平幹二郎、市原悦子

長靴をはいた猫 (1969年・矢吹公郎・東映動画・80分)

声の出演＝石川進、藤田淑子、榊原ルミ

銀河鉄道の夜

(1985年・杉井ギサブロー・朝日新聞社＝テレビ朝日

＝日本ヘラルド映画グループ・107分)

声の出演＝田中真弓、坂本千夏、常田富士男

平成29年度優秀映画鑑賞推進事業実施報告

会場名	開催期間	プログラム	日数	上映回数	入場者数	映画館数	人口規模
■北海道							
1 千歳市民文化センター	8月19日(土)～8月20日(日)	B	2	4	260	0	95,900
2 砂川市地域交流センター(ゆう)	7月10日(月)～7月11日(火)	J	2	4	99	0	17,563
■青森県							
3 青森県立美術館シアター	10月20日(金)～10月22日(日)	A	3	8	367	3	290,721
4 青森市中世の館	8月26日(土)～8月27日(日)	I	2	4	69	3	290,721
5 八戸市南郷文化ホール(スウィングベリーNANGO)	12月1日(金)～12月2日(土)	N	2	4	854	1	230,000
■岩手県							
6 久慈市文化会館(アーバンホール)	12月9日(土)～12月10日(日)	L	2	4	168	0	36,125
■宮城県							
7 みやぎ生協文化会館	9月29日(金)～9月30日(土)	J	2	3	94	1	148,665
8 加美町中新田文化会館(中新田パッパホール)	10月9日(月)	F	1	3	311	0	24,250
■秋田県							
9 大館市民文化会館	2月24日(土)～2月25日(日)	H	2	8	1015	2	75,000
10 秋田県民会館	9月2日(土)～9月3日(日)	E	2	8	1015	3	320,000
11 由利本荘市文化交流館	1月20日(土)～1月21日(日)	I	2	4	106	0	78,000
12 横手市ふれあいセンターかまくら館(かまくら館)	10月28日(土)	L	1	4	257	0	95,000
13 湯沢市湯沢文化会館	12月16日(土)～12月17日(日)	W	2	3	154	0	47,094
14 にかほ市仙賀保 勤労青少年ホーム	8月4日(金)～8月5日(土)	U	2	4	43	0	25,499
15 大仙市中仙市民会館(ドンパル)	1月28日(日)～1月29日(月)	O	2	4	364	1	83,998
■山形県							
16 新庄市民プラザ	9月9日(土)	U	1	4	517	0	37,200
17 河北町総合交流センター★	9月10日(日)	V	1	4	525	0	19,232
■福島県							
18 福島県文化センター	1月30日(火)～1月31日(水)	L	2	4	390	2	292,725
19 会津若松市文化センター	12月8日(金)	T	1	2	564	0	122,700
20 朝日座	9月30日(土)～10月1日(日)	M	2	4	55	0	56,000
■茨城県							
21 取手市立市民会館	3月3日(土)～3月4日(日)	M	2	4	227	0	109,000
22 土浦市民会館	10月28日(土)	F	1	2	484	2	140,097
23 水戸芸術館(ACM劇場)	9月16日(土)	B	1	2	233	2	271,070
■栃木県							
24 鹿沼市民文化センター	1月14日(日)	K	1	4	868	0	97,600
■群馬県							
25 群馬県民会館 ベイシア文化ホール	9月27日(水)～9月28日(木)	E	2	4	873	9	340,000
26 富岡市かぶら文化ホール	1月21日(日)	E	1	4	1796	0	49,771
27 桐生市市民文化会館(シルクホール)	10月21日(土)～10月22日(日)	B	2	4	1800	0	120,000
28 高崎電気館★	1月26日(金)～1月30日(火)	M	5	20	323	0	375,000
29 甘楽町文化会館	12月3日(日)	F	1	4	548	0	13,600
■埼玉県							
30 深谷シネマ チネ・フェリーチェ	9月17日(日)～9月21日(木)	M	5	10	217	1	144,649
31 彩の国さいたま芸術劇場(彩の国シネマスタジオ)	8月10日(木)～8月13日(日)	Q	4	12	349	4	1,281,000
32 蕨市民会館	2月25日(日)	A	1	4	1182	0	73,900
33 SKIPシティ彩の国 ビジュアルプラザ	9月17日(日)～9月18日(月)	O	2	4	160	0	590,000
34 川越スカラ座	10月18日(水)～10月22日(日)	Y	5	10	234	2	351,000

会場名	開催期間	プログラム	日数	上映回数	入場者数	映画館数	人口規模
35 桶川市民ホール(響の森)	7月22日(土)	N	1	2	332	2	74,000
36 所沢市民文化センター(ミュージズ)★	11月25日(土)～11月26日(日)	L	2	4	307	2	340,000
37 上尾市コミュニティセンター★	2月23日(金)～2月24日(土)	M	2	4	318	0	228,010
■千葉県							
38 君津市民文化ホール	3月1日(木)～3月2日(金)	F	2	5	202	1	86,436
39 山武市成東文化会館 のぎくプラザ	2月24日(土)	B	1	4	182	0	53,328
40 茂原市東部台文化会館★	9月9日(土)～9月10日(日)	J	2	5	662	0	90,925
■東京都							
41 練馬文化センター	1月20日(土)	D	1	2	782	2	700,000
42 江東区古石場文化ホール	11月4日(土)	H	1	2	173	5	506,511
43 多摩市立永山公民館(ペルブホール)	11月21日(火)～11月22日(水)	Y	2	4	56	0	148,000
44 三鷹産業プラザ	10月9日(月)	D	1	3	173	0	180,000
45 小平市民文化会館大ホール(ルネこだいら)	2月19日(月)～2月20日(火)	E	2	4	3032	0	180,000
46 調布市グリーンホール★	1月19日(金)～1月20日(土)	F	2	4	525	0	230,010
47 西東京市保谷こもれびホール★	9月15日(金)	J	1	4	520	0	200,000
■神奈川県							
48 座間市立市民文化会館(ハーモニーホール座間)	9月20日(水)～9月21日(木)	V	2	4	294	0	130,000
49 小田原コロナシネマワールド	9月22日(金)～9月23日(土)	A	2	4	119	2	200,000
50 鎌倉市川喜多映画記念館	2月16日(金)～2月18日(日)	J	3	6	326	1	172,279
51 東京国立近代美術館 フィルムセンター相模原分館	9月18日(月)～9月19日(火)	E	2	4	306	1	270,812
52 相模原市立勤労者 総合福祉センター	9月24日(日)	W	1	2	159	1	270,812
53 相模原南市民ホール	11月10日(金)～11月11日(土)	V	2	4	305	1	277,592
■山梨県							
54 都の杜うぐいすホール(うぐいすホール)	9月2日(土)～9月3日(日)	B	2	4	135	0	31,082
55 市川三郷町歌舞伎文化公園ふるさと会館(ふるさと会館)	8月26日(土)	C	1	1	150	0	16,338
56 富士川町ますほ文化ホール	1月20日(土)～1月21日(日)	G	2	4	328	0	15,665
■長野県							
57 上田文化会館	-	-	-	-	-	-	-
58 駒ヶ根市文化会館★	7月4日(火)～7月5日(水)	D	2	4	122	0	32,455
59 木曾文化公園文化ホール	2月24日(土)～2月25日(日)	L	2	4	320	0	11,500
60 長野県伊那文化会館	12月20日(水)～12月22日(金)	J	3	9	574	0	60,000
■新潟県							
61 胎内市産業文化会館	12月1日(金)～12月2日(土)	H	2	8	286	0	30,300
62 新潟市巻文化会館	10月28日(土)～10月29日(日)	C	2	4	226	0	59,000
63 魚沼市小出郷文化会館	11月17日(金)～11月19日(日)	X	3	8	148	0	37,503
64 南魚沼市民会館 多目的ホール	9月2日(土)～9月3日(日)	W	2	6	312	0	58,000
65 高田世界館	7月13日(木)～7月17日(月)	O	5	15	217	2	200,000
■富山県							
66 北日本新聞ホール	8月9日(水)～8月10日(木)	E	2	3	510	3	420,000
67 富山県高岡文化ホール★	8月16日(水)～8月17日(木)	L	2	4	390	1	174,074
68 滑川市民交流プラザ	2月18日(日)～2月20日(火)	F	2	4	205	0	33,000
■石川県							
69 金沢21世紀美術館	12月9日(土)～12月10日(日)	U	2	4	156	5	460,000
70 こまつ芸術劇場うらら	1月13日(土)～1月14日(日)	L	2	4	95	0	108,646
71 加賀市市民会館	9月22日(金)～9月23日(土)	D	2	4	126	0	68,678
■福井県							
72 大野市文化会館	10月13日(金)～10月14日(土)	M	2	6	234	0	35,000
73 越前いまだて芸術館	10月4日(水)	W	1	4	456	0	84,000
74 美浜町生涯学習センター	1月27日(土)～1月28日(日)	J	2	4	239	0	9,844

会場名	開催期間	プログラム	日数	上映回数	入場者数	映画館数	人口規模
75 パレア若狭音楽ホール	2月24日(土)～2月25日(日)	D	2	4	147	0	15,439
■岐阜県							
76 岐阜市文化センター	11月27日(月)～11月28日(火)	L	2	6	374	3	400,000
77 北方町生涯学習センター★	10月12日(木)～10月13日(金)	X	2	4	239	0	19,000
78 日本まん真ん中センター	2月18日(日)	T	1	4	241	0	4,000
79 羽島市映画資料館	11月25日(土)～11月26日(日)	P	2	4	168	0	68,381
80 可児市文化創造センター(ala)	2月18日(日)～2月19日(月)	Q	2	4	320	0	101,519
■静岡県							
81 焼津文化会館	2月24日(土)	W	1	4	1597	0	141,300
82 島田市川根文化センター	3月11日(日)	D	1	4	186	0	100,000
83 袋井市月見の里学遊館	1月7日(日)	D	1	4	436	0	82,000
84 下田市民文化会館	1月18日(木)～1月19日(金)	J	2	4	750	0	22,000
85 御前崎市民会館	3月4日(日)	E	1	4	1480	0	33,358
86 静岡県コンベンションアーツセンター(グランシップ)	10月20日(金)～10月21日(土)	F	2	4	258	4	212,198
87 焼津市大井川文化会館(ミュージコ)	9月15日(金)	Q	1	4	409	0	141,300
88 掛川市生涯学習センター	1月14日(日)	V	1	4	733	0	110,000
89 掛川市文化会館(シオーネ)	1月28日(日)	T	1	4	869	0	110,000
■愛知県							
90 瀬戸蔵	10月14日(土)～10月15日(日)	U	2	4	204	0	131,000
91 犬山市民文化会館	2月17日(土)～2月18日(日)	K	2	4	227	0	74,640
92 江南市民文化会館	10月18日(水)～10月19日(木)	R	2	4	227	0	101,058
93 あま市文化の杜 美和文化会館図書館	2月3日(土)～2月4日(日)	X	2	4	367	0	88,000
■三重県							
94 四日市市文化会館★	10月6日(金)	V	1	1	125	0	310,000
95 亀山市民文化会館	9月3日(日)	R	1	3	238	0	50,000
96 松阪コミュニティ文化センター	10月19日(木)～10月20日(金)	E	2	4	488	1	166,577
97 伊勢市生涯学習センター(いせトピア)	9月25日(月)～9月26日(火)	C	2	4	454	1	130,000
98 アドバンスコープA D S ホール	9月10日(日)	K	1	4	861	0	80,000
■滋賀県							
99 日吉座	7月16日(日)	B	1	4	291	0	30,000
■京都府							
100 久御山まちふれあい交流館 ゆうホール	11月17日(金)～11月21日(火)	D	5	4	68	0	16,300
101 京都府丹後文化会館	9月1日(金)～9月2日(土)	C	2	6	264	0	60,000
102 舞鶴市総合文化会館	1月7日(日)～1月8日(月)	M	2	8	100	1	83,001
103 宇治市生涯学習センター	11月10日(金)～11月11日(土)	B	2	4	284	0	188,527
■大阪府							
104 茨木市市民総合センター★	12月1日(金)～12月3日(日)	A	3	8	364	0	280,000
105 岸和田市立文化会館(マドカホール)	12月15日(金)～12月16日(土)	O	2	4	208	1	200,000
106 シネ・ヌーヴォ	9月17日(日)～9月21日(木)	H	5	15	492	10	85,000
107 守口市生涯学習センター	11月26日(日)	B	1	4	194	1	144,013
■兵庫県							
108 兵庫県立美術館(芸術の館)	8月25日(金)～8月26日(土)	W	2	4	453	0	131,768
109 シネピピア	10月14日(土)～10月18日(水)	W	5	13	419	1	223,000
110 川西市みつなかホール	1月12日(金)～1月13日(土)	U	2	4	421	0	159,668
111 福崎町エルデホール	10月28日(土)	M	1	3	356	0	19,519
112 姫路市文化センター	12月23日(土)～12月24日(日)	D	2	4	1300	1	533,000
113 豊岡市民プラザ(ほっとステージ)	2月10日(土)～2月11日(日)	O	2	4	127	0	83,893
■奈良県							
114 やまと郡山城ホール	8月25日(金)	K	1	2	319	0	87,645

会場名	開催期間	プログラム	日数	上映回数	入場者数	映画館数	人口規模
115 奈良市北部会館市民文化ホール	12月3日(日)	E	1	3	126	0	360,312
■和歌山県							
116 和歌山県民文化会館	10月29日(日)	V	1	1	103	5	361,459
117 和歌山市民会館	12月5日(火)～12月7日(木)	G	3	6	142	2	361,868
118 紀の川市貴志川生涯学習センター(かがやきホール)	3月10日(土)～3月11日(日)	F	2	4	180	0	65,759
119 海南市市民交流センター	9月30日(土)～10月1日(日)	T	2	4	45	0	52,512
■鳥取県							
120 境港市文化ホール 境港シンフォニーガーデン★	9月23日(土)～9月24日(日)	B	2	4	269	0	35,000
121 米子市文化ホール	11月11日(土)	U	1	3	620	1	150,000
■島根県							
122 島根県芸術文化センター(グラントワ)	10月12日(木)～10月13日(金)	J	2	4	216	0	50,000
123 松江勤労者総合福祉センター(松江テルサ)	10月28日(土)～10月29日(日)	Q	2	6	278	1	204,714
124 松江市美保関海の学苑ふるさと創生館(メテオプラザ)	10月21日(土)～10月22日(日)	V	2	4	261	1	204,285
125 江津市総合市民センター(ミルキーウェイホール)	1月27日(土)～1月28日(日)	R	2	4	227	0	24,319
126 雲南市木次経済文化会館(チェリヴァホール)	1月27日(土)～1月28日(日)	K	2	4	151	0	40,000
127 斐川文化会館★	11月18日(土)	R	1	4	152	0	174,948
128 悠邑ふるさと会館	9月30日(土)	Y	1	4	44	0	3,418
■岡山県							
129 新見文化交流館 生涯学習センター★	1月20日(土)～1月21日(日)	L	2	4	100	0	30,768
130 和気町総合福祉センター	11月1日(水)	J	1	3	160	0	15,000
131 岡山県天神山文化プラザ	2月3日(土)	E	1	4	658	5	310,815
132 笠岡市保健センター(ギャラクシーホール)	9月10日(日)	X	1	2	110	0	52,000
■広島県							
133 広島市安佐南区民センター★	9月21日(木)	Q	1	4	277	6	242,147
134 呉ポポロシアター	11月10日(金) 11月12日(日)	Y	2	5	89	1	230,703
135 シネマ尾道	12月2日(土)～12月5日(火)	M	4	8	93	1	137,000
136 福山駅前シネマモード	9月16日(土) 9月19日(火)	F	2	4	81	1	470,000
137 はつかいち文化ホール★	11月21日(火)～11月22日(水)	E	2	6	702	1	120,000
138 庄原市口和郷土資料館★	10月7日(土)～10月9日(月)	L	2	4	128	1	2,059
■山口県							
139 下関市民文化会館	9月24日(日)～9月25日(月)	O	2	8	1031	1	269,486
140 山口情報芸術センター(YCAM)	9月28日(木)～10月1日(日)	F	4	8	463	5	190,000
141 山口県民芸術文化ホールながと(ルネッサながと)	8月12日(土)～8月13日(日)	N	2	6	137	0	36,000
142 光市民ホール	2月3日(土)～2月4日(日)	D	2	6	705	0	52,232
143 山陽小野田市民館	9月16日(土)	X	1	2	28	0	64,000
144 柳井市文化福祉会館・勤労青少年ホーム★	9月16日(土)～9月17日(日)	L	2	6	68	0	32,865
■香川県							
145 香川県県民ホール	9月9日(土)	G	1	2	202	4	420,725
146 丸亀市生涯学習センター	1月21日(日)	K	1	3	462	0	110,517
147 善通寺市民会館	2月18日(日)	L	1	4	940	0	33,000
148 観音寺市民会館★	8月6日(日)	D	1	3	165	0	61,000
■愛媛県							
149 西条市総合文化会館	8月6日(日)	B	1	4	103	0	111,552
150 宇和島市生涯学習センター	10月16日(月)	S	1	4	218	0	79,000
151 松山市総合福祉センター	12月9日(土)	C	1	4	1214	3	514,459
■高知県							
152 本山町プラチナセンター★	7月15日(土)	D	1	4	40	0	1,535
153 土佐清水市立市民文化会館(くろしおホール)	9月5日(火)～9月8日(金)	M	4	8	170	0	14,294

会場名	開催期間	プログラム	日数	上映回数	入場者数	映画館数	人口規模
154 窪川四万十会館	12月2日(土)～12月3日(日)	O	2	4	90	0	17,767
155 高知あたご劇場	11月4日(土)～11月5日(日)	W	2	20	859	2	350,000
■福岡県							
156 北九州市立門司市民会館	12月9日(土)～12月10日(日)	K	2	4	830	5	104,018
157 田川青少年文化ホール	7月29日(土)～7月30日(日)	V	2	6	1021	0	49,154
158 小都市文化会館	1月20日(土)～1月21日(日)	W	2	4	629	0	59,385
■佐賀県							
159 炎の博記念堂	8月20日(日)	S	1	4	462	0	20,723
160 佐賀市交流文化プラザ 竜センター	1月19日(金)～1月21日(日)	U	3	12	88	2	234,000
161 鹿島市生涯学習センター(エイブル)	8月5日(土)～8月6日(日)	O	2	8	431	0	30,205
162 鳥栖市市民文化会館	8月19日(土)～8月20日(日)	E	2	8	995	0	72,832
163 武雄市文化会館	10月21日(土)～10月22日(日)	L	2	8	434	0	49,669
■長崎県							
164 長崎歴史文化博物館★	9月18日(月)	N	1	4	165	0	420,000
165 川棚町公会堂	9月23日(土)～9月24日(日)	X	2	8	468	0	14,219
■熊本県							
166 八千代座	11月24日(金)	M	1	4	193	1	53,500
167 本渡第一映劇	11月22日(水)～11月26日(日)	W	5	20	210	1	8,400
168 ながす未来館	9月2日(土)～9月3日(日)	N	2	8	215	0	16,000
169 益城町文化会館	1月7日(日)～1月8日(月)	D	2	4	195	0	32,404
170 山都町立図書館	11月5日(日)	X	1	3	36	0	15,164
■大分県							
171 中津文化会館★	11月11日(土)	J	1	4	698	0	84,000
172 くにさき総合文化センター(アストくにさき)	10月28日(土)	R	1	2	287	0	29,329
173 九重町九重文化センター	10月28日(土)	E	1	3	144	0	10,027
174 日田市民文化会館(パトリア日田)	7月30日(日)	E	1	4	770	1	70,000
175 コンパルホール	8月12日(土)～8月13日(日)	A	2	8	912	0	479,726
■宮崎県							
176 西都市文化ホール	9月22日(金)～9月23日(土)	I	2	8	125	0	30,000
177 門川町総合文化会館	9月9日(土)～9月10日(日)	D	2	8	895	0	19,000
■沖縄県							
178 桜坂劇場	9月22日(木)～9月25日(日)	G	4	16	421	3	324,301
合計	178会場		334	888	70,312		

★印は本年度新規実施会場(23会場)

(1) 映画フィルム

映画フィルムの貸与については、カルロヴィンヴァリ映画祭、英国映画協会、ミュンヘン映画博物館、シネマテーク・フランセーズなど多くの海外の映画祭やフィルム・アーカイブなどに日本映画のコレクションを提供した。国内では、山形国際ドキュメンタリー映画祭、あいち国際女性映画祭、アジアフォーカス・福岡国際映画祭等の映画祭をはじめ、京都府京都文化博物館、広島市映像文化ライブラリー、神戸アートビレッジセンター、川崎市市民ミュージアム、神戸映画資料館、鎌倉市川喜多映画資料館等の同種機関、立命館大学アート・リサーチセンター、早稲田大学演劇博物館、日本大学芸術学部等の教育機関、ラピュタ阿佐ヶ谷、シネマヴェーラ、新文芸坐、神保町シアター、シネ・ヌーヴォ等の名画座、映画に関わる様々な団体や機関へ、貸与を通して協力を行った。

映画フィルムの特別映写については、日本映画撮影監督協会や日本映画映像文化振興センター等、映画関連団体から申請を受けるとともに、大学等の研究教育機関については、新潟大学、関西学院大学、早稲田大学、東京大学、東京芸術大学、京都大学、立教大学、関東学院大学、明治学院大学、日本映像学会等、幅広い機関からの申請に対応した。

映画フィルムの複製利用については、著作権者等によるデジタル化に加え、白瀬南極探検隊記念館主催の企画展『『日本南極探検』フィルム ー日本最古の長篇記録映画ー』や川崎市岡本太郎美術館主催の「岡本太郎とメディアアート 山口勝弘一受け継がれるもの」等、展示施設での上映展示に対する利用許可が特徴的だった。

①貸与		114件	(249本)
内訳	国内貸与	86件	(169本)
	海外貸与	28件	(80本)
②特別映写観覧		65件	(208本)
内訳	国内貸与	65件	(208本)
	海外貸与	0件	(0本)
③複製利用		49件	(77本)
内訳	国内貸与	46件	(71本)
	海外貸与	3件	(6本)

(2) 映画関連資料

映画資料の貸出については、日本でも数少ない常設の映画関連展示施設である鎌倉市川喜多映画記念館への貸出が案件の数として目立っている。また平成29年度は、シンガポール国立博物館に日本映画新社旧蔵のミツチエル35mmNC型撮影機を貸与したことが特筆される。資料の特別観覧については、出版社・教育機関・テレビ局などの要望に対し、資料画像の提供や熟覧などの形で所蔵資料へのアクセスに応じているが、国産アニメーション100年に関連して、平成29年度も前年度に続いて黎明期のアニメーション作品『なまくら刀』のフィルムコマ抜き画像の提供が目立った。

①貸与		6件	(110点)
内訳	国内貸与	5件	(105点)
	海外貸与	1件	(5点)
②特別観覧		37件	(1,798点)
内訳	国内貸与	34件	(1,795点)
	海外貸与	3件	(3点)

① Motion Picture Film

As regards motion picture film loans, there were widespread and various loans of Japanese films to film festivals or film archives overseas such as the Karlovy Vary International Film Festival, British Film Institute, the Munich Film Museum, and Cinémathèque française. Other than film festivals such as Yamagata International Documentary Film Festival, Aichi International Women's Film Festival, and Focus on Asia Fukuoka International Film Festival, NFC cooperated through domestic film loans with film archives such as the Museum of Kyoto, Hiroshima City Cinematographic and Audio-visual Library, Kobe Art Village Center, Kawasaki City Museum, Kobe Planet Film Archive, and Kamakura City Kawakita Film Museum, educational institutions such as the Art Research Center - Ritsumeikan University, the Tsubouchi Memorial Theatre Museum - Waseda University, and Nihon University College of Art, and repertory cinemas, various groups or institutions, for example, Laputa Asagaya, Cinemavera Shibuya, Shin-Bungeiza, Jinbocho Theater, and Ciné Nouveau.

For requested special screenings, NFC accepted applications from a wide range of institutions: For example, film related associations such as Japanese Society of Cinematographers and MCAC, as well as educational institutions including such universities as Niigata, Kwansei Gakuin, Waseda, the University of Tokyo, Tokyo University of Arts, Kyoto, Rikkyo, Kanto Gakuin, Meiji Gakuin, and Japan Society of Image Arts and Sciences.

Concerning duplication of motion picture films, adding to the digitization done by copyright holders, notably NFC gave permission for use in exhibitions at museums such as “The Japanese Expedition to Antarctica”, the oldest feature length Japanese documentary’ hosted by Shirase Antarctic Expedition Party Memorial Museum or ‘Taro Okamoto and the Development of Media Art: Featuring Works by Katsuhiro Yamaguchi’ hosted by Taro Okamoto Museum of Art.

② Non-film Materials

The most notable loan of non-film materials was for Kamakura City Kawakita Film Museum, which is one of the few film related museums with a permanent exhibition, and in fiscal year 2017, it should be mentioned that NFC loaned a Mitchell NC type 35mm camera formerly owned by Nippon Eiga Shinsha Co., Ltd to the National Museum of Singapore. NFC provides special access to materials in the collection by showing copies of the material or allowing close inspection on request from publishing companies, educational institutions, or television productions. In fiscal year 2017, as in the previous year, frame enlargements from the early animation *Namakura Gatana* were often requested in relation to the centenary of Japanese animation.

貸与実績一覧

[映画フィルム国内貸与] 86件169本

上映会名	主催	貸与本数
三回忌・原節子	公益財団法人 三鷹市スポーツと文化財団	1
ミュージカル特集	株式会社ダッサイ・フィルムズ	1
脚本家/水木洋子の世界	市川市	1
ndjc:若手映画作家育成プロジェクト文博セレクション	特定非営利活動法人映像産業振興機構	2
vivid:日活文芸映画は弾む	株式会社ラピュタ	3
ベスト・オブ・フランス映画祭/フランス映画祭	アンスティチュ・フランセ日本	5
ndjc:若手映画作家育成プロジェクト	公益財団法人 広島市文化財団	4
日本映画のヒロイン 司葉子	新文芸坐	1
第20回ゆふいん文化・記録映画祭	「ゆふいん文化・記録映画祭」実行委員会	2
『夏の娘たち』公開記念(堀禎一特集)	有限会社ボレボレタイムス社	1
あいち国際女性映画祭2017	公益財団法人あいち男女共同参画財団	1
Jazz à Vienne (ヴィエニス・ジャズ音楽祭)	株式会社NHKエンタープライズ 国際事業センター	4
映像作家 松本俊夫追悼 特集映画上映	公益財団法人神戸市民文化振興財団 神戸アートビレッジセンター	1
生誕90年 映画監督・蔵原惟繕	日本映画大回顧展上映実行委員会	4
ファーストペンギン・白瀬轟を追う!	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構	1
祝・日本映画120年、「目玉の松ちゃん」て、ご存知ですか? (上映・説明会)	尾上松之助遺品保存会	2
映画を通して反戦と平和を希求する映画祭	新文芸坐	1
サントリー芸術財団 サマーフェスティバル2017	公益財団法人サントリー芸術財団	3
昭和の銀幕に輝くヒロイン 轟有起子	株式会社ラピュタ	8
東映女優特集	株式会社ダッサイ・フィルムズ	1
女優・倍賞千恵子	神保町シアター	1
国産アニメーション100周年記念 《スクリーンに蘇る!アニメーション傑作選》(仮題)	川崎市市民ミュージアム	2
没後20年藤田敏八 あの夏の光と影は～ 20年目の夏	新文芸坐	1
名脇役特集II	株式会社ダッサイ・フィルムズ	2
奈良県文化交流上映会	一般社団法人東京奈良県人会	1
大林宣彦映画祭2017	新文芸坐	1
横浜シネマリン追悼特集 鈴木清順 日活黄金時代	有限会社 横浜シネマリン	1
[祝!国産アニメーション生誕100年]特別上映会	一般社団法人コミュニティシネマセンター	7
キューバ映画特集	公益財団法人広島市文化財団	7
第11回小田原映画祭シネマトピア2017	小田原映画祭実行委員会	5
浅草活弁祭り	株式会社 あそう活弁	1
那須ショートフィルムフェスティバル2017	特定非営利活動法人那須フィルム・コミッション	4
松山善三 高峰秀子～夫婦で歩んだ映画人生	シネ・ヌーヴォ	3
中華電影とその時代	鎌倉市川喜多映画記念館	4
堀禎一監督追悼特別上映	神戸映画資料館	1
アジアフォーカス・福岡国際映画祭2017 日本映画特集	アジアフォーカス・福岡国際映画祭実行委員会	1
京都国際映画祭2017 プレイベント	京都国際映画祭2017	1

上映会名	主催	貸与本数
神戸発掘映画祭2017	神戸映像アーカイブ実行委員会	1
映画『映像の発見＝松本俊夫の時代』上映講座	株式会社セブンカルチャーネットワーク	1
女優 倍賞千恵子	シネ・ヌーヴォ	1
共振する身体ーフレディ・ムーラー特集／ 追悼・松本俊夫特集	山形国際ドキュメンタリー映画祭	2
シネマヴェーラの大映女優祭	株式会社ダッサイ・フィルムズ	4
松竹文芸映画特集	株式会社ラピュタ	4
大藤信郎を継ぐもの ～日本の短編アニメーションの歩みと今(仮)	公益社団法人 映像文化製作者連盟	1
Sound of Silent ピアノで見るサイレント映画	株式会社 マツダ映画社 無声映画鑑賞会	1
第10回邑の映画会 アニメーション映画 100年	邑の映画会実行委員会	5
表現社50周年記念 映画監督篠田正浩と女優岩下志麻の素晴らしき映画人生	新文芸坐	3
チェコスロヴァキア・ヌーヴェルヴァーグ映画祭	有限会社チェスキー・ケー	1
映画と天皇	日本大学芸術学部	2
第18回宝塚映画祭	宝塚映画祭実行委員会	2
Sound of Silent ピアノで見るサイレント映画	株式会社 マツダ映画社 無声映画鑑賞会	1
日本アニメーションの原点・幸内純一の顕彰	NPO法人地域文化研究所	2
女優・倍賞千恵子 特集上映	有限会社 横浜シネマリン	1
日本映画大学×横浜シネマリン相互協力企画 読んでから 見るか、見てから読むか?ー原作から映画への脚色術ー	有限会社 横浜シネマリン	1
名匠たちに愛された不世出の女優 山田五十鈴 生誕百年 ピアノdeシネマParty	新文芸坐 有限会社 アップリンク	2 1
三太のラッパ	NPO法人クオリティアンドコミュニケーション オブ アーツ	1
歌舞伎学会秋季大会の上映企画「歌舞伎映像大全集」	歌舞伎学会	2
映画渡来120年記念・日本映画の父・牧野省三先生と、 日本映画初の大スター尾上松之助を偲んで	立命館大学アートルリサーチセンター	1
大忠臣蔵映画祭	新文芸坐	2
追悼・松本俊夫 ロゴスとカオスのはざままで	株式会社ダゲレオ出版	1
「警視庁物語」連続上映	株式会社ラピュタ	2
シネマヴェーラの大映男優祭	株式会社ダッサイ・フィルムズ	1
公開研究会「無声期の映画館における和洋合奏： 楽譜資料「ヒラノ・コレクション」とSPレコード」	早稲田大学演劇博物館	1
神戸クラシックコメディ映画祭	古典喜劇映画上映委員会	1
日活ニューアクションの時代	株式会社ラピュタ	1
フィルムdeホラー	公益社団法人 山口市文化振興財団	1
西村昭五郎監督追悼特集	株式会社ダッサイ・フィルムズ	1
祝!生誕80年『花筐』公開記念 大林宣彦映画祭	シネ・ヌーヴォ	1
大女優祭 in 新文芸坐 百花繚乱	新文芸坐	1
第29回ゆふいんこども映画祭	由布市教育委員会	1
熊井明子講演会・『お吟さま』上映会	安曇野市教育委員会	1
イスラーム映画祭3	イスラーム映画祭実行委員会	1
昭和の銀幕に輝くヒロイン 内藤洋子	株式会社ラピュタ	1

石上三登志スクラップブック刊行記念／ ミステリ劇場へ、ようこそ。【2018】	株式会社ラピュタ	2
高崎映画祭プレ企画「Fシネマプロジェクト： フィルム上映とワークショップ」	一般社団法人コミュニティシネマセンター	2
『海援隊快撃』上映会	安田町教育委員会	1
黒部川開発100年記念 黒部峡谷探検上映のつどい	黒部・宇奈月温泉開発100事業実行委員会	1
エイゼンシュテイン生誕120周年記念 ナウム・クレイマン氏特別講演会+上映会	京都文化博物館	2
香川京子映画祭	新文芸坐	3
Match-up Theater ～ Time for a new direction ～	巖本金属株式会社	1
ニッポン・ノワール特集	株式会社ダッサイ・フィルムズ	3
イスラーム映画祭3	イスラーム映画祭実行委員会	1
美しい女優・美しい衣裳特集	株式会社ダッサイ・フィルムズ	3
戦争と女たち	株式会社ダッサイ・フィルムズ	1
石坂洋次郎の世界	神保町シアター	2

[映画フィルム海外貸与] 28件80本

上映会名	主催	貸与本数
シネ・ファン	香港国際映画祭協会	3
松竹ヌーヴェルヴァーグとその周辺	オーストリア映画博物館	4
第19回ナイトレート・フィルム・フェスティバル	ユーゴスロヴェンスカ・キノテカ	1
篠田正浩特集	高雄市電影館	2
第31回チネマ・リトロバート映画祭	フォンダツィオーネ・チネテカ・ディ・ボローニャ	1
山中貞雄回顧展	社団法人 映画・ビデオ研究所アーセナル	1
無声映画と生伴奏	バービカンセンター	1
第52回カルロヴィ・ヴァリ国際映画祭	カルロヴィ・ヴァリ国際映画祭	1
第5回アーキペル国際ドキュメンタリー& エクスペリメンタル映画祭	アーキペル国際ドキュメンタリー&エクスペリメンタル映画祭	1
第2回アジア復元映画祭	アジアン・フィルム・アーカイブ	1
ボン無声映画祭	ボン無声映画祭/ミュンヘン映画博物館	1
第11回マニラ国際無声映画祭	国際交流基金マニラ日本文化センター	1
ロサンゼルスアニメ映画祭	ロサンゼルスアニメ映画祭実行委員会	1
自転車に関する映画の特集	ミュンヘン映画博物館	1
涙と笑いー日本のメロドラマ映画に見る女性	英国映画協会	2
香港国際映画祭 「シネ・ファン」プログラム	香港国際映画祭協会	1
B-アニメ・フィルム・フェスティバル	B-アニメ・フィルム・フェスティバル/マゴエクスペリエンス	12
B-アニメ・フィルム・フェスティバル	フィルモテカ・デ・カタルーニャ	14
1930年代の日本映画	デンマーク・フィルム・インスティテュート	8
溝口健二回顧展	インスティテュート・モレイラ・サイス	3
第6回復元映画祭	シネマテーク・フランセーズ	1
溝口健二回顧展	シネマテーク・フランセーズ	4
井上梅次ー日本の音楽人	スミソニアン・アジア博物館	1
アルスモンドジャパン	アルザス映画会議	1

松本俊夫の体験	シネマ・ノヴァ	1
宮川一夫 日本の最も偉大な撮影監督	ニューヨーク近代美術館	9
第23回サンフランシスコ無声映画祭	サンフランシスコ無声映画祭	2
第8回北京国際映画祭「パノラマ・セクション」	中国電影資料館	1

[映画関連資料国内貸与] 5件105点

展覧会名	主催	貸与点数
「ウィリアム・ブレイクと神の世界」	高崎市美術館	2
「映画と音楽の素敵な出会い」	鎌倉市川喜多映画記念館	27
「映画衣裳デザイナー 黒澤和子の仕事」	鎌倉市川喜多映画記念館	15
「巨匠が愛した女優たち映画衣裳デザイナー」	鎌倉市川喜多映画記念館	40
「大映映画のスターたち」	鎌倉市川喜多映画記念館	21

[映画関連資料海外貸与] 1件5点

展覧会名	主催	貸与点数
「戦争の証言：1942年の記憶」	シンガポール国立博物館	5

◆入江良郎

論文「吉澤商店主・河浦謙一の足跡(2) 活動写真時代の幕開き」/『東京国立近代美術館研究紀要』22号

◆大澤浄

論文「佐々木史朗プロデューサーインタビュー 僕は、プロデューサーが主導する形の作家主義をやっていると、自分では思っている」[聞き手・構成]/『NFCニューズレター』131号

論文「佐々木史朗プロデューサー作品一覧」/『NFCニューズレター』131号

論文「石井岳龍監督インタビュー 理想を真っすぐ追うのではなく、リアルから近づいていくという戦いです。」/『NFCニューズレター』134号

論文「デジタル映画を上映する／観ること」/『日本映像学会報』第179号(日本映像学会)、平成29年7月1日

論文 アートダイアリー 043「さまざまな映画のかたち」/「文化庁広報誌ぶんかる」(文化庁)(Web)、平成30年2月5日

◆大関勝久

論文「デジタル映画の長期保存と活用への取り組み」/月刊IM 2017.5月号(公益社団法人 日本文書情報マネジメント協会)、平成29年5月1日

発表「映画用黑白フィルムの保存性改良に関する研究」/2017年度日本写真学会年次大会(会場：一ツ橋会館、平成29年6月21日)

発表「デジタル動画の保存について」/iPRES2017(会場：京都大学、平成29年9月25日)

発表「写真フィルムによるデジタル映画・映像の保存」/学術潮流フォーラムⅠ 人類基礎理論研究部・国際シンポジウム「変容する世界のなかでの文化遺産の保存」(会場：国立民族学博物館、平成29年10月8日)

◆岡島尚志

論文「第3回ナイトレート・ピクチャー・ショー」報告 ナイトレート・フィルムを上映するというフィルムアーカイブの禁じ手、あるいは、世界でもっとも特殊で高度に文化的な映画上映の試み/『NFCニューズレター』132号

論文 イーストマン・コレクションにみる無声映画の魅力/『NFCニューズレター』133号

◆岡田秀則

論文 もはや「ノンフィルム」ではない——映画図書館員会議に参加して/『NFCニューズレター』132号

著作『そっちやない、こっちや 映画監督・柳澤壽男の世界』共編書/新宿書房、平成30年2月10日

論文 書評「署名はカリガリ 大正時代の映画と前衛主義」/「キネマ旬報」2017年5月下旬号(キネマ旬報社)、平成29年5月6日

論文 インタビュー「岡田秀則に聞く、「アーキビストの眼で見た映画」/「キネマ旬報」2017年5月下旬号(キネマ旬報社)、平成29年5月6日

論文「終わらないロマンティック—高木隆太郎氏を悼む」/「SPUTNIK」(山形国際ドキュメンタリー映画祭)、平成29年10月5日

論文「クリス・マルケルの不死は私たちの任務である」/『ラ・ジュテ デジタル修復版』ブックレット(シネフィルWOWOW)、平成29年12月8日

論文 「光ありき、そしてスクリーンありき」/『映画以内、映画以後、映画
辺境』(charm point)、平成30年2月18日

発表 「アニメの先駆者 大藤信郎」/第10回小田原映画祭(会場:小田原コ
ロナシネマワールド、平成29年9月23日)

発表 「国産ストップモーション動画史研究の深化に向けて 持永只仁展の
経験から」/日本アニメーション学会(会場:新千歳空港オアシスパーク、
平成29年11月3日)

◆岡本直佐

発表 「デジタル動画の保存について」/iPRES2017(会場:京都大学、平成
29年9月25日)

発表 「フィルムセンター 図書室デジタル資料閲覧システム」/code4lib
Japanカンファレンス 2017(会場:熊本学園大学、平成29年9月3日)

発表 「日本アニメーション映画クラシックス の反響と課題」/新千歳空港
国際アニメーション映画祭 2017

日本アニメーション学会秋の研究集会(会場:新千歳空港、平成29年11月3
日)

◆紙屋牧子

論文 『会館芸術 第Ⅱ期 戦中篇 第23巻、24巻』解説/ゆまに書房、平成29年
12月1日

論文 弛緩/硬直する骨、腐敗/蘇生する肉——鈴木清順「浪漫三部作」に
おける裏返る生と死/『ユリイカ 特集=追悼・鈴木清順』(青土社)、平成29
年4月27日

発表 最初期の「皇室映画」をめぐる:隠される/晒される「身体」/日本
映像学会第43回大会(会場:神戸大学、平成29年6月4日)

発表 映画史から考える皇室のメディア戦略:皇太子渡欧映画(1921年)を
中心に/象徴天皇制研究会(会場:立教大学、平成29年11月26日)

発表 「無声期日本映画の「尖端」と映画館における語り・音楽」/公開研究
会「無声期の映画館における和洋合奏:楽譜資料「ヒラノ・コレクション」
とSPレコード」(早稲田大学演劇博物館演劇映像学連携研究拠点・公募研究
「楽譜資料を中心とした無声期の映画館と音楽の研究」主催)(会場:早稲田
大学、平成30年1月13日)

◆木村智哉

発表 「日本アニメーション映画クラシックス の反響と課題」/新千歳空港
国際アニメーション映画祭 2017

日本アニメーション学会秋の研究集会(会場:新千歳空港、平成29年11月3
日)

◆佐々木淳

論文 「佐々木史朗プロデューサーインタビュー 僕は、プロデューサーが
主導する形の作家主義をやっていると、自分では思っている」[聞き手・構
成]/『NFCニューズレター』131号

論文 「佐々木史朗プロデューサー作品一覧」/『NFCニューズレター』131号

論文 「石井岳龍監督インタビュー 理想を真っすぐ追うのではなく、リア
ルから近づいていくという戦いです。」/『NFCニューズレター』134号

◆大傍正規

論文 色彩はよみがえる—最適な色再現を支える人と技術／『NFCニューズレター』131号

論文 第73回FIAFロサンゼルス会議報告 ハリウッド、ラテンアメリカへ行く—映画資料保存の先を見すえて／『NFCニューズレター』132号

論文 珠玉の“フィルム”が彩る、映画アーカイブ活動の深化／『NFCニューズレター』134号

論文 Limiting Colour Grading for Two-colour Film Restoration: Utilizing a Spectroradiometer to Create a Specific LUT／Journal of Film Preservation, vol.96, 2017, pp.97-106.、平成29年4月

論文 The Restoration of The Thousand-Stitch Belt (1937) : Utilizing Analog and Digital Techniques to Retrieve the Color of a Two-Color System／Sustainable Audiovisual Collections Through Collaboration : Proceedings of the 2016 Joint Technical Symposium, pp.54-59.、平成29年8月

論文 「映画フィルムのビネガーシンドローム対策／『月刊IM』2017年8月号(公益社団法人 日本文書情報マネジメント協会)、平成29年7月25日

発表 『ジャズ娘誕生』のデジタル復元／高崎映画祭共同企画 Fシネマ・プロジェクト「フィルムでみる・体験する映画 ワークショップと上映会」(会場：高崎電気館、平成30年2月18日)

◆榎木章(執筆・発表者名=とちぎあきら、Akira Tochigi)

論文 「台湾で見つかった戦前日本アニメーション映画——フィルム・アーキビストはどう見たか」一章を担当／三澤真美恵(編)『植民地期台湾の映画 発見されたプロパガンダ・フィルムの研究』東京大学出版会、平成29年8月31日

発表 フィルム・アーカイブの仕事～フィルム・アーキビスト的映画の向き合い方／スパイラルスコレー主催講座「スクリーンに映画がかかるまで」(会場：スパイラル(東京・青山)、平成29年11月26日)

発表 木村白山を招喚する—台湾で見つかった『漫画 砂煙り高田のグラウンド』をきっかけに／日本アニメーション学会歴史研究部会(会場：専修大学神田校舎、平成30年3月3日)

◆富田美香

論文 「佐々木史朗プロデューサーインタビュー 僕は、プロデューサーが主導する形の作家主義をやっていると、自分では思っている」[聞き手・構成]／『NFCニューズレター』131号

論文 「佐々木史朗プロデューサー作品一覧」／『NFCニューズレター』131号

論文 「追悼：林士太郎 デンシティー筋、“男気”の活動屋」／『NFCニューズレター』132号

論文 「ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」記念特別イベント「特別上映会 甦る70mm上映『デルス・ウザーラ』」とその後に向けて／「第12回 オスロ70mm映画祭」報告／『NFCニューズレター』133号

論文 「石井岳龍監督インタビュー 理想を真っすぐ追うのではなく、リアルから近づいていくという戦いです。」／『NFCニューズレター』134号

論文 アートダイアリー-035「映画プロデューサー 佐々木史朗」／「文化庁広報誌 ぶんかる」(文化庁)(Web)、平成29年6月6日

論文 「NFC & MPTEアーカイブセミナー」報告／『映画テレビ技術』780号(一般社団法人 日本映画テレビ技術協会)、平成29年8月1日

◆中西智範

発表 「デジタル動画の保存について」/iPRES2017（会場：京都大学、平成29年9月25日）

◆三浦和己

論文 国産アニメーション映画の生誕百周年を迎えて/『美術の窓』第405号(生活の友社)、平成29年6月20日

発表 「デジタル動画の保存について」/iPRES2017（会場：京都大学、平成29年9月25日）

1 普及活動 Educational Activities

1-1 資料の収集及び図書室の公開 Acquisition of Non-Film Materials and the Library

フィルムセンター図書室では、映画文献に関する一定の網羅性を目指して、映画関連の新刊書と雑誌の収集を行うとともに、未所蔵の古書や戦前の雑誌など貴重な映画文献の購入、さらに一般の書籍流通ルートには乗らない刊行物の収集にも努めている。平成29年度は書籍、雑誌など未収蔵の文献を購入したが、古書として特筆すべきは、初期映画に関する記述も多い「近代歌舞伎年表 京都篇」全11冊である。

図書所蔵情報の公開については、例年進められている新着本の登録のほか、前年度に開始された図書室内の映画雑誌のオンライン目録への登録に本格的に着手し、主要な映画雑誌の所蔵情報を公開した。

①収集活動

収集件数 1,472件

②図書室公開活動

公開日数	209日
公開件数	47,919件(和書42,713件／洋書5,206件)
入室者数	3,393人
公開請求件数	707件
複写利用数	620人(8,085枚)

1-2 学校や社会教育施設への幅広い学習機会の提供 Aid for Research and Study

◆特別映写観覧による職能教育研修会等への協力

実施件数：9件(全65件中)

参加者数：計121人

◆小中学高等学校・大学の授業等への協力

実施件数：3回

参加者数：計57人

◆研修等への協力

実施件数：4件

参加者数：計29人

◆「こども映画館 2017年の夏休み★」

「こども映画館」は、小・中学生を対象に平成14年度から毎年開催している恒例企画。こどもたちに、大きなスクリーンによる本物の映画(フィルム)を楽しむ機会を与え、優れた映画作品の鑑賞を通して、豊かな情操と高い映像理解力(リテラシー)を育み、映画という文化芸術遺産の素晴らしさ、楽しさを知ってもらうことを目的としている。今回、無声映画には弁士・演奏付での上映を行った。

実施回数：4回(平成29年7月28日(金)、7月29日(土)、8月4日(金)、8月5日(土))

参加者数：438人

会場：小ホール

平成29年7月28日(金) 1：30pm～3：30pm	すばらしきかな フィルム
平成29年7月29日(土) 1：30pm～3：30pm	アニメーション・ デー!
平成29年8月4日(金) 1：30pm～3：30pm	活弁と音楽の世界 —ファンタジーと アクション 弁士：佐々木亜希子 演奏：FEBO
平成29年8月5日(土) 1：30pm～3：30pm	活弁と音楽の世界 —アメリカ西部劇 弁士：佐々木亜希子 演奏：FEBO

◆「V4 中央ヨーロッパ子ども映画祭」

毎年開催していた小中学生を対象とする「こども映画館」に加え、V4各国大使館および文化センターとの共催企画「V4 中央ヨーロッパ子ども映画祭」の開催により、参加者の児童生徒および父母層に加え、上映・紹介する映画作品の層を広げることができた。また、一般社団法人コミュニティシネマセンターとの共催による巡回上映企画「こども映画館 スクリーンでみる日本アニメーション!」の実施に向けた活動を通して、関連団体との連携を深めることができた。

実施回数：1回(平成29年12月2日(土))

参加者数：128人

会場：小ホール

◆相模原分館における小・中学生を対象とした上映会

相模原分館では、相模原市及び独立行政法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)と締結した文化事業等協力協定により、相模原市内の小・中学生並びに相模原市及びJAXAとの共催事業の参加者を対象に、無料で映画鑑賞と保存施設の案内を実施した。映画フィルムの受入・検査・収納までの工程を解説し、多くの参加者から好評を得、映画フィルムの保存についても普及することができた。

内 容：平成30年3月2日(金)
相模原市立由野台中学校2年生(上映作品『十五才 学校Ⅳ』)
実施回数：1回(平成30年3月2日(金))
参加者数：144人
会 場：相模原分館

内 容：平成30年3月7日(水)
相模原市立由野台中学校3年生(上映作品『夏の庭 The Friends』)
実施回数：1回(平成30年3月7日(水))
参加者数：130人
会 場：相模原分館

◆相模原分館 JAXA相模原キャンパス特別公開

宇宙科学セミナー／所蔵フィルム上映

内 容：相模原市・宇宙航空研究開発機構・東京国立近代美術館の間で
締結した「文化事業等の協力協定」を基に実施した。(上映作品
『黒い太陽』)

実施回数：6回(平成29年8月25日(金)・26日(土))

参加者数：976人

会 場：相模原分館

◆相模原分館 さがみ風っ子「親子映画鑑賞会」

内 容：相模原市・東京国立近代美術館の間で締結した「文化事業等の
協力協定」を基に実施した。

(上映作品『怪獣大戦争』『GHOST IN THE SHELL／攻殻機動
隊』)

実施回数：2回(平成29年10月28日(土))

参加者数：22人(内ツアー15人)

会 場：相模原分館

①映画の教室

5回のシリーズで映画を学ぶ場として新たに出発した「映画の教室」は、映画芸術や映画保存を学ぼうとする方々に向けた講座型上映会として、テーマごとに、所蔵作品の中から代表的な作品を解説付きで上映した。

■「映画の教室 2017素材から観る日本アニメーション」

開催日：平成29年6月28日(水)、7月5日(水)、12日(水)、19日(水)、26日(水) 計10回

開催場所：小ホール

主催：東京国立近代美術館フィルムセンター

参加者数：714人

日本でアニメーション映画が誕生したとされる1917年から100年を迎えた2017年に因み、所蔵作品の中から素材や手法を紹介しながら日本のアニメーション作品を上映した。

平成29年6月28日(水) 7:20pm 切り紙・影絵アニメーション (約64分)

平成29年7月5日(水) 7:20pm 人形アニメーション (約61分)

平成29年7月12日(水) 7:20pm セルアニメーション：東映動画 (79分)

平成29年7月19日(水) 7:20pm セルアニメーション：虫プロ (80分)

平成29年7月26日(水) 7:20pm さまざまな素材と手法 (約53分)

■「映画の教室 2017 色彩の探求」

開催日：平成29年6月28日(水)、7月5日(水)、12日(水)、19日(水)、26日(水) 計10回

開催場所：小ホール

主催：東京国立近代美術館フィルムセンター

参加者数：407人

アニメーションや記録映画におけるさまざまな試み、国産カラー映画の挑戦、本格的カラー映画時代の意欲的な表現の追求、カラーフィルム以前の色彩について、5回にわたって紹介した。

平成29年10月11日(水) 7:20pm さまざまなカラーシステム (約50分)

平成29年10月25日(水) 7:20pm フジカラー (86分)

平成29年11月8日(水) 7:20pm イーストマンカラー① (86分)

平成29年11月22日(水) 7:20pm イーストマンカラー② (91分)

平成29年12月6日(水) 7:20pm 白黒フィルム時代の色彩 (約50分)

②特別上映会「人形アニメーション作家 持永只仁」

開催日：平成29年7月22日(土)～平成29年7月23日(日)

開催場所：小ホール

主催：東京国立近代美術館フィルムセンター

参加者数：400人

展覧会「人形アニメーション作家 持永只仁」の開催に合わせ、初期は瀬尾光世のもとで日本のセル・アニメーションの発展に寄与し、第二次大戦後は日中両国における人形アニメーションの創始者となった持永只仁

(1919-1999)の作品を上映した。

平成29年7月22日(土)

12：00pm 戦前期作品+人形映画製作所1(計132分)

*上映前に10分の作品解説あり

3：30pm 人形映画製作所2(計132分)

平成29年7月23日(日)

12：00pm 人形映画製作所2(計132分)

3：30pm 戦前期作品+人形映画製作所1(計132分)

③ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」記念特別イベント 特別上映会 甦る70mm
上映『デルス・ウザーラ』

開催日時：平成29年10月7日(土) 11：00am/4：00pm (計2回)

開催場所：大ホール

主 催：東京国立近代美術館フィルムセンター

参加者数：620人

フィルムセンターでは、毎年開催しているユネスコ「世界視聴覚遺産の日」の記念特別イベントとして、本年度は「特別上映会 甦る70mm上映『デルス・ウザーラ』」を開催した。デジタル技術が普及し、フィルム上映の環境も激減していく中で、フィルム特有の艶に満ちた暗部の諧調の豊かさや濃密な奥行き表現を顕わにする70mm上映であるが、上映できる映画館は現在の日本にはなく、これを受けてフィルムセンターでは、所蔵70mmフィルムの検査から上映までの環境を整備し、1970年の開館以来初となる70mm上映を開催した。今回の上映とその鑑賞体験を通して、あらためて映画および映画文化の保存の大切さを訴えた。

④「よみがえるフィルムと技術」に因む「NFC & MPTEアーカイブセミナー」

開催日：平成29年5月13日(土)、5月14日(日)、5月18日(木)、5月20日(土)
計4回

開催場所：小ホール

主 催：東京国立近代美術館フィルムセンター、一般社団法人 日本映画テレビ技術協会

助 成：文化庁平成29年度美術館・歴史博物館重点分野推進支援事業

参加者数：274人

平成29年度美術館・歴史博物館重点分野推進支援事業の一環として、一般社団法人 日本映画テレビ技術協会 (MPTE) との共催で、お披露目上映した復元作品についての専門家向けの解説を実施した。フィルム映画を適正に保存し映画文化を継承していくうえで必要な、公開当時のオリジナルの色彩と音をテーマに据え、その保存と再現の問題を下記4回にわけて考察した。

第1回5月13日(土) 3：15pm～5：15pm

テ ー マ：ユニカラー映画『ジャズ娘誕生』[デジタル復元版]について

講 師：木村栄二 (JDCF Japan Digital Cinema Forum)、三浦和己 (NFC)、モデレーター：大傍正規 (NFC)

参加者：65名

第2回5月14日(日) 3：15pm～5：15pm

テ ー マ：『時をかける少女』[再タイミング版]

—映画の色彩を決めるタイミング技術とその継承—

講 師：鈴木美康(NFC)、益森利博(株式会社IMAGICAウェスト、タイミングマン)、モデレーター：大傍正規(NFC)

参加者：79名

第3回5月18日(木) 3：15pm～5：15pm

テ ー マ：「続：映画音響制作の進化と将来（光学サウンドトラックのデジタル化：Dolby Stereo編）」

講 師：河東努（コンチネンタルファーイースト株式会社ドルビーフィルム製作部 課長）

技術協力：石井秀明（株式会社東宝スタジオサービス ポストプロセクター）

特別協力：株式会社東京現像所、株式会社東宝スタジオサービス、東宝株式会社

参加者：79名

第4回5月20日(土) 3：15pm～5：15pm

テ ー マ：二色式カラー映画『千人針』のデジタル復元
—グレーディングを制限するという新たなアプローチ—

講 師：長谷川智弘（株式会社IMAGICA、カラーマネジメントアドバイザー）、モデレーター：大傍正規(NFC)

参加者：51名

⑤「ジョージ・イーストマン博物館 映画コレクション」講演会

開催日：2017年10月28日(土) 1：00pm～2：00pm（入場無料）

開催場所：大ホール

主 催：東京国立近代美術館フィルムセンター

助 成：文化庁平成29年度美術館・歴史博物館重点分野推進支援事業
参加者数：115人

講 師：ユーリ・メデン（ジョージ・イーストマン博物館キュレーター）

テ ー マ：「デジタル時代におけるジョージ・イーストマン博物館の映画保存」

⑥「日本におけるチェコ文化年2017 チェコ映画の全貌」講演会

開催日：2017年12月9日(土) 1：45pm～2：45pm

開催場所：大ホール

主 催：東京国立近代美術館フィルムセンター

参加者数：108人

講 師：ミハル・ブレガン（チェコ国立フィルムアーカイブCEO）

テ ー マ：「チェコ映画の革新—チェコ・ヌーヴェルヴァーグの時代—」

⑦「発掘された映画たち2018」に因む「NFCアーカイブセミナー」

開催日：平成29年2月9日(金)、2月10日(土)、2月16日(金)、2月17日(土)
計4回

開催場所：小ホール

主 催：東京国立近代美術館フィルムセンター

助 成：文化庁平成29年度美術館・歴史博物館重点分野推進支援事業
参加者数：240人

平成29年度美術館・歴史博物館重点分野推進事業の一環として、「発掘された映画たち2018」の会期中に開催し、復元作品について専門家向けの解

説を行った。映画アーカイブにかかわる関係者でアーカイブの理念と活動を支える技術の問題を共有しながら情報・意見交換を深める場として、フィルム映画を適正に保存し映画文化を継承していくうえで必要な、公開当時のオリジナルの色彩と音をテーマに据え、その保存と再現の問題を考察した。

第1回 2018年2月9日(金) 4:45pm~6:45pm

テ ー マ：阿部正直コレクションの復元
～コダカラーと17.5mmを中心に～

講 師：柴田幹太(株式会社IMAGICAウエスト)、野原あかね(株式会社IMAGICAウエスト)、大傍正規(NFC)

モデレーター：三浦和己(NFC)

第2回 2018年2月10日(土) 3:00pm~5:00pm

テ ー マ：『セーラー服と機関銃 完璧版』の再タイミング

講 師：鈴木美康(NFC)、郷田真理子(株式会社IMAGICAウエスト、フィルムタイマー)、阿部悦明(株式会社IMAGICA、カラリスト)

モデレーター：大傍正規(NFC)

第3回 2018年2月16日(金) 2:00pm~4:00pm

テ ー マ：多チャンネル音声の修復
～米国における音声修復の最前線～

講 師：宮野起(Audio Mechanics、Film Preservationist)

モデレーター：三浦和己(NFC)

第4回 2018年2月17日(土) 3:00pm~5:00pm

テ ー マ：色彩のデジタル・シミュレーション
～『浮草』『コルシカの兄弟』のデジタル復元～

講 師：長谷川智弘(株式会社IMAGICA、カラーマネジメントアドバイザー)、三浦和己(NFC)

モデレーター：大傍正規(NFC)

⑧NFC 35 ミリフィルム映写ワークショップ

開 催 日：平成29年9月13日(水)~9月14日(木)計2回

開催場所：フィルムセンター相模原分館

主 催：東京国立近代美術館フィルムセンター

参加者数：23人

フィルムセンターでは、映画アーカイブの活動を支える映写技術の学び直しの場として、35ミリフィルム映写ワークショップをフィルムセンター相模原分館にて開催した。ワークショップでは、優秀映画鑑賞推進事業など、フィルムセンター所蔵のアーカイバル・プリントを用いて各地で開催されるフィルム上映に携わる映写技術者を対象に、貴重なフィルムを損傷することなく、適正な映写をおこなう技術や手法を、初級(基礎)・中級(習熟)のクラス別に実施した。

○初級(基礎)編

平成29年9月13日(水) 10:30am~4:30pm

10:30am~12:05pm ①プリント取扱い(講義) ②映写機の点検法
1:00pm~4:25pm ③プリントの検査と補修 ④巻掛け(編集無し)
による2台切り替え映写の操作

○中級(習熟)編

平成29年9月14日(木) 10:30am~4:00pm

10:30am~12:05pm ①ダメージのあるプリントの取扱い ②プリントの検査と補修:二次トラブル防止

1:10pm~3:55pm ③映写機の点検と調整:トラブルを未然に防ぐポイント ④映写操作:さまざまな状態のフィルムによる映写、フィルムや映写機に損傷を与えないポイント

⑨映画の復元と保存に関するワークショップ [ノンフィルム資料の保存と修復]

フィルムセンターでは、「映画の復元と保存に関するワークショップ」実行委員会との共催で、「映画の復元と保存に関するワークショップ [ノンフィルム資料の保存と修復]」と題して、映画の紙資料の取り扱いを主題とするワークショップを開催した。

開催日時:2017年8月25日(金) 1:00pm~5:00pm (計1回)

開催場所:東京国立近代美術館フィルムセンター 6F会議室

主催:東京国立近代美術館フィルムセンター、「映画の復元と保存に関するワークショップ」実行委員会

講師:岡田秀則(NFC)

参加者数:20人

1-4-2 ゲストトーク Post-screening Talks

①上映企画「よみがえるフィルムと技術」

開催回数:4回

開催場所:大ホール

平成29年5月13日(土) 1:00pmの回 フィルムセンター特定研究員
三浦和己

平成29年5月13日(土) 4:00pmの回 フィルムセンター主任研究員
大澤浄

平成29年5月14日(日) 1:00pmの回 フィルムセンター主任研究員
大傍正規

平成29年5月20日(土) 1:00pmの回 フィルムセンター主任研究員
大傍正規

参加者数:790名

②上映企画「EUフィルムデーズ2017」

開催回数:20回

開催場所:大ホール

ゲスト:平成29年5月26日(金) 4:30pmの回 フリオ・アリアス(駐日欧州連合代表部参事官)

平成29年5月27日(土) 4:30pmの回 エギディウス・メイルーナス(駐日リトアニア共和国特命全権大使)
リナ・ルジテール(『いつでも一緒に』監督)

平成29年5月28日(日) 10:30amの回 ヴィクトル・ツダイ

- 平成29年5月28日(日) 1:30pmの回 (『ヴォイチェフ』監督)
タティアナ・イステイ
チョアア＝ブドラ
(駐日ルーマニア公使参
事官)
- 平成29年5月28日(日) 4:00pmの回 坂本安美 (アンステイ
チュ・フランセ日本映画
プログラム主任)
- 平成29年6月1日(木) 7:00pmの回 タティアナ・ヨシペル(駐
日ルーマニア大使)
- 平成29年6月2日(金) 6:30pmの回 坂本安美 (アンステイ
チュ・フランセ日本映画
プログラム主任)
- 平成29年6月3日(土) 10:45amの回 アン・バリントン (駐日
アイルランド特命全権大
使)
- 平成29年6月3日(土) 1:30pmの回 ヤクプ・チェルヴェンカ
(『リトル・マン』プロ
デューサー)
高嶺エヴァ(チェコセン
ター所長)
- 平成29年6月3日(土) 4:30pmの回 パラノビチ・ノルバート
(駐日ハンガリー特命全
権大使)
- 平成29年6月9日(金) 7:00pmの回 アエト・ライグ(『お母さ
ん』プロデューサー)
ティーナ・マルベルグ
(『お母さん』主演女優)
- 平成29年6月10日(土) 1:15pmの回 タデウシュ・ルベルスキ
(映画研究家・教授)
- 平成29年6月10日(土) 4:45pmの回 タデウシュ・ルベルスキ
(映画研究家・教授)
- 平成29年6月11日(日) 10:30amの回 アエト・ライグ(『おかあ
さん』プロデューサー)
- 平成29年6月11日(日) 4:15pmの回 イグリカ・トリフォノ
ヴァ(『検事、弁護士、父
親、そして息子』監督)
ロシツァ・ヴァルカノ
ヴァ(『検事、弁護士、父
親、そして息子』プロ
デューサー)
- 平成29年6月15日(木) 7:00pmの回 トマーシュ・ドゥブ
(チェコ共和国駐日特命
全権大使)
- 平成29年6月17日(土) 3:45pmの回 大寺眞輔(映画批評家)
- 平成29年6月18日(日) 4:30pmの回 マルクス・コッコ (駐日
フィンランド大使館報

	道・文化担当参事官)
平成29年6月21日(水) 7:00pmの回	堀口都喜子(駐日フィンランド大使館広報部プロジェクト・マネージャー)
平成29年6月22日(木) 7:00pmの回	マリス・マルティンソン(『OKI(沖)』監督) 桃井かおり氏(『OKI(沖)』主演女優)

参加者数：3,283人

③企画上映「映画プロデューサー 佐々木史朗」

開催回数：19回

開催場所：大ホール

ゲスト：平成29年6月27日(火) 3:00pmの回	佐々木史朗(『星空のマリオネット』プロデューサー)
平成29年6月28日(水) 3:00pmの回	佐々木史朗(『ガキ帝国』プロデューサー)
平成29年6月29日(木) 3:00pmの回	佐々木史朗(『転校生』プロデューサー)
平成29年6月30日(金) 3:00pmの回	佐々木史朗(『空がこんなに青いわけがない』プロデューサー)
平成29年7月1日(土) 12:30pmの回	佐々木史朗(『家族ゲーム』プロデューサー)
平成29年7月1日(土) 4:00pmの回	原将人(『20世紀ノスタルジア』監督)
平成29年7月2日(日) 1:00pmの回	佐々木史朗(『ナビィの恋』プロデューサー)
平成29年7月4日(火) 3:00pmの回	佐々木史朗(『カナリア』プロデューサー)
平成29年7月5日(水) 3:00pmの回	佐々木史朗(『闇打つ心臓 HEART, BEATING in the DARK』プロデューサー)
平成29年7月6日(木) 3:00pmの回	佐々木史朗(『岸辺の旅』プロデューサー)
平成29年7月7日(金) 3:00pmの回	佐々木史朗(『遠雷』プロデューサー)
平成29年7月8日(土) 12:30pmの回	佐々木史朗(『ヒポクラテスたち』プロデューサー)
平成29年7月9日(日) 1:00pmの回	佐々木史朗(『人魚伝説』プロデューサー)
平成29年7月11日(火) 3:00pmの回	佐々木史朗(『TATTOO [刺青] あり』プロデューサー)
平成29年7月12日(水) 3:00pmの回	佐々木史朗(『ごめん』プロデューサー)

- 平成29年7月13日(木) 3：00pmの回 佐々木史朗(『20世紀ノスタルジア』プロデューサー)
- 平成29年7月14日(金) 3：00pmの回 佐々木史朗(『やじきた道中てれすこ』プロデューサー)
- 平成29年7月15日(土) 12：30pmの回 佐々木史朗(『SCRAP HEAVEN スクラップ・ヘブン』プロデューサー)
- 平成29年7月16日(日) 1：00pmの回 佐々木史朗(『キツツキと雨』プロデューサー)

参加者数：1,844人

④企画上映「第39回PFF」

開催回数：24回

開催場所：大ホール

- ゲスト：平成29年9月16日(土) 11：00amの回 岸善幸(『あゝ、荒野』監督)
木下あかり(『あゝ、荒野』出演)
- 平成29年9月16日(土) 12：00pmの回 秦早穂子(批評家) ※小ホール
- 平成29年9月16日(土) 5：30pmの回 山中瑤子(『あみこ』監督)
- 平成29年9月16日(土) 5：30pmの回 清原惟(『わたしたちの家』監督)
- 平成29年9月17日(日) 11：00amの回 大浦美蘭(『かえりみち』監督)
- 平成29年9月17日(日) 11：00amの回 武井佑吏(『赤色彗星倶楽部』監督)
- 平成29年9月17日(日) 2：30pmの回 高橋カンナ(『うつらうつら』監督)
- 平成29年9月17日(日) 2：30pmの回 藤田千秋(『狐のバラッド』監督)
- 平成29年9月17日(日) 5：45pmの回 シガヤダイスケ(『春みたいだ』監督)
- 平成29年9月17日(日) 5：45pmの回 杉本大地(『同じ月は見えない』監督)
- 平成29年9月19日(火) 11：00amの回 門脇康平(『蠟石』監督)
- 平成29年9月19日(火) 11：00amの回 竹林宏之(『情操家族』監督)
- 平成29年9月19日(火) 2：30pmの回 本村花菜(『円の網』監督)
- 平成29年9月19日(火) 2：30pmの回 加納土(『沈没家族』監督)
- 平成29年9月19日(火) 6：00pmの回 中尾広道(『風船』監督)
- 平成29年9月19日(火) 6：00pmの回 城真也(『さようなら、ごくろうさん』監督)
- 平成29年9月19日(火) 6：00pmの回 松浦真一(『子どものおもちゃ』監督)

平成29年9月20日(水) 11:00amの回 太田達成(『ブンデスリーガ』監督)

平成29年9月20日(水) 11:00amの回 尾崎健(『やさしいフルスイング』監督)

平成29年9月20日(水) 3:00pmの回 大浦美蘭(『かえりみち』監督)

平成29年9月20日(水) 3:00pmの回 武井佑吏(『赤色彗星倶楽部』監督)

平成29年9月20日(水) 6:30pmの回 二ノ宮隆太郎(『枝葉のこと』監督)

平成29年9月21日(木) 11:00amの回 高橋カンナ(『うつらうつら』監督)

平成29年9月21日(木) 11:00amの回 藤田千秋(『狐のバラッド』監督)

平成29年9月21日(木) 2:30pmの回 シガヤダイスケ(『春みたいだ』監督)

平成29年9月21日(木) 2:30pmの回 杉本大地(『同じ月は見えない』監督)

平成29年9月21日(木) 6:15pmの回 門脇康平(『蠍石』監督)

平成29年9月21日(木) 6:15pmの回 竹林宏之(『情操家族』監督)

平成29年9月22日(金) 6:30pmの回 山戸結希(映画監督) 塩田明彦(映画監督)

平成29年9月23日(土) 2:30pmの回 本村花菜(『円の網』監督)

平成29年9月23日(土) 2:30pmの回 加納土(『沈没家族』監督)

平成29年9月23日(土) 6:00pmの回 太田達成(『ブンデスリーガ』監督)

平成29年9月23日(土) 6:00pmの回 尾崎健(『やさしいフルスイング』監督)

平成29年9月24日(日) 11:00amの回 原恵一(映画監督)
橋口亮輔(映画監督)
新垣弘隆(映画プロデューサー)

平成29年9月24日(日) 2:30pmの回 矢口史靖(映画監督)
鈴木卓爾(映画監督)※小ホール

平成29年9月24日(日) 5:30pmの回 鈴木卓爾(映画監督)
矢口史靖(映画監督)
黒川幸則(映画監督)
深田晃司(映画監督)
吉田光希(映画監督)
今泉力哉(映画監督)
松野泉(映画監督)
井坂優介(映画監督)

平成29年9月27日(土) 11:00amの回 山中瑤子(『あみこ』監督)

平成29年9月27日(水) 11:00amの回 清原惟(『わたしたちの家』監督)

平成29年9月27日(水) 2:45pmの回 中尾広道(『風船』監督)
 平成29年9月27日(水) 2:45pmの回 城真也(『さようなら、ご
 ころうさん』監督)
 平成29年9月27日(水) 2:45pmの回 松浦真一(『子どものおも
 ちゃ』監督)
 平成29年9月28日(木) 6:30pmの回 小田学(『サイモン&タ
 タカシ』監督)
 阪本一樹(『サイモン&タ
 タカシ』主演)

参加者数：2,923人

1-4-3 ギャラリートーク Gallery Talks

①「人形アニメーション作家 持永只仁」

開催回数：3回

開催場所：展示室

平成29年5月27日(土) 小野耕世氏(映画・漫画評論家)
 持永伯子氏(持永只仁長女)
 平成29年7月15日(土) 横田正夫氏(日本大学文理学部教授、
 日本アニメーション学会前会長)
 平成29年9月2日(土) おかだえみこ氏(アニメーション研
 究家)

参加者数：204人

開催回数：1回

開催場所：小ホール

平成29年8月12日(土) 李剣平氏(北京電影学院动画学院院长)
 小出正志氏(東京造形大学教授、日本
 アニメーション学会会長)
 和田敏克氏(東京造形大学准教授、ア
 ニメーション作家)

参加者数：121人

②「生誕100年 ジャン＝ピエール・メルヴィル、暗黒映画の美」

開催回数：3回

開催場所：展示室

平成29年9月30日(土) 野崎歓氏(東京大学文学部教授)
 平成29年11月4日(土) オリヴィエ・ボレル氏(本展企画
 者、記録映画『コードネームはメル
 ヴィル』監督)
 平成29年12月2日(土) 小林政広氏(映画監督)

参加者数：164人

③「ポスターでみる映画史Part 3 SF・怪獣映画の世界」

開催回数：3回

開催場所：展示室

平成30年1月13日(土) 高橋良平氏(SF評論家)
 平成30年2月10日(土) 切通理作氏(評論家)
 平成30年3月24日(土) 三池敏夫氏(映画美術監督)

参加者数：259人

④常設展ギャラリー・トーク

開催回数：10回

開催場所：展示室

平成29年6月3日(土) 岡田秀則(フィルムセンター主任研究員)
 平成29年7月1日(土) 濱田尚孝(フィルムセンター客員研究員)
 平成29年8月5日(土) 本地陽彦(フィルムセンター客員研究員)
 平成29年9月2日(土) 江口浩(フィルムセンター客員研究員)
 平成29年10月14日(土) 木村智哉(フィルムセンター客員研究員)
 平成29年11月4日(土) 紙屋牧子(フィルムセンター特定研究員)
 平成29年12月2日(土) 毛利真人(音楽評論家)
 平成30年1月6日(土) 岡田秀則(フィルムセンター主任研究員)
 紙屋牧子(フィルムセンター特定研究員)
 平成30年2月3日(土) 大関勝久(フィルムセンター特定研究員)
 平成30年3月3日(土) 入江良郎(フィルムセンター主任研究員)
 岡田秀則(フィルムセンター主任研究員)

参加者数：267人

1-5 大学等との連携 Working with Universities

◆インターンシップ

受入期間 平成29年6月～8月(2ヶ月間)
 実施場所 フィルムセンター
 参加人数 1名
 事業内容 所蔵フィルム目録の新規入力など映画室、情報資料室、事業推進室の業務全般

◆博物館実習

受入期間 平成29年8月15日(火)～8月19日(土)(5日間)
 実施場所 フィルムセンター
 参加人数 12名
 事業内容 フィルムセンター各室の業務に関わる講義と実習

◆特別映写観覧による大学等への協力
実施件数 42件(356本)

◆国立美術館内での連携

京都国立近代美術館との連携

「NFC所蔵作品選集 MoMAK Films 2017」

期 間：平成29年5月から12月まで隔月開催(上映日数9日間、上映回数
17回)

会 場：京都国立近代美術館

2 刊行物 Publications

2-1 カタログ Catalogs



□39th PIA FILM FESTIVAL (共催者発行)

25.7×18.2cm/64p

発行年：2017年9月16日

責任編集：荒木啓子

編集：宮田仁、中山雄介

2-2 目録・ガイド等 Catalogs and Leaflets

発行：東京国立近代美術館

編集：東京国立近代美術館フィルムセンター



□平成29年度優秀映画鑑賞推進事業 鑑賞の手引

29.7×21cm(表紙A3判1回折1枚、作品解説A4判25枚)

デザイン・制作：株式会社オーエムシー

発行日：平成29年6月30日

展覧会出品目録・ガイド(3回)



□人形アニメーション作家 持永只仁

22.5×10.0cm/8p

発行日：2017年5月13日



□生誕100年 ジャン＝ピエール・メルヴィル、暗黒映画の美

22.5×10.0cm/8p

発行日：2017年9月26日



□ポスターでみる映画史Part 3 SF・怪獣映画の世界

22.5×10.0cm/8p

発行日：2018年1月4日

2-3 NFCカレンダー等 NFC Calendar and Flyer

2-3-1 NFCカレンダー NFC Calendar

29.7×21cm

大ホール上映作品解説／上映スケジュール



□2017年5月号
よみがえるフィルムと技術
4p



□2017年6月号
映画プロデューサー
佐々木史朗
4p



□2017年7月-9月号
特集・逝ける映画人を偲んで
2015-2016
8p



□2017年10月号
シネマの冒険 闇と音楽 2017
2p



□2017年11月号
ジョージ・イーストマン博
物館 映画コレクション
4p



□2017年12月号
日本におけるチェコ文化年
2017 チェコ映画の全貌
4p



□2018年1月号
ソニー・ピクチャーズ エンタ
テインメントコレクション
4p



□2018年2月号
発掘された映画たち2018
6p



□2018年3月号
自選シリーズ 現代日本の
映画監督6 石井岳龍
2p

29.7×21cm



□人形アニメーション作家 持永只仁
2p



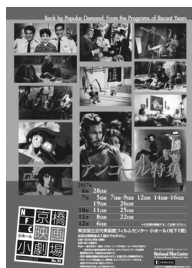
□生誕100年 ジャン＝ピエール・メルヴィル、暗黒映画の美
2p



□ポスターでみる映画史 Part 3 SF・怪獣映画の世界
2p

29.7×21cm

(ア)フィルムセンター発行



□《京橋映画小劇場No.35》
アンコール特集
4p



□《京橋映画小劇場No.36》
ドキュメンタリー作家
羽田澄子 Part 2
4p



□映画の教室 2017
素材から観る
日本アニメーション
2p



□映画の教室 2017
色彩の探求
2p



□人形アニメーション
作家 持永只仁
2p



□ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」記念特別イベント 特別上映会 甦る70mm上映『デルス・ウザーラ』
2p



□特集・逝ける映画人を偲んで
2015-2016 原節子選集
2p

(イ)共催者発行



□EUフィルムデーズ2017
4p
25.7×18.2cm



□39th PIA FILM FESTIVAL
6p
25.7×18.2cm



□月曜シネサロン&
トーク(第1回、第2回)
2p
25.7×18.2cm



□月曜シネサロン&
トーク(第3回、第4回)
2p
25.7×18.2cm



□V4 中央ヨーロッパ子ども映画祭
2p
25.7×18.2cm

2-3-4 こども映画館 Publicity Flyers / Kids☆Cinema

29.7×21cm



□こども映画館
2017年の夏休み
2p

29.7×21cm

発行・著作：東京国立近代美術館

編集：東京国立近代美術館フィルムセンター



- 第131号(2017年4月-6月号)
 特集：よみがえるフィルムと技術
 人形アニメーション作家 持永只仁
 映画プロデューサー 佐々木史朗
 発行日：2017年5月1日



- 第133号(2017年10月-12月号)
 特集：ジョージ・イーストマン博物館
 映画コレクション
 ドキュメンタリー作家羽田澄子
 Part2
 日本におけるチェコ文化年2017
 チェコ映画の全貌
 発行日：2017年10月1日



- 第132号(2017年7月-9月号)
 特集：特集・逝ける映画人を偲んで
 2015-2016
 ジャン＝ピエール・メルヴィル、
 暗黒映画の美
 発行日：2017年7月1日



- 第134号(2018年1月-3月号)
 特集：ポスターでみる映画史Part3 SF・
 怪獣映画の世界
 ソニー・ピクチャーズエンタ
 テイメント コレクション
 発掘された映画たち2018
 自選シリーズ 現代日本の映画
 監督6 石井岳龍
 発行日：2018年1月1日

(ア)上映会のためのハンドアウトの発行 131号～132号(2部)

平成25年度に開始したフィルムセンターのウェブ上での所蔵資料公開事業「NFCデジタル展示室」については、平成29年度中に「無声期日本映画のステル写真」シリーズの2回(第5、6回)の特集展示を行った。またBDCプロジェクトの主導のもと、日本の初期アニメーション作品を動画配信し、大藤信郎の旧蔵コレクションの画像を紹介するウェブサイト「日本アニメーション映画クラシックス」を前年度に続いて維持、機能を強化した。

当館事業にかかわる情報を提供する「NFCメールマガジン」は引き続き着実に登録者を増やしている。またNFCD(ナショナル・フィルムセンター・データベース)についても、引き続き人物情報の統合を進めるとともに、所蔵コレクションの登録・運用をNFCD上でスムーズに行えるよう適切な改修を加えた。

映画関連資料については、これまで適宜デジタル・データへのスキャンや簡易撮影を通じてデータの蓄積を進めてきたが、平成29年度は前年度に続いてBDCプロジェクトとの連携のもと、所蔵する大型の映画ポスターや、ステル写真・アルバム等のデジタル化作業を実施した。また平成28年度にデジタル化を実施した戦前の映画雑誌347点に関し、5月より「デジタル資料閲覧システム」を構築し、公開した。

記錄

國際交流

International Exchange

日誌

Record of Events

予算

Expenditure

名簿

Nominal List

1 国際交流 International Exchange

1-1 平成29年度招聘者

氏名[英文](所属)

目的

滞在期間

ピッポ・チヨツラ [Pippo Ciorra]

MAXXI 国立21世紀美術館チーフ・キュレーター／Chief Curator, MAXXI, the National Museum of 21st Century Arts, Rome

「日本の家 1945年以降の建築と暮らし」展における記者発表会、開会式出席のため

滞在期間：平成29年7月18日

※招聘は国際交流基金との協力による

ミハル・ブレガン [Michal Bregant]

チェコ国立フィルムアーカイブ CEO／CEO, Czech National Film Archive

上映会「日本におけるチェコ文化年2017 チェコ映画の全貌」における講演のため

滞在期間：平成29年12月6日～12月13日

1-2 平成29年度来館者 Visitors

平成29年6月15日	インゲヤード・ローマン（スウェーデン／デザイナー、陶芸家）
平成29年8月8日	アシュウィニ・バット（インド／彫刻家、滋賀県陶芸の森ゲスト・アーティスト）
平成29年8月12日	李剣平（中国／北京電影学院动画学院院长）
平成29年9月26日	ヨーグ・M・シュヴァイツァー（オーストラリア／FTSインターナショナル株式会社マネージング・ディレクター）
平成29年9月29日	ドゥ・ケケ（アメリカ合衆国／Artforum International） デヴィ・リア・ウタリ（インドネシア／Saravati Art Communication and Publication） イサガニ・バヤン・ジュニア（フィリピン／The Philippine STAR） ダリル・ゴ（マレーシア／Star Publications） ダオ・マイ・トラン（ヴェトナム／Culture & Arts Magazine） ジュディス・グリア（アラブ首長国連邦／シャルジャ美術財団国際プログラムディレクター）
平成29年9月30日	セン・カン（アメリカ合衆国／セントルイス・ワシントン大学准教授）
平成29年10月12-13日	ペ・ミョンジ（韓国／韓国国立現代美術館キュレーター） リュ・ハンスン（韓国／韓国国立現代美術館キュレーター） ユージン・タン（シンガポール／ナショナル・ギャラリー・シンガポール館長） セン・ユージン（シンガポール／ナショナル・ギャラリー・シンガポール キュレーター） アデル・タン（シンガポール／ナショナル・ギャラリー・シンガポール キュレーター） チャーミン・トー（シンガポール／ナショナル・ギャラリー・シンガポール キュレーター） チェン・ジアユン（シンガポール／ナショナル・ギャラリー・シンガポール キュレーター） リン・ポー（シンガポール／ナショナル・ギャラリー・シンガポール キュレーター、展覧会マネージャー） エレヌ・エー（シンガポール／ナショナル・ギャラリー・シンガポール 館出版物編集担当者）
平成29年10月28日	ユーリ・メデン（米国／ジョージ・イーストマン博物館キュレーター）
平成29年11月4日	オリヴィエ・ボレル（フランス／映画監督、ジャン＝ピエール・メルヴィル監督専門家）
平成29年12月14日	エイドリアン・チプリアン・バルサン（オーストリア／インフィニット・アート財団理事長）
平成30年3月6日	ラース・ミュラー（スイス／出版者、吉川静子・ミュ

平成30年3月29日	ラー=ブロックマン財団理事長) ナタリー・ブルジョア (フランス/シネマテーク・ フランセーズ教育担当)
June 15, 2017	Ingegerd Råman (Sweden, Designer, Potter)
August 8, 2017	Ashwini Bhat (India, Sculptor, Guest Artist of the Shigaraki Ceramic Culture Park)
August 12, 2017	Li Jianping (China, Dean of the Animation School, Beijing Film Academy)
September 26, 2017	Joerg M. Schweizer (Australia, Managing Director, FTS International, Inc.)
September 29, 2017	Du Keke (USA, Artforum International) Dewi Ria Utari (Indonesia, Sarasvati Art Communication and Publication) Isagani Jr. D'Bayan (Philippines, The Philippine STAR) Daryl Goh (Malaysia, Star Publications) Dao Mai Trang (Vietnam, Culture & Arts Magazine) Judith Greer (UAE, Director International Programmes, Sharjah Art Foundation)
September 30, 2017	Seng Kuan (USA, Assistant Professor of Architectural History at Washington University in St. Louis)
October 12-13, 2017	Bae Myungji (Korea, Curator, National Museum of Modern and Contemporary Art, Korea) Ryu Hanseung (Korea, Curator, National Museum of Modern and Contemporary Art, Korea) Eugene Tan (Singapore, Director, National Gallery Singapore) Seng Yu Jin (Singapore, Curator, National Gallery Singapore) Adele Tan (Singapore, Curator, National Gallery Singapore) Charmaine Toh (Singapore, Curator, National Gallery Singapore) Cheng Jia Yun (Singapore, Curator, National Gallery Singapore) Lynn Poh (Singapore, Curator and Exhibition Manager, National Gallery Singapore) Elaine Ee (Singapore, Editor of the Publishment Department, National Gallery Singapore)
October 28, 2017	Jurij Meden (USA, Curator, George Eastman Museum)
November 4, 2017	Olivier Bohier (France, Film director)
December 14, 2017	Adrian Ciprian Barsan (Austria, President, Infinitart Foundation)
March 6, 2018	Lars Müller (Switzerland, Publisher and president of Shizuko Yoshikawa and Josef Müller-Brockmann Foundation)
March 29, 2018	Nathalie Bourgeois (France, Educational department, La Cinémathèque française)

- 平成29年5月19日
優秀映画鑑賞推進事業実施委員会開催
- 平成29年5月26日
共催上映「EUフィルムデーズ2017」開会式及びレセプションを挙
- 平成29年7月18日
特別展「日本の家 1945年以降の建築と暮らし」展の開会式およびレセプションを挙
- 平成29年8月
平成29年度第1回美術作品購入等選考委員会(美術部門・書類審査)開催
- 平成29年9月14日
特別展「工芸館開館40周年記念特別展 陶匠 辻清明の世界—明る寂びの美」展の開会式およびレセプションを挙
- 平成29年9月25日
平成29年度第2回美術作品購入等選考委員会(美術部門)開催
- 平成29年10月13日
平成29年度評議員会(美術・工芸部会)開催
- 平成29年10月23日
平成29年度第1回美術作品購入等選考委員会(工芸・デザイン部門)開催
- 平成29年11月30日
共催展「没後40年 熊谷守一 生きるよろこび」展の開会式およびレセプションを挙
- 平成30年1月19日
平成29年度評議員会(映画部会)開催
- 平成30年1月29日
平成29年度第3回美術作品購入等選考委員会(美術部門)開催
- 平成30年2月5日
平成29年度第2回美術作品購入等選考委員会(工芸・デザイン部門)開催
- 平成30年3月6日
平成29年度美術作品購入等選考委員会(写真部門)開催

3 予算 Expenditure

3-1 平成29年度歳出予算一覧

事項	予算額(単位：千円)
1 美術振興事業費	515,306
所蔵作品展	117,147
企画展	42,373
巡回展	8,136
フィルムセンター上映・展示経費	32,217
美術に関する情報の拠点としての機能向上	42,138
教育普及活動の充実	41,841
調査研究の実施と成果の反映・発信	21,168
快適な観覧環境の提供	3,710
共通経費(設備維持費等)	206,576
2 ナショナルコレクション形成・承継事業	301,779
作品の収集	191,545
所蔵作品の保管・管理	60,654
所蔵作品の修理・修復	3,670
共通経費(設備維持費等)	45,910
3 ナショナルセンター事業	441,913
国内外の美術館等との連携・協力等	120
ナショナルセンターとしての人材育成	466
国内外の映画関係団体等との連携等	311,496
共通経費(設備維持費等)	129,831
4 一般管理費	239,237
合計	1,498,235

4 名簿 Nominal List

4-1 東京国立近代美術館評議員(美術・工芸部会)

(平成30年3月31日現在)

現職	氏名
公益財団法人石橋財団理事長、石橋財団ブリヂストン美術館長	石橋 寛
独立行政法人国際交流基金ジャポニスム事務局部長兼審議役	伊東正伸
横浜美術館長	逢坂恵理子
東京都写真美術館事業企画課長	笠原美智子
一般社団法人芸術資源マネジメント研究所代表理事	加藤恒夫
東京都現代美術館事業推進課長	加藤弘子
平塚市美術館長	草薙奈津子
東京藝術大学大学美術館教授	黒川廣子
前文化庁文化財部伝統文化課主任調査官	近藤都代子
式年遷宮記念神宮美術館長	白石和己
武蔵野美術大学造形学部教授	田中正之
前株式会社よみうりランド専務取締役	谷矢哲夫
独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館学芸企画部長	富田 淳

(五十音順)

4-2 東京国立近代美術館評議員(映画部会)

(平成30年3月31日現在)

現職	氏名
映画史家	大場正敏
公益財団法人川喜多記念映画文化財団理事	岡田正代
一般社団法人日本映画製作者連盟事務局長	華頂尚隆
早稲田大学文学学術院教授	小松 弘
映画監督、日本映画監督協会理事長	崔 洋一
公益社団法人映像文化製作者連盟事務局長	中嶋清美
映像作家	中島 崇
映画史家	平野共余子
アテネ・フランセ文化事業株式会社・代表取締役	松本正道
日本大学芸術学部教授	宮澤誠一
東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授	吉見俊哉
映画評論家	渡辺祥子

(五十音順)

4-3 東京国立近代美術館職員

(平成30年3月31日現在)

現職	氏名	現職	氏名
館長	神代 浩		
副館長	中林和雄		
運営管理部		工芸課	
運営管理部長	佐藤 隆	工芸課長	唐澤昌宏
総務課長	渋沢志穂	主任研究員 工芸室長	北村仁美
会計課長	末村真一郎	特任研究員	諸山正則
係長(総務)	西田恭子	デザイン室長(兼)	唐澤昌宏
	加来杏沙子	主任研究員	中尾優衣
係長(人事)	牧 教之	展示室長(兼)	唐澤昌宏
係長(監査)	岡村 愛	主任研究員 教育・資料室長	今井陽子
係長(会計)	福田武史		
	中山仁志	フィルムセンター	
	神長宏幸	主幹	榎木 章
	下田祐子	事務室長	西田佳二
	隈部理香子	係長(管理)	春日義孝
係長(普及・研修)	本田美紀子	係長(業務)	荒井久登
	田島秋桜	係長(相模原分館管理)	荒井英俊
	平川恵子	主任研究員 映画室長	入江良郎
	渡邊千智	主任研究員	大傍正規
		映写技術士	高屋吉丘
		室長(相模原分館映画室)(兼)	入江良郎
		主任研究員 事業推進室長	富田美香
		主任研究員	大澤 浄
		主任研究員 情報資料室長	岡田秀則
企画課			
企画課長	藏屋美香		
主任研究員 企画展室長	鈴木勝雄		
主任研究員	中村麗子		
	榎田倫広		
主任研究員 教育普及室長	一條彰子		
主任研究員 情報資料室長	水谷長志		
美術課			
美術課長	大谷省吾		
主任研究員 絵画彫刻室長	保坂健二郎		
主任研究員	都築千重子		
	古舘 遼		
主任研究員 版画素描室長	三輪健仁		
主任研究員 写真室長	増田 玲		
主任研究員 展示調整室長	鶴見香織		

平成29年度
独立行政法人国立美術館 東京国立近代美術館活動報告

発行者：神代浩

発行：独立行政法人国立美術館 東京国立近代美術館
東京都千代田区北の丸公園3-1
電話03 (3214) 2561 (代表)

印刷：ヤマノ印刷株式会社

写真撮影：木奥恵三 pp.55右
藤森武 pp.56右

発行日：平成31年2月28日

■非売品

2017 Annual Report
Independent Administrative Institution National Museum of Art
The National Museum of Modern Art, Tokyo

Publisher: Kamiyo Hiroshi

Edited & Published by:

Independent Administrative Institution National Museum of Art
The National Museum of Modern Art, Tokyo ©2018
3-1 Kitanomaru-koen, Chiyoda-ku, Tokyo, Japan
Phone: +81 (0) 3-3214-2561

Printed by: Yamano Printing Co., Ltd

Printed in Japan

■Not for sale